

# 事業報告書

平成25年度

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

学校法人 慈恵大学

# 目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	2
2. 慈恵大学行動規範	2
建学の精神・病院の理念・病院の基本方針	3
3. 慈恵大学の沿革	4
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 平成25年度事業報告	5
1) 平成25年度の事業概要	5
2) 主な建設工事	10
6. 平成25年度決算	13
7. 関連当事者等との取引等の状況	20
8. 学校法人慈恵大学の体制	22
1) 学校法人慈恵大学	22
2) 東京慈恵会医科大学	22
3) 看護専門学校	22
9. 学校法人慈恵大学組織図	23
10. 理事会	24
11. 評議員会	28
12. 監査室	28
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	32
1) 平成26年3月31日退任教授	32
2) 新任教授	32
3) 新任客員教授	33
4) 特任教授	33
5) 叙位・叙勲	33
6) 訃報	33
2. 教職員数	34
1) 教員数（医学科・看護学科）	34
2) 初期臨床研修医数	34
3) 職員数（看護師を含む）	34
4) 看護師数	34
3. 教 育	35
1) 医学部医学科学生数など	35
2) 医学部看護学科学生数など	35
3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）	36
4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）	36
5) 大学および大学院など	36
(1) 医 学 科	36
(2) 看護学科	39
(3) 大 学 院	41

6) 慈恵看護専門学校	43
看護専門学校学生数	43
(1) 慈恵看護専門学校	43
(2) 慈恵第三看護専門学校	44
(3) 慈恵柏看護専門学校	44
7) 卒後臨床研修	45
8) 生涯学習センター	47
4. 研究	48
1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会	48
2) 総合医科学研究センター	49
5. 診療	51
1) 病院概況	51
(1) 本院	51
(2) 葛飾医療センター	56
(3) 第三病院	59
(4) 柏病院	64
(5) 総合健診・予防医学センター	69
(6) 病床数および外来患者数	70
2) 派遣・関連病院関係	70
(1) 大学協力病院	70
(2) 教室等関連病院	71
(3) 特殊派遣機関	73
(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）	73
6. 学術情報センター	74
7. 教育センター	77
8. その他	82
1) 成医会	82
2) 各種行事	83
3) 印刷物等の発行	83

[付]

1. 平成25年度 事業計画に対する実施結果一覧	85
2. 中期目標・中期計画・平成26年度事業計画	120

# I . 学校法人慈惠大学

# 1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

# 2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24 制定

H21. 4. 1 改定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口にて提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

---

## 【建学の精神】

「病気を診ずして病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成をめざしております。

## 【病院の理念】

「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

## 【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

### 3. 学校法人慈恵大学の沿革

年月	学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等
明治14年5月	成医会講習所を開設した
明治23年1月	成医会講習所を成医学校に改める
明治24年9月	成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる
明治36年6月	専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる
明治41年5月	東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した
大正10年10月	財団法人東京慈恵会医科大学を設置した
大正10年10月	大学予科を新設した
大正11年2月	東京病院（開設：明治24年2月）を附属病院とした
大正14年3月	東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした
昭和19年4月	東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した
昭和19年4月	中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：葛飾医療センター）を開設した
昭和25年11月	東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した
昭和26年3月	大学予科を閉校した
昭和26年3月	財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する
昭和27年3月	附属医学専門部を閉校した
昭和27年4月	学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した
昭和31年4月	大学院医学研究科を開設した
昭和35年4月	医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した
昭和39年4月	医学科の入学定員を100名とした
昭和46年4月	慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した
昭和50年4月	医学科の入学定員を120名とした
昭和50年4月	慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した
昭和62年4月	東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した
昭和62年4月	慈恵柏看護専門学校を開設した
平成4年4月	医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した
平成4年4月	医学科の入学定員を100名とした
平成14年4月	慈恵医大晴海トリトンクリニックを開設した
平成19年4月	看護学科の入学定員を40名とした
平成21年4月	医学科の入学定員を105名とした
平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した
平成22年3月	慈恵青戸看護専門学校を閉校した
平成23年4月	医学科の入学定員を110名とした
平成24年1月	附属青戸病院を葛飾医療センターと改称した
平成25年4月	看護学科の入学定員を60名とした

### 4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
東京慈恵会医科大学	昭和31年4月	大学院医学研究科博士課程	
	平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程	
	昭和27年4月	医学部医学科	
	平成4年4月	医学部看護学科	
慈恵青戸看護専門学校	昭和50年4月	3年課程	平成22年3月閉校
慈恵第三看護専門学校	昭和46年4月	3年課程	
慈恵柏看護専門学校	昭和62年4月	3年課程	

## 5. 平成25年度 事業報告

理事長 栗原 敏

### 1) 平成25年度の事業概要

平成25年度の基本方針、重点施策の達成に向けて取り組んだ。

#### 1. 教育に関する重点施策

##### 1) 質の高い医療人の育成

###### ・卒前教育の改善と充実を図る。

医学科では、平成24年度に採択された文部科学省事業「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」(臨床実習GP)を推進ワーキンググループを中心に推進し、臨床実習拡充に向けた新カリキュラムの平成27年度導入に向けて、4年生後期から5年生前期にかけての全科見学型実習の後、5年生後期から40週間の診療参加型臨床実習を行うカリキュラムを策定した。見学型実習中は数週ごとに集合教育が行われ、臨床実習週数は合計74週となる。平成26年6月に予定されている医学教育分野別認証受審に向け、アウトカムに基づくカリキュラムの構築を進めると共に、評価項目に対する現状評価をまとめた報告書を作成している。

また、平成25年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業に本学の「卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発」(総合診療GP)が採択され、卒前教育では新たな地域医療ニーズ体験実習の導入準備を行った。学生の自己学習を支援する自己主導型学習評価システム(SeDLES)の運用を開始し、学生にオリエンテーションを行った。

看護学科では、学生の主体的学習態度の涵養を目的とするe-ポートフォリオの運用を開始し、これを用いた看護総合演習を1年生から順次導入すると共に、2年生以上の学習成果のフィードバックに活用した。

###### ・卒業教育を改善して質の高い研修医とレジデントを育成する。

初期臨床研修医のシミュレーション研修を継続し、研修医から好評を得た。

初期臨床研修医に対するより適切な指導を実践するために、既存の初期臨床研修制度を見直し新カリキュラムの構築を図ることとした。また、カリキュラム特別検討会を2回開催し、臨床実習指導医養成FDを実行委員を含む47名が受講した。

平成28年度より診療参加型臨床実習が大幅に拡充されるにあたり、学外の協力病院等で指導医となる後期研修医1年目に対する臨床実習FDを行った。

###### ・看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標を明示する。

厚生労働省が提示した卒業時に到達すべき看護技術の達成目標を参考にステップアップノートを作成し、各領域実習終了時に各自の到達状況を記載することになった。また、ナーシングスキル日本版を看護学科、看護専門学校、附属病院看護部で導入し、授業・研修・自己学習を推進した。

各看護専門学校においては、基礎看護教育課程における臨地実習終了時の3年次後期に看護技術到達度について調査を実施し、看護技術の向上が示された。

###### ・看護学専攻修士課程は、看護学科、看護専門学校、および看護部と連携して教育者や専門看護師を育成する。

看護を実践科学として展開するために必要な看護理論と看護実践との関連、理論構築の方法を理解するためのFDや、コミュニケーションスキル向上を目指した特別講義を実施した。また、看護部の看護研究を支援するために、看護研究の進め方に関する講義を行い相談会を開催した。附属病院と第三病院看護部(急性重症患者看護専門看護師・救急看護認定看護師)と救急医学講座が共同で看護学科教員を対象としたシミュレーション教育に関するFDを実施する等、各部門の連携による看護教育を実践した。

#### 2. 研究に関する重点施策

##### 1) 医学・看護学研究の推進

- ・各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。

臨床医学講座と基礎医学講座の研究連携を推進した。また、総合医科学研究センターのあり方を見直し、先進的研究の推進と学内研究者への支援体制の充実を目的とするセンター組織の再編計画をまとめ、平成26年度から新体制に移行することを決定した。

- ・再生医学研究をはじめとする、新たな研究分野を開拓する。

平成23年9月に総合医科学研究センター再生医学研究部が発足したことにより、学内で個別に進められてきた再生医学の研究が、本研究部をハブとして横断的につながりを持つこととなり、更なる推進につながった。

また、臨床医学講座に所属する研究者と基礎医学講座・総合医科学研究センターに所属する研究者が共同で実施し、学内共同研究のシーズ産生を目的とする東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費を創設した。

- ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。

平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に申請した研究プロジェクト「痛みの苦痛緩和を目指した集学的脳医科学研究拠点」が採択された。なお、当事業はここ数年継続して採択されている。(平成22年度1件、23年度1件、24年度2件)

また、平成25年度末時点における科学研究費助成事業(科研費)の採択件数および総額は、合計146件、総額275,210千円(間接経費含む)である。厚生労働省科学研究費補助および独立行政法人の研究開発費等研究課題は、合計46件、総額192,595千円(間接経費含む)であった。

- ・医療現場と連携して看護学研究を振興する。

附属病院ICUにおいて、ICU看護スタッフ、急性重症患者看護専門看護師と看護学科教員が共同でせん妄患者看護に関する研究を実施した。

また、第三病院看護部、第三看護専門学校、看護学科の3部門で共同研究12題に取り組むと共に、がん看護に関する研究2題についても学外の学会で研究成果を発表することができた。

### 3. 医療に関する重点施策

#### 1) 医療安全の推進

- ・医療安全体制を検証し、さらに有効・効率的な医療安全システムの研究を進め、構築、実践する。

全学を挙げた医療安全推進の取り組みとして、平成16年度より実施している医療安全推進週間が10周年の節目を迎え、更なる医療安全文化の醸成に努めた。また、都内11大学病院から構成される私立医科大学病院医療安全推進連絡会議の事務局を引き続き担当し、中心的役割を担った。

附属4病院の医療安全対策については、4病院セーフティマネジメント会議による情報共有と再発防止策の実践、医療安全相互ラウンド、携帯版セーフティマネジメントマニュアルの運用を継続した。また、医療安全関連情報の迅速な収集と周知徹底、改善策の実践を図ると共に、医療問題発生報告制度等による医療問題の再発防止対策等を通じ医療安全対策を更に推進することができた。

教育活動も精力的に推進し、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムをはじめ、医療安全総論や医薬品、医療機器に関連したセミナー等、教職員のニーズに応じたプログラムを計画的に開催しレベルアップを図った。特にTeam STEPPSの活動拡大を図るために、エッセンシャルコースの定期開催や海外研修等を通じた指導者の育成を図った。

また、医療の質向上と業務改善を目的とした、東大・早大・慈恵共同研究も継続し、研究成果を関連学会において発表すると共に、葛飾医療センターにおける「慈恵標準構築プロジェクト(葛飾モデル)手術業務プロセス標準化」に関わる検討も行われる等、成果のある一年となった。

感染対策の推進については、私立大学感染対策協議会の事務局を本学が努め、国内における感染対策の中心的役割を担った。推進した対策としては、感染対策ベンチマーク、サイトビジットによる組織体制のヒアリング、アウトブレイク事例の検討、ディスカッションによる情報共有と感染防止対策の実践である。また、4病院のICT、看護師、薬剤師が定期的にミーティン

グを開催する等、組織・職種を超えた情報共有と感染防止策の徹底を推進することができた。

医療安全と同様に感染教育も積極的に行われ、感染対策ベーシックコースに基づいた手指衛生指数の向上に繋げる成果をあげ、クロスモニタリングを主題にした教育やガフキーカンファレンス等を実施する等、感染防止対策の更なる底上げを図った。

## 2) 救急体制の充実

- ・本院は救急体制を充実させ、新外来棟での救命救急センター設置を目指す。
- ・柏病院は救命救急センターとしての機能を強化し増床計画を進め地域医療への貢献に努める。

本院は、1次、2次救急患者に加え、高度急性期に相当する3次救急患者も受け入れる等、都内有数の応需となり東京都から高く評価されている。4病院救急部診療部長会議の活性化やRRS(Rapid Response System)の確立等、教職員間の連携体制の更なる構築に努めた。今後は、本院新外来棟の建築に向けて、救命救急センターとしての機能を果たせるよう、ソフト・ハード面の双方から計画的な整備が求められる。

柏病院においては、平成25年4月より救命救急センターとして地域医療への貢献を目的に救命救急病床を増床した。また、3次救急に重点を置くため、内科・外科系医師による日中のER診療や院内トリアージ認定看護師の育成等、体制の整備・強化を図った。

4病院共通の課題として、PFM(ペイシェント・フロー・マネジメント)の整備充実により、救急患者の受け入れ促進を図ると共に、本学の救急車輛の活用等附属4病院間の救急機能を更に強化する。

## 3) がん診療の推進

- ・がん診療に関する専門職者の育成に努め、特に本院と柏病院は、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図る。

本院では、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」、柏病院では、「緩和ケア基礎研修会」、「がん化学療法看護オープン講座」等を開催し、がん診療の専門職者の育成に努めた。

葛飾医療センター、第三病院が東京都がん診療連携協力病院の指定を受けており、大学全体でがん診療の中心的役割を担い、最先端のがん診療の提供や専門職者の育成に加え、地域医療機関とのがん診療連携協力体制の更なる強化、市民向け公開講座の継続等、総合的ながん診療体制の整備・拡充を進めた。

## 4) 地域医療への貢献

- ・葛飾医療センターと第三病院は地域医療ニーズに応えられるように診療体制の改善充実を図る。

葛飾医療センターは、地域医療機関との連携強化や情報共有を目的とした「登録医制度」を継続し、新たに4施設6名の追加登録が行われた。また、地域の健康管理・健康増進に貢献することを目的に公開セミナーを3回開催するなど、地域の医療ニーズに応じた医療連携体制を更に拡充することができた。第三病院は、玉川医師会の55名の会員を第三病院登録医として認定し、前方連携医療機関の増加を図ると共に、電子カルテシステム導入以降も、紹介患者報告書未発行の減少、紹介元への逆紹介の推進を図る等の取り組みを進めた。

## 5) 職種間の協力体制の構築

- ・チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

感染対策チーム、褥瘡ケアチーム、緩和ケアチーム、栄養サポート(NST)チーム、CAPS(院内虐待対応チーム)、メンタルサポートチーム等によるチーム医療を推進し、専門教育も継続的に実施した。また、RRSの本格運用や本院腫瘍センターを中心としたがん診療体制の整備等、患者ニーズに応じた効率的かつ最善の医療の提供に努めた。

今後、診療体制の「ゆるやかなセンター化」を推進することにより、チーム医療の強化と人材育成を図る予定である。

## 6) 4 附属病院の評価・点検を行う

- ・本院は特定機能病院として、各附属病院は地域の基幹・中核病院としての役割を担い、その機能を発揮する。

本院は、特定機能病院としての機能充実として高度かつ先進的な医療を実践するために、各

科で行われている先進性の高い臨床研究や本邦で認められている高度医療・先進医療の実施に向けた取り組みを推進し、現在7つの医療技術が承認されている。また、医療安全対策については前述の通り、附属4病院全体での安全推進活動が進められ、本院においては、毎年実施されている関東信越厚生局及び東京都福祉保健局による立ち入り検査では大きな指摘事項はなく、要望のあった案件は速やかに改善した。

各附属病院でも医療機能分化の推進に応じた急性期患者や高度な疾患の受け入れをはじめ、地域医療の中心的役割を担うことができた。今後は更に循環型・地域完結型医療に向けた取り組みを進める。

#### 7) 医療経費率の適正化

##### ・医薬品、医療材料の適正使用、並びに後発薬品の採用を推進する。

医療経費の削減に向けた取り組みを継続した。本院は、手術キットの見直しと後発薬への切り替え、葛飾医療センターでは、後発薬の切り替えと特殊材料の使用数と保険請求、査定チェック、第三病院では、医材・物流WGでの提案品目に対するサンプリングの実施と医療材料の集約と定数の見直し、柏病院では、後発薬の切り替えと不動在庫の見直し等を行う等、各病院において成果を出すことができた。

### 4. 法人運営に関する重点施策

#### 1) 内部統制の強化

大学は本来、自主的・自立的機関であり、質保証・質向上に主体性を発揮していかなければならない。内部統制PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることによって、質の向上を図り、社会に対して大学自らの責任で説明・証明することが求められる。

今年度は大学役員の新体制初年度であり、年度当初には各理事に担当する分野を明示すると共に、大学全体の方向性を一致させた。

行動憲章・行動規範をはじめとする学内規程の周知とコンプライアンスの遵守徹底を図った。また、内部監査の充実のため、補助金監査では監査項目の増加、業務監査においては規程類の整備状況の確認を行った。

なお、本学では、6年間の中期目標・中期計画と年度ごとの事業計画を策定しており、前期(19年度～24年度)中期目標・中期計画の検証を行った。(達成状況は別項に記載)中期目標・中期計画の策定、達成状況を確認するために、大学自己点検・評価委員会による助言とチェック機能を働かせている。

内部統制においては、絶対的な統制システムの構築は難しく、常に継続し改善することが重要と考えている。

#### 2) 法令遵守の徹底

大学、病院を規制する法令の遵守はもとより、教職員の法令遵守精神を涵養するため様々な取り組みを実施した。「新入職員の手引き」、「教員・医師ハンドブック」をはじめ「慈恵ニュース」、「The JIKEI」等の広報誌を介して周知徹底を図った。

特に個人情報の適正管理に重点を置き、個人情報保護委員会を中心に個人情報保護管理体制の見直し、教職員に対する講習会の開催、更に本学以外での事例報告をもとに注意を喚起し、継続的に教育指導を行っている。

#### 3) 安定した財政基盤の構築

##### ・法人における収支構造の点検を行う。

平成25年度の帰属収支差額は予算を上回った。内容は、除却損を中心に経費が予算比マイナスに抑えられた一方、補助金・寄付金が予算比プラスとなり、これらが医療収支の予算未達成を補った。また、予算申請と予算執行を一元管理する新経理システムを導入し、平成26年度分から精度の高い予算管理を実践する計画である。

今後の本院新外来棟を中心とする、西新橋キャンパス再整備等の事業計画を進めていくためには資金の確保が求められる。このため、堅調な財政基盤の構築を目的に「コストマネジメント・

プロジェクト」を立ち上げた。

・**機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。**

各部署が作成した学納金、医療収入、人件費、医療経費、システム経費、設備投資等の長期計画をまとめ、平成38年度までの長期資金計画を策定した。これにより現在計画中の事業計画の実現可能性を検討した。また、あらゆる事態を想定するために、人件費上昇・医療収入低迷等を折り込んだシミュレーションも行った。

・**医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。**

中期的な財務予測と新外来棟の建築計画をはじめとする大型投資計画の予測を勘案し、医療収入増加のための医療構造の分析と医療経費削減に継続的に取り組んだ結果、後発薬品の導入、医療材料の4病院共同購入等により経費の削減ができた。また、DPC分析ソフト等による疾病別分析を行い、病院全体および診療科ごとの課題を抽出する等医療収入の改善に取り組んだ。

・**ICT関連経費の適正化を図る。**

平成24年度より設置した理事会直轄の情報システム統括委員会を中心にガバナンス強化とシステム経費適正化に向け、医療情報室、ICT戦略室、病院情報システム委員会と連携し、システム経費全般に関わる検討を継続した。その結果、平成25年度の経常的なシステム経費が前年度を下回るなど、組織としての機能が充実しつつある。

今後は、附属病院の電子カルテ化、葛飾医療センターのシステム更新など、継続的に発生する高額なシステム投資に対して、本学の財務状況を考慮した上で効果的な投資を実践する。

**4) 情報公開の推進、広報活動の充実**

・**本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールすると共に病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に努める。**

ホームページのリニューアル、広報誌の発刊、医療連携フォーラム、市民公開講座の開催等、地域のニーズに則した活動に取り組んだ。また、講座・研究室のプレスリリースを組織的に実施した結果、年間650件のメディアに掲載される等、本学の教育・研究内容及び附属病院の診療内容を広く社会にアピールすることができた。

**5) 大学建築マスタープラン・西新橋キャンパス再整備計画を推進する。**

西新橋キャンパス再整備タスクフォースが検討を重ねてきた本院新外来棟の基本構想(案)をもとにした基本計画、基本設計の策定及びキャンパス全体のローリングプランを進める設計事務所を選定した。

本学附属病院に隣接する、旧都立港工業高校の跡地については、東京都事業「都有地活用による医療インフラ整備における都有地利用事業者選定事業」として、整備・運営を行う事業者の公募があり応募した。都有地利用事業者審査委員会での審査の結果、本学が事業予定者として決定され、東京都と基本協定締結に向けた協議を行い、協定書を締結する予定である。

**6) 大規模災害対策の再整備とBCP（事業継続計画）を策定する。**

附属病院では事業継続計画策定委員会を設置し、第1版のBCP(事業継続計画)を基に、モデル部門として中央検査部、放射線部、薬剤部、栄養部、臨床工学部の5部門を選定し、更なる改定作業を進め、マニュアルの精度を上げると共に、マニュアルを使用した机上訓練を実施し災害時の対応について確認した。大学では、学事課に大学事業継続計画策定委員会を設置し、モデル部門として薬理学講座、悪性腫瘍治療研究部、GMP対応施設、アイソトープ実験研究施設、解剖学講座、実験動物研究施設の5部門を選定し、事業継続基本指針、行動計画、初動対応・事業継続・再開マニュアル等から構成される第1版のBCPを策定した。

**7) 地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。**

東日本大震災を契機に、節電の意識が教職員に定着、浸透しつつあり、節電行動指針に基づく省エネとエコ活動を推進した。平成25年度の電気使用量は、節電対策を強化した平成23年度比で4%、基準年度(平成14年度～平成16年度)の平均使用量と比較しても1.3%の微増に留めた。一方、東京都環境確保条例に対するCO<sub>2</sub>削減は、第一期計画期間(平成22年度から平成26年度)の削減義務率8%に対し、平成22年度から平成25年度の平均削減率は8.8%で順調に

推移している。今後も関連法規を遵守し、全教職員が主体性を持ったエコ活動を更に推進する。

## 8) 教職員の職場満足度向上を図る。

全教職員を対象とした教職員アンケート調査を今年度も継続して実施し、本学の強み、弱みや改善課題等の詳細な分析を行った。職場環境の改善に向けて、ハード、ソフト両面の出来るところから取り組み、教職員の満足度向上に繋げていきたい。

## 9) 前期間(平成19年度～平成24年度)の中期目標・中期計画を評価する。

前期6年間(平成19年度～平成24年度)の中期目標・中期計画の達成状況は各部門での自己評価の報告を受け、大学として再評価し、大学全体の実績として取りまとめた。各担当部署による自己評価では達成状況は154項目のうち116項目(75%以上)が達成、改善されたことが確認できた。また、未達成となった38項目については今期(平成25年度～平成30年度)の目標に反映させ、各部署において改善に向けて取り組む。

## 2) 平成25年度の主な建設工事

### 1. 法人事務局

- |                                 |            |
|---------------------------------|------------|
| ① 大学管理棟1階監視カメラ増設工事              | 平成25年4月完了  |
| ② 高木2号館非常照明及び受変電設備操作用直流電源装置更新工事 | 平成25年8月完了  |
| ③ 高木2号館地下2階機械室貯湯槽2号機各種流量調整弁交換工事 | 平成25年11月完了 |
| ④ 大学管理棟冷暖房機(P-MAC)整備工事          | 平成25年12月完了 |
| ⑤ 大学管理棟機械式駐車場不具合箇所修理工事          | 平成25年12月完了 |
| ⑥ F棟1階大学管理室新設工事                 | 平成26年2月完了  |
| ⑦ 高木2号館看護師寮エアコン・照明器具・電気調理器更新工事  | 平成26年3月完了  |
| ⑧ 大学管理棟・愛宕マークビル連結送水管修理工事        | 平成26年3月完了  |
| ⑨ 大学2号館横教職員駐車場2号機昇降シリンダー交換工事    | 平成26年3月完了  |

### 2. 西新橋校

- |  |            |
|--|------------|
| ① 大学本館前棟給水縦引配管更新工事                     | 平成25年5月完了  |
| ② 大学1号館3階講堂ステージ・フローリング材張替工事            | 平成25年5月完了  |
| ③ 大学本館1階理事室天井内補修工事                     | 平成25年8月完了  |
| ④ 高木会館5階B会議室マイク機材更新工事                  | 平成25年9月完了  |
| ⑤ F棟非常用自家発電機整備工事                       | 平成25年9月完了  |
| ⑥ 大学本館後棟3階解剖学講座スタッフルーム6整備工事            | 平成25年9月完了  |
| ⑦ 大学1号館コージェネレーション設備分解整備工事              | 平成25年10月完了 |
| ⑧ 高木会館地下1階機械室1水冷式チラーユニット3号機整備工事        | 平成25年11月完了 |
| ⑨ F棟屋上南西部防水修繕工事                        | 平成25年11月完了 |
| ⑩ 大学1号館各所ガス漏れ警報器取替工事                   | 平成25年11月完了 |
| ⑪ 病理学講座情報コンセント増設工事                     | 平成25年12月完了 |
| ⑫ 大学2号館外部連結送水管整備工事                     | 平成26年1月完了  |
| ⑬ 基礎講座における研究機器の地震時転倒防止対策工事             | 平成26年2月完了  |
| ⑭ 大学2号館各階パッケージエアコン更新工事                 | 平成26年3月完了  |
| ⑮ 大学1号館研究室ボタン電話更新工事                    | 平成26年3月完了  |
| ⑯ 消防法改正に伴う消火器交換作業(大学分)                 | 平成26年3月完了  |
| ⑰ 大学1号館吸収式冷温水機冷却水ポンプ・冷温水ポンプインバーター制御化工事 | 平成26年3月完了  |
| ⑱ 大学1号館蒸気配管バルブ類保温工事                    | 平成26年3月完了  |
| ⑲ 総合医科学センター研究室移転工事                     | 平成26年3月完了  |
| ⑳ 大学1号館アイソトープ実験研究施設管理室中央監視装置更新工事       | 平成26年3月完了  |

### 3. 本院

- |   |            |
|---|------------|
| ① 中央棟地下3階屋上貯湯槽系統蒸気減圧弁交換工事               | 平成25年4月完了  |
| ② 外来棟1・2階室内湿度計測検出器更新工事                  | 平成25年4月完了  |
| ③ 外来棟(旧B棟)地下1階湧水槽内害虫駆除対策作業              | 平成25年4月完了  |
| ④ E棟地下2階電気室内システム課サーバー室用直流電源装置蓄電池更新工事    | 平成25年5月完了  |
| ⑤ 中央棟地下1階MRI・CTチラー用電源工事                 | 平成25年6月完了  |
| ⑥ 中央棟地下3階栄養部排水除外施設マンホール交換工事             | 平成25年6月完了  |
| ⑦ 外来棟手術室一次洗浄室及び大型器材室内排気ファン更新工事          | 平成25年6月完了  |
| ⑧ 外来棟診療部門個別エアコン薬品洗浄作業(109台)             | 平成25年7月完了  |
| ⑨ 中央棟1階・3階連絡通路照明器具交換工事【省エネ対策】           | 平成25年7月完了  |
| ⑩ 外来棟(旧A棟)6階-7階災害時避難用スロープ整備工事           | 平成25年7月完了  |
| ⑪ F棟2階業務課窓側空調設備更新工事                     | 平成25年8月完了  |
| ⑫ 外来棟(旧C棟)7階教育センター学生実習室鏡面取付工事           | 平成25年8月完了  |
| ⑬ 中央棟構内道路白線・サイン文字整備工事                   | 平成25年8月完了  |
| ⑭ E棟各所空調機加湿蒸気制御弁及びバイパス側手動弁更新工事          | 平成25年9月完了  |
| ⑮ 外来棟(旧B棟)内側外壁補修工事                      | 平成25年9月完了  |
| ⑯ E棟エレベーター扉接触防止装置(赤外線ビーム)新設工事           | 平成25年9月完了  |
| ⑰ 中央棟屋上変電設備低圧気中遮断機交換工事                  | 平成25年9月完了  |
| ⑱ 外来棟MRI室(No.16)・中央棟2階MRI室陰圧空調改修工事      | 平成25年10月完了 |
| ⑲ E棟地下3階機械室ボイラ1号機ガス遮断弁ユニット更新工事          | 平成25年10月完了 |
| ⑳ 中央棟外壁タイル汚損整備工事                        | 平成25年10月完了 |
| ㉑ E棟病棟採風錠管理システム整備工事                     | 平成25年11月完了 |
| ㉒ 院内自動ドア装置不具合箇所整備工事                     | 平成25年11月完了 |
| ㉓ 外来棟手術室一次洗浄室及び大型器材室内排気ファン更新工事          | 平成25年11月完了 |
| ㉔ F棟屋上空冷式チラーユニット修理工事                    | 平成25年11月完了 |
| ㉕ E棟地下2階中央監視室中央監視装置更新工事                 | 平成25年11月完了 |
| ㉖ 外来棟(旧A棟)地下1階非常用自家発電機整備工事              | 平成25年11月完了 |
| ㉗ E棟地下1階システム課サーバー室メールサーバー用直流電源装置蓄電池更新工事 | 平成25年11月完了 |
| ㉘ 外来棟(旧A棟)地下1階合併槽ポンプ室水中ポンプ更新工事          | 平成25年11月完了 |
| ㉙ 外来棟(旧B棟)エレベーター3号機車いす対応部分リニューアル工事      | 平成25年12月完了 |
| ㉚ 外来棟エスカレーターリニューアル整備工事                  | 平成25年12月完了 |
| ㉛ 外来棟各所診察室引戸修繕工事                        | 平成25年12月完了 |
| ㉜ 中央棟2号機ボイラ用給水ポンプ取替工事                   | 平成25年12月完了 |
| ㉝ 中央棟エレベーター8号機長周期地震対策工事                 | 平成26年1月完了  |
| ㉞ 外来棟地下1階第1リニアック更新工事                    | 平成26年2月完了  |
| ㉟ 中央棟2階～5階トイレウォシュレット設置工事                | 平成26年2月完了  |
| ㊱ 中央棟14階1401・1416室陰陽圧設備改修工事             | 平成26年2月完了  |
| ㊲ E棟各階汚物容器自動洗浄装置設置に伴う電源増設工事             | 平成26年2月完了  |
| ㊳ 外来棟(旧A棟)4階手術室系統空調設備修繕工事               | 平成26年2月完了  |
| ㊴ 外来棟2階皮膚科外来診察室11感染対策排気ユニット設置工事         | 平成26年3月完了  |
| ㊵ 外来棟(旧B棟)地下1階緩和ケア外来新設工事                | 平成26年3月完了  |
| ㊶ 中央棟6階～21階職員用トイレウォシュレット設置工事            | 平成26年3月完了  |
| ㊷ E棟1階防災センターCRT設備更新工事                   | 平成26年3月完了  |
| ㊸ 中央棟氷蓄熱設備用温度指示調節器取替工事                  | 平成26年3月完了  |

④④	外来棟及び中央棟リハビリテーション科呼出設備新設工事	平成26年3月完了
④⑤	外来棟防犯カメラ増設工事	平成26年3月完了
④⑥	E棟各所空調吹出口ルーバー交換工事	平成26年3月完了
④⑦	中央棟・E棟自走台車式搬送設備整備工事	平成26年3月完了
④⑧	中央棟中央監視装置更新工事	平成26年3月完了
④⑨	医療ガス設備整備工事	平成26年3月完了
⑤⑩	E棟地下3階機械室吸収式冷凍機RH-3整備工事	平成26年3月完了

## 6. 平成25年度決算

### 1、はじめに

平成25年度は、第三病院医局棟建設工事、柏病院増床・管理棟建設工事、並びに本院外来棟建築の為の内部蓄積を目指して運営されましたが、各機関の経営効率化努力により、帰属収支差額（収益）は予算を大幅に上回る結果となりました。

### 2、資金収支計算書

施設・設備関係支出は66億円でした。主な内容は、建設仮勘定19億円（主に第三病院医局棟・柏病院管理棟建築）、土地・建物15億円（主に隣地ビルの購入）、医療器械13億円、一般備品10億円（主に第三病院電子カルテ化の支出）でした。

前年度繰越金は465億円でしたが次年度繰越金は492億円となり、繰越金は27億円増加しました。

### 3、消費収支計算書

収入の部は、医療収入の増加により前年度比9億円増加の979億円となりました。

支出の部は、退職給与引当金繰入額の減少による人件費の減少7億円と、除却損の減少26億円により前年度比32億円減少の896億円となりました。

この結果、帰属収支差額（利益）は83億円と良好でした。

### 4、貸借対照表

自己資金の増加83億円の内52億円は現金・預金・有価証券に存置されました。残り31億円の内14億円は一般備品と土地に、17億円は長期借入金の返済とリースの支払い等に充当されました。自己資金の合計は1,288億円で、自己資金比率は72%となりました。

### 5、決算開示方法について

(1) 平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEL」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

(2) 貸借対照表における未収入金は、徴収不能引当金131,718,493円を控除して表記していません。

以上

平成25年度消費収支計算書

自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

(単位：円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	38,746,380,604	学生生徒納付金	2,986,560,000
教育研究経費	46,640,099,508	手数料	192,409,800
教育研究経費	14,487,756,407		
医療経費	32,152,343,101	寄付金	1,222,831,547
管理経費	3,843,351,457	補助金	4,094,323,850
		国庫補助金	3,974,087,000
		地方公共団体補助金	119,736,850
		その他の補助金	500,000
借入金利息	212,462,118	資産運用収入	231,966,121
		資産売却差額	65,775
資産処分差額	2,560,573	事業収入	88,079,360,646
		医療収入	87,597,475,480
徴収不能額	63,324,122	雑収入	1,108,527,317
徴収不能引当金繰入額	131,718,493	(うち徴収不能引当金戻入額)	164,520,650
消費支出の部合計	89,639,896,875	帰属収入の部合計	97,916,045,056
消費収入超過額	2,726,250,873	基本金組入額合計	△ 5,549,897,308
合計	92,366,147,748	合計	92,366,147,748

平成26年6月文部科学省へ提出

平成25年度資金収支計算書

平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

(単位：円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	39,032,056,664	学生生徒納付金収入	2,986,560,000
教育研究経費支出	41,932,120,569	手数料収入	192,409,800
教育研究費支出	11,209,542,368	寄付金収入	1,182,540,998
医療経費支出	30,722,578,201	補助金収入	4,094,323,850
管理経費支出	3,228,821,935	国庫補助金	3,974,087,000
		地方公共団体補助金	119,736,850
		その他の補助金	500,000
		資産運用収入	231,966,121
		資産売却収入	65,775
		事業収入	88,079,360,646
借入金支払利息支出	212,462,118	医療収入	87,597,475,480
借入金返済支出	2,866,800,000	雑収入	944,006,667
施設関係支出	3,483,212,737	借入金収入	1,900,000,000
設備関係支出	3,125,783,264	前受金収入	602,164,934
資産運用支出	5,291,270,000	その他の収入	18,839,203,487
その他支出	16,795,134,886		
資金支出調整勘定	△ 15,659,371,616	資金収入調整勘定	△ 16,028,983,012
期末未払金	△ 15,659,371,616	期末未収入金	△ 15,420,201,150
		前期末前受金	△ 608,781,862
次年度繰越支払資金	49,184,972,335	前年度繰越支払資金	46,469,643,626
<b>支出の部合計</b>	<b>149,493,262,892</b>	<b>収入の部合計</b>	<b>149,493,262,892</b>

平成26年6月文部科学省へ提出

平成25年度貸借対照表

平成26年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	110,008,090,397	107,370,081,181	2,638,009,216
有形固定資産	95,673,793,302	94,321,715,137	1,352,078,165
土地	7,041,851,321	6,331,139,571	710,711,750
建物	70,540,317,220	71,720,430,372	△ 1,180,113,152
構築物	357,063,583	382,798,084	△ 25,734,501
教育研究用機器備品	10,935,198,254	10,839,592,006	95,606,248
その他の機器備品	2,536,029,361	2,027,128,357	508,901,004
図書	2,829,975,928	2,791,963,599	38,012,329
車輛	25,145,159	22,692,122	2,453,037
建設仮勘定	1,385,050,568	182,809,118	1,202,241,450
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
その他の固定資産	14,334,297,095	13,048,366,044	1,285,931,051
長期貸付金	423,489,249	402,197,549	21,291,700
差入保証金	332,682,460	337,182,460	△ 4,500,000
有価証券	10,855,763,220	9,558,763,220	1,297,000,000
退職給与引当特定預金	1,600,000,000	1,600,000,000	0
ソフトウェア	1,122,362,166	1,150,222,815	△ 27,860,649
流動資産	68,775,194,253	64,815,380,284	3,959,813,969
現金預金	49,184,972,335	46,469,643,626	2,715,328,709
未収入金	15,389,679,185	15,356,950,068	32,729,117
貯蔵品	79,389,946	91,221,885	△ 11,831,939
有価証券	4,000,000,000	2,805,730,000	1,194,270,000
仮払金	121,152,787	91,834,705	29,318,082
<b>資産の部合計</b>	<b>178,783,284,650</b>	<b>172,185,461,465</b>	<b>6,597,823,185</b>

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	32,477,509,726	34,344,230,465	△ 1,866,720,739
長期借入金	10,382,200,000	11,349,000,000	△ 966,800,000
退職給与引当金	17,658,206,381	17,943,882,441	△ 285,676,060
長期未払金	4,437,103,345	5,051,348,024	△ 614,244,679
流動負債	17,495,887,203	17,307,491,460	188,395,743
短期借入金	966,800,000	966,800,000	0
未払金	15,614,173,382	15,392,491,784	221,681,598
前受金	602,164,934	608,781,862	△ 6,616,928
預り金	311,373,387	338,064,814	△ 26,691,427
保証金	1,375,500	1,353,000	22,500
<b>負債の部合計</b>	<b>49,973,396,929</b>	<b>51,651,721,925</b>	<b>△ 1,678,324,996</b>

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	139,374,677,460	134,051,034,052	5,323,643,408
第4号基本金	7,018,896,411	6,792,642,511	226,253,900
<b>基本金の部合計</b>	<b>146,393,573,871</b>	<b>140,843,676,563</b>	<b>5,549,897,308</b>

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	17,583,686,150	20,309,937,023	△ 2,726,250,873
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△ 17,583,686,150</b>	<b>△ 20,309,937,023</b>	<b>2,726,250,873</b>

科 目	本年度末	前年度末	増減
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>178,783,284,650</b>	<b>172,185,461,465</b>	<b>6,597,823,185</b>

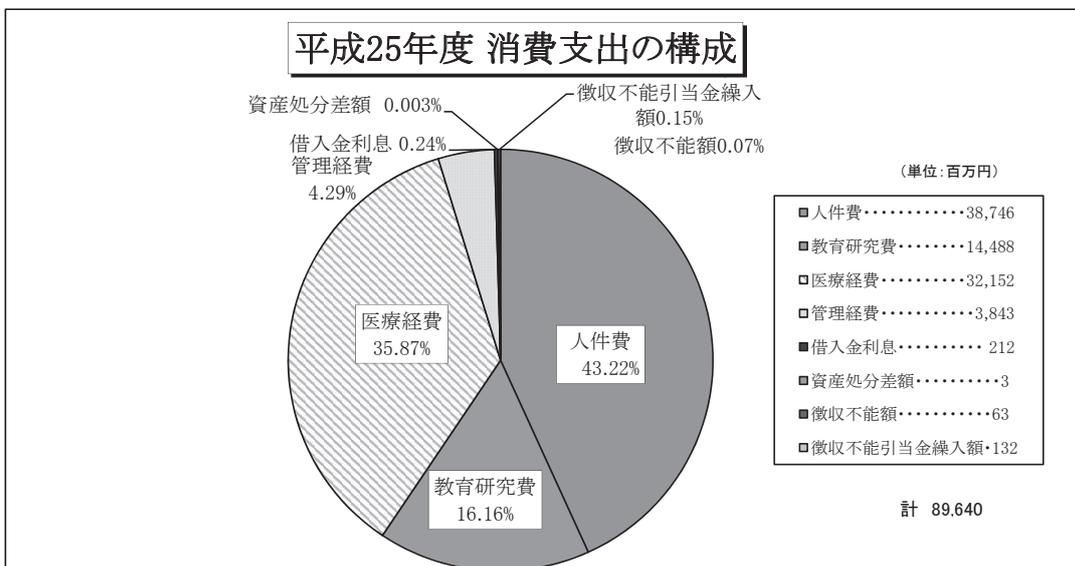
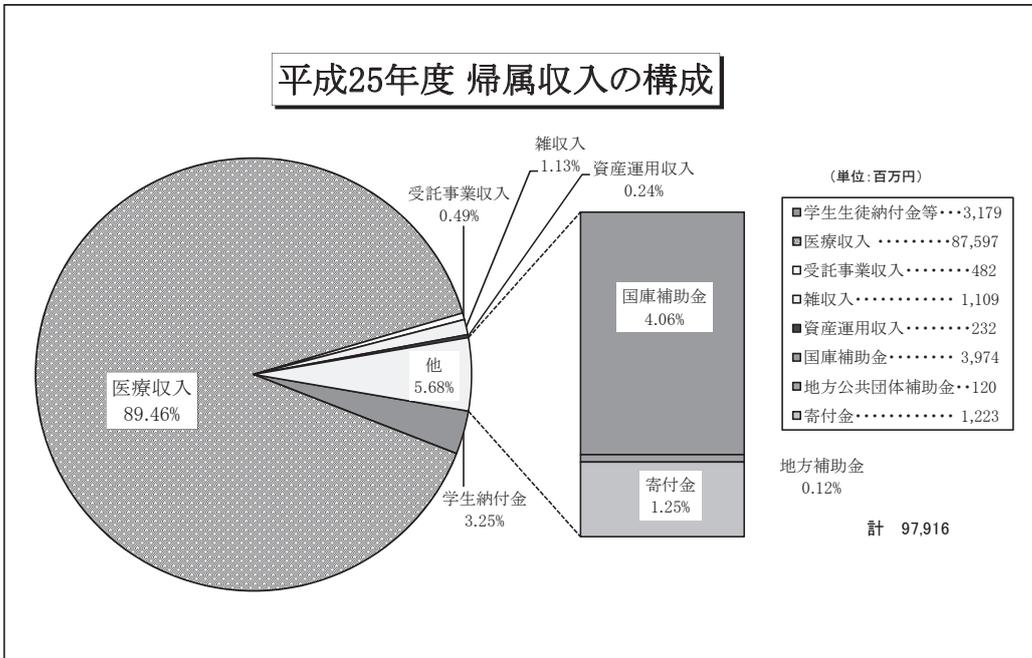
平成26年6月文部科学省へ提出

\* 徴収不能引当金¥131,718,493円は未収入金から控除されています。

主要な財務指標の推移

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
<b>消費収支関係財務比率(単位:%)</b>								
①消費支出比率 (消費支出/帰属収入)	97.2%	96.9%	96.7%	95.7%	92.6%	94.0%	95.7%	91.5%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/帰属収入)	3.5%	3.4%	3.4%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%
③寄付金比率 (寄付金/帰属収入)	1.7%	1.3%	1.3%	1.2%	1.6%	1.4%	1.5%	1.2%
④補助金比率 (補助金/帰属収入)	4.7%	4.7%	4.7%	4.4%	4.2%	4.3%	4.2%	4.2%
⑤医療収入比率 (医療収入/帰属収入)	87.0%	86.4%	87.5%	88.9%	88.9%	89.3%	89.3%	89.5%
⑥人件費比率 (人件費/帰属収入)	45.1%	43.7%	42.9%	42.2%	41.0%	40.4%	40.7%	39.6%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/帰属収入)	47.6%	48.1%	49.0%	48.6%	46.2%	48.2%	47.6%	47.6%
⑧帰属収支差額比率 (100%-消費支出比率)	2.8%	3.1%	3.3%	4.3%	7.4%	6.0%	4.3%	8.5%
<b>貸借対照表関係財務比率(単位:%)</b>								
①流動比率 (流動資産/流動負債)	345.7%	346.4%	355.2%	360.1%	379.5%	381.5%	374.5%	393.1%
②固定比率 (固定資産/自己資金)	101.4%	98.4%	96.3%	92.4%	87.7%	91.6%	89.1%	85.4%
③固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))	75.6%	74.6%	74.2%	72.1%	69.8%	70.5%	69.3%	68.2%
④負債比率 (総負債/自己資金)	47.6%	45.4%	43.0%	41.8%	39.2%	43.6%	42.9%	38.8%
⑤自己資金比率 (自己資金/総資産)	67.8%	68.8%	69.9%	70.5%	71.8%	69.7%	70.0%	72.0%

\*自己資金=基本金+消費収支差額  
平成26年6月文部科学省報告



# 財 産 目 録

平成 26 年 3 月 31 日

I. 資産総額	178,783,284,650 円
内 基本財産	114,008,090,397 円
内 運用財産	64,775,194,253 円
内 収益事業用財産	0 円
II. 負債総額	49,973,396,929 円
III. 正味財産	128,809,887,721 円

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		114,008,090,397
1. 土地	153,371.68m <sup>2</sup>	7,041,851,321
(1)校地	56,335.57m <sup>2</sup>	3,845,186,964
(2)その他	97,036.11m <sup>2</sup>	3,196,664,357
2. 建物	296,010.57m <sup>2</sup>	70,540,317,220
(1)法人本部	484.78m <sup>2</sup>	1,332,618,062
(2)一般校舎	76,068.03m <sup>2</sup>	14,561,029,452
(3)図書館	3,882.20m <sup>2</sup>	100,222,679
(4)講堂	1,168.99m <sup>2</sup>	137,083,141
(5)その他	214,406.57m <sup>2</sup>	54,409,363,886
3. 図書	345,139冊	2,829,975,928
4. 教具、校具、備品	8,004件	13,471,227,615
5. 有価証券		14,855,763,220
6. その他		5,268,955,093
二、運用財産		64,775,194,253
1. 現金、預金		49,184,972,335
2. 未収入金		15,389,679,185
3. その他		200,542,733
資産総額		178,783,284,650
三、固定負債		32,477,509,726
1. 長期借入金		10,382,200,000
2. 退職給与引当金		17,658,206,381
3. 長期未払金		4,437,103,345
四、流動負債		17,495,887,203
1. 短期借入金		966,800,000
2. 未払金		15,614,173,382
3. 前受金		602,164,934
4. 保証金		1,375,500
5. その他		311,373,387
負債総額		49,973,396,929
正味財産(資産総額-負債総額)		128,809,887,721

上記の通り相違ありません。

平成26年 5月22日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎



# 監 査 報 告 書

平成 26 年 5 月 22 日

学校法人 慈恵大学  
評議員会 御中

学校法人 慈恵大学

監事 濱 邦久 

監事 岡島 進一郎 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人慈恵大学寄附行為第 15 条の定めに基づき、平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）の学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。  
その結果について以下の通り報告いたします。

## 1、 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。

## 2、 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成 26 年 3 月 31 日現在の財産状況、及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 学校法人の業務及び財産の状況に関して、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

## 7. 関連当事者との取引状況

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

単位：円

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の内兼任等	事業上の関係				
関係法人	公益社団法人 東京慈恵会 (注1)	東京都 港区	—	看護師養成事業、 医学研究事業	—	5名	卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている	会費の支払 (注2)	160,000,000	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当学校法人の役員及び教員が公益社団法人東京慈恵会の役員の45%を占めている。

(注2) 公益社団法人東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し金額を決定している。

学校法人の出資による会社に係る事項

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は以下の通りである。

名称	株式会社 慈恵実業		
事業内容	物品販売・斡旋・仲介、慈恵大学内の理容・美容・食堂施設の管理、保険代理業、リース業 労働者派遣・請負業務など		
出資金	30,000,000円	60,000株	
学校法人の出資状況	30,000,000円	60,000株	総出資金額に占める割合 100%
出資の状況	昭和51年2月28日 30,000,000円 60,000株		

当期中に学校法人が受け入れた配当金及び寄附金の金額並びに学校法人との資金、取引の状況	当該会社からの受入額 (単位：円)				
	寄附金	55,565,000			
	駐車場等賃借料	96,521,344			
	手数料他	29,078,142			
	出向者人件費受入分	146,582,275			
	合計	327,746,761			
	当該会社への支払額 (単位：円)				
	消耗雑品購入	14,883,833,228			
	医療機器等リース料	140,567,054			
	土地・建物購入	1,107,050,000			
	合計	16,131,450,282			
	(単位：円)				
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資金等	30,000,000	0	0	30,000,000
	当該会社への未払金	4,114,888,060	4,114,888,060	3,719,389,984	3,719,389,984
当該会社からの未収入金	3,626,726	7,795,968	3,626,726	7,795,968	
保証債務	当該会社への保証債務は一切ない。				

(注1) 当該会社への期末における未払金のうち、604,729,558円はリース取引および割賦取引の長期未払金である。

関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人(注3)	慈恵ファシリティサービス株式会社	東京都港区	3,000万円	建物等の清掃・管理業務、病院内医療廃棄物並びに一般廃棄物の取扱、病院等整備業務・病院等搬送業務	—	1名	本学並びに附属病院の清掃、整備、搬送、管理業務を委託	清掃、管理費等の支払(注4)	1,265,114,368	未払金	122,148,196
								出向者人件費等受入収入	164,166,344	未収入金	0

(注3) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注4) 慈恵ファシリティサービス(株)への清掃、管理費等の支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人(注5)	慈恵メディカルサービス株式会社	東京都港区	2,500万円	医科器械及び附属品計量器の販売、医療材料・消耗品等の販売	—	—	医科器械・医療消耗品等を購入	医科器械・医療消耗品等の支払(注6)	154,219,067	未払金	19,301,449

(注5) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注6) 慈恵メディカルサービス(株)への支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

## 8. 学校法人慈恵大学の体制（平25.4.1）

### 1) 学校法人慈恵大学

① 役員概要	定員数	理事	15人以上16人以内	現員数	16人
		監事	2人以上3人以内	現員数	2人
		顧問	3人以上7人以内	現員数	6人
理事	長	栗原 敏			
学	長	松藤 千弥			
専務理事	事	高木 敬三			
常務理事	事	谷口 郁夫			
理	事	丸毛 啓史、伊藤 洋、清水 光行			
		橋本 和弘、中川 秀己、井田 博幸、浅野 晃司、高橋 則子			
		加藤 一人、高橋紀久雄、香川 草平、前田 新造			
監	事	濱 邦久、岡島進一郎			
顧	問	阿部 正和、岡村 哲夫、小森 亮、梅澤 祐二、佐々木正峰、 真野 章			

② 評議員の概要 評議員の定員は40人以上42人以内であり、現員数は42人である。

評議員会議長	村岡 伸一
評議員	栗原 敏、松藤 千弥、丸毛 啓史、伊藤 洋、谷口 郁夫、 清水 光行、橋本 和弘、谷 諭、井田 博幸、安保 雅博、 浅野 晃司、山田 恭輔、猿田 雅之、岡部 正隆、竹森 重、 柳澤 裕之、岡野 孝、櫻井美代子、上間ゆき子、高橋 則子、 加藤 一人、植松美知男、横山 秀彦、小澤かおり、宮崎 栄一、 佐藤 哲也、柳澤美津代、川久保 孝、高橋紀久雄、香川 草平、 須田 健夫、渡邊 盛雄、鎌田 芳夫、穎川 一信、小田 治男、 村岡 伸一、赤羽 清彬、大政 良二、高木 公寛、徳川 恒孝、 梅溪 通明、高木 敬三

### 2) 東京慈恵会医科大学

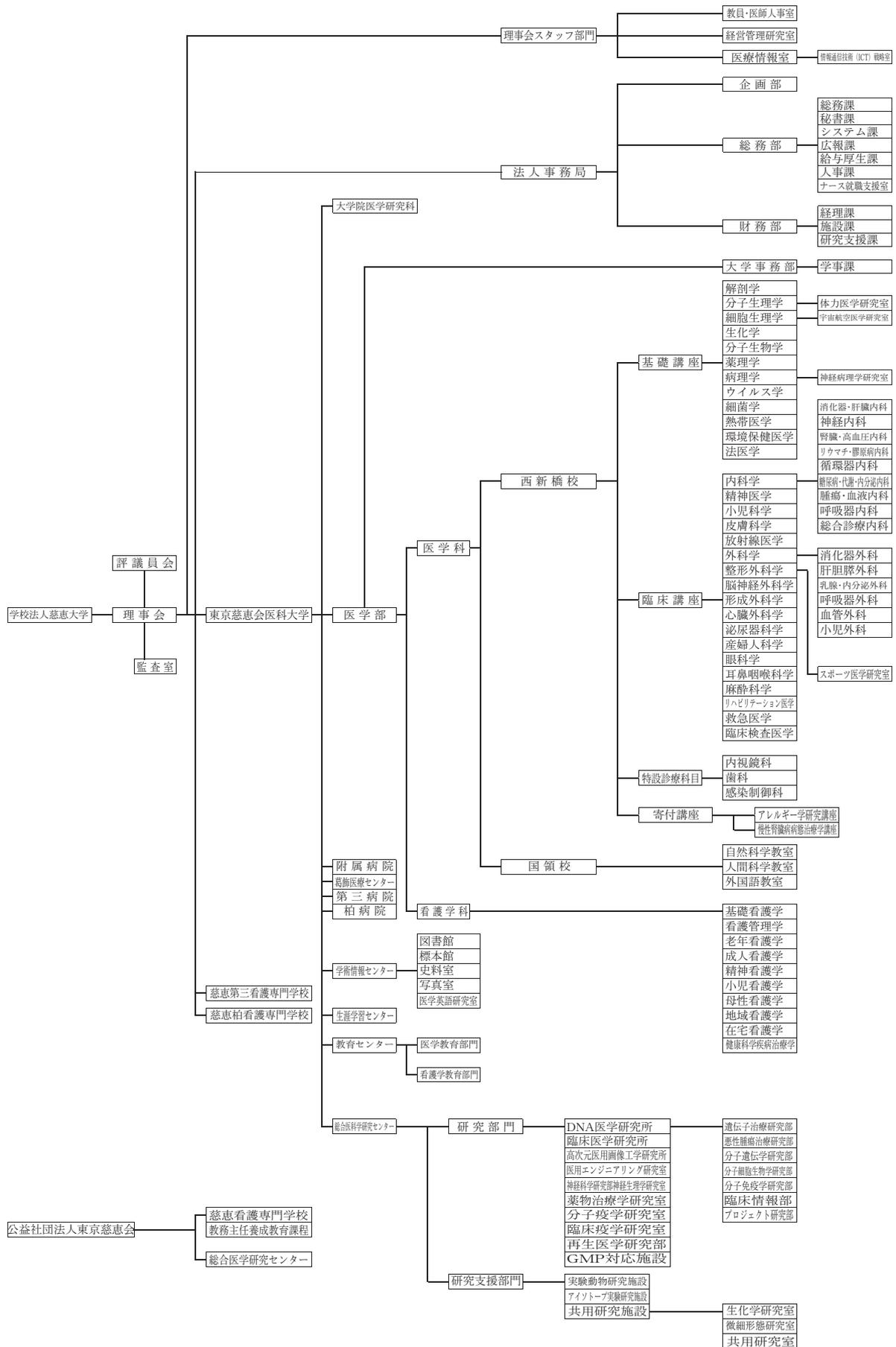
学	長	松藤 千弥			
医学科	長	橋本 和弘			
看護学科	長	櫻井美代子			
大学院医学研究科	長	松藤 千弥			
附属病院	長	丸毛 啓史	副院長	小川 武希、中川 秀己、相羽 恵介、 井田 博幸、浅野 晃司、高橋 則子	
葛飾医療センター病院	長	伊藤 洋	副院長	吉田 和彦、児島 章	
第三病院	長	谷口 郁夫	副院長	岡 尚省、中村 敬、古田 希、 岡本 友好	
柏病院	長	清水 光行	副院長	岸本 幸一、東條 克能、吉田 博	
学術情報センター	長	福田 国彦			
生涯学習センター	長	常岡 寛			
教育センター	長	福島 統			
総合医科学研究センター	長	大橋 十也			

### 3) 看護専門学校

慈恵第三看護専門学校	長	中村 敬
慈恵柏看護専門学校	長	吉田 博
[慈恵看護専門学校]	長	川村 将弘]

# 9. 学校法人慈恵大学組織図

(平成 25 年 4 月 1 日現在)



## 10. 理事会

定例理事会の開催状況（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

議 事 内 容	
<p>平成25年4月25日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 教員の勤務体制について</p> <p>(2) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(3) 幹部職員一覧</p> <p>(4) 職員数報告</p> <p>(5) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>(6) 平成24年度中に制定・改定された規程について</p> <p>(7) 資産運用状況報告</p> <p>(8) 創立130周年記念募金状況報告（3月末日現在）</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 評議員会の開催予定について 日時：5月28日（火）午後3時～ 議題：平成24年度決算報告、その他</p>
<p>平成25年5月23日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成24年度決算</p> <p>3) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成24年度事業報告</p> <p>(2) Jikei Heart Studyの件について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 評議員会の開催予定について 日時：5月28日（火）午後3時～ 議題：平成24年度決算報告、その他</p>
<p>平成25年6月27日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 5月評議員会報告</p> <p>(2) 労働組合との交渉結果について</p> <p>(3) 宮崎県宮崎市穆佐小学校児童招待の件</p> <p>(4) 宮崎県宮崎市特別大使受入れの件</p> <p>(5) Jikei Heart Studyの件について</p> <p>2) 学事関係報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 平成24年度事業報告書</p> <p>2) 大学関連配布物</p>

議 事 内 容

平成25年 7月25日

1. 議決事項

1) 教員人事

2. 報告事項

1) 法人関係報告

(1) Jikei Heart Studyの件について

2) 学事関係報告

(1) 学事報告

(2) 第130回成医会総会プログラムについて

3) 病院関係報告

(1) 4病院院長・事務・看護部長会議報告

3. 現況報告

1) 附属病院（本院）の現況

2) 晴海トリトンクリニックの現況

3) 葛飾医療センターの現況

4) 第三病院の現況

5) 柏病院の現況

4. その他

平成25年 9月26日

1. 議決事項

1) 教員人事

2) 職員管理職人事（平成25年10月1日付）

2. 報告事項

1) 法人関係報告

(1) Jikei Heart Studyの件について

2) 学事関係報告

3) 病院関係報告

3. 現況報告

1) 附属病院（本院）の現況

2) 晴海トリトンクリニックの現況

3) 葛飾医療センターの現況

4) 第三病院の現況

5) 柏病院の現況

4. その他

1) 夏季常任理事会報告

2) 第130回成医会の開催について

3) 患者からの感謝状について

平成25年10月24日

1. 議決事項

1) 教員人事

2. 報告事項

1) 法人関係報告

(1) 資産運用状況報告

(2) 創立130周年記念事業募金報告

2) 学事関係報告

3) 病院関係報告

(1) 研修医・レジデント応募状況について

(2) 医療安全について

①医療安全推進週間

②平成24年度医療安全管理部活動報告

3. 現況報告

1) 附属病院（本院）の現況

2) 晴海トリトンクリニックの現況

3) 葛飾医療センターの現況

4) 第三病院の現況

5) 柏病院の現況

4. その他

1) 所有地活用による医療インフラ整備事業公募について

2) 医学部新設について（全国医学部長病院長会議の声明文）

3) 平成26年度採用初期臨床研修医マッチング結果について

平成25年11月28日

1. 議決事項

1) 教員人事

2) 賞与資金借入れについて

3) 教員の懲戒について

2. 報告事項

1) 法人関係報告

(1) 「西新橋キャンパス再整備計画」設計事務所選定について

2) 学事関係報告

3) 病院関係報告

(1) 研修医・レジデント採用状況について

(2) 第三病院新医局棟建築ならびに病院情報システム導入の進捗状況について

3. 現況報告

1) 附属病院（本院）の現況

2) 晴海トリトンクリニックの現況

3) 葛飾医療センターの現況

4) 第三病院の現況

5) 柏病院の現況

4. その他

議 事 内 容

<p>平成25年12月26日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) Jikei Heart Study の件について</p> <p>(2) 西新橋キャンパス再整備計画の設計事務所選定について</p> <p>(3) 「都有地活用による医療インフラ整備事業」(港工業高校跡地) 申請状況について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p>	<p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成26年3月13日(木)午後3時 平成26年度事業計画(案)、平成26年度予算(案) 他</p> <p>(2) 平成26年5月29日(木)午後3時 平成25年度事業報告、平成25年度決算 他</p> <p>2) 平成26年度理事会開催日程</p> <p>3) 慈恵医大・附属病院職員雑誌について</p>
<p>平成26年1月23日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 役員人事</p> <p>(1) 各附属病院長(分院長)候補者の審議・選任</p> <p>(2) 慈恵看護専門学校長候補者の推薦</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(平成26年4月1日付)</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 株式会社慈恵実業第39期決算報告</p> <p>(2) Jikei Heart Study の件について</p> <p>(3) 「都有地活用による医療インフラ整備事業」のプレゼンテーションについて</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 成医会例会案内</p>
<p>平成26年2月27日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 大学役員について</p> <p>(1) 附属病院副院長について</p> <p>(2) 評議員選出について</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(平成26年4月1日付)</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成26年度予算(案)について&lt;説明&gt;</p> <p>(2) 関連当事者との取引の調査依頼</p> <p>(3) 学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成26年度事業計画案</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成26年3月13日(木)午後3時 平成26年度事業計画(案)、平成26年度予算(案) 他</p> <p>(2) 平成26年5月29日(木)午後3時 平成25年度事業報告、平成25年度決算 他</p>

## 議 事 内 容

平成26年3月27日

### 1. 議決事項

- 1) 役員人事
  - (1) 参与の選出
- 2) 教員人事
- 3) 職員管理職人事（平成26年4月1日付）
- 4) 平成26年度基礎系講座定員について
- 5) 平成26年度附属4病院診療部・中央診療部定員について
- 6) 平成26年度事業計画（案）について
- 7) 平成26年度予算（案）について

### 2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 「所有地活用による医療インフラ整備事業」(港工業高校跡地) 申請状況について
  - (2) Jikei Heart Study の件について
- 2) 学事関係報告
- 3) 病院関係報告
  - (1) 平成26年度 研修医・レジデント採用人数について

### 3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

### 4. その他

- 1) 配布資料
  - (1) 教育・研究年報（2012）
  - (2) Research Activities（2012）
- 2) 評議員会の日程について
  - (1) 平成26年5月29日（木）午後3時  
平成25年度決算、平成25年度事業報告 他
- 3) 退任者の挨拶 清水理事

## 11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

議 事 内 容	
<p>平成25年5月28日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成24年度事業報告</p> <p>2) 平成24年度決算</p> <p>3) 平成24年度監査報告</p>	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成24年度中に制定・改定・廃止となった規程類の件</p> <p>3) 本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備計画の報告</p> <p>4) Jikei Heart Study 調査委員会の件</p> <p>3. その他</p>
<p>平成26年3月13日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 中期目標・中期計画 ・平成26年度事業計画案の件</p> <p>2) 平成26年度予算案の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 病院報告</p> <p>3) 大学創立130年記念事業募金の中間報告</p> <p>4) 同窓会から大学への寄付について</p>	<p>5) 西新橋キャンパス再整備について</p> <p>6) 愛宕マークビル取得の件</p> <p>7) Jikei Heart Study の件</p> <p>8) その他</p> <p>(1) 次回評議員会の開催について 日時：5月29日（木）午後3時から 場所：B会議室 議題：平成25年度決報告、その他</p> <p>3. その他</p>

## 12. 監査室

平成25年度は主に、①公的研究費の内部監査、②公的補助金の内部監査、③公的研究費のモニタリング、④監査法人の指摘事項への対応、⑤規程類の整備状況の確認を実施した。

また、監事ならびに監査法人に平成25年度の内部監査結果を報告するとともに意見交換を行った。

### 1. 内部監査

平成25年度内部監査計画に基づき、以下の内部監査を計画通り実施した。

#### 1) 公的研究費

(1) 平成24年度分文部科学省関係公的研究費の事業名

- ①科学研究費助成事業
- ②最先端・次世代研究開発支援プログラム
- ③戦略的創造研究推進事業
- ④研究成果最適展開支援プログラム
- ⑤私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
- ⑥次世代がん研究戦略推進プロジェクト

(2) 平成24年度分厚生労働省関係公的研究費の事業名

- ①厚生労働科学研究費補助金
- ②治験推進研究事業
- ③がん研究開発費

- ④循環器病研究開発費
- ⑤精神・神経疾患研究開発費

## 2) 公的補助金

- (1) 平成25年度分私立大学等経常費補助金（一般補助）の申請に係る書類21種  
平成24年度まで確認の対象書類としていた「大学等専任教員等・個人票」ならびに「大学等専任職員・個人票」は、平成25年度は主管課である研究支援課が確認したため、確認の対象書類としなかった。
  - (2) 平成24年度分私立大学等経常費補助金（特別補助）の申請に係る書類15種
- ## 3) 平成25年度分公的研究費に関するモニタリング（期中監査）
- 文部科学省よりモニタリングを積極的に行うことが求められているため、平成25年度から、機器備品の管理状況、臨時研究職員へのインタビュー、旅費支出の实在性と適正性、生命倫理に関する法令などの遵守状況のモニタリングを新たに実施した。
- ## 4) 業務監査
- (1) 監査法人トーマツの平成24年度覚書の指摘事項への対応
  - (2) 慈恵実業平成24年度監査報告書の確認
  - (3) 規程類の整備状況の確認（平成26年度も継続する。）

## 2. その他

学内調査への協力：2件



## Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

# 1.教授、その他の人事（平成25年4月～平成26年3月）

## 1) 平成26年3月31日付退任教授

氏名	旧担当	現在
景山 茂	薬物治療学研究室	特命教授(臨床研究支援センター長・治験センター長)
高木 一郎	内科学 消化器・肝臓内科	
清水 光行	” 循環器内科	
原田 潤太	放射線医学	
本田 まりこ	皮膚科学	
上出 良一	皮膚科学	
又井 一雄	外科	
落合 和徳	産婦人科学	特命教授(病院長補佐(医療安全担当))
加藤 孝邦	耳鼻咽喉科学	
小山 勉	救急医学	
杉崎 正志	歯科	
福山 隆夫	人文科学研究室	
藤野 彰子	看護学科 成人看護学	

## 2) 新任教授

氏名	担当	就任年月日	経歴	備考
池上 雅博	病理学	平25.4.1	昭和56年 本学卒	病理学 准教授より
横尾 隆	内科学・ 腎臓高血圧	平25.4.1	平成3年 本学卒	内科学 講師より
小島 博己	耳鼻咽喉科学	平25.4.1	昭和62年 本学卒	耳鼻咽喉科学 准教授より
高田 耕司	自然科学教室 生物学教室	平25.4.1	昭和60年 早大院理工卒	生化学講座 准教授より
木山 秀哉	麻酔学	平25.4.1	昭和59年 慶應義塾大医卒	DNA医学研究所 准教授より
川村 哲也	大学直属	平25.4.1	昭和54年 本学卒	内科学 准教授より
尾上 尚志	教育センター	平25.4.1	昭和58年 本学卒	脳神経外科学 准教授より
浅野 晃司	大学直属	平25.4.1	昭和61年 本学卒	泌尿器科学 准教授より
田中 幸子	看護学 科学 基礎看護学	平25.4.1	平成3年 神奈川大卒	山形大学 教授より
香月 毅史	看護学 科学 精神看護学	平25.4.1	平成14年 東京医科歯科大卒	淑徳大学 准教授より
黒坂 大太郎	内科学・ リウマチ	平25.8.1	昭和60年 本学卒	内科学 准教授より
浦島 充佳	大学	平25.11.1	昭和61年 本学卒	総合医科学研究センター 准教授より
松島 雅人	大学	平25.11.1	昭和61年 本学卒	総合医科学研究センター 准教授より
大谷 卓也	整形外科	平25.11.1	昭和58年 本学卒	整形外科 准教授より
山根 禎一	内科学・循環器	平26.1.1	昭和61年 浜松医大卒	内科学 准教授より
本郷 賢一	内科学・ 循環器	平26.2.1	昭和61年 本学卒	内科学 准教授より
海渡 健	臨床検査医学	平26.3.1	昭和58年 本学卒	臨床検査医学 准教授より
嶋澤 順子	看護学 科学 地域看護学	平26.1.1	平成元年 千葉大卒	看護学 科学 准教授より

### 3) 新任客員教授

氏名	所属	就任年月日	備考
左合 治彦	産婦人科学	平25.5.1	国立成育医療研究センター在任中
市田 公美	内科学・腎臓高血圧	平25.7.1	東京薬科大学教授
荒井 保明	放射線医学	平25.10.1	国立がんセンター理事・中央病院長
池内 健二	外科学	平26.1.1	高知県の町立仁淀病院在任中

### 4) 特任教授

氏名	所属	就任年月日	備考
薄井 紀子	大学直属	平25.4.1	特任期間：平成25年4月1日～平成28年3月31日
加地 正伸	内科学・腎臓高血圧	平25.4.1	特任期間：平成25年4月1日～平成28年3月31日
又井 一雄	外科学	平25.4.1	特任期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日
伊藤 文之	看護学科健康科学	平19.4.1	特任期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日
持尾 聰一郎	看護学科健康科学	平24.4.1	特任期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日
池内 健二	外科学	平25.5.1	特任期間：平成25年5月1日～平成28年3月31日
鈴木 正章	病理学	平25.5.1	特任期間：平成25年5月1日～平成28年3月31日
坂東 興	心臓外科学	平25.7.1	特任期間：平成25年7月1日～平成27年3月31日

### 5) 叙位・叙勲

高橋 良 名誉教授 平成25年10月25日 従五位

### 6) 訃報

田中 順一 元教授 平成25年4月13日 逝去  
 近藤 勇 名誉教授 平成25年4月24日 逝去  
 大石 杉乃 元看護学科教授 平成25年9月10日 逝去  
 矢花 秀文 元教授 平成25年10月16日 逝去  
 高橋 良 名誉教授 平成25年10月25日 逝去  
 小林 昭夫 名誉教授 平成25年11月5日 逝去

## 2. 教職員数

### 1) 教員数 平成25年5月1日現在

#### ① 医学科

専任教員 1,177名

(内訳) 本学を本務とする者 1,152名  
日本クラブ診療所派遣中 3名  
留学中 16名  
休職中 6名

その他教員 1,453名

(内訳) 本学を本務とする者 292名  
関連病院派遣中 615名  
留学中 50名  
休職中 134名  
上記以外(名誉・客員教授・講師  
(非常勤)) 362名

#### ② 看護学科

専任教員 37名

その他教員(講師(非常勤)) 28名

### 2) 初期臨床研修医数(平成25年5月1日現在)

1年 本 院 47名  
    " 歯科 3名  
葛飾医療センター 6名  
    第三病院 15名  
    柏 病 院 17名  
    合 計 88名

2年 本 院 46名  
    " 歯科 1名  
葛飾医療センター 6名  
    第三病院 24名  
    柏 病 院 24名  
    合 計 101名  
総合計 189名

### 3) 職員数(看護師を含む)(平成25年5月1日現在)

大学 \* 233名  
本院 \*\* 1,567名  
葛飾医療センター \*\*\* 521名  
第三病院 \*\*\* 787名  
柏病院 \*\*\* 868名  
計 3,976名

常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)

◆ 法人事務局、医学科国領校、看護  
学科、慈恵看護専門学校を含む。

\*\* 晴海トリトンクリニックを含む。

\*\*\* それぞれ看護専門学校を含む。

### 4) 看護師数(平成25年5月1日現在)

	正 看	准 看	その他*	計
法 人	1名	0名	0名	1名
大 学	1名	0名	0名	1名
本 院	1,039名	0名	39名	1,078名
葛飾医療センター	357名	1名	9名	367名
第三病院	526名	1名	22名	549名
柏 病 院	586名	0名	53名	639名
計	2,510名	2名	123名	2,635名

\*事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

### 3. 教 育

#### 1) 医学部医学科学生数など（平成25年5月1日現在）

##### (1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	定員	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
			男	女		
1	110	113	82	31	小澤 隆一 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 竹田 宏 講師
2	110	118	91	27	靱山 俊彦 教授	【委員】 銭谷 幹男 教授 (総合健診・予防医学センター) 中村 敬 教授 (精神医学)
3	110	112	73	39	近藤 一博 教授	秋山 政晴 講師 (小児科学) 中澤 靖 講師 (感染制御部)
4	105	106	69	37	吉村 道博 教授	松澤真由子 看護師 (第三・感染制御室) 吉田 啓 助教 (1年担当・内科)
5	105	100	68	32	尾上 尚志 教授	川井 真 准教授 (2年担当・内科) 横田 邦信 教授 (3年担当・内科)
6	100	102	78	24	福田 国彦 教授	原 弘道 助教 (4年担当・内科) 上竹慎一郎 講師 (5年担当・内科)
計	640	651	461	190		松尾 七重 助教 (6年担当・内科) 中山 和彦 教授 (2～6年担当・精神)

(国領校：113名 西新橋校：538名)

##### (2) 教学委員長 学生部長 大学事務部長

・教学委員長	宇都宮一典	教授
・副教学委員長	柳澤 裕之	教授
〃	岡野 孝	教授
・学生部長	竹森 重	教授
・副学生部長	中川 秀己	教授
〃	小澤 隆一	教授
・大学事務部長	井出 晴夫	

#### 2) 医学部看護学科学生数など（平成25年5月1日現在）

##### (1) 学生数および学年担当委員など

学年	定員	人員	内 訳		学 年 担 当 学 生 委 員 等
			男	女	
1	60	60	1	59	委 員 伊藤 文之 教授 (保健指導担当)
2	40	43	2	41	〃 細坂 泰子 准教授 (1年担当)
3	40	42	2	40	〃 香月 毅史 教授 (2年担当)
4	40	43	2	41	〃 菊池麻由美 准教授 (3年担当)
計	180	188	7	181	〃 高島 衣 准教授 (4年担当)

##### (2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	濱中 喜代	教授
・学生部長	北 素子	教授
・学事課課長	河村 稔明	

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成25年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会			
			男	女	委 員 長：松藤 千弥 学長			
1	66	42	31	11	委 員 員：岡部 正隆 教授 近藤 一博 教授			
2	66	25	16	9	南沢 享 教授 大橋 十也 教授			
3	66	35	23	12	岡野(J)洋尚 教授 宇都宮一典 教授			
4	66	31	24	7	井田 博幸 教授 矢永 勝彦 教授			
計	264	133	94	39	中川 秀己 教授			

4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成25年5月1日現在）－21年4月開設

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会 （ 修 士 課 程 ）			
			男	女	委 員 長：櫻井 尚子 専攻長			
1	10	9	0	9	委 員 員：高島 尚美 教授 藤野 彰子 教授			
2	10	12	3	9	(12.31まで)			
計	20	21	3	18	田中 幸子 教授 茅島 江子 教授			

5) 大学および大学院など

(1) 医 学 科

I. 教学関係

1. 教学委員会

平成25年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員14名の計16名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成25年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：宇都宮一典（教学委員長）、柳澤裕之（副教学委員長、カリキュラム委員長）、岡野孝（副教学委員長）、竹森重（学生部長、学生担当委員長）、中川秀己（副学生部長、学生担当副委員長）、小澤隆一（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、木村直史（試験委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、靱山俊彦（2学年担当）、近藤一博（教育施設委員長、3学年担当）、吉村道博（4学年担当）、尾上尚志（5学年担当）、福田国彦（6学年担当）、福島統（カリキュラム自己点検・評価委員長）、石橋由朗

2. 平成25年度医学科の進級、卒業者

1年：進級	109人	留年	3人	退学	1人
2年："	112人	"	5人		
3年："	101人	"	11人		
4年："	106人	"	0人		
5年："	99人	"	1人		
6年：卒業	102人	"	0人		

以上の結果、平成26年度の学生数は1年-114人、2年-115人、3年-123人、4年-101人、5年-107人、6年-99人、合計659人

3. カリキュラムの改訂と経過

平成25年度より医学科3年生のコース「臨床基礎医学Ⅰ」、「臨床基礎医学Ⅱ」を、コース間の連続性を推進するため、コース「臨床基礎医学」として1つのコースに統合した。これにより臨床基礎医学総合試験の実施方法を一部変更した。

医学科5年生では、コース「医学総論Ⅴ」にユニット「医学総論Ⅴ演習」（15コマ1単位）を新設した。授業内容は「臨床実習オリエンテーション（白衣授与式）」、「医学卒業総括試験・国家試験準備オリエンテーション」、「臨床実習中間報告会」、「チーム医療構築ワークショップ」、「看護学科共修授業」である。コース「臨床医学Ⅱ」ユニット「家庭医実習」はコース「医学総論Ⅴ」

へ移動した。

#### 4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成25年7月8日（月）、平成25年12月3日（月）に開催された。学生会からのものな報告は、前年度活動報告および会計報告、平成25年度東医体実行委員会報告、平成25年度学生会活動報告、学生による教員・教育評価活動報告、学生委員によるアンケート結果報告等であった。また、設備の改善および講義配布資料の改善に関する要望があった。

#### 5. 第67回～第69回 Faculty Development

平成25年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

##### 第67回 Faculty Development

日 時：平成25年6月29日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（55名、実行委員11名）

##### 第68回 Faculty Development

日 時：平成25年10月26日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：クリニカル・クラークシップ指導医養成

修了証受領者（37名、実行委員10名）

##### 第69回 Faculty Development

日 時：平成25年12月7日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：OSCE評価者トレーニング

修了証受領者（52名、実行委員13名）

#### 6. 医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

##### 第55回医学教育セミナー

日 時：平成26年2月20日（木）

場 所：大学1号館5階講堂

講 演：キングス大学のOSCE

講 師：Tushar Vince教授（Head of Clinical Assessment King's college London）

参 加：40名

#### 7. 第38～39回カリキュラム特別検討会

以下のとおり開催された。

##### 第38回カリキュラム特別検討会

日 時：平成25年7月13日（土）

場 所：大学1号館5階講堂

テーマ：参加型臨床実習の実践に向けたカリキュラム改革

司 会：宇都宮 一典 教授（教学委員長）

参 加：36名

##### 第39回カリキュラム特別検討会

日 時：平成25年8月6日（火）

場 所：高木会館5階B会議室

テーマ：医学教育認証システムに基づく臨床実習拡充 プログラムの構築に向けて

司 会：柳澤 裕之 教授（カリキュラム委員長）

参 加：47名

#### 8. その他の報告事項

##### 1) 新入生オリエンテーション・スタートアップ宿泊研修

平成25年4月5日（金）～7日（日）の期間で新1年生を対象としてオリエンテーションを実施した。5日は、学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、カリキュラム、健康管理、学生生活の諸注意、学生生活アドバイザーとのグループ討論が行なわれた。6～7日は新入生全員を対象としてスタートアップ宿泊研修をエバーグリーン富士（富士吉田市）にて実施した。参加者は、学生172名（医学科112名・看護学科60名）、教職員39名の合計211名であった。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づき特別科目等履修生を受入れた。

平成25年度は国領校で前期3名、後期4名の合計7名に単位を認定した。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成25年10月12日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ4~5名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCEは平成26年1月11日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室および7階実習室で、CBTは平成26年2月1日（土）に西新橋校4階講堂で実施された。OSCE・CBTの受験者数は106名であった。CBTの再試験対象者は2名であった。

6) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。今年度は、臨床実習の拡充を中心にカリキュラム全般に関すること、卒業試験・医師国家試験対策について、学生のマナーに関することなどを中心に意見交換を行った。今後も継続して本交流会を開催する予定である。平成25年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第30回 平成25年5月24日（金）東京医科大学

第31回 平成25年11月22日（金）東邦大学

7) オープンキャンパス

医学科大学説明会は、例年通り8月の金・土曜日の連日と9月の土曜日の午後1時30分から開催した。終了後、大学1号館教育施設の見学と個別相談会を実施した。

1回目：平成25年8月16日（金）中央講堂 参加者：約800名

2回目：平成25年8月17日（土）中央講堂 参加者：約700名

3回目：平成25年9月28日（土）中央講堂 参加者：約350名

8) 教育施設

西新橋校では、医師国家試験に向けた自己学習環境の改善、情報端末を利用した学習環境の改善を図るため、大学1号館8階演習室ならびに管理棟1階および2階演習室にWi-Fi環境を整備した。また、平成25年度にはeラーニングが更新され、医学科、看護学科をはじめ、卒後教育においても幅広く利用された。今後、学術情報センター（図書館）にもWi-Fi環境が整備される予定であり、学生の自己学習環境の整備を行っている。

国領校では、教育環境整備のため、講義室（2B）の机・椅子の入れ替え（机60台・椅子60台）、演習室（3-5）の椅子（34脚）、コンピュータ演習室1・2のプロジェクター更新と演習室1のスクリーンの更新を実施した。

## II. 入学試験

1. 入学試験は、平成26年2月5日（水）に五反田TOCビルで一次試験を、2月15日（土）・16日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月18日（火）午後3時に合格発表を行った。

志願者数は2,574名、入学者数は111名である。

入学者の内訳は下記の通りである。

- ① 男子 68名、女子 43名
- ② 現役 56名、1浪 43名、2浪 10名、その他 2名
- ③ 地域別入学者数

北海道	0名	東北地方	1名
東京および関東地方	96名	甲信越・北陸地方	3名
東海・近畿地方	9名	山陽地方	0名
四国地方	0名	九州地方	2名
その他（在外教育施設等）	0名		

### Ⅲ. 国家試験

#### 1. 医師国家試験

第108回医師国家試験が2月8、9、10日の3日間にわたって実施され、結果が3月18日に発表された。全国受験者総数は、8,632名、うち合格者7,820名で、合格率は90.6%（前年は89.8%）であった。本学は、107名中102名合格（95.3%）、新卒は102名中99名合格（97.1%）、既卒は5名中3名合格（60.0%）であった。

国・公・私立大学の全国総合順位では、第19位（前年は第10位）、私立大学だけでは第8位（前年は第7位）であった。他の私立大学の状況は、自治医科大学（99.1%1位）、順天堂大学医学部（98.9%3位）、藤田保健衛生大学（97.1%10位）、産業医科大学（96.8%11位）、東京医科大学（96.6%13位）、日本医科大学（96.3%14位）、兵庫医科大学（95.6%17位）であった。

### Ⅳ. 退任記念式典

平成26年1月31日（金）午後5時30分から「東京プリンスホテル マグノリアホール」にて開催した。退任記念式典では、司会の宇都宮一典教学委員長から定年される景山茂教授（薬物治療学）、杉崎正志教授（歯科）、清水光行教授（内科学講座・循環器内科）、上出良一教授（皮膚科学講座）、本田まりこ教授（皮膚科学講座）、落合和徳教授（産婦人科学講座）、原田潤太教授（放射線医学講座）、又井一雄教授（外科学講座）、加藤孝邦教授（耳鼻咽喉科学講座）、福山隆夫教授（国領校・人間科学教室）、小山勉教授（救急医学講座）、高木一郎教授（内科学講座・消化器・肝臓内科）の12名が略歴とともに紹介され、松藤学長より長年の大学への貢献に対して謝辞が述べられ記念品を贈呈した。また、同窓会、父兄会、医学科学生会より記念品の贈呈があった。退任記念式典終了後には、退任される12教授を囲んで退任記念パーティーが開催され、会場には、教職員、同窓、学生など250名を超える参加があり、盛大なうちに会は終了した。

国領校では、平成26年1月18日（土）午後3時から看護学科1階大講堂において福山隆夫教授（人間科学教室、人文科学研究室）の最終講義（演題「哲学の役割」）を実施した。終了後、バラ食堂にて記念パーティーを開催した。

#### (2) 看護学科

### I. 教学関係

#### 1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成25年4月～平成26年3月

教学委員長 濱中 喜代

教学委員 田中 幸子、茅島 江子  
北 素子、嶋澤 順子

#### 2. 教学関連の主な事項

- ① 平成25年度は、1年生（22期生）60名、2年生（21期生）43名、3年生（20期生）42名、4年生（19期生）43名で新学期をむかえた。

- ② 平成25年度オリエンテーションは、4月5日から13日にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明、キャリア支援に関するシンポジウム、健康診断やカルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。また、医学科新入生と合同で、スタートアップ宿泊研修（4月7日、8日、山梨県富士吉田市）や救急蘇生実習を行った。
- ③ 平成25年4月6日、学生が自身の知識獲得状況を確認し、今後の学習課題を明確にすることを目的に、2、3年生を対象にコンピュータ試験を実施した。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
  - ・前期 平成25年6月29日  
平成25年8月23日～8月29日、9月9日～11日
  - ・後期 平成26年1月29日～2月6日
- ⑤ 平成25年7月27日、21期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、山口庸子氏（本学5期生）による講演会が実施され、8月31日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。また、同日保護者会も開催し、有意義な意見交換ができた。
- ⑥ 平成25年11月9日、向谷地宣明氏による精神障害に関する家族や当事者へのサポート活動に関する講演会（テーマ「当事者から看護学生へのメッセージ」）を開催した。
- ⑦ 平成25年10月12日には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑧ 平成25年10月19日、看護学科4年生と医学科5年生による、医療倫理に関する共修演習を実施した。
- ⑨ 平成25年10月28日には解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。
- ⑩ 平成25年11月16日、4年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑪ 平成26年3月11日、兼任教員、非常勤講師を交え、講師会を開催した。
- ⑫ 平成26年3月7日には医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、19期生43名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。

## II. 入学試験

1. 平成26年度入学試験は、平成26年2月10日に一次試験を、2月13日に二次試験を実施した。志願者数は、574名、入学者は60名、その内訳は次のとおりである。
  - ① 女子 58名、男子 2名
  - ② 現役 52名、1浪 6名、その他 2名
  - ③ 地域別入学者数
 

北海道地方	3名	東北地方	1名
東京および関東地方	52名	信越地方	3名
東海地方	0名	近畿地方	1名
中国・四国地方	0名	九州・沖縄地方	0名
2. 平成25年度オープンキャンパスは、平成25年7月13日と14日の2日間実施し、参加者数は805名（前年比+20名）であった。また、本年度は慈恵祭に合わせ、11月3日にミニオープンキャンパスも開催し、参加者は211名（前年比-21名）であった。
3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された14箇所の大学ガイダンス等に教員・学事課職員が参加した。
4. 高等学校3校へ訪問し、模擬講義を行なった。

## III. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験
 

第103回看護師国家試験は、平成26年2月16日（日）に、第100回保健師国家試験は、平成26年2月14日（金）に実施され、その結果が3月25日（火）に発表された。看護師国家試験は19期生42名、18期生1名の計43名が受験し、43名合格（100.0%）、保健師は19期生42名が受験し、41名合格（97.6%）であった。

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.8%、保健師国家試験合格率は86.5%であった。

## IV. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を稔り豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が4～5名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

## V. 進路指導関係

学生への進路指導については、早期から担当教員が個別面談を実施するなど、きめ細やかに対応を行った。また、ナース就職支援室と協力し、分院の見学バスツアーを行うなど、慈恵への就職指導にも力を入れた。

平成26年3月卒業生43名の進路の内訳は、次のとおりであった。

本学附属病院への就職	25名
進学	1名
保健師として就職	2名
他病院就職	14名
その他	1名

### (3) 大学院

#### 1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成25年度は以下のとおり実施した。

##### 1) 研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため平成25年度は以下のとおりとなった。

##### ① 大学院研究助成金

- ・平成25年度採択件数：25件

##### ② 医学研究科研究推進費

- ・平成25年度採択件数：新規2件、継続2件

また、臨床医学講座に所属する教員と基礎医学講座もしくは総合医科学研究センターに所属する教員が臨床医学における新たな研究の展開と技術開発に関する研究シーズを共同で探索し、次年度に科研費等の外部競争的研究資金を獲得することを目的とした東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費を創設した。

##### ③ 萌芽的共同研究推進費

- ・平成25年度採択件数：新規3件

##### 2) がん治療医療人コース

高度ながん医療を実施できる国際的な視野をもったがん専門医を養成するため、社会人大学院生を対象とした「がん治療医療人養成コース」を既存の悪性腫瘍治療学の授業細目に組入れて、募集を行った。志願者：1名

##### 3) カリキュラム内容の検証

- ・社会人大学院生のニーズにより、平成23年度から共通カリキュラムにe-learningシステムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入し、実施した。履修者数26名さらに、CITI Japanによるe-learningシステムを「医の倫理」の科目に導入した。

履修者数42名

- ・大学院共通カリキュラムの特別講義では、新任の教授だけではなく、本学で活躍している若手研究者を講師として講義を行った。

平成26年度の大学院(博士課程)入試は2回実施し、1回目は平成25年10月5日に、2回目は平成26年1月25日に実施した。その結果、34名(うち社会人6名)が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、大阪大学、防衛大学校、九州大学、東京医科歯科大学および国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センター、東京医療セ

ンター、国立感染症研究所など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

## 2. 看護学専攻修士課程

平成25年度も継続して安定的な運営と各委員会との連携を密にして効率的運営に努めた。

### 1) 大学院教員へFaculty Developmentの実施

大学院・看護学科共催FDは、看護を実践科学として展開するために必要な看護理論や看護診断との関連、理論構築の方法について理解し、看護実践の質を高めるための看護理論の活用について考察することを目的に開催した。

講師：中木高夫教授（天理医療大学）

永田 明講師（天理医療大学）

講演テーマ：「看護理論と看護実践」

日時：平成25年9月7日（土）12：00～

### 2) 特別講義の開催

従来、院生を対象としての講演会開催はなく大学院・看護学科共催FDのテーマによって院生が参加していた。特別講義は、院生を対象とした講演会と明確にして実施した。

講義内容は、人間関係が楽になり、仕事がやりやすくなるトマス・ゴードン博士の理論（問題所有の原則）と看護ふれあい学を紹介し、事例のロール・プレイと対応を体験的に学ぶ演習を開催した。

講師：中井喜美子会長（職業訓練協会 看護ふれあい学研究会）

講演テーマ：「医療の要としてのコミュニケーション」

日時：平成25年5月18日（土）14:40～

### 3) 研究助成制度について

院生に対する教育研究助成は、大学院研究助成制度による使用分と研究指導費による助成により、活動の範囲や内容を高めることを図った。大学院研究助成制度による研究助成採択者は9名。

### 4) 入学試験は、募集を平成25年8月1日（土）～8月31日（土）間に行い、出願資格認定試験を平成25年9月10日（火）、入学試験を平成25年9月14日（土）に実施した。

その結果、12名の応募があり、9名が合格した。

### 5) 平成24年4月入学院生8名の修了式を平成26年3月25日（火）に挙行了した。

### 6) 院生による授業評価については、講義終了後に科目責任者と院生が講義内容について話し合いを持つ方式に改め3年目を迎え、前期評価をもって後期に担当教員の変更、次年度担当教員の変更等への評価をもつての改善が速やかにできた。

### 7) 専門看護師教育課程を受講して本年に3名が専門看護師認定試験を受験し、3名ともに合格した。（分野は急性・重症患者看護分野で1名、がん看護分野で2名）

## 6) 慈恵看護専門学校の状況

### 看護専門学校学生数（平成25年5月1日現在）

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	103	104	113	320
慈恵第三看護専門学校	150	50	50	47	59	156
慈恵柏看護専門学校	240	80	84	84	87	255
計	690	230	237	235	259	731

### (1) 慈恵看護専門学校

#### I. 教学関係

##### 1. 学校運営に関する会議

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長の4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任、カリキュラム委員7名で構成され週1回開催されている。
- ③ その他の会議は、教員会議・教職員会議が隔週で開催されている。

##### 2. 教学関連の主な事項

- ① 平成25年度1年生（64期生）103名、2年生（63期生）104名、3年生（62期生）113名、合計320名で新学期をむかえた。
- ② 平成25年度オリエンテーションは4月8日から4月25日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防災訓練、防犯対策講習を実施した。
- ③ 授業評価  
学生による授業評価アンケート実施科目範囲を広げほぼ全科目を実施した。  
アンケートの実施にあたり、回収、講師への結果報告方法など次年度に向けた課題が明らかになった。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
  - ・前期 平成25年9月13日～9月24日（1・2年）
  - ・後期 平成25年12月13日～12月16日（1・2年）  
平成25年12月19日～12月20日（3年）  
平成26年2月13日～2月20日（1年）\*マークシート使用による試験を導入した。  
\*3年生対象総合試験を平成25年12月3日～8日に実施した。
- ⑤ 平成25年10月24日、25日に3年生の学外セミナーを実施。「ケアの本質」について話し合い、看護についての学びを深めた。
- ⑥ 平成25年12月5日には東京都看護協会主催の看護学生看護研究学会（文京シビックホール）に3年生が参加。本学の学生2名（口述、示説）が発表した。
- ⑦ 平成25年12月12日学内にて、3年生の看護研究発表会を開催した。
- ⑧ 平成26年3月6日に3年生の看護観発表会を開催した。
- ⑨ 平成26年3月8日に卒業式が行なわれ、95名が卒業し成績優秀者に優等賞と同窓会恵和会賞がそれぞれ1名に贈られた。

#### II. 入学試験

##### 1. 平成26年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕平成25年10月23日（水）〔二次〕平成25年11月9日（土）

一般選考〔一次〕平成26年1月22日（水）〔二次〕平成26年1月25日（土）

志願者数は346名（推薦58名・大学卒68名・一般220名）で、昨年度より95名減少した。

入学者は104名であった。

2. オープンキャンパスは、平成25年7月20日(土)・8月31日(土)の2回実施し、参加者数は571名(内訳は7月260名、8月311名)であった。

### Ⅲ. 国家試験

第103回看護師国家試験は、平成26年2月16日(日)に実施され、その結果が3月25日(火)に発表された。62期生95名が受験し、95名全員が合格した。

#### (2) 慈恵第三看護専門学校

##### I. 教学関係

###### 1. 会議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

学校運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学生相談係、各学年主責任者、事務長で構成され、年間に6回定例で開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、教職員会議、単位認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム運営会議、臨床実習指導者会議等である。

###### 2. 教学関連の主な事項

- ① 4月5日(金)3校合同入学式が西新橋で行われ、当日、保護者会を開催した。平成25年度1年生(24期生)50名、2年生(23期生)47名、3年生(22期生)59名計156名で新学期を迎えた。
- ② 6月5日(水)～7日(金)、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを実施した。
- ③ 6月29日(土)、22期生を対象に保護者会を開催した。
- ④ 7月20日(土)、9月7日(土)、11月2日(土)(学校祭同時開催)の3回、学校説明会を開催した。参加総数は、受験生および保護者を含め454名であった。
- ⑤ 7月12日(金)講師会を、第三病院看護部を対象の中心として実施した。
- ⑥ 8月2日(金)、第8回HomeComingDayを本学大教室で開催した。
- ⑦ 11月22日(金)、理事長同席のもと1年生50名の戴帽式を実施した。
- ⑧ 平成26年3月8日(土)2校合同の卒業式が西新橋で行われた。22期生56名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

##### Ⅱ. 入学試験

平成26年度入学試験は、推薦入試を平成25年10月21日(月)・11月9日(土)、一般入試を平成26年1月19日(日)・1月21日(火)に実施した。

志願者数は推薦40名、一般188名、入学者は63名であった。

なお、今年度より指定校推薦の受験資格の一部を次の通り変更した。

- ・国語、英語、数学、理科の4教科の評定平均値が3.5以上であること。但し、それぞれの教科の評定平均値は3.0未満をもたないこと。
- ・卒業後、看護師として慈恵関連の系列病院に就業する意志がある者。

### Ⅲ. 国家試験

第103回看護師国家試験は、平成26年2月16日(日)に実施され、22期生56名が受験し全員が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は89.8%であった。

#### (3) 慈恵柏看護専門学校

##### I. 教学関係

###### 1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

###### 2. 教学関連の主な事項

- 1) 4月5日(金)、3校合同入学式を挙行政した(27期生:入学者83名)。
- 2) 平成25年度は1年生(27期生)84名、2年生(26期生)84名、3年生(25期生)87名の計255名で新学期を迎えた。
- 3) 4月2日(火)に、講師会を実施した。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- 4) 4月8日(月)、平成25年度初めにあたり、全学生を対象に始業対面式を実施した。教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行ない、3年間の学習計画導入として行なっている。
- 5) 6月15日(土)に慈恵の看護専門学校3校の学生を対象に恵和会の特別講演が行われた。
- 6) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように1・3年次の4月と2年次の7月に「人間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施している。
- 7) 10月5日(土)、国家試験に向けた学習支援の方針・理解と協力依頼を目的として、3年生の保護者を対象とした保護者会を開催した。
- 8) 11月16日(土)、1年生(27期生)の戴帽式を挙行政した(戴帽生84名)
- 9) 平成26年3月8日(土)、2校合同の卒業式を挙行政した。25期生80名が卒業生し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より、千葉県知事賞が本校卒業生1名に贈られた。

## II. 入学試験

平成26年度入学試験は、推薦入試を平成25年10月16日(水)、10月26日(土)、一般入試を平成26年1月25日(土)、1月28日(火)に実施した。志願者数は、推薦70名(内男子1名)、一般192名(内男子19名)、入学者は83名(内男子7名)であった。

## III. 看護師国家試験

第103回看護師国家試験は平成26年2月16日(日)に実施され、25期生80名、既卒者1名計81名が受験し、25期生77名、既卒者1名の78名が合格した(合格率96.3%)

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.8%であった。

## 7) 卒後臨床研修

### 1. 初期臨床研修

- 1) 平成25年度初期臨床研修医として、医科85名(本学卒43名、他学卒42名)、歯科3名の計88名が採用され、平成25年4月1日より研修を開始した。

附属4病院の採用数の内訳は以下の通りである。

本院	50名	内訳:本学卒15名、他学卒35名(歯科3名を含む) 定員:一般47名、小児2名、産科2名、歯科3名(計54名)
葛飾医療センター	6名	内訳:本学卒5名、他学卒1名 定員:一般6名(計6名)
第三病院	15名	内訳:本学卒10名、他学卒5名 定員:一般21名、小児2名、産科2名(計25名)
柏病院	17名	内訳:本学卒13名、他学卒4名 定員:一般24名、小児2名、産科2名(計28名)

- 2) 本院では、定員外採用として、海外の医学部を卒業した医師1名(オーストラリア国立ニューサウスウェールズ大卒)を平成24年4月より採用しており、オーストラリアでの臨床研修が日本の臨床研修期間の一部として厚生労働省より認定されたため、平成25年8月31日付にて研修修了となった。

- 3) 平成26年度初期臨床研修医(医科)の採用試験を平成25年7月27日(土)、8月24日(土)に本院にて実施した。平成26年度の募集定員は以下の通りである。

本院:51名(一般47名、小児2名、産科2名)、葛飾医療センター:6名、第三病院:23名(一般19名、小児2名、産科2名)、柏病院:28名(一般24名、小児2名、産科2名)。

附属4病院の定員である108名の採用を見込み324名のマッチング登録を行なった結果、マッチ数は98名であった。

- 4) 平成26年度初期臨床研修医（歯科）の採用試験を8月31日（土）に本院にて実施した。定員3名のところ、10名のマッチング登録を行ない、マッチ数は定員と同数の3名であった。
- 5) 採用予定者の大学における卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果、また追加採用（本学卒1名）により、平成26年度初期臨床研修医採用数は、医科93名（本学卒60名、他学卒33名）、歯科3名となった。

附属4病院別の採用数は以下の通りである。

本院 52名 内訳：本学卒22名、他学卒30名（歯科3名を含む）  
 定員：一般47名、小児2名、産科2名、歯科3名（計54名）  
 葛飾医療センター 4名 内訳：本学卒 4名  
 定員：一般6名（計6名）  
 第三病院 22名 内訳：本学卒19名、他学卒3名  
 定員：一般19名、小児2名、産科2名（計23名）  
 柏病院 18名 内訳：本学卒15名、他学卒3名  
 定員：一般24名、小児2名、産科2名（計28名）

- 6) 第10回研修指導医講習会を平成25年8月9日（金）、10日（土）の2日間にわたって開催し、43名が受講を修了した。なお、本講習会は、厚生労働省の開催指針に基づき開催し、修了者には厚生労働大臣名および附属病院長名による修了証を授与した。
- 7) 他大学医学科生向けに病院説明会を2回開催し合計73名の参加者を集めた。  
 第1回説明会 平成25年6月22日（土）  
 第2回説明会 平成25年7月13日（土）
- 8) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する医学生のための臨床研修病院説明会に2回出展し、本学4附属病院のブースには以下の学生が来訪した。  
 レジナビフェア2013in東京 平成25年7月14日開催 177名  
 レジナビフェア スプリング2014in東京 平成26年3月21日開催 255名
- 9) 今年度のCPCについて、6月から11月にかけて計6回開催した。

開催回数	開催日	担当科	臨床診断名
第720回	6月17日（月）	呼吸器内科	間質性肺炎
第721回	7月8日（月）	腎臓・高血圧内科	ネフローゼ症候群
第722回	10月7日（月）	循環器内科	陳旧性心筋梗塞
第723回	10月21日（月）	皮膚科	メラノーマ、気管支喘息、脂質異常症
第724回	11月11日（月）	感染制御部	後天性免疫不全症候群
第725回	11月25日（月）	外科	二重癌（食道癌、胃癌）

## 2. 専門修得コース（レジデント）

- 1) 平成25年度は、レジデント158名[ 本学初期臨床研修修了者99名、他施設初期臨床研修修了者55名（うち本学卒24名）]を採用し、各科にて専門修得コースの研修を開始した。
- 2) 平成26年2月28日付にてレジデント2名、平成25年12月31日付にてレジデント1名、平成26年3月31日付にてレジデント125名、リサーチレジデント4名の合計129名が専門修得コースを修了した。
- 3) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する『初期研修医のための研修病院説明会・レジナビフェア for RESIDENT 2013in 東京』（平成25年6月16日開催）に参加し、本学附属病院ブースには67名が来訪した。
- 4) 平成26年度レジデントの採用試験を平成25年9月28日（土）に実施し、その後4回の追加試験を行った結果、153名（前年比－5名）を採用した。採用者の内訳は次の通りである。  
本学初期臨床研修修了者89名、他施設初期臨床研修修了者64名（うち本学卒20名）

## 8) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：平成26年3月現在215名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：平成25年度は135名である。
- 3) テレフォンプサービス利用件数：平成25年度は80件である。
- 4) 月例セミナーが下記のとおり開催された。
  - ① 第207回・平成25年4月13日  
「新型うつ病」の理解と対応  
－従来型との比較から－ 中村 敬（精神神経科）
  - ② 第208回・平成25年5月11日  
疲労のメカニズムと疾患の関係 近藤一博（ウイルス学）
  - ③ 第209回・平成25年6月8日  
ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの現状  
岡本愛光（産婦人科）
  - ④ 第210回・平成25年7月13日  
新しい骨粗鬆症の病型分類にもとづく治療薬の使いわけ  
－生活習慣病は要注意－ 斎藤 充（整形外科）
  - ⑤ 第211回・平成25年9月14日  
インフルエンザ・ノロウイルス対策 中澤 靖（感染制御部）
  - ⑥ 第212回・平成25年11月9日  
糖尿病の最新治療 佐々木敬（糖尿病・代謝・内分泌内科）
  - ⑦ 第213回・平成26年2月8日  
甲状腺・副甲状腺疾患の診断と外科的治療 武山 浩（乳腺・内分泌外科）
  - ⑧ 第214回・平成26年3月8日  
画像診断のピットホール 関谷 透（画像診断部）
- 5) 第34回夏季セミナー  
「ここまで来た加齢疾患の最新治療」が平成25年8月3日（土）午後4時より内田満（形成外科）の司会で行われ、参加者は81名であった。
  1. 白内障の最新治療 常岡 寛（眼科）
  2. 加齢・変性疾患に対する人工股関節置換術の変遷と現状  
大谷卓也（整形外科）
  3. 高齢者心臓手術における狭心症と大動脈弁狭窄 儀武路雄（心臓外科）
  4. 腰部脊柱管狭窄症 薬物と手術療法の進歩 谷 諭（脳神経外科）
  5. 高齢者でも脳卒中後遺症である上肢麻痺はよくなるのか？  
安保雅博（リハビリテーション科）
  6. 懇親会

## 4. 研究

### 1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および科学研究費補助金等公的研究費のほか各種財団等からの補助・助成について審議し、決定事項を教授会議に提案、報告している。また、委員会は、研究費の不正防止計画担当部署として、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく研究費管理の体制整備等の推進と運用の徹底について、教授会議および各種研究費の使用説明会等において説明し、推進している。
- ① 平成25年度の委員会は、委員長：岡部正隆、委員：竹森重、近藤一博、桑野和義、矢永勝彦、高田耕司、高島尚美各教授及び高木敬三専務理事で構成された。
  - ② 平成25年度文部科学省科学研究費助成事業(科研費)の採択件数及び総額は、合計155件、総額294,230千円(内訳：直接経費226,700千円、間接経費67,530千円、ただし、延長者、繰越者、学外分担者含まず)であった。また、厚生労働科学研究費補助金および関連独立行政法人の研究開発費等について採択後大学が経理事務を行った研究課題は、合計46件、総額にして192,595千円(間接経費含む)だった。その他各種民間財団等から公募があり大学を通じて応募、あるいは研究者個人が直接応募して報告を受けた助成金等は、31件(応募件数184件)、金額は56,773千円であった。(何れも平成25年度末時点でのデータ)
  - ③ 平成25年度科学研究費助成事業(科研費)に採択された研究者に対し学内説明会を開催した。
    - ・科学研究費助成事業使用説明会(6月7日、6月13日西新橋、6月11日第三病院・国領校、看護学科、6月15日柏病院)
  - ④ 平成26年度科学研究費助成事業公募に係る学内説明会を9月20日に開催した。
  - ⑤ 平成26年度教育研究経費関係予算の立案および研究機器等の選定を行った。
    - ・学生教育用実習機器購入費
    - ・文部科学省私立大学等研究設備費等補助金費
    - ・慈恵大学一般研究設備費
    - ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
    - ・日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」
    - ・私立大学等経常費補助金(特別補助)
  - ⑥ 公募研究の学内選考を行った。
  - ⑦ 各種会計実地検査への対応
    - ・平成26年2月28日、独立行政法人科学技術振興機構による平成25年度委託事業に係る平成24年度執行状況について現地調査が実施された。特に指摘・指導事項はなかった。
    - ・平成25年11月1日、独立行政法人農業生物資源研究所による平成25年度委託事業に係る実地調査が実施された。特に指摘・指導事項はなかった。
    - ・平成26年1月16日、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構による平成25年度委託事業に係る実地調査が実施された。特に指摘・指導事項はなかった。
  - ⑧ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」について平成25年10月2日に文部科学省に提出した。
  - ⑨ 研究費適正使用推進のため、研究費不正防止計画(研究費適正化推進計画)の第2次計画を策定し、イントラネットに掲載した。
  - ⑩ 研究費使用ガイドの改訂(第3版)を行った。
  - ⑪ 東京慈恵会医科大学ポスト・ドクトラル・フェロー取扱規程の改訂および取扱基準の制定を行った。
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充の推進と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切かつ最善な方策(総合医科学研究センター各研究施設の充実、

大型研究設備設置、大型研究プロジェクトへ申請選定等)を審議している。

- ① 平成25年度の委員会は、委員長：岡部正隆教授、委員：丸毛啓史教授、田尻久雄教授、井田博幸教授、水之江義充教授と高木敬三専務理事で構成された。
- ② 平成25年度に委員会が審査を実施し、応募申請した大型研究プロジェクト事業は次のとおりであった。
  - ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。
  - ① 平成25年度の委員会は、委員長：水之江義充教授、委員：田尻久雄、丸毛啓史、井田博幸、岡部正隆の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
  - ② 平成25年度は10件の発明の届出があり、5件の特許権等の権利を大学が承継することになった。なお、出願している発明のうち、平成25年度国内特許登録となったものが、2件あった。

## 2) 総合医科学研究センター

総合医科学研究センターは、本学の特色ある先端的な研究の推進、臨床研究の活性化のため、センター組織改編の審議を重ね、平成21年4月1日より以下の新体制を整備した。

- ① DDS研究所を平成21年3月31日に閉鎖し、同研究室を主として臨床講座の研究推進のための施設とした。
- ② センター研究支援部門に「共用研究施設」を新設した。
- ③ 臨床研究開発室を発展的に解消して、新たに「分子疫学研究室」並びに「臨床疫学研究室」を設置した。

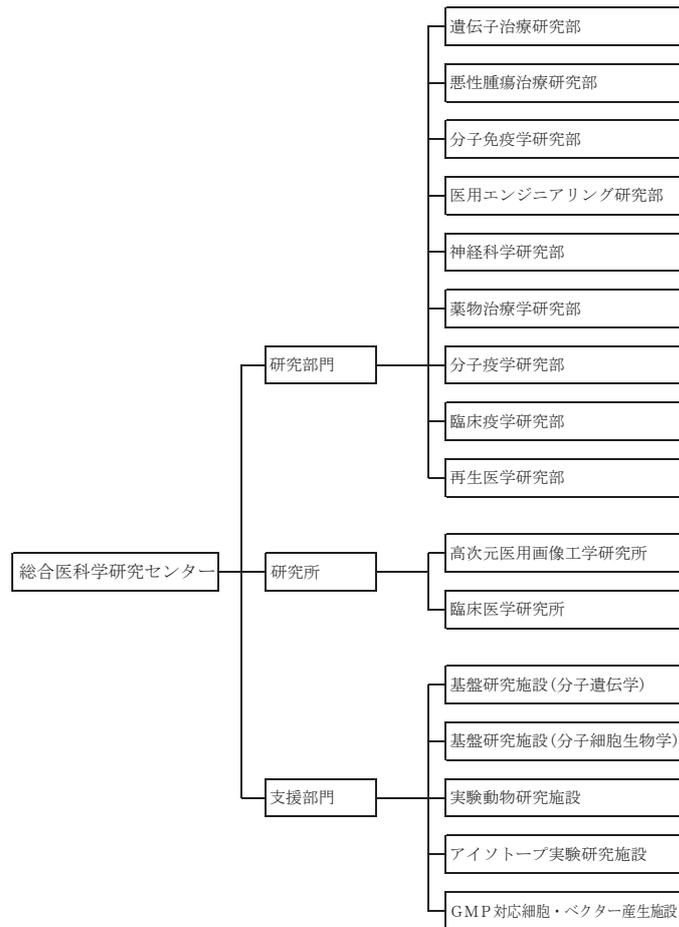
改編により総合医科学研究センターの活性化につながった。旧DDS研究所の跡は「共用研究施設」として活用され、センター内だけでなく多くの臨床・基礎講座からも利用されている。共用研究施設は付属する微細形態研究室、生化学研究室、共用研究室の3つの研究室が本稼働し、学内の登録研究者が自由に研究を行える環境となり、電子顕微鏡や質量分析機などを用いた精密な観察や測定が学内研究支援制度として可能となった。「分子疫学研究室」、「臨床疫学研究室」の両研究室は、分子疫学、臨床疫学という特徴を活かし、総合医科学研究センターの他の研究部門や多くの臨床講座と密接に連携し学内全体の発展に寄与している。

平成23年1月に先端的研究を効率よく推進できるように研究機器を集中管理し共同利用しやすい環境の整備、基礎・臨床研究を支援する体制強化を目としてセンター改編が決定し、「総合医科学研究センター評価委員会」が設置された。

総合医科学研究センター評価委員会で各研究施設の研究活動の点検評価を行い答申書が提出され、この答申書を具体化するために、第三者を含めた「総合医科学研究センターあり方検討委員会」が新たに設置された。平成25年度に総合医科学研究センターあり方検討委員会より答申書が提出され、平成26年度から総合医科学研究センターを再構築することが決定した。

再構築後の組織は以下のとおり。

(平成 26 年 4 月 1 日現在)



## 5. 診 療

### 1) 病院概況

(1) 本 院 (院長:丸毛啓史、副院長:小川武希、中川秀己、相羽恵介、井田博幸、浅野晃司、高橋則子、事務部長:植松美知男)

(1) 患者数

① 外来1日平均患者数:2,928名 (対前年度比-54名)

② 入院1日平均患者数: 894名 (対前年度比-4名)

(2) 病床利用状況

平成25年度の病床利用率は稼働床1,051床に対して85.1% (昨年比-0.4%)、平均在院日数は、11.1日 (昨年比-0.2日) であった。

(3) 患者紹介率

平成25年度の紹介率は年間平均で医療法58.2% (昨年比+3.6%)、保険法46.8% (昨年比+2.9%) であった。

(4) 初期臨床研修

平成25年度採用者は医科47名 (内訳:本学卒15名、他学卒32名)、歯科3名の計50名であった。

(5) 行政監査・指導・検査

① 医療法第25条第1項による立入検査 (東京都) (平成25年12月4日)

② 医療法第25条第1項による特定機能病院の立入検査 (関東信越厚生局)  
(平成25年12月4日)

③ 精神病院等実地指導 (東京都) (平成25年12月4日)

(6) 先進医療 (高度医療含む)

新規申請・承認 (申請1件、承認0件)

① 自己心膜を用いた拡大僧帽弁形成術 (心臓外科) 申請中 (他施設共同試験)

(7) 臨床研究、保険適用外診療 (平成25年度審査状況)

承認件数:再審査6件、新規申請174件、変更申請 (期間延長など) 125件

(8) 病院改修について

・中央棟14階1401室、1416室陰陽圧化 (平成26年3月6日)

(9) 地域がん診療連携拠点病院について (腫瘍センター事務局)

腫瘍センター事務局として地域がん診療連携拠点病院の指定要件整備と機能強化を推進した。4月には緩和ケア外来が開設され、外部からの紹介を含む外来患者の受け入れを開始した。その他、院内がん登録3,579件、がん相談1,087件、がんの普及啓発事業として公開市民講座3回、腫瘍センターサロンへようこそ (がん患者とその家族の語らいの場 (含むミニ講座)) 7回の実績を残した。

(10) 「東京慈恵会医科大学附属病院年報」の発刊について

平成24年度版を平成25年10月に発刊した。配布部数約1,000部。(配布先:学内各部署、名誉教授、客員教授、学術連絡員、同窓会支部長、本学協力病院・関連病院、連携病院、全国医学部附属病院等)

(11) 院内感染対策

① 病棟ICT活動の推進により一般病棟の感染対策を推進

病棟ICTを立ち上げ、各病棟年2回のミーティングを開催し、ICTと現場が協働して感染対策に取り組む体制整備に努めた。その結果、下記データの通り改善し目標達成できた。

・手指衛生指数12.47 (昨年度より22.85%増)

・MRSA院内 (不明含む) 獲得率0.30 (昨年度0.33より減)

・MRSA菌血症14件 (昨年度17件より減)

② 教育の継続

感染対策ベーシックレクチャーVer.4を15回開催し、1702名の出席があった。また、医局会などの出張勉強会を計68回開催し、合計7311名の出席があり、今年度も感染対策研

修の未受講者が0名となった。

- ③ 医療安全との連携—クロスモニタリングを推進する—  
感染対策ベーシックレクチャーにおいて、クロスモニタリングを推進するキャンペーンを行った。
- ④ 感染症診療の適正化へ全病院的な取り組み  
ICT薬剤師が中心となり、血液培養陽性例・広域抗菌薬投与例・長期抗菌薬投与例のラウンドを実施し、適正使用の推進を行った。
- ⑤ 医療関連感染対策  
消外・肝外・心外・整形においてSSIサーベイランス実施、ICUにおいてCLABSI・VAPサーベイランス実施、透析室において短期透析カテーテルCLABSIサーベイランスを実施した。
- ⑥ 職業感染対策  
針刺し・切創事例75例（昨年度74例）、皮膚・粘膜汚染事例22例（昨年度14例）と増加している。職種別に分析するとレジデント・研修医が25例（昨年度15例）と特に増加しており、対策が必要である。
- ⑦ 結核  
結核事例に伴い、患者30名に対し接触者健診を実施した。入院時の見逃しを防ぐために、入院時感染症チェックリストを作成し運用を開始した。
- ⑧ ファシリティマネジメントの推進  
環境ラウンドを各現場年2回実施した。清掃業者も一緒にラウンドし、現場の問題点の共有に努め、改善に繋げた。
- ⑨ 病院感染対策の向上  
4病院ICT会議を隔月実施し、各病院の問題点や事例の共有を図った。また、昨年度同様サイトビジットを実施した。
- ⑩ 私立医科大学感染対策協議会事務局・推進会議事務局としての職責を果たす  
総会、運営委員会、各専門職部会等の運営について中心となり活動を行った。
- ⑪ 感染防止対策加算病院との連携、支援を行う  
地域連携カンファレンスを8病院と年4回実施し、東急病院、済生会中央病院、柏病院と相互ラウンドを実施した。

## (12) 保険関係承認・届出関係

- ① ロービジョン検査判断料（平成25年4月1日）※新規届出
- ② 透析液水質確保加算2（平成25年5月1日）※新規届出
- ③ 体外照射呼吸性移動対策加算（平成25年5月1日）※新規届出
- ④ 人工乳房・組織拡張器（乳房用）使用（平成25年11月7日）※新規届出
- ⑤ 急性期看護補助加算50対1（平成26年3月1日）

※1月分実績が基準を満たせなかったため、3月1日付で取り下げを行ったが、2月分実績は基準をクリアしており、取り下げと同時に再申請を行ったことにより、特に減算措置等受けることなく対応が図れた。

その他、施設基準に係る新規・変更・辞退届出等、合計26項目の届出と定例報告を行った。

## (13) 患者支援・医療連携センター

- ① 区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。  
・総会、作業部会（4回）、市民公開講座、医療従事者対象研修会を開催した。  
・市民向け広報紙を発行した。（平成25年8月～平成26年3月）
- ② 近隣医療機関へ医療連携強化のための戸別訪問を実施した。  
・ソーシャルワーカー部門（9施設） ・医療連携部門（同窓会支部長訪問5施設）  
（平成25年9月～平成26年3月）
- ③ 診療のご案内2013を発行した。（平成25年9月）
- ④ 子ども虐待対応チーム（CAPS）主催講演会を開催した。（平成25年9月）

- ⑤ FAX予約方式に代わるWeb予約方式の導入について検討を開始した。  
(平成25年10月3日：国立埼玉病院へ見学実施)
  - ⑥ 患患連携強化のため、訪問看護ステーション戸別訪問（2施設）を実施した。  
(平成25年10月～平成26年1月)
  - ⑦ 患者支援・医療連携センターだより「つなぐつながる」No.7を発行した。  
(平成26年1月)
  - ⑧ 同窓会に協力を要請し、同窓開業医マップが同窓会ホームページからも参照できるよう整備した。  
(平成26年2月)
  - ⑨ 同窓開業医マップの効果的活用を目的とした掲載医療機関の精査を開始した。  
(平成26年3月)
  - ⑩ FAX予約枠を拡大するための作業を開始した。  
(平成26年3月)
  - ⑪ 相羽副院長、常喜センター長のもと作業（検討会7回、調査訪問3施設）を進めた「患者支援・医療連携センター強化ワーキング」の答申を病院に上程した。(平成26年3月)
  - ⑫ 地域合同のオープン講座を専門看護師協力のもと開催した。  
(平成26年3月)
- (14) 臨床試験支援センター
- ① 治験の実施：継続81件（前年比+27）、新規承認23件（-1）、終了28件（+7）  
継続及び新規承認104件のうち、国際共同治験は35件（34%）であった。
  - ② 臨床研究への支援：5件  
前年度からの継続試験では、被験者対応・症例報告書の作成を行った。また新たに支援を開始した試験では、被験者へのアンケート調査の実施と内容確認を担当した。
  - ③ SMO（治験施設支援機関）の派遣CRC導入治験：30件（28%）前年比+11件  
定期的に新規治験の依頼がある皮膚科と、周手術期など短期間に業務が集中する医療機器の治験にSMOを導入し、治験実施をサポートした。
  - ④ 治験開始時のミーティングの開催：18件
  - ⑤ 外来プラズマ・ディスプレイへの治験・臨床試験関連の継続的な情報提供を行った。
  - ⑥ インターネット・ホームページを介して、一般市民向けおよび治験依頼者向けに、治験の情報提供や、治験契約に係る書類等の案内を掲載した。
- (15) 診療体制の整備
- ① 文書カウンターにおける代行登録の実施  
医師事務作業の軽減の一環として、平成23年5月18日外来棟1階外来会計内に設置して、診断書の代行登録を実施している。平成25年度は、生命保険診断書の70%を代行登録するとともに、難病診断書（臨床調査個人票）のうち、4疾病（潰瘍性大腸炎・クローン病・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病）の代行登録を開始した。また、生活保護要否意見書の代行登録に取り組むとともに、自賠責診断書の受付も一部は文書カウンターで受付を開始した。
  - ② 病棟関連事務業務効率化検討会  
「病棟事務業務効率化3ヵ年計画」に沿って業務課事務員と看護部事務員の業務融合を進めてきたが、平成25年10月にE棟への業務課事務員配置を完了したことで、全病棟への事務員配置を完了した。平成25年度末には、2病棟3人体制への移行ができた。
  - ③ 病院救急車輛の運用  
一般救急車（日産キャラバン平成24年8月6日納車）は平成25年12月13日に登録を千葉県へ変更し、柏病院へ移管を行った。移管後は高規格救急車（トヨタハイエース平成25年3月19日納車）1台を使用し、病院都合による患者搬送を15件行った。
- (16) 患者サービス
- ① 外来待ち時間調査を実施した。(平成25年11月21日)
  - ② 外来患者満足度調査を実施した。(平成26年2月17日～21日)
  - ③ 入院満足度調査を実施した。(平成26年2月1日～28日)

- ④ 入院患者向けフロアコンサート（高木会館1階ロビー）
    - ・平成25年8月26日（土）稲田達雄さん、貝島まことさん（日独交流コンサート）
    - ・平成25年10月5日（土）渡邊加奈さん、幟建友里さん、成田美紀さん（フルーツとオカリナ演奏）
    - ・平成25年12月14日（土）教職員等による有志
    - ・平成25年12月18日（水）原田真二さん（歌手）
  - ⑤ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第35号（平成25年4月）第36号（平成25年8月）第37号（平成25年10月）第38号（平成26年1月）を発刊した。
  - ⑥ 「新みんなの健康教室」を開催した。※NHK放送博物館と共催 宮崎
    1. 日時：平成25年5月9日（木）第10回（参加者合計：40名）
    2. 日時：平成25年7月11日（木）第11回（参加者合計：約100名）
    3. 日時：平成25年9月12日（木）第12回（参加者合計：約100名）
    4. 日時：平成25年11月14日（木）第13回（参加者合計：96名）
    5. 日時：平成25年1月16日（木）第14回（参加者合計：68名）
    6. 日時：平成25年3月13日（木）第15回（参加者合計：約120名）
  - ⑦ 不在者投票の実施
    - ・平成25年6月23日の東京都議会議員選挙に伴う入院患者不在者投票を、平成25年6月20日（木）を中心に実施し、54件の対応があった。
    - ・平成25年7月21日の参議院議員選挙に伴う入院患者不在者投票を、平成25年7月18日（木）を中心に実施し、70件の対応があった。
    - ・平成26年2月9日の東京都知事選挙に伴う入院患者不在者投票を、平成26年2月6日（木）を中心に実施し、98件の対応があった。
- (17) 医療安全講演会、シンポジウムの開催について
- 【初期臨床研修医対象】
- ① 平成25年4月3日 初期臨床研修医オリエンテーション
  - ② 医療安全研修医カンファレンス（小グループに分かれての警鐘事例の考察と発表）3回開催
- 【新規採用教職員・転入職員対象】
- ① 平成25年4月1日 新入職員オリエンテーション（全機関新入職員）
  - ② セーフティマネジメント基礎研修会 3回開催
  - ③ 中途採用者オリエンテーション 12回開催
- 【全教職員対象】
- ① 転倒・転落予防のための勉強会12月6日（金）
  - ② 平成25年4月25日（木）・5月29日（水）・10月3日（木）セーフティマネジメント基礎研修会
  - ③ 平成25年6月7日（金）・11月7日（木）・平成26年2月26日（水）  
4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム 3回開催
  - ④ 平成25年7月24日（水）・8月5日（月）・11月11日（月）防犯に関する講和
  - ⑤ 平成25年12月2日（月）第12回 慈恵医大褥瘡セミナー
  - ⑥ 平成26年1月29日 個人情報保護研修会
  - ⑦ 医療安全DVD研修会 4回開催
- 【委託・派遣職員対象】
- ① 委託・派遣職員向け医療安全研修会 4回開催  
※その他医療安全講習会に関することは、医療安全管理部活動報告を参照
- (18) 医師のための緩和ケア研修会（年度2回）
- ① 第5回緩和ケア研修会 平成25年9月7日（土）～8日（日）於：大学管理棟4階研修室

修了者：医師17名（本学16名、他学1名）、参加者1名（看護師）

- ② 第6回緩和ケア研修会 平成26年2月8日（土）～9日（日）於：大学管理棟4階研修室  
修了者：医師24名（本学18名、他学6名）、参加者1名（看護師）

(19) 慈恵ICLSコース、慈恵BLSコース

- ① 心肺停止患者に対する適切な救急蘇生の手技教育「慈恵ICLSコース」（年間5回）  
（日本救急医学会認定コース、各機関持ち回りで年間5回開催、受講定員毎回24名）

日 時：平成25年5月25日（土）午後1時30分～午後6時 葛飾 参加24名

日 時：平成25年7月27日（土）午後1時30分～午後6時 本院 参加24名

日 時：平成25年9月21日（土）午後1時30分～午後6時 第三 参加36名

日 時：平成25年11月30日（土）午後1時30分～午後6時 柏 参加28名

日 時：平成26年1月18日（土）午後1時30分～午後6時 本院 参加24名

- ② 初期心肺蘇生術の講習会「慈恵BLSコース」を年間11回開催した。

日 時：平成25年5月11日（土）午後3時～午後4時50分 参加17名

日 時：平成25年6月1日（土）午後3時～午後4時50分 参加19名

日 時：平成25年7月5日（金）午後3時～午後4時50分 参加19名

日 時：平成25年8月3日（金）午後3時～午後4時50分 参加20名

日 時：平成25年8月12日（月）午後3時～午後4時50分 参加14名※E棟看護師

日 時：平成25年8月24日（土）午後3時～午後4時50分 参加15名※手術部看護師

日 時：平成25年9月7日（土）午後3時～午後4時50分 参加18名

日 時：平成25年9月27日（金）午後3時～午後4時50分 参加133名※新人看護師

日 時：平成25年10月5日（土）午後3時～午後4時50分 参加18名

日 時：平成25年10月10日（木）午後3時～午後4時50分 参加10名※E棟看護師

日 時：平成25年11月2日（土）午後3時～午後4時50分 参加21名

日 時：平成25年11月19日（土）午後3時～午後4時50分 参加13名※手術部看護師

日 時：平成25年12月7日（土）午後3時～午後4時50分 参加20名

日 時：平成25年12月14日（土）午後3時～午後4時50分 参加11名※手術部看護師

日 時：平成26年1月11日（土）午後3時～午後4時50分 参加18名

日 時：平成26年3月1日（土）午後3時～午後4時50分 参加17名

- ③ RRS運用に伴い、夜勤師長対象者に講習会を1回開催した。

日 時：平成25年11月14日（木）午後1時30分～午後4時30分 参加13名

- ④ 夏休み期間に、心肺蘇生に関する家族参加型市民公開講座をNHK放送博物館で開催した。

日 時：平成25年8月10日（土）午後1時00分～午後3時00分 参加40名

(20) 鏡視下手術トレーニングコース

鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験（STEP1計4回、STEP2計5回、STEP3計2回）を実施した。

- (21) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。

平成25年5月21日（火） 献血者68名（申込者数96名）

平成25年11月20日（水） 献血者65名（申込者数90名）

(22) 慈恵医大晴海トリートメントクリニック

慈恵医大晴海トリートメントクリニック（所長：加地正伸）

- ① 平成25年度の患者数実績は、1日平均外来患者数112.3人（昨年比-13.8人）、うち健診は23.3人（昨年比-0.8人）である。

(23) 保険診療講習会の開催

1回目 平成25年10月7日 中央講堂

2回目 平成26年2月17日 大学1号館3階講堂

(2) 葛飾医療センター（院長：伊藤 洋、副院長：吉田和彦、児島章、事務部長：横山秀彦）

(1) 病床利用率

・平成25年度の病床利用率（稼動床）は、87.3%、平均在院日数は10.4日であった。

(2) 患者紹介率

・平成25年度の患者紹介率は医療法で52.5%、保険法で49.4%であった。

(3) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局他）

- |                              |               |
|------------------------------|---------------|
| ① 感染防止対策加算1（感染防止対策地域連携加算）    | （平成25年4月1日）   |
| ② 褥瘡ハイリスク患者ケア加算              | （平成25年4月1日）   |
| ③ 人工肛門・人口膀胱増設術前処置加算          | （平成25年4月1日）   |
| ④ 麻酔管理加算                     | （平成25年4月1日）   |
| ⑤ 外来化学療法加算1                  | （平成25年4月1日）   |
| ⑥ 地域連携診療計画管理料                | （平成25年4月1日）   |
| ⑦ 透析液水質確保加算2                 | （平成25年4月1日）   |
| ⑧ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ）        | （平成25年5月1日）   |
| ⑨ 急性期看護補助体制加算（25対1）看護補助者5割以上 | （平成25年5月1日）   |
| ⑩ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ）        | （平成25年7月1日）   |
| ⑪ 地域連携診療計画管理料                | （平成25年8月1日）   |
| ⑫ 麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）                | （平成25年8月1日）   |
| ⑬ 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術 | （平成25年8月1日）   |
| ⑭ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ）        | （平成25年10月1日）  |
| ⑮ 麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）                | （平成25年10月1日）  |
| ⑯ 感染防止対策加算1（感染防止対策地域連携加算）    | （平成25年10月1日）  |
| ⑰ 急性期看護補助体制加算（50対1）          | （平成25年11月1日）  |
| ⑱ 小児食物アレルギー負荷検査              | （平成25年11月1日）  |
| ⑲ 地域連携診療計画管理料                | （平成25年12月1日）  |
| ⑳ 組織拡張期（乳房用）一次再建             | （平成25年12月11日） |
| ㉑ 人工乳房 一次一期的再建               | （平成25年12月11日） |
| ㉒ 画像診断管理加算1,2                | （平成26年1月1日）   |
| ㉓ 重症者等療養環境特別加算               | （平成26年1月1日）   |
| ㉔ 療養環境加算                     | （平成26年1月1日）   |
| ㉕ がん治療連携計画策定料（大腸がんのみ）        | （平成26年1月1日）   |
| ㉖ 特定集中治療室管理料1                | （平成26年2月1日）   |
| ㉗ 麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）                | （平成26年2月1日）   |
| ㉘ 酸素の購入価格に関する届出              | （平成26年2月13日）  |
| ㉙ エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）     | （平成26年3月1日）   |
| ㉚ エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）      | （平成26年3月1日）   |

(4) 患者サービス

- ① 院内における携帯電話の使用について、使用可、不可のエリアに関する掲示を行った。
- ② 7階、8階病棟のデイルームに本棚を設け、教職員より書籍の寄付を募り、設置した。

(5) 地域医療連携

- ① 平成25年4月に東京都からの受託事業である、区東北部糖尿病医療連携検討会の座長糖尿病・代謝・内分泌内科 横田診療部長および事務局を昨年度に引き続き継続受託した。
- ② 平成25年7月5日に南かつしか病院ネットワーク勉強会を開催した。院内外合わせて16名の参加があった。（葛飾医療センター、足立共済病院、金町中央病院、東立病院、山田記念病院）
- ③ 平成25年11月9日に「第4回医療連携フォーラム2013」を当医療センター講堂にて開催した。

- ④ 一般社団法人脳卒中地域医療連携パス協会へ加入し、脳卒中患者のパス運用に係る院内体制を整備し、運用を開始した。
- (6) 工事関係
- ① 本館屋上防鳥対策工事 平成26年3月31日
- ② 本館4階集中治療室休憩室他改修工事 平成26年3月31日
- ③ (仮称)別館建築計画について
- ・平成25年10月7日、葛飾医療センター別館建築計画WGキックオフミーティングを開催した。
  - ・平成25年10月より基本構想・基本計画を実施、平成26年1月より基本設計を検討した。
- (7) 指導・監査
- ① 平成25年12月16日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査及び放射線使用施設を有する病院に対する立入検査が実施された。
- (8) 防火・防災
- ① 平成25年7月25日、8階病棟において第1回自衛消防訓練を実施した。
- ② 平成25年10月22日、本田消防署管内での自衛消防訓練審査会が開催され、葛飾医療センター自衛消防隊が参加し、2位入賞した。
- ③ 平成26年2月6日、9階病棟において第2回自衛消防訓練を実施した。
- ④ 平成26年3月11日、4病院合同災害対策訓練講演会を開催した。
- ⑤ 平成26年3月26日、トリアージ訓練講習会を開催した。
- (9) 病床運用
- ・平成26年1月より許可床を356床から365床(+9床)へ増床した。
- (10) 医療安全・感染対策  
(研修関係)
- ① 平成25年4月2日、1年目研修医を対象に医療安全の基本研修とオリエンテーションを実施した。
- ② 平成25年4月3日、1年目看護師を対象に安全管理の基本研修を実施した。
- ③ 平成25年4月12日、小児人工呼吸器の取扱いの研修会を小児病棟対象に実施した。
- ④ 平成25年4月23日、5月22日、新入・転入教職員を対象にセーフティマネジメント基本研修会を開催した。
- ⑤ 平成25年4月24日、5月20日、6月17日、7月24日、9月6日、9月20日感染対策基礎研修「手指衛生5つのタイミング」を開催した。
- ⑥ 平成25年6月7日、11日、14日MRI安全講習会を画像診断部の協力のもと開催した。
- ⑦ 平成25年6月7日、第1回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「今年度の新たな医療安全への取り組み」を開催した。また、7月12日、7月17日にDVD研修会を開催した。
- ⑧ 平成25年7月17日セーフティマネージャーを対象として、インフォームドコンセントに関する研修会を実施した。
- ⑨ 平成24年6月26日、7月9日、DVT予防と下肢圧迫ポンプ研修会を実施した。
- ⑩ 平成25年7月2日、感染対策セミナー「新興感染症の脅威」を開催した。
- ⑪ 平成25年7月12日、第1回薬剤安全セミナーを開催した。
- ⑫ 平成25年7月19日、8月8日にN95マスクフィットテストを、10月21日、11月29日、12月10日、平成26年1月31日、2月21日空気感染予防策研修会を開催した。
- ⑬ 平成25年8月3日、医師を対象に超音波ガイド下穿刺法の基本研修会を麻酔部の協力のもと実施した。
- ⑭ 平成25年8月26日、9月4日IV PCAの安全使用研修会を開催した。
- ⑮ 平成25年10月5日、全教職員・学生を対象にチーム医療構築ワークショップを開催した。
- ⑯ 平成25年11月7日、第2回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「見つめ直す医療安全の基本～WHO患者安全カリキュラムガイドに学ぶ～」を開催した。

- ⑰ 平成25年11月16日、平成26年3月8日、葛飾医療センターチームステップス研修会を開催した。
- ⑱ 平成25年11月27日、第2回薬剤安全セミナーを実施した。
- ⑲ 平成26年2月4日、第2回感染対策セミナー「感染制御と抗MRSA薬TDMの実際」を実施した。
- ⑳ 平成26年2月26日、第3回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「周術期における医療の質・安全への取り組み」を実施した。また、3月25日、28日にDVD研修会を開催した。
- ㉑ その他、臨床工学部等の協力のもと、医療機器安全講習会を15回開催した。内容は、人工呼吸器の適正使用（基礎編・応用編）、生体情報モニターの使用法、除細動器、チェストドレーンバック、超音波ネブライザー等。

〈院内安全ラウンド及び相互ラウンド関係〉

- ① 平成25年5月28日、外来部門医療安全ラウンドを実施した。
- ② 平成25年6月26日、6A・6B病棟の医療安全ラウンドを実施した。
- ③ 平成25年7月24日、8B病棟・内視鏡部の医療安全ラウンドを実施した。
- ④ 平成25年9月12日、7A・7B・ICU・中央検査部4病院合同医療安全ラウンドを実施した。
- ⑤ 平成25年10月3日、4病院合同医療安全ラウンドで柏病院のラウンドを実施した。
- ⑥ 平成25年10月21日、全病棟・ICU・内視鏡部の麻薬監査を実施した。
- ⑦ 平成25年11月1日、6A・7A・8A病棟4病院合同医療安全ラウンドを実施した。
- ⑧ 平成25年11月5日、6日、11日、医療安全推進週間中に病院幹部により入退院医療連携センター・薬剤部・8A病棟・外来化学療法室・手術部の医療安全ラウンドを実施した。
- ⑨ 平成25年12月9日、4病院合同医療安全ラウンドで附属病院のラウンドを実施した。
- ⑩ 平成26年2月17日、私立医科大学医療安全相互ラウンドで北里大学メディカルセンターを訪問した。
- ⑪ 平成26年3月3日、私立医科大学医療安全相互ラウンドに北里大学メディカルセンターが来院した。
- ⑫ 平成26年3月10日、4病院合同医療安全ラウンドで第三病院のラウンドを実施した。

〈その他〉

- ① 術前合同カンファレンスを22例開催した。
  - ② 新治療導入検討部会を4例実施した。
- (11) 成医会葛飾支部例会開催
- ① 平成25年6月15日、第109回成医会葛飾支部例会（メディカルカンファレンス、特別講演）
  - ② 平成25年12月14日、第110回成医会葛飾支部例会（ポスター及び口頭発表、特別講演）
- (12) 葛飾医療センター公開セミナー開催
- ① 第34回 平成25年6月8日「糖尿病の‘け’があるとされたら」（参加人数141名）
  - ② 第35回 平成25年9月14日「大腸がんと言われる前にできる事」（参加人数137名）
  - ③ 第36回 平成26年2月8日「脳卒中のお話—ならないために、なった時のために—」（参加人数59名）
- (13) 症例検討会（CPC）開催
- ① 第46回 平成25年9月3日 担当科：糖尿病・代謝・内分泌内科  
「2型糖尿病経過中、下腿蜂窩織炎を合併、下腿切除術後も高熱は持続、死亡した一例」
  - ② 第47回 平成26年3月19日 担当科：総合内科  
「ミトコンドリア糖尿病、肥大型心筋症、繰り返す心不全の経過中、急性呼吸不全で死亡した一例」
- (14) 病院運営
- ① 平成25年6月20日、東京都議会議員選挙の不在者投票を実施した。
  - ② 平成25年7月18日、参議院議員選挙の不在者投票を実施した。

- ③ 平成25年11月8日、葛飾区議会議員選挙・葛飾区長選挙の不在者投票を実施した。
- ④ 平成26年2月7日、東京都知事選挙の不在者投票を実施した。
- ⑤ 平成25年7月16日、葛飾医療センター納涼会をテクノプラザかつしかにて開催した。  
(参加人数303名)
- ⑥ 平成25年10月24日、平成26年度の初期臨床研修医のマッチングの結果は、定員6名に対し6名のマッチングが決定した。(マッチング率100.0%)
- ⑦ 平成25年12月17日、葛飾医療センター忘年会をテクノプラザかつしかにて開催した。  
(参加人数311名)
- ⑧ 平成26年1月28日、「保険診療について」をテーマに保険診療講習会を開催した。
- ⑨ 平成26年3月25日、「平成26年度診療報酬改定」をテーマに保険診療講習会を開催した。
- ⑩ 平成26年3月9日、電子カルテシステムのバージョンアップを実施した。
- ⑪ 平成26年3月10日、青戸中学校において3年生を対象としたBLS+AED講習会を開催した。
- ⑫ 平成25年度のBLS+AED講習会を計7回開催した。

(3) **第三病院** (院長:谷口 郁夫、副院長:岡尚省、中村敬、古田 希、岡本友好、事務部長:秋元 文夫)

(1) 患者数・病床利用状況

平成25年度1日平均患者数入院475名(前年比-11名)、外来1,387名(前年比-16名)であった。紹介率は医療法44.9%(昨年度43.1%)、保険法38.5%(昨年度35.9%)であった。平均在院日数13.4日(前年度13.4日)、病床利用率82.6%(前年度84.6%)

(2) 医療連携

平成25年6月6日第24回第三病院医療連携フォーラム

「防災対策について」

「診療部紹介と診療トピックス ①糖尿病・代謝・内分泌内科 ②腫瘍・血液内科」

平成25年10月31日第25回第三病院医療連携フォーラム

「前立腺がん診断におけるPSA検診の役割」

「診療部紹介と診療トピックス ①呼吸器内科 ②整形外科」

(3) 第三病院医療セミナー

平成25年5月25日 第58回第三病院医療セミナー

- ①「平成25年度第三病院の目標」 谷口院長
- ②「第三病院BSC推進委員会報告」 秋元事務部長
- ③「電子カルテ導入全体運用WG」 花岡委員長(HIS委員会)

(4) 公開健康セミナー

平成25年5月18日 第64回公開健康セミナー「肺炎—その予防と治療について—」

平成25年9月21日 第65回公開健康セミナー「頻尿と尿失禁について」

平成25年11月30日 第66回公開健康セミナー「健診で検査値異常を指摘された—知っておきたい検査値の基礎知識—」

平成26年3月1日 第67回公開健康セミナー「こうすればよくなるあなたの糖尿病」

(5) ちょうふ市内・近隣大学公開講座

平成25年9月2日 「こうすれば良くなるあなたの糖尿病」

平成25年9月20日 「子どものアナフィラキシー」

(6) こまえ市民大学医療講座

平成25年6月22日 「くすりの知恵と食事との関係」

平成25年10月19日 「スポーツにおける救急医療」

(7) 狛江市老人クラブ連合会健康セミナー

平成25年6月6日 「老年期のメンタルヘルス～うつや不安にどう対処するか～」

(8) 狛江医師会・学術講演会

- 平成25年7月22日『糖尿病管理は「平均」から「変動」の時代へ』
- (9) 狛江市健康教育講演会  
平成25年9月9日「大腸がん予防」
- (10) 第三病院癒し企画（入院患者向け）  
平成25年5月25日「クラリネット四重奏コンサート」横浜クラリネット・アンサンブル  
出演者4名（男性1名、女性3名）  
平成25年7月6日「七夕ロビーコンサート」慈恵医大音楽部管弦楽団  
平成25年7月20日 病棟コンサート（9階・7階・1C病棟）看護学科音楽選択学生 出演者11名  
平成25年10月5日「声楽 & ピアノコンサート」ピアノ:尾藤 万希子さん、バリトン小藤洋平さん、メゾ・ソプラノ小阪亜矢子さん  
平成25年12月7日 クリスマスコンサート慈恵医大音楽部管弦楽団、看護学科学生有志（コーラス）  
平成26年3月8日 吹奏楽アンサンブルコンサート調布市青少年吹奏楽団 出演者9名（男性3名、女性6名）
- (11) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局東京事務所）  
平成25年4月24日 特掲診療料の施設基準「麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ」標榜医師変更届出  
平成25年5月28日 基本診療料の施設基準「感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算」変更届出  
平成25年6月25日 特掲診療料の施設基準「がん治療連携計画策定料」変更届出  
平成25年7月19日 施設基準等の届出状況等の報告  
平成25年7月31日 特掲診療料の施設基準「画像診断管理加算1」変更届出  
平成25年12月24日 特掲診療料の施設基準「麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ」標榜医師変更届出  
特掲診療料の施設基準「がん治療連携計画策定料」変更届出  
平成26年1月29日 酸素の購入価格に関する届出書  
平成26年3月18日 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出  
平成26年3月31日 初診時選定療養費「病床数が200床以上の病院について受けた初診の実施（変更）報告書」提出  
選定療養費「特別の療養環境の提供の実施（変更）報告書」提出
- (12) 工事関係  
1) 第三病院  
ー特別会計ー  
平成26年3月25日着工 第三病院新医局棟建設工事  
平成25年9月18日完了 サーバー室設置工事  
平成25年10月27日完了 薬剤部改修工事  
平成25年10月31日完了 LAN・電源棟増設工事  
平成26年1月3日完了 会計カウンター等改修工事及びブロック受付設置工事  
平成25年12月31日完了 LAN追加工事  
平成26年3月31日完了 中央監視装置更新工事  
平成26年4月25日完了 本館外来系統・病棟系統冷温水発生機更新工事  
ー高額施設計画工事ー  
平成25年8月29日完了 本館電気室非常用蓄電池更新工  
平成25年11月25日完了 栄養部厨房床面防水工事（第2期工事）について  
平成25年3月31日完了 各種ポンプ設備更新及び整備工事（第2期工事）  
平成26年3月31日完了 電気室内高圧電力切替開閉器交換工事  
平成25年8月29日完了 誘導雷による電話交換機基盤焼損事故緊急仮復旧修理  
平成26年3月31日完了 プラーボックス内高圧気中負荷切替装置更新工事（UGS）

平成26年12月9日完了 貯水槽雑排水槽清掃  
平成26年3月30日完了 屋内消火栓ポンプ更新他工事  
平成26年3月31日完了 本館3A病棟汚水排水管更新工事  
平成26年4月6日完了 本館病棟5B・6B・7Bナースステーション及び5階職員ラウンジエアコン更新工事

ー予算外工事ー

平成25年8月22日完了 正面玄関側車道及び駐車場整備工事  
平成25年8月22日完了 病院1C病棟脇駐車場整備工事  
平成26年3月20日完了 病院本館7・8階特室改修工事  
平成26年4月30日完了 本館1階救急室改修工事

○国領校

平成25年6月5日完了 体育館バスケットゴール交換工事

○看護専門学校

平成25年9月7日完了 1階・5階トイレ改修工事

(13) 行政監査・実地検査

平成25年11月25日 粕江消防署による消防査察 病院全館  
平成25年12月25日 粕江消防署による消防査察 1号館、附属A棟（九州の病院火災発生による再確認）  
平成25年1月27日 医療法第25条に基づく精神科実地指導  
平成25年2月27日 医療法第25条に基づく放射線使用施設の立入検査

(14) 行事関係

平成25年4月2・3日 平成25年度研修医オリエンテーション  
平成25年4月3日 平成25年度研修医歓迎会  
平成25年5月17日 薄井紀子教授、渡邊修教授就任祝賀会  
平成25年7月26日 第三病院納涼会  
平成25年12月6日 第三病院忘年会並びに成医会第三支部懇親会  
平成26年2月28日 診療部懇親会

(15) 特記事項

平成25年4月1日 第三病院の新体制  
・平成25年度より、現行体制に新たに古田希副院長を加えた新体制となった。

診療部長の交代

平成25年4月1日 ① 大槻穰治診療部長（救急部）  
② 薄井紀子診療部長（輸血部）  
③ 森豊診療部長（糖尿病・代謝・内分泌内科）  
④ 土橋史明診療部長（腫瘍・血液内科）  
⑤ 齋藤桂介診療部長代行（呼吸器内科）

平成25年10月1日 ① 大谷卓也診療部長（整形外科）

委員会の改編 なし

平成25年5月21日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第1回」  
平成25年5月23日 感染対策講習会「職業感染予防策針刺し・切創防止について」  
平成25年5月28日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第2回」  
平成25年6月11日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第3回」  
平成25年6月12日 感染対策講習会「風疹の臨床像と注意すべき合併症について」  
平成25年6月20日 「東京都議会議員選挙」不在者投票  
平成25年6月26日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第4回」  
平成25年7月1日 感染対策講習会「薬剤感受性検査の見方と抗菌薬治療への応用」  
平成25年7月3日 献血実施（45名）

平成25年 7月 9日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第5回」  
 平成25年 7月19日 「国政選挙（参議院）」不在者投票  
 平成25年 7月24日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第6回」  
 平成25年 8月 1日 平成25年度東京都高次脳機能障害支援普及事業委託契約締結  
 平成25年 8月 3日 小児アレルギーアナフィラキシー対応研修会  
 平成25年 8月 7日 感染対策講習会「クロストリジウムディフィシル関連腸炎対策について」  
 平成25年 8月13日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第7回」  
 平成25年 8月20日 狛江市・調布市とアナフィラキシー対応ホットラインに関する覚書による協定締結  
 平成26年 8月27日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第8回」  
 平成25年 9月 3日 小児アレルギーアナフィラキシー対応研修会  
 平成25年 9月 5日 小児アレルギーアナフィラキシー対応研修会  
 平成25年 9月10日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第9回」（昼）  
 平成25年 9月10日 感染対策講習会「結核を疑うヒント 見落としとしてはいけない胸部レントゲン所見と臨床症状」（夜）  
 平成25年 9月12日 小児アレルギーアナフィラキシー対応研修会  
 平成25年 9月25日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第10回」  
 平成25年10月 4日 感染対策講習会「微生物検体の取り扱い」  
 平成25年10月 8日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第11回」  
 平成25年10月22日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第12回」  
 平成25年11月11日 感染対策講習会「抗MRSA用薬のTDM」  
 平成25年11月12日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第13回」  
 平成25年11月18日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第14回」  
 平成25年12月17日 感染対策講習会「冬期流行性感染症対策 第1回（昼）第2回（夜）」  
 平成25年12月18日 感染対策講習会「冬期流行性感染症対策 第3回」  
 平成25年12月24日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第15回」  
 平成25年12月26日 泌尿器科患者 小宮 行和 殿より第三病院へ100万円の寄付があった。  
 平成26年 1月 8日 感染対策講習会「手荒れ対策」  
 平成26年 1月14日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第16回」  
 平成26年 1月31日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第17回」  
 平成26年 2月 1日 東京都救急医療機関として認定更新される（平成26年2月1日～平成29年1月31日）  
 平成26年 2月 1日 東京都多摩新生児連携病院に指定される  
 平成26年 2月 4日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第18回」  
 平成26年 2月 6日 「東京都知事選挙」不在者投票  
 平成26年 2月25日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第19回」  
 平成26年 3月 4日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第20回」  
 平成26年 3月 5日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第21回」  
 平成26年 3月10日 感染対策講習会「結核感染対策第1回」  
 平成26年 3月11日 感染対策講習会「冬期流行性感染症対策 第1回」  
 平成26年 3月14日 感染対策講習会「冬期流行性感染症対策 第2回」  
 平成26年 3月14日 献血実施（41名）  
 平成26年 3月17日 感染対策講習会「流行性感染症対策 第1回」  
 平成26年 3月18日 狛江消防署長より、谷口院長、秋元事務部長が感謝条を贈呈される優良防火対象物認定を受ける  
 平成26年 3月20日 感染対策講習会「感染対策の基礎 第22回」  
 平成26年 3月25日 感染対策講習会「結核感染対策第2回」

- 平成26年 3月26日 感染対策講習会「流行性感染症対策 第2回」  
 その他 ①平成25年3月1日よりプロジェクトチームを立ち上げ、3回のリハーサルを経て、平成26年1月1日より入院・中央診療部門を皮切りに電子カルテシステムの稼働を開始した。  
 ②6月19日、狛江市、調布市と「災害時における緊急医療救護所に関する協定」を締結し、11月3日に狛江市、調布市を核に消防署、医師会、看護学生、近隣住民による大規模震災を想定した緊急医療救護所設置訓練を実施した。  
 ③狛江市・調布市の教育委員会と連携を図り、小児アレルギー対応に関してエピペン講習会を実施、約2000名の教育関係者への指導を実施した。  
 ④全診療部を対象にPFMの導入を図り、大幅な病床運用の効率化を実現させた。  
 ⑤平成26年7月8日～11日に厚労省主催災害派遣医療チーム研修に医師2名、看護師2名、薬剤師1名の計5名を参加させ、日本DMAT隊員として登録された。
- (16) 成医会  
 平成25年7月5日 第113回成医会第三支部例会  
 ◎特別講演 東京女子医科大学附属女性渉外健康センター副所長 桧垣祐子先生『女性のライフコースと女性医療者支援～東京女子医大における取組を中心に～』  
 平成25年12月6日 第114回成医会第三支部例会  
 ◎特別講演 皮膚科 上出良一教授『光の当たるところ、当たらないところ』
- (17) 医療安全  
 平成25年6月7日 第1回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム  
 平成25年6月15日 平成25年度チーム医療構築ワークショップ  
 平成25年10月21日 第1回研修医裁判傍聴  
 平成25年10月31日 第2回研修医裁判傍聴  
 平成25年11月5日 医療安全推進週間（11/5～11/16）  
 平成25年11月7日 第2回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム  
 平成25年11月9日 KYT（危険予知トレーニング）研修会  
 平成25年11月16日 平成25年度チーム医療構築ワークショップ  
 平成26年2月6日 私立大学医療安全相互ラウンド（東邦大学医療センター大橋病院より）  
 平成26年2月26日 第3回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム  
 平成26年3月6日 KYT推進プロジェクト活動報告会
- (18) 救急・防災関係  
 平成25年4月1日 平成25年度の救急隊指導医として救急部大槻穰治他14名の医師が委任を受ける  
 平成25年6月19日 狛江市・調布市緊急医療救護所の開設に関する協定締結  
 平成25年7月8日 平成25年度災害派遣医療チーム（DMAT）研修受講 慈恵第三DMATチーム結成  
 平成25年7月8日 狛江消防署依頼の救命救急士2名再教育実習受入れ（12月18日まで）  
 平成25年11月3日 狛江市・調布市災害時医療救護所設置訓練  
 平成25年11月25日 狛江消防署消防査察（立入検査）  
 平成25年11月28日 自衛消防訓練審査会出場 慈恵グラウンドにて（男女混交隊・優秀賞受賞）  
 平成26年3月11日 4機関合同災害対策訓練（テレビ会議システムを用いた講演会実施・

76名参加)

平成26年 3月28日 教職員、外来患者用災害時備蓄品購入（3年計画1年目）終了

(19) その他研修

平成25年 5月20日 第1回メンタルヘルス研修会（新人向け）

平成25年 5月23日 第2回メンタルヘルス研修会（新人向け）

(4) 柏病院（院長：清水光行、副院長：東條克能・岸本幸一・吉田 博、事務部長：宮崎栄一）

(1) 患者数・病床稼働率・患者紹介率等

- ① 一日平均外来患者数：1,552名（前年度比－3名）
- ② 一日平均入院患者数：541名（前年度比＋5名）
- ③ 病床利用率：稼働床613床に対して88.3%（昨年度は稼働床610床に対して87.9%）
- ④ 平均在院日数：12.6日（昨年度12.8日）
- ⑤ 患者紹介率：医療法66.1%、保険法55.0%

(2) 保険関係承認・届出関係

施設基準に係る届出については下記の通りである。

- ① 平成25年 5月1日 がん治療連携計画策定料、麻酔管理料（Ⅰ）、麻酔管理料（Ⅱ）、透析液水質確保加算2
- ② 平成25年 6月1日 身体障害者福祉法第15条に基づく指定医指定申請
- ③ 平成25年 7月1日 栄養サポートチーム加算、がん治療連携計画策定料、腹腔鏡下肝切除術腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術、麻酔管理料（Ⅰ）、麻酔管理料（Ⅱ）
- ④ 平成25年 8月1日 地域連携診療計画管理料
- ⑤ 平成25年 9月1日 患者サポート充実体制加算、感染防止対策加算1、がん治療連携計画策定料、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（新規）
- ⑥ 平成25年10月1日 緩和ケア管理料、画像診断管理加算2、麻酔管理料（Ⅰ）、麻酔管理料（Ⅱ）
- ⑦ 平成25年10月10日 人工乳房使用（一次一次的再建・一次二期的再建及び二次再建の場合）（新規）
- ⑧ 平成25年11月1日 緩和ケア管理料、がん治療連携計画策定料、画像診断管理加算2、外来緩和ケア管理料、麻酔管理料（Ⅰ）、麻酔管理料（Ⅱ）
- ⑨ 平成25年12月1日 救命救急入院料1、救命救急入院料2
- ⑩ 平成26年 1月1日 麻酔管理料（Ⅰ）、麻酔管理料（Ⅱ）、感染防止対策加算1、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術（新規）
- ⑪ 平成26年 1月31日 障害者自立支援法施行規則第62条に基づく指定自立支援医療機関変更、身体障害者福祉法第15条に基づく指定医指定申請
- ⑫ 平成26年 2月1日 がん治療連携計画策定料、麻酔管理料（Ⅰ）、膀胱水圧拡張術

(3) 診療体制

- ① 組織の改正について、中央診療部門に「がん診療センター」を新設し、外来化学療法室、がん相談支援室、緩和ケア室をまとめ、地域がん診療連携拠点病院としての責任体制を明確化した。また、「診療情報室」を院長直轄とした。
- ② 平成25年 5月21日・22日に日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG：Ver.1.0）を受審した。7月11日の中間的な結果報告では評価C項目（改善要望事項相当）が1項目（薬剤管理関係）あったため、8月10日に改善報告書を提出、補足的な審査を受審した結果、10月4日付けで「一般病院2の認定証（認定期間：2013.6.16～2018.6.15（初回認定：2003.6.16）」が交付された。
- ③ 平成25年12月1日より超急性期脳梗塞に対するrt-PA血栓溶解療法マニュアルを改定し、平日・日勤帯における適応時間の拡大（発症後3時間→4.5時間）、発症対象の拡大（院内発症例→院内外症例）を図った。

- ④ 7月1日より、手術室を効率的に運用することを目的として、1C手術室を各科管理局所麻酔症例（腎臓・高血圧内科、形成外科、皮膚科）の運用を開始した。
  - ⑤ 平成25年8月より麻酔部周術期外来の運用を開始し、11月より全科に拡大した。
  - ⑥ 平成25年12月3日付で災害派遣医療チーム（DMAT）の指定を受けた。
  - ⑦ 平成26年1月6日鏡視下手術トレーニングの運用が開始された。
  - ⑧ 平成26年2月14日、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種（医療分野）の登録申請を行った。登録することに伴い当院の医療従事者が優先的にワクチン接種を受けられるが、新型インフルエンザ等の診察、検査、治療、入院等の医療提供を行う医療機関に位置付けられた。
  - ⑨ 年150件程度の脳ドックを実施しているが、当該科の患者数が多くかなりの負担になっているため、平成26年4月より脳ドック事業を中止することとした。
- (4) 増床計画  
平成24年3月28日付で40床の増床が許可された。1Cの改修工事（平成25年6月竣工）で3床を増床した。7月1日より届出床が624床から627床（稼働床610から613床）となった。また、4AB改修工事（平成27年3月竣工予定）により37床増床を計画している。
- (5) 患者支援・医療連携センター
- ① 平成25年10月22日 「平成25年度医療連携フォーラム」を三井ガーデンホテル柏にて開催した。連携登録医・連携登録病院を含む医療機関から70施設157名、柏病院から院長以下111名が出席し、総勢268名が出席した。
  - ② 平成25年6月より岡田病院、森永胃腸外科、市原メディカルキュアと地域連携パス連携協力医療機関の届出を行った。
  - ③ 平成25年7月より高柳消化器内科外科、東洋眼科・胃腸内科・外科、新谷医院、にしで内科クリニック、ふじせ内科クリニック、光ヶ丘診療所と地域連携パス協力医療機関の届出を行った。
  - ④ 平成25年8月より北柏リハビリ総合病院と脳卒中地域連携パスの協力医療機関の届出を行った。
  - ⑤ 平成25年9月より流山東部診療所と地域連携パス、東葛病院と脳卒中地域連携パスの協力医療機関の届出を行った。
  - ⑥ 平成25年11月より窪谷産婦人科IVFクリニックと地域連携パス協力医療機関の届出を行った。
  - ⑦ 平成26年2月より深町病院、福本クリニックと地域連携パス協力医療機関の届出を行った。
- (6) 患者サービス関連
- ① 患者満足度調査について
    - 1) 外来分  
平成25年2月18日（火）～2月20日（木）まで、外来患者を対象に実施した。回収率は96.4%（2,018枚配布に対し1,946枚回収）であった。
    - 2) 入院分  
平成25年2月退院の入院患者を対象に行った。回収率は87.0%（538枚配布に対し468枚回収）であった。
  - ② 市民公開講座  
平成25年10月12日 糖尿病・代謝・内分泌内科「糖尿病について」
- (7) 成医会柏支部例会
- ① 平成25年7月6日 第48回成医会柏支部例会を開催した。
  - ② 平成25年12月7日 第49回成医会柏支部例会を開催した。
- (8) 症例検討会(CPC)
- ① 平成25年7月24日 第33回症例検討会（CPC）  
「潰瘍性大腸炎の経過中に壊死性腸炎を来した一例」

- ② 平成25年11月13日 第34回症例検討会（CPC）  
「腹腔鏡下肝部分切除・脾摘後、術後8日目にCPAを来たした一例」
- (9) 指導・監査
- ① 平成25年10月25日柏市消防局による査察が行われた。
- ② 平成25年10月29日柏市保健所による医療法に基づく立入り検査（医療監視）が行われた。
- (10) 先進医療関連
- ・新規承認なし
  - ・実施件数：24件
- (11) 個人情報保護研修会  
平成25年12月11日柏病院での研修会を開催、平成26年1月29日テレビ会議システムを利用した4機関合同研修会を開催した。また、3月7日に柏病院内でDVD研修会を開催した。
- (12) 地域がん診療連携拠点病院関係  
地域がん診療連携拠点病院の指定要件に沿った設備、機能の整備を図った。年2回の市民公開講座にて口腔ケアや食事、漢方・緩和治療などの医療知識を、がん講演会では免疫力を高める食事、リンパ浮腫予防、心のケアなどがん治療に関連する医療知識の提供に努め、がん予防、がん医療の提供に取り組んだ。平成25年度の患者数等は次のとおりである。
- ・外来患者数：7,500名
  - ・入院患者数：3,286名
  - ・地域がん登録件数：1,582名
  - ・緩和ケアチーム介入数：95件
- 【研修関連】
- ① 平成25年7月21日～22日 緩和ケア基礎研修会
- ② 平成25年11月28日 地域緩和ケア症例検討会（二次医療圏の医療従事者）
- 【公開講座】
- ① 平成25年9月14日 第11回市民公開講座「がんと食事・お口のケアについて」
- ② 平成26年3月1日 第12回市民公開講座「がん診療における漢方と緩和ケアについて」
- 【がん・緩和ケア交流会（患者交流会）】  
平成25年4月11日、5月9日、6月13日、7月11日、8月9日、9月12日、10月10日、11月14日、12月12日、平成26年1月9日、2月13日、3月13日 計12回開催した
- 【がん講演会】  
平成25年5月25日、7月27日、9月28日、11月30日、平成26年1月25日、3月22日  
計6回開催した
- (13) 東葛北部地域難病相談・支援センター事業関係
- 【会議関連】
- ① 平成25年4月18日 平成25年度第1回運営会議
- ② 平成25年10月17日 平成25年度第2回運営会議
- 【研修・講演会関連】
- ① 平成25年11月28日 リハビリについて講演会
- ② 平成25年12月2日 吸引講演会
- (14) 救命救急センター  
当院は東葛北部医療圏の急性期医療を担っている中核病院であることから、3次救急のみではなく地域からの2次救急医療の要望に対応し、円滑な救急医療を行うために救急部の内科系レジデントと外科系レジデント及び内科医師（レジデントを含む）が日中におけるER救急診療を担当し、必要に応じて各科に診療を依頼する体制をとっている。また、院内トリアージの認定を受けた看護師が救急隊からの救急要請ホットライン（1次、2次）を受け、救急患者の受入れ体制強化を図った。しかし、救急搬送数は対前年比-5.8%、三次救急患者数は-7.8%、二次救急患者数は-9.8%であり、前年を下回った。

平成24年3月28日付で許可を得た増床（40床）の開設予定については、救命救急センター整備工事が行われ、平成25年5月に40床のうち3床が救命救急センター内に開設した。残る37床は、管理棟（仮称）増築後に4B（現スタッフルーム）を病棟に改修（平成26年7月着工～平成26年11月竣工）し、平成26年12月に37床を開設する予定である。

(15) 保険診療講習会

- ① 平成25年4月2日（火）午前10時30分～11時30分開催 参加者17名
- ② 平成26年3月10日（月）午後5時45分～7時00分開催 参加者81名

(16) 1 医療安全

インシデント・アクシデント報告件数は、2,044件で、チーム医療構築WG参加者数152名となっている。その他の教育については以下の通りである。

【新人教育】

- ① 平成25年4月3日 医療安全研修（1年目臨床研修医）
- ② 平成25年4月4日 医療安全研修（医師、看護師以外の新入職者）
- ③ 平成25年4月20日 医療安全研修（新人看護職員）

【4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム】

- ① 平成25年6月7日 「今年度の新たな医療安全への取組み」
- ② 平成25年11月7日 「見つめ直す医療の安全の基本－WHO患者安全カリキュアガイドに学ぶ－」
- ③ 平成26年2月26日「周術期における医療の質・安全への取組み」

【Team STEPPS】（柏病院医療安全推進室西脇副室長主宰による第1回開催）

- ① 平成26年2月15日

【チーム医療構築ワークショップ】

- ① 平成25年7月13日、12月14日

【医療安全勉強会】

- ① 平成25年5月8日、7月4日、12月2日

【医療機器安全セミナー】

- ① 平成25年4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、9月27日、10月25日、11月22日、12月20日、平成25年1月31日、2月28日、3月12日

【医療安全推進週間】

- ① 平成25年11月5日～16日  
講演「見つめ直す医療安全の基本－WHO患者安全カリキュラムガイドに学ぶ（榎原記念病院・相馬孝博副院長）」

【MR安全講習会（放射線部）】

- ① 平成25年2月25日、平成26年2月17日

(16) 2 感染対策

【新人・委託業者教育】

- ① 平成25年4月3日 感染対策研修（新人看護職員）
- ② 平成25年4月2日 感染対策研修（1年目研修医）
- ③ 平成25年4月4日 感染対策研修（医師、看護師以外の新入職者）

【感染対策セミナー】

- ① 毎月開催（計23回）感染対策セミナーベーシック のべ1177名参加
- ② 平成25年7月12日 感染対策セミナートピックス「多剤耐性緑膿菌」152名参加
- ③ 平成26年1月30日 感染対策セミナートピックス「抗菌薬適正使用」39名参加
- ③ 各診療科における研修会（計23回）のべ209名参加

【感染対策地域連携カンファレンス】

- ① 平成25年6月28日、9月20日、11月15日、平成26年2月28日

【私立医科大学病院感染対策協議会総会】

- ① 平成25年 7月20日
- (16)ー 3 医療安全・感染対策共催
- 【医療安全・感染管理基礎研修会】
- ① 平成25年 6月26日、12月19日
- 【医療安全管理・感染対策合同セミナー】
- ① 平成25年10月 2日
- 【附属4病院合同第1回医療安全・感染対策相互ラウンド】
- ① 平成25年10月 3日（柏受け入れ）
- ② 平成25年 9月12日（葛飾訪問）、平成25年12月 9日（本院訪問）、平成26年 3月10日（第三訪問）
- 【私立医科大学附属病院間医療安全・感染対策相互ラウンド】
- ① 平成26年 2月 6日（東邦大学医療センター佐倉病院 訪問）
- ② 平成26年 2月27日（東邦大学医療センター佐倉病院 受け入れ）
- 【委託業者・派遣職員教育】
- ① 平成25年 7月11日 ②平成26年 1月23日
- (17) 防火・防災
- 平成25年 3月 7日の千葉県災害拠点病院指定基準の改正に伴い、DMATの保有と派遣に必要な緊急車輛、患者搬送用の緊急車輛を有するなど、施設・設備、備蓄等の整備が必要となった。このため、DMATの指定に向けた以下の準備を行い、12月 3日付で「DMAT指定医療機関」に指定された。
- ・ 6月24日～27日に行われた「DMATチーム研修」に 5名参加
  - ・ 9月医療資器材、DMAT車輛の購入
  - ・ 9月20日～21日「DMAT関東ブロック訓練」に 5名参加
  - ・ 平成26年 2月 4日柏市消防局との多数傷病者事故救急救助訓練
- また、院内での防火・防災対策として、以下の訓練を行った。
- ① 平成25年 9月11日 柏市自衛消防隊競技会に参加した。（男女混合 1隊）
  - ② 平成25年12月17日 消防訓練を実施した。
  - ③ 平成26年 1月に柏市防災無線接続訓練、3月に千葉県衛星電話通信訓練を実施した。
  - ④ 平成26年 2月15日 消防訓練を実施した。
  - ⑤ 平成26年 3月11日 4病院合同災害対策訓練（TV会議）を実施した。
- (18) 救命救急センター整備工事
- 平成24年 9月より救命救急センター整備工事を開始し、医局・仮眠室、5C病棟病室改修、CT室改修、診察室、カンファレンス室、器材室改修、病室（3床増床）改修工事を実施し、平成25年 6月に完了した。
- (19) 柏病院整備工事
- 平成25年 3月、実施設計及び施工会社が鹿島建設に決定し、4月中旬から実施設計のためのヒアリングが開始された。監督官庁の届出を行い、平成25年 9月よりD棟(仮称:管理棟)、10月から外来棟の増築工事を開始した。D棟は、1階が救急部医局、会議室、図書室、2・3階が医局、4階が当直室となり、外来棟は、1階がリハビリテーション科、会議室、2階が眼科、精神神経科となる。建物は、平成26年 7月に完了を予定している。また、8月以降は現在の外来待合の混雑解消を目的とした診察室の増設と一部改修を実施し、患者サービスと環境整備の向上を図るとともに、千葉県からの増床（40床）の許可に平成27年度末までに対応するため、B棟 4階の医局跡地を産婦人科病棟に改修、同時に 4A病棟のリニューアルを行い、一般病床に改修し、プライバシー確保と治療環境を充実させる。
- (20) 工事関係
- ① 診療棟空調設備更新工事 平成25年12月完了
  - ② 外来部門ファンコイル整備工事 平成25年12月完了

- ③ 本館A・B・C棟共用部修繕工事 平成26年2月完了
- ④ 本館AB棟ナースコール設備更新工事 平成26年3月完了

(21) 初期臨床研修医関連

- ① 平成25年度研修医は医師国家試験の結果、17名（一般プログラム15名、小児科医育成プログラム1名、産科医育成プログラム1名）を採用した。よって、柏病院の研修医は平成24年度研修医24名と合わせて、31名となった。

(22) 電子カルテシステム導入関係

- ・平成25年9月の理事会で電子カルテシステムのベンダーが富士通（株）に決定した。
- ・平成25年10月29日キックオフミーティングが開催され、電子カルテシステム導入（平成27年1月1日）に向けて26の各部門ワーキングが発足し、検討が開始された。
- ・手術部門、救急部門、重症部門、眼科部門の各システムのベンダーが選定された。

(23) 行事・その他

- ① 平成25年7月30日 納涼盆踊り大会を開催した。
- ② 平成25年12月27日 病院忘年会を開催した。
- ③ 平成25年12月、柏市地球温暖化対策条例に基づく削減計画書により、温室効果ガス排出量基準10,073t-CO<sub>2</sub>に対し9,956t-CO<sub>2</sub>で、1.16%削減を報告した。

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 錢谷 幹男  
 新橋健診センター 所長 和田 高士  
 晴海健診センター 所長 加地 正伸

1) 25年度実績（新橋健診センター）

年間受診者 18,187名

(内訳)

*人間ドック	7,720名
*入社健診	1,097名
*定期健診	7,075名
*特殊検診	1,646名
*予防接種	326名
*その他	323名

2) 契約企業対象の健康医学セミナーを毎年開催している。

平成25年1月29日（水）開催した。参加人数は24名であった。講演内容は「感染に罹らないために、感染症を治し上げないために」について感染制御部 診療部長 堀誠治教授が講演した。

3) 4月健診システムがヘルゼアネオ（日立）からヘルゼアネクスト（日立）へ更新された。

4) 健康の医学のニュースを年4回（5月・8月・11月・2月）発行した。

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数（使用床）

（平成25年4月1日現在）

	本 院	葛 飾	第 三	柏	合 計
個 室	291	56	68	58	473
2 人 室	6	8	46	36	96
3 人 室 以 上	754	292	461	488	1,995
合 計	1,051	356	575	582	2,564
比率（内科系：外科系）	42：58	42：58	56：44	35：65	

(2) 病床数（届出床）

（平成25年4月1日現在）

	本 院	葛 飾	第 三	柏	合 計
個 室	298	56	77	66	497
2 人 室	6	8	52	56	122
3 人 室 以 上	771	292	452	502	2,017
合 計	1,075	356	581	624	2,636
比率（内科系：外科系）	42：58	42：58	56：44	35：65	

(3) 平成25年度診療実績

（平成25年度）

	本 院	葛 飾	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	2,928	1,165	1,384	1,552	117	7,146
一日平均入院患者数	894	311	473	541		2,219
利用率（稼働床）	85.1	87.3	82.3	88.3		85.3
予 算 達 成 率	98.4	99.9	100.6	101.9	95.4	100.0
紹介率 医療法	58.2	52.5	45.5	66.1	9.3	
” 保 険 法	46.8	49.4	38.2	55.0	2.8	

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院（5病院）

（平成25年4月1日現在）

	病 院 名	院 長	副 院 長	常勤医数 (慈恵関係者)	病 床 数
1	国立病院機構 西埼玉中央病院	池内 健二(昭57)	小野寺達之(昭60)	42 (25)	325
2	富士市立中央病院	小野寺昭一(昭47)	柏木 秀幸(昭53) 鈴木 康之(昭53・他学) 笠井 健司(昭56) 諸岡 暁(昭56)	79 (63)	520
3	厚木市立病院	山本 裕康(昭60)	増渕 正隆(昭59・他学) 石山美代子(看護)	54 (45)	289
4	町田市民病院	近藤 直弥(昭53)	羽生 信義(昭53) 佐藤 裕(昭53・他学) 金崎 章(昭56) 櫻本千恵子(昭59・他学)	79 (33)	447
5	東 急 病 院	徳留 悟朗(昭56)		31 (16)	135

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院) 平成25年4月1日現在

<b>内科学講座</b>	<b>※腫瘍・血液内科</b>	神奈川県立こども医療センター 狭山病院 葛飾赤十字産院 多摩南部地域病院
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構東京医療センター 東京通信病院 新宿健診プラザ	川口市立医療センター がん研有明病院 衣笠病院 佐々木病院	<b>皮膚科</b>
	<b>※呼吸器内科</b>	○厚木市立病院 東京警察病院 N T T 東日本関東病院 東京通信病院
	国立国際医療研究センター 国立病院機構東京病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 国立がん研究センター中央病院 神奈川県立循環器呼吸器病センター	<b>放射線科</b>
	<b>※総合診療部</b>	○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 神奈川県立汐見台病院 放射線医学総合研究所 日本赤十字社医療センター 大田原赤十字病院 J R 東京総合病院 パナソニック東京健康管理センター がん研有明病院 星総合病院 荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院 藤沢市民病院 聖マリアンナ医科大学
<b>※消化器・肝臓内科</b>	<b>精神医学</b>	
○東急病院 国立病院機構相模原病院 虎の門病院 パナソニック東京健康管理センター 川口市立医療センター 松島病院大腸肛門病センター	○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 栃木県精神保健福祉センター パナソニック東京健康管理センター 北辰病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療研究センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずのき病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 芳野病院 光生会平川病院	<b>外科</b>
<b>※神経内科</b>		○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 がん研有明病院 埼玉慈恵病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 賛育会病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 総合医療センター成田病院 金町中央病院 麻生総合病院 佐々木病院 第三北品川病院 安田病院 市川第二病院 益子病院 川村病院 葛西循環器脳神経外科病院 国際医療福祉大学附属病院
総合川崎臨港病院 国立精神・神経医療研究センター病院 亀田総合病院 国立国際医療研究センター 日本赤十字社医療センター		
<b>※腎臓・高血圧内科</b>		
○東急病院 益子病院 川口市立医療センター 養生会かしま病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 足利赤十字病院		
<b>※リウマチ・膠原病内科</b>		
国立病院機構相模原病院		
<b>※循環器内科</b>	<b>小児科</b>	
○東急病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 魚沼病院 湘南病院 大洗海岸病院 町立津南病院 古川橋病院 横須賀市立うわまち病院 太田総合病院	○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 町立津南病院 都立北療育医療センター 川崎社会保険病院 東京都立小児総合医療センター 湘南病院 国立成育医療研究センター 東京都立大塚病院	
<b>※糖尿病・代謝・内分泌内科</b>		
川口市立医療センター 衣笠病院 町立津南病院 野村病院		

<b>整形外科</b>	谷津保健病院 東京都がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院	<b>麻酔科</b>
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 第三北品川病院 とちぎリハビリテーションセンター 豊島病院	<b>泌尿器科</b>	○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険大宮総合病院 星総合病院 J R 東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 平塚共済組合病院 立正佼成会附属佼成病院 国立成育医療研究センター 太田総合病院
<b>脳神経外科</b>	<b>眼科</b>	<b>リハビリテーション科</b>
○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 東大宮総合病院 秋葉病院 麻生総合病院 宇都宮第一病院 大森赤十字病院 聖マリアンナ医科大学病院 明徳会佐藤第一病院	○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 国立病院機構東京医療センター 田中農協病院 二本松眼科病院 八潮中央総合病院 衣笠病院 新松戸中央総合病院 国立障害者リハビリテーションセンター 東京警察病院 麻生総合病院	神奈川リハビリテーション病院 東京通信病院 中伊豆リハビリテーションセンター 東京都立大塚病院 東京都立墨東病院 とちぎリハビリテーションセンター 東京都リハビリテーション病院 初台リハビリテーション病院 健貢会東京病院 牧リハビリテーション病院 京都大原記念病院 清水病院
<b>形成外科</b>	<b>耳鼻咽喉科</b>	<b>病理学</b>
○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 東京厚生年金病院 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院 埼玉県立小児医療センター	○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 がん研有明病院 湘南病院 聖路加国際病院 大森赤十字病院 太田総合病院 東京共済病院 東京厚生年金病院 東京歯科大学市川総合病院 豊島病院 同愛記念病院 国立がん研究センター東病院 東部地域病院 国保旭中央病院 東京臨海病院 佐久総合病院	○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院 国立病院機構千葉東病院
<b>心臓外科</b>		<b>歯科</b>
○富士市立中央病院 ○町田市民病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 横浜総合病院 豊島病院 佐久総合病院 新東京病院 東京都立小児総合医療センター 国立病院機構埼玉病院		○町田市民病院 社会保険大宮総合病院
<b>産婦人科</b>		<b>内視鏡科</b>
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療研究センター 立正佼成会附属佼成病院 こころとからだの元氣プラザ		益子病院 松島クリニック 社会保険中央総合病院 川村病院
		<b>感染制御科</b>
		神奈川県立汐見台病院
		<b>法医学</b>
		東京都監察医務院
		<b>分子生理学</b>
		東京歯科大市川総合病院

## (3) 特殊派遣機関（6機関）

（平成25年4月1日現在）

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日本航空インター ナショナル	内 科	衆議院診療所	内 科
	精 神 医 学		皮 膚 科
	整 形 外 科		眼 科
	放 射 線 医 学		耳 鼻 咽 喉 科
	眼 科	出版健康保険組合診療所	内 科
	耳 鼻 咽 喉 科		眼 科
全 日 空	内 科	東京国税局診療所	内 科
	整 形 外 科		精 神 医 学
	眼 科		外 科
	耳 鼻 咽 喉 科		
	内 視 鏡 科		
航空医学研究センター	内 科		
	精 神 医 学		
	眼 科		
	耳 鼻 咽 喉 科		

## (4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

（平成25年4月1日現在）

病 院 名	科 名
英 国 ロ ン ド ン 日 本 人 ク ラ ブ	内 科
	小 児 科

## 6. 学術情報センター

学術情報センター長 福田 国彦 (放射線医学講座) (平成25年4月から)  
同 図書館国領分館長 横井 勝弥 (数学研究室) (平成25年4月から)

### 1) 平成25年度統計 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

#### (1) 図書館

① 蔵書冊数	258,930冊	
② 現在受入雑誌数	872種	(和728種、洋144種)
③ 電子ジャーナル提供数	7,920種	
④ 館外貸出冊数	11,431冊	
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出 3,408件	借受 2,793件
⑥ 複写サービス	113,858枚	(代行複写、相互貸借 (他館への提供)、附属病院へのFAX送信、セルフコピーの合計)
⑦ 情報検索サービス	81,284件	(代行とセルフサービスの合計)

#### (2) 国領分館

① 蔵書冊数	86,209冊	
② 現在受入雑誌数	366種	(和314種、洋52種)
③ 館外貸出冊数	8,140冊	(視聴覚資料含む)

#### (3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,615点
	顕微鏡標本	2,549点
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,864セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mmフィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	64セット
	語学プログラム	205セット
	その他	79セット

#### (4) 史料室

見学者数 283名 (学内36名、学外247名)

#### (5) 写真室

① 撮影・スライド作成	54件	(1,606枚)
② レントゲンフィルム複製	55件	(760枚)
③ ビデオ編集	58件	(201時間)
④ カラープリント出力 (ポスター作成含む)	565件	(10,446枚)
⑤ 35mmスライドのデジタル化	18件	(294枚)

### 2) 主な事項

#### (1) 医学部学生および大学院生の演習の担当

医学科1年生・2年生の「医学総論」、医学科3年生・4年生の「医療情報:EBMコース」、看護学科3年生の「研究方法論:文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーション、大学院医学研究科看護学専攻修士課程1年生への演習を担当した。

#### (2) 教職員等を対象とした情報検索演習

教育センターによる附属4病院の在職看護師を対象とした「エデュケーションナース研修」、東京慈恵会による学内外の看護教育関係者を対象とした「教務主任養成講習会」で情報検索演習を担当した。また、教職員を対象としたデータベース講習会を3回実施し、延べ31

- 名の参加があった。
- (3) ネットワークを介した情報提供  
電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス(AutoAlertサービス)を、引き続き実施している。また、新聞4紙から医療および大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービス(平成16年12月開始)も継続した。
- (4) 学術リポジトリの構築  
学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開するためのシステムである学術リポジトリの運用を担当している。『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『教育・研究年報』、『Research Activities』、『高木兼寛の医学V』の最新の内容を登録し、インターネット経由で参照できるようにした。また、「学位規則の一部を改正する省令(平成25年文部科学省令第5号)」を受け、学事課との協力により学位論文要旨の学術リポジトリによるインターネット公開を開始した。  
平成25年度の学術リポジトリへの登録件数は370件で、利用状況は閲覧428,647件、ダウンロード585,325件であった。
- (5) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2012(第32号)』および『Research Activities 2012』の編集  
両年報の編集作業を担当した(両年報とも3月1日発行)。
- (6) 教員評価システム管理委員会への参加  
教員評価システムの業績データ入力機能に関する問合せ窓口を担当し、学内教職員を対象とした入力方法の説明会を2回実施した。
- (7) 医学論文書きかた講習会の開催  
Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による以下の講習会の開催を担当した。これらの講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。  
・「文章の書き方Q&A」(5月14日)  
(丸毛啓史教授・整形外科学講座)  
・「Useful Tactics and Strategies in Successfully Presenting a Research Paper」(5月21日)  
(小原平教授、Evelyn Jane Reinbold講師・英語研究室)  
・「Choosing the Right Words」(5月28日)  
(岡崎真雄教授・学術情報センター)  
・「教授、忙しすぎて論文が書けません!」(5月30日)  
(嘉糠洋陸教授・熱帯医学講座)  
(開催時間は、いずれも18時~19時30分)
- (8) 総合展示の開催  
以下3テーマの展示の提供をいただき、1月27日(月)~2月7日(金)に大学1号館ロビー、高木会館ロビーにて開催した。  
・「日本における胆石症の病態と臨床」  
高木一郎教授(内科学講座(消化器・肝臓内科))  
・「画像ガイドによる経皮的腎がん凍結治療に携わって」  
原田潤太教授(放射線医学講座・柏病院)  
・「葛飾医療センターにおける経肛門的直腸脱手術の変遷」  
又井一雄教授(外科学講座・葛飾医療センター)
- (9) 教材・研究資料の作成支援  
学内教職員・学生、同窓生を対象に、静止画・動画の撮影、画像データのデジタル編集、ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化の各サービスを実施した。

- (10) レントゲンフィルムの複製  
教育・研究用、病院保管用の資料作成、他病院・関連機関への情報提供のためのレントゲンフィルム複製の業務を担当した。
- (11) 広報活動支援業務  
学内行事および広報用の写真撮影、また画像データの保管・提供を担当した。
- (12) リモートアクセスサービスの開始  
大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外(自宅や派遣先)からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」(平成21年度開始)の登録およびサポート作業を行った。平成25年度の新規登録は247人で、平成25年度末までに利用登録者は1,591人となった。
- (13) 「東京慈恵会医科大学130年史(平成23年度発行)」関連の業務  
掲載内容に関する問い合わせへの対応、130年記念事業寄付者へ送付確認作業を担当した。

## 7. 教育センター

教育センターは、本学医学・看護学の卒前ならびに卒後教育の支援組織として、教育を推進する。これらの活動を通して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与し、国民のための医療者教育の向上に貢献することを目的とする。卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動について、教育センターは支援する。平成25年度は、地域医療者教育および教育IR活動の推進を目的に、教育センター内の部門組織改編（平成25年9月1日付）を次のように行った。

- (1) 医師キャリアサポート部門
  - ① 医学教育研究室
  - ② 教育開発室
- (2) 看護キャリアサポート部門
- (3) シミュレーション教育部門
- (4) 地域医療支援部門
- (5) 教育IR部門

平成25年度教育センターの事業活動は、大学の基本方針、運営計画に基づき下記事業を実施した。

教育センター長 福島 統 教授

### 1) 公開講座

#### (1) 大学主催公開講座

教育センターが公開講座推進委員会を主管して、大学主催（大学および4附属病院が企画・実施）の公開講座を取り纏めた。平成25年度は全機関で35回開催した。本公開講座は一般市民および地域医療者を対象とし、大学の社会貢献と広報活動の充実に関する事業として、公開講座の継続的な推進を図るため、各機関による主体的な運営形態としている。平成25年度の開催内容は下記のとおり。

- ・附属病院：計9回（新みんなの健康教室（6回）、市民公開講座（3回）
- ・慈恵医大葛飾医療センター公開セミナー 3回
- ・慈恵医大第三病院公開健康セミナー 4回
- ・柏病院市民公開講座 2回
- ・新橋健診センター公開講座 10回
- ・大学：計7回（看護学科公開講座2回、地域医療者向け公開講座4回（教育センター主管）ひらめき☆ときめきサイエンス1回（教育センター主管）

#### (2) 地域医療者対象公開講座

教育センターが企画・実施する地域医療者対象の大学主催公開講座を4回開催し、参加者総数は47名であった。対象は本学の学生教育にご協力いただいている学外実習施設の看護師等とした。開催場所はシミュレーション教育施設（7C）で、内容は次の通り。

- ・心音セミナー 2回（4月13日、10月12日）
  - 講義①心臓の基礎知識 福島 統 教授
  - 講義②心音の基礎知識 岡崎 史子 講師
  - 実習①シミュレータ「イチロー」を使っての心音聴取
- ・呼吸音セミナー 2回（9月28日、2月22日）
  - 講義①呼吸器系の基礎知識 福島 統 教授
  - 講義②胸部診察・呼吸系について 岡崎 史子 講師
  - 実習①シミュレータ「ラング」を使っての呼吸音聴取

### 2) 教育に関する公的補助金にかかる事業

#### A. 平成24年度文部科学省「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」事業

内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）宇都宮一典教授が事業推進責任者となり、取組「参

加型臨床実習のための系統的教育の構築」を推進した。

(1) カリキュラム検討の実施

(2) ログブックの開発

(3) 学生へのPHS配付

(4) 英国キングス大学との連携によるOSCEの調査

姉妹校であるとともにグローバル化に対応した臨床実習教育を実践している英国キングス大学に、本学教育センター尾上尚志教授、中村真理子准教授、救急医学講座大谷圭准教授の3名がOSCE視察を行った。

(5) 外部評価

キングス大学医学部からHead of Clinical AssessmentのTushar Vince先生を招聘し、平成26年2月18日～2月22日に本補助事業の外部評価を実施した。

(6) 第55回医学教育セミナー

キングス大学医学部Head of Clinical AssessmentのTushar Vince先生を講師として、平成26年2月20日（木）に「キングス大学のOSCE」をテーマに第55回医学教育セミナーを実施した。学生・教職員40名が参加した。

B. 平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成」事業

内科学講座（総合診療内科）大野岩男教授が事業推進責任者となり、取組「卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発—地域における臨床研究の推進を目指して—」を申請し、採択を受けた。事業期間は平成25年度～29年度。本補助事業の主な活動は次の通り。

(1) 教育プログラムの開発

次の8つの教育プログラムの開発を行った。

① 高齢者医療体験実習（医学科3年次）

② へき地医療プログラム（初期臨床研修 2年目研修医）

③ 総合診療コース（レジデント）

④ 大学院医学研究科博士課程授業細目「地域医療プライマリケア医学」

⑤ 授業細目「地域医療プライマリケア医学」・レジデントのコンバインドコース

⑥ EBMと臨床研究セミナー（大学院インテンシブコース）

⑦ 総合診療・家庭医療ブラッシュアッププログラム（医師インテンシブコース）

⑧ 復職支援スタートアッププログラム（医師インテンシブコース）

(2) 海外視察

- ・プログラム開発のため、松島雅人教授、他2名が平成25年11月28日～12月3日にシンガポールを訪問し、現地の医療システムや家庭医療Diplomaプログラムについて視察を行った。
- ・プログラム開発のため、松島雅人教授、他3名が平成26年2月10日～15日にキングス大学を訪問し、英国のプライマリケア教育について視察を行った。

(3) 外部評価

- ・キングス大学からJanice Rymer教授とRoger Jones教授を招聘し、平成26年1月27日～1月31日の5日間にわたって外部評価を実施した。
- ・世界医学教育連盟（WFME）の会長であるStefan Lindgren教授を招聘し、平成26年2月19日に外部評価を受けた。
- ・琉球大学植田真一郎教授による外部評価を、平成26年3月15日に受けた。

(4) 事業活動の概要

- ・総合診療GP事業の推進のため、学長直轄の「総合診療GP推進委員会」を組織した。その委員会の下部組織として「総合診療GP4病院会議」を設置した。これらの委員会運営を行い、事業推進を図った。
- ・大学院医学研究科博士課程において授業細目「地域医療プライマリケア医学」（松島雅人教授）の設置を支援した。
- ・平成25年度臨床研修医1年目を対象に、川村哲也教授による平成26年度に実施する地域医

療（へき地医療）研修の説明会を平成25年10月30日に開催した。各地域医療施設の指導医を招聘し、施設紹介や研修内容の説明を受けた。

- ・筑波大学主催「リサーチマインドを持った総合診療医の養成合同公開フォーラム」が平成26年1月31日に開催され、選定15大学による事業紹介の中で、大野岩男教授が総合診療GPの概要説明を行った。
- ・琉球大学と合同シンポジウム、ワークショップを平成26年3月14日～16日に、ティーチングトレーニングを目的に開催し40名が参加した。

#### C. 平成24年度文部科学省「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業

東京医科歯科大学を代表校とし千葉大学、東京大学、新潟大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学の6大学が連携して、取組「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は福島統教授が担当した。事業期間は平成24年度～28年度。本補助事業の主な活動は次の通り。

##### (1) 海外視察

- ・2013年10月31日～11月7日に米国 Association of American Medical Colleges 2013年次大会に中村真理子准教授が参加した。日本で認証システムを構築する上で有用となる Liaison Committee on Medical Education の認証評価に関わる情報収集を行った。

##### (2) 自己点検評価報告書の作成とデータベース化

- ・世界医学教育連盟（WFME）グローバルスタンダード準拠の医学教育分野別評価基準日本版をもとに2013年度自己点検評価報告書および別添資料集を作成した。これらにかかる資料のデータベース化を行った。

#### D. 平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業

福島統教授が事業推進責任者となり、「キャンパス間カンファレンスシステムの構築」を申請し、採択を受けた。事業期間は平成25年度の単年度。本事業は医学科臨床実習教育プログラムの開発、看護学科臨床実習の質向上、大学院臨床研究の推進などについて4キャンパス間で医学科・看護学科学学生、大学院生、教員がセミナー、カンファレンス、FDなどの教育活動を行うテレビ会議システム整備を行った。

#### E. 平成24年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費）事業

本補助金は、平成24年度補正予算分として文部科学省より通知があり、教育センター予算内の医療安全シミュレーション予算として計上したSimMan 3Gシステムおよびそれに付随する専用ミラールーム設置工事を教育装置として本事業に充て申請を行った結果、選定された。本装置は、平成25年12月19日に設置が完了し、卒前・卒後を含めた患者安全シミュレーション教育に使用される。

#### F. 経常費補助金「情報の公表」

教育補助金検討委員会が主導し、教育情報に係る項目のデータを、関係部署にデータ提供のご協力を得て、平成25年9月に本学ホームページに掲載し、教育情報の公表を行った。これに伴い経常費補助金「情報の公表」の申請を行った。事業期間は平成25年度の単年度。

### 3) 看護学教育プログラム

看護学教育部門(看護キャリアサポートセンター)の奈良京子部門長を担当として、以下の教育プログラムを実施した。

#### (1) エデュケーションナース研修

- ・開催趣旨：新人看護師やプリセプターに対して意図的に適切な指導を行うために必要な知識・技術・態度を修得し、教育担当者としての役割を担う看護師の育成をねらいとした。
- ・開催期間：平成25年8月6日（火）～11月22日（金）の内20日間、受講者数：54名

#### (2) 看護監督者研修

- ・開催趣旨：中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を修得し、大学病院・看護部の理念の基、担当部署の看護管理過程が展開できる人材を育

- 成することをねらいとした。
- ・開催期間：平成25年11月28日（木）～平成26年2月22日（土）の内11日間、受講者数：29名
- (3) 看護管理者研修
- ・開催趣旨：臨床および教育の看護管理者が一堂に集まり、各々の立場から本学の看護の現状と課題について情報交換を行い、【目指す慈恵の看護】を共有し、連携強化を目指した。
  - ・開催期間：平成26年2月1日（土）～2月2日（日）1泊2日、受講者数：25名
- 4) シミュレーション教育支援
- シミュレーション教育施設委員会を主管し、西新橋校、国領校、葛飾医療センターの各々に下部組織の委員会を配置し、教育センターは大学全体として、各機関が連携するシミュレーション教育施設の管理運営を行った。
- 各機関の利用状況は、西新橋校502件(昨年対比24件増)、国領校70件(昨年対比69件増)、葛飾医療センター148件(昨年対比61件増)であった。
- 5) ICT活用教育支援
- (1) eラーニング
- 卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングのサーバ等のシステムを管理し、利用支援を行うとともに、教材作成を支援した。eラーニングの実績は年間23コース279回であった。内訳は次の通り。
- ・医学科学生 6コース、29回（3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）
  - ・看護学科学学生 7コース、23回（2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）
  - ・看護専門学校学生 2コース、4回（1年次情報リテラシーなど）
  - ・大学院博士課程 2コース、53回（疫学臨床研究、生物統計学など）
  - ・卒後教育（研修医、看護師、地域医療者など） 6コース、170回（鏡視下手術トレーニングなど）
- (2) コンピュータ試験の支援
- 医学教育研究室木村直史教授を責任者として、医学科5年生「総括試験」、医学科2年生「総合試験」、など医学科で8回、看護学科科目横断試験で1回、計9回のコンピュータ試験実施の支援を行った。
- (3) クリッカーを活用した授業等の支援
- クリッカーの運用・管理、利用者への支援を行った。学生、大学院の授業や医師、看護師の勉強会等で計16回利用され、利用者数は計1619名であった。
- 6) 地域医療者教育プログラム
- 地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島雅人教授(臨床疫学研究室・教育センター)を責任者として実施した。
- 平成23年度生・受講生14名、平成24年度生・受講生24名、平成25年度生・受講生24名を受講生として、講義(eラーニング)を6コース、ワークショップを5回実施した。
- 7) 市民ボランティア「あけぼの会」の設置と授業参加
- 平成24年度より、学生、医師、看護師等への本学らしい医療者教育の拡充を目的に、一般市民ボランティア「あけぼの会」を組織し活動を開始した。この組織は、現在、医学科・看護学科の授業(演習、実習)で実践している市民参加型コミュニケーション教育や、医療面接教育への支援を主としている。平成25年度の活動は、昨年参加した国領校キャンパスでの医学科・看護学科共習授業「医療総論演習」のグループ討論に加え、西新橋校での医学科3年、4年次の医学総論演習の授業への参加・見学を行った。あけぼの会は、原則、職員OBおよび現職員で

構成しており、2ヶ月に1回のペースで例会(勉強会)を開催している。なお、平成26年3月31日現在の会員数は、25名である。

(1) 例会(勉強会)

第1回例会 平成25年4月13日(土) 10:30~12:00

第2回例会 平成25年6月8日(土) 10:30~12:00

第3回例会 平成25年9月28日(土) 10:30~12:00

第4回例会 平成25年10月26日(土) 10:00~12:00

第5回例会 平成26年2月22日(土) 10:30~12:00

(2) 授業への参加・見学

医学総論Ⅲ演習(西新橋校)医学科4年 6月7日(金)14:40~16:10 ※見学

医学総論Ⅳ演習(西新橋校)医学科3年 6月10日(月)13:40~15:00

医療総論Ⅰ演習(国領校キャンパス)

医学科・看護学科1年 11月13日(火) 13:00~14:30

医療総論Ⅰ演習(国領校キャンパス)

医学科・看護学科1年 11月27日(火) 13:00~14:30

8) テレビ会議システムの利用支援

4機関合同の教育・研修活動の支援として、テレビ会議運営委員会を主管し、4機関を接続したテレビ会議システムの使用を支援し、年間12回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は学長就任式、4病院合同セーフティーマネジメント、成医会、災害対策会議などであった。

9) アウトリーチ活動推進委員会

大学の社会貢献の一環として、研究成果の小中高校への還元を主な活動としたアウトリーチ活動推進委員会を設置し(平成25年11月1日付)、活動を開始した。

## 8. その他

### 1) 成医会

(1) 第130回成医会総会は、平成25年10月10日(木)・11日(金)の2日間にわたって開催された。

#### ① 特別講演

森川 利昭 教授(呼吸器外科)

「胸腔鏡手術の最適化について」

丸毛 啓史 教授(整形外科科学講座)

「骨・関節疾患に対する三次元的アプローチ」

#### ② 宿題報告

村山 雄一 教授(脳神経外科学講座)

「本邦における医療機器開発の現状と課題」

中村 真理子 准教授(教育センター)

「卒業生アンケートによる慈恵医大の教育質保証についての考察」

貞岡 俊一 准教授(放射線医学講座)

「ミリプラチンの血清中へのプラチナ移行変化の基礎実験」

波多野 篤 准教授(耳鼻咽喉科学講座)

「形態と機能を考慮した頭頸部癌手術」

#### ③ シンポジウム

「脳卒中診療の最前線」

司会 小川 武希(救急医学講座)

##### 1. 脳卒中に対する救急医療～どうあるべきか～

奥野 憲司(救急医学講座)

##### 2. 本邦初の統括脳卒中センター“慈恵ハ脳ヲ守ル”

井口 保之(神経内科)

##### 3. 脳梗塞診断・治療への工学技術の応用

横山 昌幸(医用エンジニアリング研究室)

##### 4. 脳卒中に対する血管内治療

村山 雄一(脳神経外科学講座)

##### 5. 脳卒中患者の急性期管理とコスト

瀧浪 将典(集中治療部)

##### 6. 脳卒中後遺症に対するボツリヌス毒素治療

安保 雅博(リハビリテーション医学講座)

#### ④ パネルディスカッション

「本学における臨床教育改革—課題と展望」

司会 宇都宮 一典(糖尿病・代謝・内分泌内科)

柳澤 裕之(環境保健医学講座)

##### 1. 臨床実習改革の骨子

宇都宮 一典(糖尿病・代謝・内分泌内科)

##### 2. 見学型実習と集合教育の構成と目標

岡崎 史子(教育センター)

##### 3. クリニカルクラークシップの構成と目標

川村 哲也(臨床研修センター)

##### 4. クリニカルクラークシップの実践と課題

・内科の立場から 井口 保之(神経内科)

・外科の立場から 大木 隆生(血管外科)

・精神医学の立場から 小野 和哉(精神医学講座)

## 5. 総合討論

- (2) 第1259回成医会例会は、平成26年2月18日（火）に行われ「仕事の現場で、気持ちが伝わる英語のキーワード」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、相羽恵介（成医会運営委員長）が務め、日本通訳サービス代表、NHK「入門ビジネス英語」講師である関谷英里子氏が講演し、最後に松藤千弥成医会会長（学長）が総括を行った。
- (3) 第131回成医会総会については、平成26年10月9日（木）、10日（金）の2日間にわたって開催の予定。

## 2) 各種行事

- (1) 平成25年4月4日（木）、平成25年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。
- (2) 平成25年7月31日（水）～8月2日（金）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より始められ、今回で39回目となる。
- (3) 平成25年10月5日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (4) 平成25年10月12日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成25年10月19日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭38年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成25年10月28日（月）、第109回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成26年1月31日（金）、景山茂教授、杉崎正志教授、清水光行教授、上出良一教授、本田まりこ教授、落合和徳教授、原田潤太教授、又井一雄教授、加藤孝邦教授、小山勉教授、高木一郎教授、福山隆夫教授を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成26年2月24日（月）、献体者遺族に対して文部科学大臣よりの感謝状伝達式を執り行った。
- (9) 平成26年3月7日（金）、第89回医学科、第19回看護学科卒業式を挙行了した。

## 3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」
  - 1) 平成25年7月に「The JIKEI 21号」を発行した。  
特集記事は「新体制にスタートにあたって」とし、松藤学長、丸毛附属病院長の抱負を掲載した。
  - 2) 平成26年1月に「The JIKEI 22号」を発行した。  
特集記事は「さらに動き出す本学における臨床教育改革」とし、「本学における臨床教育改革の展望と課題」、「本学における卒前・卒後臨床教育改革について」、「大学改革支援事業と本学の医学教育改革」を掲載した。  
同窓、医学部父兄、記念事業募金寄付者、教職員、医療連携病院などに送付した。
- (2) 慈恵ニュース  
平成25年7月に「193号」、平成26年1月に「194号」を発行した。  
その他、号外として平成25年6月に「春季団体交渉結果」、平成25年7月に「学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成25年度事業計画」を発行し、教職員に配布した。
- (3) 大学ガイド  
平成25年5月に医学部入試案内として「大学ガイドブック2014」を発行した。
- (4) 大学入試ポスター  
平成25年5月にオープンキャンパス並びに入試日程に関わる「大学入試ポスター」を医学科・看護学科別に発行した。  
高等学校、予備校等をはじめ、同窓会長、支部長、学術連絡委員に送付した。
- (5) 大学院ガイド
  - 1) 平成25年5月に「大学院看護学専攻修士課程の受験に関するインフォメーション・大学院ガイド」を発行した。

- 2) 平成25年7月に「大学院ガイド・募集要項（博士課程）」を発行した。
  - 3) 平成25年11月に「大学院二次募集要項（博士課程）」を発行した。
- (6) 大学公報  
毎月発行（年12回）した。
- (7) 大学ホームページ
- 1) 平成25年4月に3看護専門学校合同のオープンキャンパス申込フォーム(cgi)を掲載した。
  - 2) 平成25年7月より、各附属病院診療部門にて診療医長以上の採用・退職・異動に伴うスタッフ欄のメンテナンスを開始した。
  - 3) 平成25年12月に未来医療研究人材養成拠点形成事業に関するページを新規掲載した。
  - 4) 平成26年2月に医学科・看護学科入試開始時間（定刻・遅延）のお知らせを入試日の朝（状況により随時）に掲載することとした。
  - 5) 平成26年3月末に附属病院（本院）ホームページのリニューアルにおける作業を完了した。（4/1掲載）  
ホームページを利用した情報収集が一般化し、大学ホームページへの総訪問者数及び訪問回数は年々増加傾向にある。平成25年度のホームページ新規作成及び更新依頼は約500件あったが、関連部署ならびに関連委員会と連携してホームページ掲載内容の充実を図るとともに、常に最新情報を遅滞なく掲載するよう努めた。
- (8) イン트라ネット  
「理事長・学長室」、「行事予定」、「大学公示」、「理事会・教授会議抄録」、「事業計画・事業報告書」「教職員アンケート」「学内使用の各種書式」等の更新業務を担当した。イントラネットは、各部署にて更新した情報が掲載されており、学内での情報共有の有効な手段として活用した。
- (9) オールユーザーメールの活用  
講演会、研修会等の開催のほか、教職員のテレビ・ラジオ・講演会等への出演や新聞・雑誌等への掲載情報を主として、平成25年度は446件のオールユーザーメールを発信した。

## 〔付〕 1. 平成25年度 事業計画に対する実施結果一覧

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果	
<b>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</b> <b>1. 教育に関する目標</b> <b>(1) 教育に関する目標</b> <b>(医学科・看護学科)</b>  <b>○卒前教育</b> <b>①初年次教育を改善する。</b>	<b>教育理念・教育目標を再構築</b> <b>・教育内容公開数</b> H25：1 H26：1 <b>・連携大学数</b> H25：11 H26：13  <b>・留学生の受入数</b> H25：43 H26：50	(医学科) 3年間のFD（初年次）活動の成果をふまえ、6年一貫教育の中における初年次教育の充実を図る。また、アドバイザー教員による、入学生個々の生活指導の機会を強化する。	(医学科) 1. 総合教育での人文科学、社会科学の開講数を増加した。 2. スタートアップ宿泊研修等において、学習の進め方等について指導した。 3. 医学科達成指針の作成に主点をおいたため、当該FDは実施しなかった。	
		(看護学科) スタートアップ宿泊研修および看護総合演習Ⅰの内容について点検評価を行う。	(看護学科) スタートアップ宿泊研修および看護総合演習Ⅰの内容について点検評価を行った。	
	<b>②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。</b>	<b>・臨床実習週(時間)数</b> (医学科) H25：60週 H26：60週 (看護学科) H25：13,361時間 H26：13,360時間	(学事課) 1. 国際基準に対応した医学教育認証取得に向けた準備を行う。 2. 卒業時アウトカムを策定する。	1. 平成26年6月の国際認証外部評価を受審に向けて自己点検報告書を作成した。 2. 医学科達成指針（卒業時アウトカム）を作成し、次年度のシラバス・大学ガイドに掲載した。
	<b>③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切り替える。</b>	(看護学科) H25：13,361時間 H26：13,360時間	(医学科) 知識の展開力を測定する評価方法を工夫する。 (看護学科) 21年度・24年度改正カリキュラムの実施と評価を行う。	(医学科) 2～3年生の総合試験において、MCQ問題と論述問題の割合を同一にし口頭試験の評価を重視する形式に変更した。 (看護学科) 1. 平成21年度カリキュラムに沿って卒業生を評価した。 2. 平成24年度改正カリキュラムを3月に実施した。
	<b>④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。</b>	<b>・看護学科受験生500名以上</b> (医学科) H25：2,574名 H26：2,600名 (看護学科) H25：574名 H26：550名	(学事課) 臨床実習GP実施計画に基づき、平成27年度から新カリキュラムに移行できるよう準備をすすめる。	1. 附属4病院の診療部長会議にて実施計画案を説明した。 2. ログブック・実習予定(案)を作成した。 3. 新カリキュラムにおける試験実施計画案の概略を決定した。
	<b>⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。教育内容の公開を促進する。</b>	<b>・医師・看護師・保健師国家試験合格率</b> (医学科合計) H25：95.3% H26：100% (新卒) H25：97.1% H26：100% (看護師) H25：100% H26：100% (保健師) H25：97.6% H26：100%	(医学科) 既出問題DBを活用した自己主導型学習システムを構築し、学生の能力特性に応じた教育を実施する。 (教育センター) 過去問DBを活用した自己主導型学習システムを構築し、学生の能力特性に応じた教育を実施する。	(医学科・教育センター) 自己主導型学習システム（SeDLES）の運用を開始し、過去問題の学習と5～6年生のオリエンテーションの補講に利用した。
<b>⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。</b>	(看護学科) H25：100% H26：100% (保健師) H25：97.6% H26：100%	(看護学科) 学生のe-portfolioを軌道に乗せ、システムを有効に活用する体制を整える。 (教育センター) 1. 市民参加型教育を推進し、2回の授業で実践し、学生一人ひとりの他者理解力の向上を図る。 2. 授業へのIT導入とTBLの普及を図る。クリッカーを活用し3回の授業で実践する。	(看護学科) 1. 1年生は、看護総合演習Ⅰにおいてe-portfolioを用いた学習を開始した。 2. 2年生以上は、学習成果物のやりとり機能を活用した学習を開始した。 (医学科・教育センター) 1. 医学科1年、看護学科1年共修科目の医学総論演習の授業を2回実施した。 2. 医学科授業においてクリッカー活用授業を4回行った。 (教育センター) 医学科、看護学科授業において、1年共修科目の医学総論演習授業を含め、クリッカー活用授業を10回行った。	

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
⑦卒前教育における大学間連携を推進する。		(学事課) 4大学間での学生教育交流会やSD研修、首都大学東京からの特別科目等履修生の受け入れを行い、継続的に大学間連携を行う。	1. 4大学学生教育交流会を2回、4大学SD研修・ワークショップを各1回開催した。 2. 首都大学東京より7名の特別科目等履修生を受け入れ、単位を認定した。
⑧学習記録と連携させた評価システムを構築する。コンピュータ試験を積極的に導入する。		(医学科) 1. e-ラーニングシステムによる学習履歴を構築する。 2. コンピュータ試験を医学科4回、看護学科2回実施する。 (看護学科) 科目横断試験を軌道に乗せ、有効に活用する体制を整える。 (教育センター) 1. e-ラーニングシステムによる学習履歴を構築する。 2. コンピュータ試験を医学科4回、看護学科2回実施する。	(医学科) コンピュータ試験を前期、後期共に3回実施した。  (看護学科) 1. 2、3年生を対象に科目横断試験を4月に実施した。 2. 次年度の科目横断試験の概要を検討し、提出された作問の確認作業を行った。 (教育センター) 1. e-ラーニングシステムによる学習履歴を構築し、4月の学生教育に活用した。 2. コンピュータ試験を医学科7回、看護学科2回実施した
⑨医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の外国留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受け入れる。		(医学科) 外国語教育とGlobal Health教育、海外留学の連携を図り、国際的に活躍できる医師を養成する。 (看護学科) 夏季休暇もしくは春季休暇を利用した短期留学を検討する。	(医学科) 1. 医学英語教育検討WGを発足させ、国外で活躍できる人材育成のための教育手法を検討し、英語教育の重要性をユニットオリエンテーションで説明した。 2. 国際交流委員会主導で、日本学生支援機構の海外留学支援制度に応募し採択された。 (看護学科) 1. 春期休暇を利用した短期留学の具体案として、海外医療機関における看護体験研修を企画した。 2. これまでの実績を継承できるよう環境整備を行った。
⑩学生の国家試験準備への支援体制を整備する。		(医学科) 1. プールした医師国家試験問題や学内試験問題をDB化し、学生の自己学習環境を整備する。 2. グループ学習を支援する。 (看護学科) 模擬試験を計画的に行い、成績が思わしくない科目と学生を中心に補習を実施する。 (教育センター) 医師国家試験問題をDB化し、学生の自己学習環境を整備する。	(医学科) 1. 平成15年度以降の医師国家試験過去問題が利用できる自己主導型学習システム(SeDLES)を導入した。 2. 国試留年者に対して模試受験料の補助を行った。 (看護学科) 模試6回、外部講師による講座1回、教員による補講4回を計画的に行った。また、成績不良学生には個別面談を行い、指導を行った。 (教育センター) 平成25年2月に行われた医師国家試験の問題入力およびDB化を平成25年6月に完了した。
⑪入学試験方法を継続的に改善する。		(医学科) 地域枠の選抜方法を検討する。 (看護学科) 1. 受験生および入学生にアンケートを実施し、その結果を踏まえた対策を検討する。 2. 二次試験(面接)の方法を検討する。	(医学科) 全国5ブロックの地域枠制度について入試検討委員会にて検討を開始した。 (看護学科) 1. 看護師国家試験模試2回、保健師国家試験模試1回を行い、成績不良者に面談指導を行った。 2. 模試5回、業者、内部教員による対策、補講を5回実施し、12月、1月に成績不良者に面談を実施した。
⑫教養教育の高学年への拡充を図る。医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。		(医学科) 高学年における医学科生と看護学科生との共修授業を導入する。 (看護学科) 臨地実習が終了した学年の倫理教育を充実させる。	(医学科) 医学科5年生と看護学科4年生合同で、倫理に関するワークショップを新たに開催した。 (看護学科) 臨地実習終了後、4年生と医学科5年生の共修で、医療倫理に関する講演、SPを交えたロールプレイを1日実施し、充実させた。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
⑬選択制カリキュラムの充実を図る。 臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。		(医学科) MD-PhDコースの導入に向けて検討する。  (看護学科) 4年後期の実習に関連する選択科目の内容を充実させる。	(医学科) 1. カリキュラム委員会にて、MD-phDコースの導入に向けた検討を開始した。 2. 1年生教養ゼミにグローバルヘルスを導入した。  (看護学科) 4年生の実習終了後の選択科目に演習を取り入れ、内容を充実させた。
⑭広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。		(看護学科) 1. オープンキャンパスを年3回開催する。 2. 高校訪問や大学説明会、模擬授業を積極的に行う。 (広報課) 看護学科と連携しホームページにオープンキャンパス、入試日程等受験生が必要とする基本情報を随時掲載する。	(看護学科) 1. オープンキャンパス2回、ミニオープンキャンパス1回(慈恵祭同時開催)を開催し、参加者数は前年度とほぼ同じであった。 2. 予備校説明会、高校模擬授業、各種広報セミナーに積極的に参加した。 (広報課) 入試事務室からのホームページ更新依頼に基づき、随時更新を行った。
⑮総合診療医育成のため教育体制を構築する。		(医学科) 総合診療医育成のためのカリキュラムを検討する。	(医学科) 1. 未来医療研究人材事業WGを発足し、総合診療育成のためのカリキュラムの検討を開始した。 2. 総合診療文部科学省GP「未来医療研究人材養成拠点形成事業」(総診GP)に応募し採択された。
○大学院教育 ①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	臨床を支える研究の推進 高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者育成 ・改訂プログラム数 H25: 2件 H26: 2件	(学事課) 1. がん治療医療人コースを開始する。 2. e-ラーニング環境を充実させる。	(博士課程・修士課程) がん治療医療人コースを開始し、ワークショップおよび公開講義を実施した。 (博士課程) 1. 共通カリキュラムの臨床疫学コースにe-ラーニングを導入した。 2. 医の倫理にCITI-Japanによるe-ラーニングを組み入れて実施した。
②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	・大学院生数 H25: 133名 H26: 135名  ・学位授与数 H25: 62名 H26: 64名	(学事課) 1. 他大学と連携した質の高いプログラムの導入を検討する。 2. 研究支援関連委員会との連携を図る。	1. がん治療医療人コースを開始し、4大学(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、各大学の専門性を活かした人材育成のためのワークショップを開催し、がん医療人コースの公開講義を14コマ実施した。 2. 臨床講座に所属する教員と基礎医学に所属する教員の共同研究で、次年度の科研費などの外部競争的研究資金を獲得することを目的に萌芽的共同研究推進費を新設した。
③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	・学位論文のインパクトファクター H25: 3.55 (平均) H26: 3.75 (平均)	(学事課) 大学院生のニーズを調査し、共通プログラムに反映させる。	共通カリキュラム終了後のアンケート調査や院生と大学院教員との意見交換会を開催し、学生の意見を聴取してフィードバックした。
④社会人入学の推進を図る。		(学事課) 社会人大学院生が研究しやすい環境を整備する。 1. イン트라ネットのコンテンツを充実させる。 2. 社会人向けの選択コースを拡大する。	1. イン트라ネットに大学院のホームページを立ち上げ、大学院に関連した最新情報を常時閲覧できるようにした。 2. CITI-Japanによるe-ラーニングを組み入れ、社会人や大学院生が学習しやすい環境を整備した。
⑤看護学専攻修士課程における「教育・研究」を改善し質を高める。		(学事課) 大学院生の学会参加、発表を支援する。	院生指導上、上半期に学会参加の必要性がなく、学会参加と発表は数件程度であった。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
⑥大学院生からの大学院カリキュラム(共通カリキュラム・選択カリキュラム)評価を定期的実施する。		(学事課) 大学院生が行うカリキュラム評価を継続して行い、大学院委員会にフィードバックする。	各科目終了時に院生と教員による話し合いと授業評価を行った結果、次年度科目担当教員の変更について大学院委員会で検討し実施することを確認した。
⑦大学院生の論文作成状況を適切にモニターする。		(学事課) 毎年度、大学院生の研究活動状況調査を行う。	年度末に大学院生全員の研究活動状況を調査した。
○卒業教育 ①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。	毎年の改善と公開 ・レジデント応募者数、採用数 (応募数) H25：172名 H26：180名  (採用数) H25：153名 H26：155名	(臨床研修センター) 指導医講習会ワークショップを通じて指導体制の充実を図り、指導医講習会記録の発刊を行う。  (教育センター) 患者安全シミュレーション教育等を年8回行う。	(臨床研修センター) 1. 初期臨床研修医の適正指導、初期臨床研修制度に対する大学の現状と問題点の把握、研修カリキュラムを立案する能力の習得を目的に、指導医講習会を8月9日(金)～10日(土)に開催し43名が参加した。 2. 指導医講習会記録を作成し関係者に配布した。 (教育センター) 患者安全シミュレーション教育などを6回行った。
②専門習得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。	・医師臨床研修マッチングによる定員充足率 H25：91% H26：100%	(臨床研修センター) レジデント委員会を通じ各科プログラムを見直し。  (教育センター) 心停止予防および臨床指導者養成シミュレーション教育等を年8回行う。	(臨床研修センター) 1. 初期臨床研修医の適正指導、初期臨床研修制度に対する大学の現状と問題点の把握、研修カリキュラムを立案する能力の習得を目的に、指導医講習会を8月9日(金)～10日(土)に開催し43名が参加した。 2. 講習会記録は12月中旬に配布した。 (教育センター) 心停止予防および臨床指導者養成シミュレーション教育などを6回行った。
③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。		(教育センター) 1. ICLS指導者講習会等を年10回行う。 2. 看護臨床技能の生涯学習e-ラーニングについて8部署で検討する。 3. 附属4病院の看護実践力向上のための段階的研修を3回開催する。	1. ICLS指導者講習会などを行った。 2. ナーシングスキル日本版を看護学科、看護専門学校、附属病院看護部などの5部署で導入し、授業、研修、自己学習を推進した。 3. 附属4病院看護部職員に対するエデュケーションナース研修(54名参加)、看護監督者研修(29名)、看護管理者研修(26名)を実施した。
(2) 教育の実施体制等に關する目標 ①効果的な教育ができるように、講義室やICT環境を含む教育設備を整備する。	整備する教育環境数 ・eラーニング実施数 H25：279件 H26：280件  ・シミュレーション教育施設利用数 H25：659回 H26：700回  FDの内容 ・クリニカル・クラークシップ指導医養成FDの実施 教員評価制度の運用	(学事課) 1. シミュレーション教育の環境を整備し、有効に活用する。 2. WiFi等の通信環境を整備する。  (教育センター) 1. PC、スマートフォンを使用したe-ラーニング環境を整備する。 2. シミュレーション教育環境について3機関の整備を推進する。	(学事課) 1. 医学科1年生救急蘇生実習および4年生基本的臨床技能実習にて使用するシミュレーション機器を更新した。 2. 大学1号館8階演習室および管理棟1～2階にWiFi環境を整備した。 (教育センター) 1. e-ラーニングシステム「Moodle」を導入し、医学科29回、看護学科23回、大学院53回、卒業教育など174回、計279回のe-ラーニングを実施した。 2. シミュレーション教育施設にてシミュレータなどを整備すると共に、葛飾医療センターでの運用を本格稼働した結果、利用件数は西新橋502件、国領(第三)70件、葛飾87件、計659件となった。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
②カリキュラムに見合った、教員の適正配置と教員数を検討する。		(教員・医師人事室) 教員・医師人事室にて関連部署と協力しながら適切な人数を設定する。	教員・医師人事室の提案をもとに丸毛院長と綿密な打ち合わせを行い、次年度の医師定数を決定した。
③教育能力向上のための教育研修を実施する。		(医学科) 医学教育セミナーを企画し実施する。臨床系教員のうち臨床実習指導医養成FDの受講者数を50%にする。 (看護学科) 1. 医学科、修士課程との合同のFDを組み入れる。 2. 看護部と合同で臨床スタッフの実習指導者研修会を開催する。 (総務課) 月例セミナーを年8回、夏季セミナーを年1回実施する。 (教育センター) 医学教育セミナーを企画し実施する。	(医学科) 1. カリキュラム特別検討会を2回開催した。 2. 臨床実習指導医養成FDに47名(実行委員合)が受講し、累計の受講者数は175名となった。 (看護学科) 1. 修士課程との合同FD「看護診断と実践」を9月7日(土)に実施した。 2. 看護学科FD「シミュレーション教育」を8月5日(月)に実施した。 (総務課) 生涯学習センター主催の月例セミナーを8回、夏季セミナーを8月に1回開催した。 (医学科・教育センター) キングス大学から講師を招聘し、医学教育セミナーを平成26年2月に開催した。
④診療参加型臨床実習の拡充のため、臨床実習指導医のFDを充実させる。		(医学科) クリニカル・クラークシップ指導医養成FDを継続実施するとともに、レジデントなど若手教員向けのFD開催を検討する。	クリニカル・クラークシップ指導医養成FDを10月26日(土)に開催し、47名が参加した。
⑤教育アドバイザーを導入する。		(学事課・教育センター) 教育アドバイザー導入について、外部機関と2回の会合を行う。	1. 成医会において、教学委員長より臨床実習拡充に伴う教育アドバイザー導入の趣旨説明が行われた。 2. 教育アドバイザーの候補者と教育センター長との会合を1回行い、次年度の導入について話し合った。
⑥臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。		(医学科) 学外の病院に臨床実習の協力を依頼する。 (看護学科) 実習を受けている外部施設のスタッフを対象にFDや公開講座を開催する。 (教育センター) 学外の3病院に臨床実習の協力を依頼する。	(学事課・教育センター) 1. 学外の1病院に臨床実習の協力を依頼した。 2. 平成28年度からの本格的な診療参加型臨床実習開始に向け、学外の協力病院等で指導医となる後期研修医1年目に対する臨床実習FDを行った。
⑦教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。		(教員・医師人事室) 関連部門による業績入力を100%行い、教員本人による個別入力も促進した上で教員・医師の昇格審査に活用する。	1. 関連部門による前年度の業績入力は100%完了した。 2. 教員による個別入力は、専門医資格登録を補佐できるシステム確立に向けた準備を進めた。
<b>(3) 学生への支援に関する目標</b>			
①学生支援のための教員組織を再構築する。	奨学金制度の充実 ・学生のニーズに応じた奨学金の支給  メンタルヘルス教育の充実  ・医学教育セミナーの開催数 H25:1回 H26:2回	(医学科) 学生生活アドバイザー制度を拡充する。 (看護学科) 1. 学生生活アドバイザーへのアンケート調査を実施する。 2. 学生委員会とアドバイザーの情報交換会を年2回開催する。	(医学科) 学生生活アドバイザーとは別の組織として、学生部長を中心した学生を支援するネットワークを構築した。 (看護学科) 1. 今年度より学生委員会の学年担当とアドバイザー合同で活動を行い、効果を上げた。 2. 今年度末に、学生生活アドバイザーに関するアンケート調査を実施した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
②学力および経済的に問題のある学生に対応する体制を改善する。		(医学科) 問題のある学生を早期に指導・相談できる体制を構築する。  (看護学科) 学年担当の教学委員と学生委員の合同会議を定期的に開催する。	(医学科) 学生部長を中心とした学生支援ネットワークを生かし、問題を抱える学生を早期に発見し、学生部長、教学委員長中心に対応した。 (看護学科) 教学委員長と学生委員長、学年担当で適宜会議を開催し、共働で学生の対応および指導を行った。
③奨学金制度を充実させる。		(医学科) 新設される慈恵医師会奨学金(海外選択実習奨学金)を円滑運用させる。	慈恵医師会奨学金(海外選択実習奨学金)を5年生11名を対象に計150万円支給した。
④精神的支援を必要とする学生のための支援システムを構築する。		(医学科) 学生相談室と精神神経科教員、学年担当教学委員との連絡体制を構築する。 (看護学科) 学生保健担当委員による健康相談窓口(2回/月)を継続して開催する。	(医学科) 学生相談室、精神神経科、学事課との間で連携が図れるよう月1回の連絡会を開催し、必要に応じて学年担当教学委員、学生部長、教学委員長へフィードバックした。 (看護学科) 新学期(4、5、6月)の期間に、学生の健康相談を実施した。メンタルに問題のある学生に対し面談し、必要があれば医療機関の受診をすすめた。
⑤メンタルヘルスの教育を拡充する。		(医学科) メンタルヘルスに関する医学教育セミナーを開催する。  (看護学科) 近隣大学とメンタルヘルスに関する合同シンポジウム等の開催を検討する。	(医学科) 1. 精神神経科の協力により、春期父兄会総会時にメンタルヘルスについて講演した。 2. 精神神経科より、医学教育セミナー開催の案が提出され、次年度開催に向け検討した。 (看護学科) 近隣大学が参加する多摩未来創造フォーラムに参加し、意見交換を行うなど情報収集を行った。
<b>(4) 看護専門学校に関する目標</b>			
①看護実践を重視した看護教育を行う。	<b>教育の向上 ・臨床実習の充実 国家試験合格率</b> (新橋校) H25:95名(100%) H26:100% (第三校) H25:56名(100%) H26:100%	(看護専門学校) 1. 卒業時看護実践能力の調査の実施 2. 実施自己点検自己評価の推進	1. 卒業時の看護実践能力調査を実施した結果、看護師に必要な実践能力は概ね自信を持ち卒業していることを把握した。(新橋校のみ実施) 2. 卒業時看護技術到達度は前年度より向上した。 3. 自己点検、自己評価推進のために、授業評価を各校で実施した。
②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	(柏校) H25:78名 (既卒1名含) (96.3%) H26:100% (3校平均) H25:98.7% H26:100%	(看護専門学校) 臨地実習場所の確保	1. 各校が、附属4病院の活用を踏まえた臨地実習を実施した。 2. 助産院、グループホーム、訪問看護ステーション、精神看護など社会情勢に応じた多様な実習場所を開拓した。
③学生生活支援を積極的に行う。		(看護専門学校) 1. 柏看護へのスクールカウンセラーの導入 2. 休学者数の減少 科目未履修者は定員の2割以内 3. ホームページの充実・説明会・オープンキャンパスの推進 4. 学内より定期的に看護教員養成課程への派遣	1. 柏看護専門学校の学生相談室を1月に開設した。 2. 休学者数は減少した。 3. 科目未履修者数は2割以内に留まった。
④学生確保のために積極的な広報活動を行う。	<b>附属病院への就職者率</b> (新橋校) H25:97.8% H26:90%以上 (第三校) H25:90.9% H26:90%以上 (柏校) H25:84% H26:90%以上 (3校平均) H25:91.5% H26:90%以上	(広報課) 看護専門学校と連携しホームページの充実を図る。	(看護専門学校) 1. 3校とも入学予定者は定員を確保できた。 2. 柏看護専門学校に男子学生7名が入学した。 (広報課) 1. 各校のホームページを遅滞なく更新した。 2. 各校合格者の発表も確実かつ定時に掲載した。 3. ホームページアクセス数をカウントし、必要な情報を関係者に提供した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平成 25 年度 実施 結果
⑤看護教員の確保に努める。			1. 新橋校教員定数19に対して18名であり、未充足となっている。 2. 本院看護部、柏病院看護部より東京都看護教員養成研修に2名、国内留学として派遣した。
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準および研究成果に関する目標			
①研究業績を把握し評価する。	研究水準の向上 ・文部科学省科学研究費補助金採択件数 H25:146件 H26:156件	(学事課) 研究科教授の研究業績を再評価するため研究科教授(但し平成20年に任用された教授)から過去5年間分の業績を評価する。	平成20年度に任命された教授の評価を実施する準備を行い、次年度より実施予定となった。
②教員の職位に応じた論文発表数の基準を設定し、評価する。	研究成果の向上 ・論文発表数 H25:1,291稿 H26:1,300稿	(学術情報センター) 1. 教員評価データベース管理委員会に参加し、業績(論文発表)の入力機能に関する問い合わせへの対応を担当し、問い合わせ内容を考慮して、システム機能の改善案をまとめる。 2. Read & Researchmap(R&R)の学内連絡部署を担当し、各種連絡についてR&Rと学内該当者との仲介をする。また、教員評価データベースからR&Rへのデータ転送手順とR&Rから教員評価データベースへのデータ転送手順を調査し、R&Rと教員評価データベースの連携方法の案をまとめる。 (看護学科) 研究報告会を充実させる。 (教員・医師人事室) 昇格審査時における各職の論文発表数の基準を設定する。	(学術情報センター) 1. 教員の評価に必要な業績データを入力している教員はごくわずかであり、教員の論文発表数の評価は極めて困難である。 2. 教員評価システム管理委員会にて入力促進の方法を話し合ったり、教員評価システムとresearchmap(旧Read)とのデータ共有機能の開発について検討したが、論文発表データの入力促進につながらなかった。 (教員・医師人事室) 画一的な基準の設定はあえて行っていないが、新学長の意向を踏まえた各職の概ねの基準は設定されており、これに基づき昇格審査が行われている。
③国際誌への投稿を推進し、支援する。論文執筆のためのFDを継続して行う。		(学術情報センター) 1. 講習会出席の機会を増やすために、大学院共通カリキュラムの時間以外にも講習会の開催を企画する。 2. 論文執筆に関する図書の一覧を作成する。 3. 論文執筆時に必要となるデータベース・文献管理システムの利用説明会を開催する。 4. プレゼンテーション資料作成の支援として、学内を対象として、各種プリントアウト、画像や動画の編集・プレゼンテーション資料への挿入の業務を実施する。 5. 国際誌の標準形式に準じた論文執筆の促進のため、医学論文書きかた講習会(大学院共通カリキュラム)を年間4回以上継続して開催する。	1. 大学院共通カリキュラム時間外の講習会については、日程と講師の調整が進まず実現できなかった。 2. 論文執筆時の参考となる図書の一覧を配付した。 3. 図書館では、論文執筆の際必要となるデータベース検索の支援として、「データベース講習会(データベース・文献管理システムの利用説明会)」を3回開催した。 4. 写真室では、論文にて必要となる各種画像データの加工、カラープリントなどの問い合わせや申込みに関わる業務を担当した。 5. 「医学論文書きかた講習会」(大学院共通カリキュラム)を4回開催した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
④ Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の改善・充実を図る。成医会の改善・充実を図る。		(学術情報センター) 1. 合同編集委員会での審議のための資料として、両誌の掲載記事の動向の分析、他大学発行雑誌との比較をまとめ、報告する。 2. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の合同編集委員会を年4回以上継続して開催し、両誌の改善・充実に向けた審議をする。 3. 両誌の内容をインターネットで参照できるように、掲載記事を本学の機関リポジトリに登録する。 (総務課) 成医会幹事・運営委員会にて、参加者の興味を起こさせるような講演テーマの検討を行う。	(学術情報センター) 1. 学術リポジトリに、東京慈恵会医科大学雑誌129巻6号分 137件、Jikeikai Medical Journal 61巻4号分 20件、教育・研究年報2011 74件、Research Activities 2011 74件、高木兼寛の医学V 18件登録した。 2. 学位規則の改正により、平成25年4月1日以降の博士論文をインターネット公開し、学位論文の学術リポジトリへの登録は47件であった。 3. 学術リポジトリの利用状況は、閲覧428,647件、ダウンロード585,325件であった。 (総務課) 成医会幹事・運営委員会にて、人間教育など様々な観点から興味をひくテーマを広く募集し、テーマを選定して実施した。
⑤ 若手研究者による競争的研究資金の獲得を支援する。		(研究支援課) 科研費申請のための書き方講習会を開催する。	大学院公開講義「研究費申請書の書き方」において、特に若手研究者を対象にした公的資金((独法)日本学術振興会特別研究員)応募申請のための講習会を2回開催した。
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標		(研究支援課) 1. 総合医科学研究センターの研究機器を共同利用して臨床研究を支援する。 2. 文科省「私大戦略的研究基盤形成支援事業」等の大型研究費を活用して臨床研究を推進する。 3. 臨床研究推進体制を再構築する。	1. 総合医科学研究センターの研究機器を集中管理し共同利用しやすくするなど、基礎・臨床研究を支援する体制に向けてセンターを改編する方針が決定し、移転計画を決定した。 2. 文科省「私大戦略的研究基盤形成支援事業」については、平成22年度1件、23年度1件、前年度2件が採択されたが、今年度においても新たな研究プロジェクト(研究課題名:痛みの苦痛緩和を目指した集学的脳医科学研究拠点)が採択され、本学の臨床研究を推進する研究基盤の形成に向けて活発に研究が実施されている。 3. 臨床研究支援センターの設立に向けた準備を始めた。
① 臨床研究支援体制を構築する。研究機器の運用効率を高める。 ② 薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室は臨床試験支援センターと連携し、臨床研究を推進する。	<b>研究実施体制の整備・毎年度4件の大型プロジェクト研究事業の採択数</b> H25:1件 H26:1件 <b>寄付講座設置数</b> H25:2講座 H26:2講座 <b>研究機器の運用効率を高める</b>	(研究支援課) 先端研究を推進するための学内共同研究の成立を支援する。	学内共同研究のシーズが生まれるよう学内研究費制度を見直し、臨床医学講座の研究者と基礎医学講座や総合医科学研究センターの研究者が共同で検索する研究費「東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費」を創設した。
③ 先端研究を推進する体制を作る。学内共同研究を推進し、支援する。		(研究支援課) 臨床応用を目指した基礎研究を推進する。	1. 文部科学省「私大戦略的研究基盤形成支援事業」に新たな研究プロジェクトが採択され、臨床応用を目指し基礎研究が推進された。 2. 総合医科学研究センターの組織改編に伴い、臨床医学研究所にトランスレーショナル研究を行う新部門を設置する準備を進めた。
④ トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。		(大学事務部・研究支援課) 寄付講座を維持し研究を推進する。	1. アレルギー学研究講座の設置期間が、平成27年度末まで再延長された。 2. 慢性腎臓病病態治療学講座が平成27年度末までの期間で新設された。
⑤ 寄付講座を振興する。			

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
(3) 総合医科学研究センターに関する目標  ①自己点検・評価を推進し外部評価を行い、組織を再構築する。  ②学内共同研究を企画・推進する。  ③各部署の特色ある研究を推進し、研究成果を積極的に開示する。	特色ある研究の推進 ・ 総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25:0回 H26:1回  ・ 学内共同研究数 H25:35件 H26:40件	(研究支援課) 総合医科学研究センター組織を評価し再構築する。	1. 「総合医科学研究センターあり方検討委員会」の答申を公表し、次年度からセンター組織を再構築することを決定した。 2. 研究支援部門の共用研究施設や実験動物研究施設の運営体制や学内ニーズなどの全学的なアンケート調査を行い結果を公表した。
		(研究支援課) 総合医科学研究センターを中心とした共同研究を推進する。	文部科学省「私大戦略的研究基盤形成支援事業」等大型研究費の獲得と共に学内共同研究が順調に実施された。
		(研究支援課) 定期的に研究成果の発表を行い各講座との共同研究を推進する。	総合医科学研究センターの組織改編に伴い研究発表会の開催は見合わせた。
(4) その他  ①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	情報公開による社会貢献 ・ 一般市民および地域医療者を対象とした公開講座を毎年20回開催 公開講座開催数 H25:37回 H26:37回	(教育センター) 大学および附属4病院において、年20回の公開講座を開催する。	大学7回、附属4病院30回で合計37回の公開講座を開催した。
3. 附属4病院に関する目標 (1) 附属4病院間の連携強化  ①附属4病院間の機能の有機的活用を図る。  (葛飾) ①葛飾医療センターにない診療科の診療及び治療の連携を強化する。 ②看護師の人事フローを流動化する。	4病院の特色分化を図る 数値目標は各病院で設定	(本院) 病病連携については、本院に配備された救急車を有効活用することにより推進する。  (葛飾医療センター) 1. 救急車両を有効利用し患者の搬送を円滑にする。 2. 看護師の4病院ローテーションを定期的実施する。  (第三病院) 診療科ごとに第三病院の地域性と特色を考慮した機能分化案を策定する。  (柏病院) 災害時参集情報を基に、参集可能機関での研修を定期的実施する。 (企画部) マスタープランの検討委員会で4病院の機能分化を検討する。	(本院) 1. 第2回救急車輻運管委員会を開催し、運用規程を見直した。 2. 運転手(搬送補助者も含む)の確保に関する検討を継続した。 3. 病院救急車を積極的に活用し、本院から各機関へ8件搬送した。  (葛飾医療センター) 1. 救急車輛による本院から葛飾医療センターへの搬送は1件であった。 2. 看護師のトレーディングプレイスを附属4病院間で実施した。  (第三病院) 1. 狛江市・調布市の教育委員会と連携を図り、小児アレルギー対応に関してエビベン講習会を実施、約2,000名の教育関係者に教育を行った。 2. 整形外科の診療体制については、股関節疾患、脊椎疾患、膝関節疾患、肘関節～手の外科を強化した。  (柏病院) 受入側の業務内容を調査する依頼書を作成中であり、職種選択等の具体的な作業には至っていない。 (企画部) 4病院の機能分化については、4病院院長・事務・看護部長会議において各病院の方向性などについて検討されたが、マスタープラン検討委員会での検討はされなかった。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
<p>(2) 医療安全・感染対策の推進</p> <p>①附属4病院間の連携強化と医療安全・感染対策管理体制の整備を図る。</p>	<p>医療安全・感染対策の推進数値目標等は各病院で設定</p> <p>・インシデント・アクシデント報告件数</p> <p>(本院) H25: 4,707件 H26: 4,800件</p> <p>(葛飾) H25: 1,490件 H26: 1,500件</p> <p>(第三) H25: 2,136件 H26: 2,500件</p> <p>(柏) H25: 2,044件 H26: 2,100件</p> <p>・インシデント・アクシデント報告職種別報告件数</p> <p>(本院) H25: 医師389件、 レジデント・ 研修医115件 看護師3,311件 薬剤師538件 放射線技師116件 栄養士31件 事務22件 その他185件</p>	<p>(医療安全管理部)</p> <p>附属4病院セーフティマネジメント委員会および4機関医療安全感染対策合同相互ラウンドによる連携強化を図る。</p>	<p>(医療安全)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 附属4病院の相互ラウンドや年間5回の附属4病院セーフティマネジメント会議を定期開催した。</li> <li>2. セーフティマネジメントシンボウムを附属4病院の合同企画として3回開催した。</li> <li>3. 各専門職（医療安全管理者、薬剤師、臨床工学技師、事務員）が定期的なミーティングを行い、情報共有と改善に向けての相互支援を継続した。</li> <li>4. 平成24年度に再構築した相互ラウンドの運用方法に則り、各病院の医療安全推進室の機能向上とセーフティマネジメントマニュアルを中心とした点検・評価を行った。</li> </ol> <p>(感染)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 附属4病院感染対策ベンチマークを継続実施した。</li> <li>2. 前年度に引き続きサイトビジットを実施し、組織体制のヒアリング、アウトブレイク事例の検討、ディスカッション等を行い情報共有および機能向上を図った。</li> <li>3. ICT: 1回/隔月、看護師: 1回/隔月、薬剤師: 1回/3ヶ月の頻度で附属4病院間のミーティングを開催し、各附属病院の発生事例などの情報共有を図った。</li> <li>4. 附属4病院ICTミーティングを隔月で開催し、ベストプラクティスを共有した。</li> </ol>
<p>②教職員の教育・研修を充実させ医療安全・感染対策に対する意識の向上を図る。</p>	<p>(葛飾) H25: 医師73件 研修医3件 看護師1,270件 薬剤師44件 放射線技師29件 栄養士11件 事務20件 その他40件</p> <p>(第三) H25: 医師143件 研修医26件 看護師1,828件 薬剤師29件 放射線技師22件 栄養士24件 事務11件 その他53件</p> <p>(柏) H25: 医師144件 研修医13件 看護師1,669件 薬剤師52件 放射線技師46件 栄養士12件 事務30件 その他78件</p> <p>・チーム医療構築WG参加者数</p>	<p>(医療安全管理部)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 附属4病院でチームステップスの推進を図るため、講義を含めた積極的な活動を行う。感染対策ベーシックコースの積極的活動の推進。</li> <li>2. e-ラーニングによる研修方法を検討する。</li> </ol>	<p>(医療安全)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全研修を計画的に開催した。</li> <li>2. 医療安全文化の更に醸成に対する取り組みとして、大学全体でTeam STEPPSに積極的に取り組み本院では、全職種対象にエッセンシャルコースを定期開催した</li> <li>3. 附属4病院全体へのTeam STEPPSの導入拡大を図るため、認定トレーナー研修を開催し、トレーナーを育成した。</li> <li>4. 米国で開催されたTeam STEPPSマスターコース研修会に教職員3名が参加し、指導者の養成に取り組んだ。</li> </ol> <p>(感染)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染対策ベーシックコースを開催し、感染対策の基礎教育を複数回繰り返し実施し、手指衛生指数を向上させた。</li> <li>2. クロスモニタリングをメインテーマにした教育を実施した。</li> <li>3. 医局会などの出張勉強会を開催した。</li> <li>4. ガフキーカンファレンスを初期臨床研修医の出席を必修として開催し、結核などの画像診断能力の向上に努めた。</li> </ol>
<p>③全国の私立医科大学病院の医療安全・感染対策推進活動に貢献する。</p>	<p>(本院) H25: 194名 H26: 200名</p> <p>(葛飾) H25: 55名 H26: 64名</p> <p>(第三) H25: 136名 H26: 140名</p> <p>(柏) H25: 152名 H26: 155名</p>	<p>(医療安全管理部)</p> <p>私大関係の事務局として相互ラウンド及びサイトビジット、各作業部会などの事業を推進する。</p>	<p>(医療安全)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成18年度より実施している都内私立大学病院間の相互ラウンドを継続して実施した。</li> <li>2. 都内私立大学病院医療安全連絡会議の事務局を継続して務め、ラウンド自己評価表など当院がリーダーシップを発揮して作成した。</li> <li>3. 北里大学病院との医療安全相互ラウンドを行った。</li> </ol> <p>(感染)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全国私立大学29大学が参加する私立大学感染対策協議会の事務局の責務を果たした。</li> <li>2. 他大学へのサイトビジット調査員や改善支援ラウンド時の調査員を担当した。</li> </ol>
<p>④システム工学の視点に立った医療安全システムの構築を図る。</p>		<p>(医療安全管理部)</p> <p>東京大学・早稲田大学との共同研究を推進する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東大・早大・慈恵共同研究を継続して行い。本院での「持参薬に関する取組」、「安全な中心静脈カテーテル挿入」を検討した。</li> <li>2. 共同研究の成果について日本医療・病院管理学会、医療の質・安全学会学術集会で発表した。</li> <li>3. 葛飾医療センターでの「慈恵標準構築プロジェクト（葛飾モデル）手術業務プロセス標準化について継続検討した。</li> </ol>

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
<b>(3) 先進医療の推進</b> ①患者ニーズに応える先進医療に取り組む。	<b>先進医療の推進</b> <b>数値目標等は各病院で設定</b> <b>先進医療の推進</b> <b>・先進医療の承認件数</b> (本院) H25：7件 H26：9件 (葛飾) H25：0件 H26：1件 (第三) H25：1件 H26：1件 (柏) H25：3件 H26：5件  <b>・先進医療の実施件数</b> (本院) H25：112件 H26：120件 (葛飾) H25：0件 H26：10件 (第三) H25：5件 H26：5件 (柏) H25：24件 H26：30件  <b>・新規先進医療承認件数</b> (本院) 承認数2件以上 H25：0件 H26：2件 ※H25の申請件数は2件 (葛飾) 新規導入 H25：0件 H26：1件 (第三) 年間1件以上 H25：0件 H26：1件 (柏) 年間1件以上 H25：新規0件 H26：1件	(本院) 患者ニーズに対応した先進医療を提供するため、診療部会議にて先進医療の周知を行い、新規先進医療の推進を図る。 (葛飾医療センター) 診療部に対する先進医療に関する啓蒙を行い新規の先進医療実施の可能性を確認する。 (第三病院) 各診療科からの要望に応えられるよう情報収集を行い、医療の質・技術向上に取組み患者ニーズに対応した先進医療を提供する。 (柏病院) 先進医療検討委員会において、定期的に先進医療承認医療技術を報告し、申請可能な技術を申請する。また、ホームページに実績を掲載し、患者への情報提供を行う。	(本院) 産婦人科に関わる先進医療審査委員会を1回開催し、新規医療技術の拡充を図った。  (葛飾医療センター) 診療部長宛てに先進医療に係る情報提供とアンケート調査を実施し、診療部会議で啓蒙した。  (第三病院) 先進医療承認件数を伸ばすことを目的に情報共有を行い認識を高めたが新規申請には至らなかった。  (柏病院) 外科、産婦人科の先進医療は継続しているが追加申請には至っていない。(乳癌に対する凍結療法は自由診療とする予定)

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
<p>(4) 患者サービス・医療連携の推進</p> <p>①患者中心の医療を円滑に推進する。</p>	<p>ボランティアサービスの充実 数値目標等は各病院で設定 地域医療連携強化 ・紹介率 ・逆紹介率</p>	<p>(患者支援・医療連携センター) 医療機関等への戸別訪問により患者の紹介、逆紹介を推進する。(療養型病院、回復期リハビリ病院、訪問看護ステーションならびに本学・学術連絡委員、支部長訪問など) (柏病院)</p> <p>1. 患者の入退院に対する不安を軽減して、安心して治療に臨め、切れ目のない医療を提供するためのPFMシステム(入退院のコーディネート・事前リスクの回避・社会資源の活用)の機能を強化する。</p> <p>2. 手術説明・術前指導・入院前オリエンテーション、退院調整支援を行う。</p>	<p>(患者支援・医療連携センター)</p> <p>1. 療養型、回復期リハビリ病院、訪問看護ステーションへの訪問は、上半期以降も継続的に実施した。</p> <p>2. 本学同窓の支部長訪問に関しては、5地区の新支部長訪問を実施した。</p> <p>(柏)</p> <p>1. グリーンカウンターにおいて外来診察だけでは確認できない患者の不安などを引き出し看護上の調整課題を入院病棟へ繋げ、切れ目のない看護を実践した</p> <p>2. グリーンカウンターにおける入院前面談を、全外科系患者と内科患者(消化器内科神経内科)まで拡充した。</p>
<p>②住民参加によるボランティアサービスの充実を図る。</p>	<p>(ボランティア事務局) 活動者の多い土曜日の業務内容を拡大する。</p> <p>(葛飾医療センター) 行政と連携し、広報や活動内容・場所を検討し、受入れ体制を強化する。</p> <p>(第三病院)</p> <p>1. 広報活動や活動場所を検討し、受入れ体制を強化する。</p> <p>2. 退職者を中心にボランティアの体制組織を構築する。</p> <p>3. 案内係ボランティア一日2名確保。</p> <p>(柏病院) 外来におけるボランティアサービスを週6日とする。</p>	<p>(ボランティア事務局)</p> <p>1. 一般病棟での活動を導入し、毎週土曜日、患者の話し相手やイベント等の活動に参加した。</p> <p>2. 今年度は70名新規に採用した。</p> <p>(葛飾医療センター) 夏期に2名のボランティアを採用した。</p> <p>(第三病院)</p> <p>1. ボランティア募集について、ホームページに掲出し、希望者から多数の問い合わせがあった。</p> <p>2. 今年度は6名のボランティアを採用した。</p> <p>3. 平成26年2月以降、1階の患者案内ボランティアに自動再来機の一部対応を開始した。今後自動精算機への対応を含めボランティアによる対応をの拡充を図る予定である。</p> <p>(柏病院) 平成26年1月に柏市社会福祉協議会と柏市福祉活動推進課にボランティア募集に関する登録を行った。現時点では応募者はいないが、数件の問合せがあった。</p>	
<p>③ICTを用いて地域医療連携を強化する。</p>	<p>(患者支援・医療連携センター) 同窓開業マップの作成と活用</p> <p>(柏病院)</p> <p>1. 地域医療機関と円滑な患者情報を提供・共有化し、4疾病・5大がんの全県共有地域連携パスを普及する。</p> <p>2. 連携機関・施設への訪問・調整、医療連携フォーラムの開催、広報活動の充実を図り、顔の見える関係を構築する。</p>	<p>(患者支援・医療連携センター) 同窓会ホームページの掲載により、学外からの閲覧が可能となり同窓の先生からの登録依頼が増加した。</p> <p>(柏)</p> <p>1. 胃がん、大腸がん、肝がん、子宮頸がん、前立腺がんの計22件のパスを実施した。</p> <p>2. 連携協力機関として、新たに15施設の訪問を行い連携強化に努めた。</p> <p>3. 連携登録医制度の見直しを図り、規程を改定した。</p> <p>4. 地域の医療機関との連携強化の取り組みとしてフォーラムを開催し、70施設計268名が参加した。</p>	

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
<p>(5) 効率的な医療の推進</p> <p>①附属4病院で効率的なDPC運用を図る。</p> <p>②職種間の効率的な協働体制を構築する。</p> <p>③科学的根拠に基づく医療の効率化を推進する。</p> <p>④患者にとって効率的な医療を実践する。</p>	<p><b>DPC 効率性指数の向上</b>  <b>数値目標等は各病院で設定</b>  <b>・平均在院日数の短縮</b>  (本院)  H25: 11.2日  H26: 11.0日  (葛飾)  H25: 10.4日  H26: 11.5日  (第三)  H25: 13.5日  H26: 13.0日  (柏)  H25: 12.6日  H26: 11~12日</p> <p><b>クリニカルパスの効率的運用</b>  <b>・クリニカルパス適応率</b>  (本院)  H25: 37.7%  H26: 40%  (葛飾)  H25: 47.9%  H26: 48%  (第三)  H25: 28.1%  H26: 28.5%  (柏)  H25: 37.9%  H26: 40%</p> <p><b>包括効果額 (原価率資料)</b>  (本院)  H25: 805,107,570円  (葛飾)  H25: 226,636,000円  (第三)  H25: 336,291,560円  (柏)  H25: 520,939,560円</p>	<p>(本院)  現行の診療内容(薬剤、特材、消耗品)を経済的な視点から検証し、医療の質を維持しつつコストを下げる改善案をクリパスを通じて改定する。材料費、薬品費の支出合計を1%削減(平成24年度実績ベース)</p> <p>(葛飾医療センター)  クリパスの活用を通して標準化を推進し医療の質と安全性、効率化と収益性を確保する。</p> <p>(第三病院)  クリパスWG等によるDPCに対応したクリニカルパスの導入により、標準化、安全と効率化を図る。クリニカルパスの導入、標準化、効率化により、平均在院日数を12日以内に短縮する。</p> <p>(柏病院)  1. 診療報酬改正による影響を踏まえ、減収症例の改善策をクリニカルパスに反映させる。  2. クリニカルパスの適応疾患を拡大し、ブラッシュアップにより精度を高める。</p>	<p>(本院)  1. 「抗菌薬使用ガイドライン」に添った投与日数に全クリパスを変更することはできなかった。  2. PFMを中心とした病床稼働効率向上に向けた取り組みを実践し、病床稼働率増加に繋げることができた。  3. クリニカルパス委員会で多職種の連携により、術後感染予防の抗生剤を統一する提案を行った。経済効果は次年度に反映する計画である。  4. 医療事務員、看護師及び医師の協力の基で、医師事務作業軽減に繋がる作業を拡大した。</p> <p>(葛飾医療センター)  1. クリニカルパスの拡大: クリニカルパス数4,780件、昨年比較+1,070件、適応率47.9%、昨年比+10.2ポイントの実績である。医療コンサルを活用し、効率性、収益性の観点から、クリニカルパスの前段階のマップに評価を加え、多数のクリニカルパスを成立させ成果を得た。  2. チーム医療の実践: 薬剤師の集中治療室常駐(午前)、健康診断業務の事務作業補助、臨床工学部の麻酔器の事前チェック、神経内科の介護保険主治意見書の下書の実施を開始した。  3. 全診療科の診療部長を対象に各科の医療収入、疾病構成、診療圏、疾患別原価計算を基に面談を実施し、効率的な病院運営につなげた。</p> <p>(第三病院)  1. 既存・新規に作成したクリニカルパスに対し適正な入院日数の検討、採算性の取れたクリニカルパスへの移行処理を行い148件のクリニカルパスを移行した。適応率は1~2月で平均34.9%(24年度28.75%)であった。  2. 全診療部を対象にPFMの導入を図り、大幅な病床運用の効率化が実現できた。  3. 平成26年1月からの電子カルテ導入に合わせ、グリーンカウンター(旧ふれあいカウンター)の機能拡張を行った。  4. 早期退院サポートプロジェクトチームにおいて、以下の通り対策を行ったが、稼働率の維持を優先させた結果、在院日数の短縮には至らなかった。  ①最も収益のあがる在院日数について検討し、診療科にクリニカルパスの見直しを含めた継続検討を依頼した。  ②在院日数が長期に及ぶ疾患の要因及び改善策について、全診療科にアンケートを行った。  ③早期リハビリを開始する入院関連機能障害予防システム(HPS)の運用を開始をした。  ④在院日数が長期に及ぶ患者について、項目別に在院日数延長理由を明示した資料を毎月作成、検討、「主要後方支援病院リスト」を作成し、今後も半年毎に検討・更新することとした。  ⑤看護部が主体の臨床研究として「医療者間カンファレンスによる合意形成と退院支援のアウトカム・フィードバックを強化した退院支援プログラム改変の評価に関する研究」を、2月より段階的に開始する。  5. PFMの適用を全診療部に広げ、効率的な病床運用が図れた。</p> <p>(柏病院)  1. パス導入率が6割を下回るもの及びバリエーション症例数が多いパスの見直しとなる対象はなかった。次年度は、紙パスの見直しとオーダ化を行う予定であり、平成27年1月に導入予定の電子カルテより運用を開始すべく紙パスの収集は完了している。  2. 診療科別、疾患別の原価計算分析を実施し、診療部長面談を行い改善策を提示した。収益分析に基づく既存クリニカルパスの検証及び最適化への見直しを実施し、収益力の改善を図った。</p>

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
		<p>(本院) 多職種による連携を図りチーム力を強化する。</p> <p>(第三病院) PFMの運用により効率的な情報共有の推進を図る。</p> <p>(葛飾医療センター) チーム医療を推進する。</p> <p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師の事務作業を軽減するため、医師事務作業補助者を養成・配置し、診断書の作成をサポートする。</li> <li>2. 医師・看護師の本来業務以外に混在している業務を整理し、コメディカル・事務員等が遂行可能な業務を移行し、本来業務に専念出来る環境を作り、医療資源の効率化を図る。</li> </ol> <hr/> <p>(本院) クリニカル・インディケータ、他大学とのベンチマークなどを通じて、当院独自のEBMを実践する。</p> <p>(葛飾医療センター) 各診療科別、疾患（DPC分類）別の原価計算を行い医療資源の投入を行う。</p> <p>(第三病院) クリパスWG等によるDPCに対応したクリニカルパスの導入により、標準化、安全と効率化を図り、平均在院日数を短縮する（平成25年度目標：平均在院日数13日以内）。</p> <p>(柏病院) 疾病別原価分析を行い、科学的根拠に基づく医療の効率化を評価する。</p> <hr/> <p>(本院) 医療の機能分化を図る上で、紹介率および逆紹介率を向上させる。</p> <p>(葛飾医療センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリニカルパスを推進する。</li> <li>2. 地域医療連携を強化する。</li> </ol> <p>(第三病院) PFMの推進により効率化を進める。</p> <p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後発薬品への切り替えを押し進める。</li> <li>2. 患者の医療情報をIT化し、官公庁を含む関係機関との共有による患者本位の医療の提供を実践する。電子カルテおよびi-stroke等統一化されたシステム構築の準備を行う。</li> </ol> <p>(薬剤部) 医療安全面に考慮しながら、後発薬品への切替を適切に進める。</p>	

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
(6) 予防医学の推進 ①大学として予防医学に貢献する。	予防医学の推進 ・特定保健指導実施率10%UP ・論文発表数：10稿 H25：4稿 H26：5稿 ・学会発表数：15題 H25：7題 H26：7題 ・提携団体数：2 H25：1 H26：2	(総合健診・予防医学センター) 健診後の特定保健指導の充実	同窓会ホームページの掲載により、学外からの閲覧が可能となり同窓の先生からの登録依頼が増加した。
②スポーツウェルネスクリニックとスポーツ医学研究の推進。		(整形外科) 1. 競技団体との共同での骨代謝動態について測定を推進し、結果を発表する。 2. 体力医学研究の学会発表や論文発表を行う。	1. 論文作成中。 2. スポーツ関連 学会発表:8題、論文:4編。
(7) 財務の改善・充実を図る 毎期設定される収益目標を達成する。	毎期設定される収益目標を達成する。		(本院) 下半期の病床稼働率は、PFMを中心とした向上対策により回復してきたが、上半期の稼働率低下、および診療単価の伸び悩みにより、今年度の医療収入は対予算比で未達成となった。 (葛飾医療センター) 医療収入は、人件費および医療経費などで予算超過が見込まれ、収益目標は予算に対し不足する見込みである。 (第三病院) 患者数(特に外来)は目標に達しないが診療単価上昇により収入目標は達成できる見込みである。また、施設関連支出も当初計画より抑えられる見込みである。 (柏病院) 医療収入が増加し、経費抑制に取り組んだ結果、収益目標を達成することが出来た。
●本院に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。 ①特定機能病院としての機能を充実させる。	特定機能病院としての施設基準を維持し、さらに機能を充実させる。 (施設要件関連) ・先進医療2件以上、又は先進医療1件かつ特定疾患治療研究事業に係る年間500人以上の患者を診療する。 H25：7件 H26：9件	(管理課) 特定機能病院としての機能を充実させるための院内体制整備と特定機能病院としての基準要件(先進医療等)の申請支援の実施。	特定機能病院としての機能充実のため、高度医療技術の推進および医療安全の向上を中心に実施した。 1. 毎月の診療部会議にて、各診療科で実施している臨床研究で特に先進性の高いものを新規申請するよう促した。また、本邦で認められている高度医療・先進医療の全リストを各診療科に配布し、当院での実施状況を確認し、さらに新規申請手続きが非常に煩雑であるため、管理課事務員が医師のサポートを行い、一定数の新規申請、承認件数を維持している。なお、平成26年3月現在の承認件数は7件である。 2. 症例確保においては、経費の一部を病院が負担した。 3. 医療の安全性については関東信越厚生局による立入検査(平成25年12月実施予定)における指摘事項を改善した。 4. その他、施設基準の届出事項(患者紹介率等)は毎月確認した。専門医、指導医の人数も充足した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介患者50%以上 (概ね5年間に10%以上の紹介率を高める) H25: 46.8% H26: 50.0%</li> <li>(機能充実関連)</li> <li>・逆紹介率50%以上を目標とする。 H25: 30.5% H26: 50.0%</li> <li>・DPC病院1群としての各機能評価を充実させる。(効率性、複雑性、カバー率、救急医療、地域医療)</li> </ul>	(管理課) 1. 地域がん診療連携拠点病院としての更なる機能充実を図る。(院内がん登録の促進、がん相談支援体制の確立、ホームページ等を用いた院内外への広報活動、緩和ケア体制拡充) 2. がん関連会議への積極的参加により他のがん拠点病院とのカンファレンスや研修会等による情報共有を行う。	1. 地域がん拠点病院としての機能充実を積極的に図った。 2. 下半期は医師のための緩和ケア研修会を9月と2月の2回開催し、各回ともに20名を超える受講者が参加した。 3. その他公開市民講座は10月と3月の2回開催し、広報の強化などにより100名を超える参加者を得た。
③人材育成 (スキルアップ)を行う。		(教員・医師人事室) カンファレンス・CPCによる症例検討への出席を推進し、CPCに関しては研修医の出席率を100%とする。	研修医のCPCへの出席率は100%である。
④院内研修制度の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DPC地域医療指数</li> <li>・体制評価指数のアップを図る。 H25: 9.11P H26: 10P (上限値)</li> </ul>	(教員・医師人事室) 医師の採用時オリエンテーションの充実を医療安全推進室と共に推進し、受講率を100%とする。	医療安全推進室との連携により周知徹底を図っている。しかし、受講率は向上傾向にあるものの、現時点で100%には達していない。
⑤専門職の充実	がん診療連携拠点病院 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5大がん+前立腺がんのパス運用数年間40件、公開講座開催件数年間2回以上</li> <li>・パス運用数 H25: 51件 H26: 60件</li> <li>・公開講座数 H25: 3回 H26: 3回</li> </ul>	(看護部) 1. 認定看護師の育成と活用を推進する。 2. 平成26年度資格取得を目指して、教育機関受講者を増やす。 ①新規5分野養成 ②現有2分野追加養成	1. 認定看護師は、1名柏病院へ異動、1名産休となり、2名減少したが、感染管理、褥瘡対策、緩和ケア、メンタルサポートチーム等の組織横断的チームの専従、専任者となって医療の質向上に貢献した。 2. 次年度認定看護師資格取得予定者5名、教育課程進学予定者8名と次年度以降の増加が見込まれる。助産師の能力が向上し、今年度は助産師養成課程の他大学生3名の実習生を受け入れることができた。うち2名が当院へ就職することになった。
⑥チーム医療の強化・推進	人材育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医のCPC出席100% (正規の理由により届を提出した者を除く) H25: 100% H26: 100%</li> <li>・認定看護師等の育成計画に沿って主たる分野で各2名以上 H25: 4名 H26: 5名</li> </ul>	(病院事務部) チームステップス受講によるヒューマンエラー対策の強化	(病院事務部) 1. 紹介率は、保険法46.8% (昨年比+2.9p) で50%には満たないが5年計画で50%以上を掲げているので、今年度の目標はほぼ達成されたと判断している。また、逆紹介率は、30.5% (昨年比+4.7p) と増加した。 2. DPC機能係数のうち地域医療係数の脳卒中地域連携パスは下半期更に10件、がん地域連携も下半期は更に26件登録された。 (薬剤部) 1. 年間においては、先進医療件数は7件、特定疾患治療事業に関しては4,200件強の診療を行った。 2. 紹介率は徐々に増加している。平成26年度診療報酬改正による紹介率(50%)は算定式の変更もありクリアできる。また、脳卒中地域連携パス及びがん地域連携の件数拡大は、職員の協力によりDPC係数に反映され、指数が前回より4.58ポイント増加し、関東の私立医科大学においてトップクラスとなった。
⑦救命救急体制の強化を図る。	救命救急 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新外来棟での救命救急センター開設</li> </ul>	(救急部) 本院新外来棟開院時の救命救急展開に向けての準備	1. 4病院の救急医療連携を図る目的で、学内専用の救急患者搬送車の運用が開始した。 2. 4病院救急部診療部長会議の活性化。 3. RRS体制の確立。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
(2) 先進（高度）医療を開発し、施行する。	新規認定数 H25：0件 H26：2件 ※H25の申請件数は2件	(管理課) 先進（高度）医療の開発を支援（人的・物的）する仕組みを提案する。	特定機能病院としての機能充実のため、高度医療技術の推進と医療安全の向上を中心に実施した。診療部会議にて各科で実施している臨床研究で特に先進性が高いものを新規申請するよう促した。また本邦で認められている高度医療・先進医療の全リストを各科に配布し、当院での実施状況を確認し、更には新規申請手続きが煩雑なため、当課が医師のサポートを行い、一定数の新規申請及び承認件数を確保している。
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。 ①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	アクシデント事例の減少 院内感染の防止 ラウンド数 H25：67/391 H26：67/367  カンファレンス数 H25：63件	(医療安全管理部・感染対策室) 1. 術前合同カンファレンスの活性化と円滑な運用を図る。 2. チームステップスを主体とした医療安全文化の醸成を図るとともにトレーナー育成を進める。 3. 集中治療部門以外の一般病棟における標準的感染対策のポトムアップを図る。 4. セーフティマネージャー中心の病棟単位の積極的な感染対策の実践。	(医療安全) 1. 術前合同カンファレンスは各診療科が主体的に参加し年間63件開催した。また、名称をハイリスク症例カンファレンスに改称し、手術関連以外の治療方針に関する意見の共有目的でも開催可能とした。 2. TeamSTEPS エssenシャルコースを定期的に開催した。  (感染対策) 3. 手指衛生指数の向上を図り院内感染防止に繋げている。(平成24年度：8.13→平成25年度：12.48) 4. 今年度から病棟ICTが組織され、定期的なミーティングの開催、年間の数値目標を設定しての改善活動、アウトブレイク発生時の対応等、感染対策室と共働して病棟単位の感染対策を推進した。
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。 ①インフォームド・コンセントを徹底する。	苦情・クレーム件数 10%削減（平成24年度実績ベース） (管理課) H25：283件 H26：250件 (看護部) H25：186件 H26：167件 説明と同意書の整備件数 H25：3件	(管理課・医療安全管理部・看護部) 患者からの苦情や意見を統計化し、インフォームド・コンセントに関する事項については該当科ヘフィードバックし、説明と同意書の整備や医師教育の徹底も図る。	(管理課) 患者からの苦情や意見があった場合、現場でのインフォームドコンセントが確実に実施されていたか状況を確認した。徹底されていない場合には直接注意指導を行い、警鐘事例は患者サポート打ち合わせ、セーフティマネージャー会議や診療部会議にて報告したが、院内他部署からの依頼による当課クレーム・トラブルの対応件数は増加傾向にある。 (医療安全管理部) 説明と同意書を3件審査した。
(5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。 ①患者支援・医療連携センターの機能を十分に発揮する。	保険法紹介率50%以上 H25：46.8% H26：50.0%  逆紹介率50%以上 H25：30.5% H26：50.0%	(患者支援・医療連携センター) 1. 3部門における相互支援体制の強化と業務効率の推進 2. 当センターで発刊している「診療のご案内」や「外来担当医表」の全面改訂をはじめ広報誌によりセンター内の動きなどをアピールする。	1. 「診療のご案内」に関しては、次年度に向け新たな構成（業者の選定も含む）も検討した。 2. 当センターの部署間での情報交換を更に密にするためにミーティングなどで情報共有を図った。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
<p>(6) 臨床研究を促進する。</p> <p>①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。</p>	<p><b>臨床研究数</b> H25：370 (附属4病院)</p>	<p>(臨床試験支援センター) 申請手続きを簡略化するためにIT化、検討・申請書の負担減と申請もれを防止する。</p>	<p>1. 薬物治療学研究室等と連携を必要とするような臨床研究のコンサルテーションの依頼はなかった。 2. 治験に関する受託申請等の事務手続きシステムは、滞りなく機能し、来年度も継続して活用する予定である。 3. 治験及び臨床研究へのコーディネーター業務は5年連続で年間稼働のべ件数を増やしており、派遣コーディネーターと分担して、今後さらに効率的なサポート体制を構築する。</p>
<p>(7) 効率的医療を推進する。</p> <p>①効率的な診療体制の構築を図る。</p>	<p><b>中央棟手術室利用率 (日勤帯) 60%以上維持</b> H25：70% H26：70%</p> <p><b>外来棟手術室利用率 60%以上目標</b> H25：42% H26：50%</p> <p><b>新外来棟での救命救急センター開設</b></p>	<p>(病院事務部) 多職種による連携を図りチーム力を強化する。</p>	<p>1. 手術件数の減少に伴い、手術室の利用率は、平成26年2月までの実績で中央棟手術室73%、外来棟手術室40%でわずかに目標に届かなかった。 2. 手術件数減少は、血管外科、耳鼻咽喉科の影響が大きい。一方、精神神経科の修正電気痙攣療法、麻酔科のCV挿入が減少したが、本来手術室で行わなくてもよい処置の減少は妥当であるといえる。</p>
<p>②手術室の安全で効率的な運用を図る。</p>		<p><b>【運用面】</b> 1. 手術室利用率の向上。特に外来棟手術室は50%以上の利用率とし、中央棟手術室の負担軽減と更なる有効利用を図る。 2. 手術室枠の定期的な見直しを実施する。</p> <p><b>【安全対策】</b> 1. 感染防止対策を強化する。特にSSI（術野感染）発生数の減少を図る。 2. 再手術数の状況調査と検証を行う。 3. 手術室規約違反手術の削減。</p> <p><b>【管理面】</b> 1. 人員の適正配置、手術時間の適正化、医療材料の適正利用により、手術室利用の平準化を図る。そのための対策として、看護師本来業務の状況調査、医療材料等管理システムの導入検討を行う。 2. 術式に対する使用機器の調査を行う。その後術式に対する使用機器のデータ化やオーダーの紐付けを実施し、機器の計画的な更新や新規購入の必要性を評価することで、無駄を省き、効率的な運用を図る。</p>	<p><b>【運用面】</b> 利用率・手術件数に関してはは同程度で推移している。</p> <p><b>【安全対策】</b> 1. 再手術などは減少傾向にあり、手術時間超過も増加はしていない。 2. タイムアウトの再検討など、安全対策は徐々にであるが、進んでいると考えている。</p> <p><b>【管理面】</b> 1. 棚卸し、不動在庫なども定期的にチェックが行われている。カード紛失なども経時的に観察出来ている。 2. 医療機器に関しては、更新計画のために今後は購入時期、利用状況の把握などの購入後のトレースのシステム作りを検討する。</p>
<p>③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。</p>		<p>(救急部) 救急患者来院後に速やかに患者の状態を評価し、緊急度に応じた優先順位づけを行うトリアージ体制の充実を図る。</p>	<p>附属4病院 ICLS コースを継続的に開催した。救急部リーダー医師のPHSを同窓へ公開した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
(8) ICTを充実し、有効活用する。 ①電子カルテを導入する。	電子カルテの導入	(システム課) 新外来棟の建築に向けた電子カルテの導入準備	情報システム統括委員会を含む関連委員会にて導入に向けた計画策定を開始した。導入時期については隣接の都有地や新外来棟の建築計画を踏まえ検討している。
(9) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。 ①月次医療収支額を把握し活用する。	年度予算の収益目標額以上の達成 特殊材料費・消耗品費 経費率1%削減 (平成24年度実績ベース) H25: 1.13%削減 H26: 1%削減	(病院事務部) 病院運営会議において毎月収益状況報告を行い、必要に応じて各科へのフィードバックを行う。	特殊材料は前年同月比-1.3%で目標達成したが、医療消耗品は-0.5%と目標未達成であった。
②他大学とのDPCデータのベンチマークを実施し、活用する。	原価率 H25: 90.3% (第3四半期) H26: 90%以下	(企画部) DPCベンチマークを実践し、経営上の改善点を提案する。	6大学ベンチマークにおいて、医療の質の評価を目的にDPCデータの様式1、Dファイルを利用したベンチマークの実施に関わる協定書を締結し、診療圏、救急、がんや脳卒中等の疾患、薬剤などの16領域の交換指標(案)を選定し、分析を実施した。次年度以降も分析の精度を高め、経営上の改善点を提案する。
③医療材料のSPD業務の再編の評価を行う。	ベンチマークによる改善の提言  BSCの推進  後発医薬品の数量シェア H25: 24.5% H26: 30.0%	(病院事務部・施設課・企画部) SPD業務の再編後の評価を行うため、物流全般にわたる現行の制度を効率面且つ経済的視点から検証し、経費抑制を図る。	医材・物流ワーキンググループを継続すると共に、今年度より「コストマネージメント・プロジェクト」を立ち上げた。
(10) 情報公開の条件を整備する。 ①診療情報を評価するシステムを構築する。	情報公開項目数(手術、合併症率、再入院率、再手術率等) 4項目以上達成 H25: 0件 H26: 4件	(管理課) 病院年報作成委員会にて選定された指標を公開する。その他ホームページへの公開。	平成25年10月に平成24年度版を発刊した。
(11) 晴海トリトクリニックの現状評価と将来構想 ①晴海トリトクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。	現状評価と将来構想の策定  独自のビジョンとアクションプランの策定	(晴海トリトクリニック) 中断している晴海トリトクリニック検討委員会の再開	平成26年1月に検討委員会設置の方針が決まったが、その後具体的な実施は行われていない。
②医療機器の計画的な更新を図る。		(晴海トリトクリニック) 内視鏡システムの更新、MR装置の今後を検討	一部機器の更新が決定、実施されているが全体的な方針は未実施である。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
(12) 総合健診・予防医学センターの充実			
①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。	がん早期発見率のデータ分析方法を確立し10%以上上昇させる。 (平成24年度実績ベース) H25: 0.1% H26: 0.1%	(総合健診・予防医学センター) 健診3ヶ月後の追跡調査の徹底	平成26年3月10日より紹介状および検査依頼票などオーダーリングシステム報告書を導入し、病院との連携を図った。
②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。		(総合健診・予防医学センター) 頸動脈超音波による動脈硬化診断の開始。	教職員の間ドック受診者に対する指導について衛生委員会で承認され、該当者に指導を行った。
③女性検診の充実化を図る。	メタボリックシンドローム該当者5%軽減 (平成24年度実績ベース) H25: 14% H26: 14%  女性検診での早期異常状態発見の10%アップ (平成24年度実績ベース) H25: 3.4% H26: 3.5%	(総合健診・予防医学センター) 女性検診に乳腺超音波検査の導入を検討する。	午後の婦人科検診および乳腺超音波検査実施までには至っておらず継続検討中である。
●葛飾医療センターに関する目標			
(1) コンプライアンスとガバナンスを強化する。			
①病院機能評価を受審し認定病院となる。	5年以内に病院機能評価認定 毎期設定される収益目標を達成する。 患者紹介率:50%(保険法)	(葛飾医療センター) 病院機能評価受審PTの立ち上げ	所属長、責任者会議が主導し職員レベルの委員会を設置した。各部門で規程などの確認を行い、評価項目毎に自己点検を実施中である。
②医療の効率化、透明化、標準化を推進する。	H25: 49.4% H26: 50%	(葛飾医療センター) DPC分析とクリニカルパスの実践・推進	医療の質を担保しつつ、DPC/PDPSに適用したクリカルパスを計画的に拡大し、適用率は47.9%、昨年比+10.2ポイントの実績となった。
②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。	逆紹介率: 25% H25: 17.9% H26: 18%	(葛飾医療センター) 1. 医療収入と医療材料費の相関チェック 2. 人件費と委託費の相関チェック	予実管理表に基づき医療収入と医療経費および人件費の相関チェックを行い対策を講じた。
③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。	公開講座平均参加者数100名 H25: 112名 H26: 100名	(葛飾医療センター) 1. 病棟毎の原価計算の試行 2. 疾病毎の原価計算の試行	医療コンサルタントから提案を受け、データウェアハウスからのデータ抽出により、科別・疾患別原価計算におけるDPC/PDPSの限界利益を見出し、効率的な経営資料とした。
(3) オープン・システムを拡大する。	年間救急搬送数: 4,200件 H25: 3,532件 H26: 3,650件  年間手術件数: 5,000件 H25: 4,494件 H26: 4,600件	(葛飾医療センター) 1. 登録医の拡大 2. NKネットの連携強化	1. 登録医の拡大: 4施設、6名の追加登録 2. NKネット強化: 病病連携は50件の転院実績。在宅医療への軸足が移る現状があり転院希望が減少している。〈紹介率 医療法52.5%、保険法49.4%、逆紹介17.9%〉
②教育研修制度を整備する。	血液透析件数: 1ベッドあたり2回転 H25: 1.38回転 H26: 1.40回転	(葛飾医療センター) 1. 看護師復職支援事業の継続 2. シミュレーション教育施設の活用促進	1. 看護職員復職支援研修は7月、11月、1月に開催し、計11名の研修および11名の就業支援相談に対応した。 2. 鏡視下手術認定制度については、他機関と同様に利用の促進に努めた。
③地域の健康管理・健康増進に貢献する。	BCPの策定と継続的な検証、更新	(葛飾医療センター) 公開講座の開催と充実	公開セミナーは、6月(141名)、9月(137名)、2月(59名)開催した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
(4) 診療重点機能を強化する。 ①プライマリーケア・ユニット (救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。		(葛飾医療センター) 総合内科の定員充足	1. 総合内科は、定員7名に対し、常勤はレジデントを含め8名、非常勤3名を配置している。救急搬送件数は、3,532件(昨年比-348件)であった。 2. プライマリーケア・ユニット検討委員会を発足させ、救急診療の強化を図るべく検討を重ねている。看護師による救急受け入れのトリアージの拡大、昼間の救急を断らないためのホットラインの設置など今後取り組む予定である。
②手術室を効率的に運用する。		(葛飾医療センター) 土曜日予定手術の実施	1. 手術室の稼働率の向上を目指し、引き続きインターバルの短縮を検討した。手術件数は、4,494件、昨年比-52件減少した。 2. 土曜日の局麻手術の実施計画や手術件数と看護要員の労務状況の相関などを分析したが、目標値を達成出来なかった。
③集中治療室 (ICU・CCU)を効率的に運用する。		(葛飾医療センター) SIの利用と内科の入棟基準の検討	1. 麻酔管理部門システムPIMSを利用し、医療上の質と安全性が担保できた。 2. 病床利用率は、48.7%、昨年比+0.9Pt上昇した。内科の入棟基準は継続検討中である。
④当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。		(葛飾医療センター) 血液透析導入患者の漸増	透析件数は、8,382件(昨年比較+1,378件)、1床当たり1.41回転と大幅な増加を図り、外来部門の医療収入増に貢献した。当初の目標は40床、1床当たり2.0回転としていることから、労務と人員数のバランスを図り、費用対効果を考慮して計画を推進する。
⑤がん治療を重点化する。		(葛飾医療センター) 東京都がん診療連携協力病院 (部位別) の認可	1. 東京都がん診療連携協力病院の認可を受け、東京都に受理された院内がん登録件数は509件であった。 2. 協力病院として提出義務のある国立がん研究センターへのデータ件数は487件であった。
(5) 大規模災害に備える。 ①BCP (事業継続計画)を策定する。		(葛飾医療センター) 1. 教職員安否確認システムの導入 2. サプライチェーンの確認	1. 安否確認システムは、導入準備は整ったものの、システム課と調整した結果、次年度以降の導入となった。 2. サプライチェーンは、薬品卸及びSPD、メーカーの確認を継続して実施した。
②DMAT (災害派遣医療チーム)を編成する。		(葛飾医療センター) DMATの組織化と規程の制定	日本DMAT講習会を終了し10月30日付で指定された。規程は次年度早期に制定予定である。
(6) 第二期建築計画を実現する。 ①部門毎に活動性を検証し基本計画を立案する。		(葛飾医療センター) 将来拡張部門の選定	別館建築計画WGによる基本計画を完了し、年度末時点で詳細設計に入った。
●第三病院に関する目標 (1) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。 ①救急搬送患者の受け入れを強化し、断らない救急を実現する。	救急搬送数350/月 H25: 383件 H26: 400件  手術件数年間6,000件 H25: 5,757件 H26: 6,000件  一般病床稼働率90%以上 H25: 84.0% H26: 88.0%	(第三病院) 1. 救急室管理における内科系・外科系救急体制を実行し、近隣医療機関との連携を通じて受入救急患者の増加を図る(200人/月増加)。 2. 昼間時間帯の救急部での受入救急患者の増加を図る(1日平均30名)。	病床運用の効率化を図り、医師・看護師と連携を図り円滑な救急搬送患者の受け入れを遂行した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。	紹介率40%以上 H25：38.2% H26：40.0%  逆紹介率30%以上 H25：18.6% H26：23.0%  毎期の資金収支を黒字とする	(第三病院) 1. 手術枠を基本とした柔軟な手術申込の実施 2. 各科の全身麻酔手術の増加と午前の運用率の向上(午前稼働率50%) 3. 手術件数増加に対する医療スタッフの業務量増加に対して手術関連器械の整備と本来外業務を委託業者へ委託する。	1. 電子カルテ導入に伴い、手術・中材委員会を中心に調査・検討などを行い手術枠の柔軟な運用を図った。 2. 午前稼働率については57.7%から60.2%に向上した。  3. 今年度は中材滅菌機材準備スタッフを1名増員した。次年度は手術室・中材業務における看護師の間接業務についても委託化する。年間手術件数目標を6,000件としたが、11月末で3,971件と目標に近い数値で推移した。
③病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。	中期大型投資計画・資金計画予定表の作成  新病院建築へ向けた敷地内建物の許認可状況の整理	(第三病院) PFMを全患者に適用し、病床運用の効率化を図る。	1. 平成25年5月よりPFMを外科系から内科にも拡大し、患者情報が周知され、効率的な運用に繋がっている。 2. 早期退院サポートプロジェクトチームを立ち上げ、各診療科にて適切な平均在院日数の推進を図り、また、急性疾患の治療中に発生する新たな機能障害を予防するため、入院関連機能障害予防システム(HPS)の運用を開始した。
④医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。 在宅医療を推進する。	建築委員会による地域自治体の意見を参考とした新病院要件仕様の検討開始  入院患者数 (1日平均)16名 H25：10名 H26：12名	(第三病院) 1. 近隣の前方連携医療機関を訪問し、「顔の見える医療連携」を実施することで紹介件数増加を図る。 2. 紹介元医療機関のニーズを的確に把握し迅速に対応する。	1. 玉川医師会より申請のあった55名の会員を第三病院登録医として認定し前方連携医療機関増加を図った。  2. 電子カルテシステム導入以降も、紹介患者報告書未発行の患者をリスト化し、未発行数の減少、紹介元への逆紹介の推進を図った。
(2) 新病院建築に向け病院機能と財政基盤を確立する。	外来患者満足度70%以上 「次回も当院をご利用いただけますか」 H25：91% H26：91%	(第三病院) 安定的な財政体質の確立に向け、収入・支出に対しての不断の改善努力を継続する。	医療収入は2月末時点で累計達成率100.7%であり目標を達成できる見込みである。
①収支を改善し、新病院建築前まで単独での投資資金を確保する。	入院患者満足度90%以上 「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」 H25：84% H26：84%	(第三病院) 建物・設備、大型医療機器の投資計画、資金計画の収支バランスを評価できる計画表を策定する。	大型の投資計画については未確定の部分が多く、資金計画については作成できていない。
②中期的な大型投資計画、資金計画を策定し、経営課題を分析改善する仕組みを作る。	労働生産性向上一人当たり労働生産性=(医療収入-医療経費)/教職員数  実効性のあるBCP(事業継続計画)の完備	(第三病院) 新医局棟建築工事およびエントランス周辺駐車場整備工事を実施する。	1. 第1駐車場を整備し、患者用駐車台数を増設した。慈恵東通りへの通行を可能とする車路を設置し、ロータリー周辺の混雑が緩和され救急車待機スペースを確保した。 2. 第1駐車場は災害時のトリアージ・スペースとして使用可能となった。
(3) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。	①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。	(第三病院) 大規模災害に備えた新病院構想を地域自治体と協力し策定する。	国領町八丁目・和泉本町四丁目地区まちづくり協議会を通じて高さ制限緩和に向け協議した。取りまとめに第三病院要望事項を盛り込んだ。
(4) 特色ある医療を強化する。	①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。	(第三病院) 1. 関係医療機関に年2回診療案内を送付する。 2. 市民向け公開講座を実施する。 3. 精神科および心理臨床関係の各種学会や雑誌において、森田療法の治療成果を年4回報告する。	1. 関係医療機関に3回診療案内を送付した。 2. 市民向け公開講座を10月5日に実施した。 3. 学会にて約20回、雑誌に約10編、成果を報告した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
②患者満足度の高い病院への改善を図る。		(第三病院) 1. 外来会計の待ち時間短縮を図る(5分短縮)。 2. 電子カルテ導入後の待ち時間短縮策を検討する(再診患者在院時間1時間以内)。 3. 病院玄関前の混雑緩和と患者用駐車場増設のため整備工事を実施する。	1. 電子カルテ導入前の外来会計待ち時間は様々な取り組みにより大幅に短縮された。 2. 電子カルテ導入に伴い、ブロック受付、会計カウンター等の改修等を検討実施した。より良い患者動線を構築し大幅な患者待ち時間短縮実現した。 3. 病院玄関前と患者用駐車場の整備工事を実施した結果、混雑状況はほぼ解消した。
(5) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。 ①電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。		(第三病院) HIS委員会を中心に、WGを定期開催し準備を進め、電子カルテを平成26年1月5日より稼働する。	予定通り平成26年1月1日に電子カルテシステムの稼働を開始した。特筆すべきシステム障害も発生することはなかった。更なる診療の効率化・患者サービスを向上させるよう運用及び詳細設定を改善している。
(6) 大規模災害に備える。 ①BCP(事業継続計画)を策定する。		(第三病院) BCPの根幹となる部分を策定する。	ベースとなるBCPはあるものの、災害状況を想定した防災計画を超える事業継続計画はできていない。
②DMAT(災害派遣医療チーム)を編成する。		(第三病院) 第三病院としてのDMATを編成する。	本年7月に研修を終了し、日本DMAT隊員として登録された。今後第2チーム編成にむけて隊員の募集を図る。
(7) 人材確保・育成・活用の推進を図る。 ①職員の人材育成制度を強化する。		(第三病院) 1. 職員の学会活動等対外的な活動を通じ人材の育成を図る。 2. 横断的な多職種によるチーム医療を推進する。 3. 多職種によるチーム医療関連研修会を年6回開催する。 4. スタットコール対応体制を確立する。	1. 第三病院人事係で受付・対応した参加申請は研修会14件、学会2件、この他、法人人事課受付分もあり、参加者自身の育成と職場へのフィードバックは一定の成果があったと考える。 2. チーム医療について、チームごとに活動の拡充を図るべく、活動が展開された。 3. 緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、感染対策チームの開催する研修会はより多数の教職員が参加し易くなる様、複数回開催し、更に開催時間も夕方の他に昼の時間帯を活用して行われた。
●柏病院に関する目標 (1) 医療の標準化・効率化を推進する。 ①医療の標準化、効率化により、医療の質の向上と安全を確保する。	DPC効率性指数の向上 H25: 0.00577 H26: 0.00816  外保連手術指数の向上 H25: 15.53 H26: 13.81  レジメン登録件数の適正化 H25: 430件 H26: 450件	(柏病院) 1. レジメンオーダーの全科(入院・外来)稼働と申請レジメンの適正管理を図る。 2. 誤薬防止のための処方箋様式を変更する。  (柏病院) 3. 電子カルテ導入やITによるネットワーク化、統一化されたシステム構築に向けた将来像を策定する。	1. レジメンオーダーの完全実施と薬剤師による抗がん剤調製の一元化は、適正管理だけでなく医療の質と安全の向上に繋がった。レジメン新規登録56件、削除3件となった。 2. 処方箋様式(与薬指示票(看護控))の帳票統一を完了した。  今年度のレジメン申請は新規56種、削除3種であった。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
②手術室の安全性の向上と効率化を図る。	<b>1C手術室利用件数の増加</b> 手術件数年間 7,000件 H25: 7,839件 H26: 7,000件	(柏病院) 1C手術室の有効利用を図ると共に安全性を確保するための手術件数を設定する。	局麻手術などは1C手術室で行い、難易度の高い手術を3階中央手術室にて受け入れる環境を整備した。8月より開始した周術期外来診察枠の拡大を図るとともに、手術時間割当表を改定し、午前、午後枠を撤廃することで手術室の有効利用を図った。
③医療材料を中心としたSPD方式の手術キット、DRGセットを評価し、効率化と医療経費の削減を図る。	<b>手技の特性に応じて専用キット化を推進する(現在は複数キットを使用)</b>	(柏病院) 看護部や業者を含めて実態把握するとともに、使用頻度が低い器材等の洗い出しを定期的(年2回)に行い、内容の見直しを行う。	附属4病院物流WGでの検討に基づき定数配置の見直し(種類、量)を行い経費節減に繋げた。
④DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。	<b>クリニカルパスの導入件数</b> H25: 5,354件 H26: 5,600件	(柏病院) DPC請求と出来高請求の比較分析を実施し、見直しが必要なクリニカルパスについては、各診療部へ情報提供と改善提案を行い、効率的なパス作成を推進する。	サイプレス、girasolを活用し、診療科別診断群分類のコストと疾病原価の分析を行い、9診療部の診療部長と面談を実施し、パスの見直し及び入院日数の短縮等の協力要請を行った。
⑤患者のためのチーム医療を推進する。	<b>緩和ケアチーム年間介入数年間600件以上</b> H25: 95件 H26: 110件  <b>院内褥瘡発生率</b> H25: 1.11% H26: 0.99%  <b>NST介入件数</b> H25: 443件 H26: 450件	(柏病院) 1. 医療スタッフの専門性の向上、スタッフ間の連携・補完を推進し、患者・家族と共に質の高い医療の提供を実現する。  2. ガイドライン・プロトコル等を活用した治療の標準化を浸透させ、疾病の早期発見・回復促進・重症化予防など医療・生活の質の向上を図る。医療の標準化・組織化を通じた医療安全の向上を実現する。	1. 緩和ケアチーム: 患者の様々な苦痛を取り除くことにより、心身の安定が図られ、治療やケアに安心して臨めるようになった。専門チームのサポートが入ることで、患者の対応に疲弊しがちな主治医や看護師の業務・負担軽減となった。専門的な医療チームが関わることで患者ケアがきめ細かくなり、患者と家族の満足度向上に繋がった。 2. 栄養サポートチーム(NST): 患者の栄養状態を回復させることを主な目的とし、チームでのNSTカンファレンス・回診(算定件数443件)に取り組んだ。勉強会は年間8回延べ283人の参加があり、また成医会や日本静脈経腸栄養学会にも発表出来た。3月から手術前の代謝を改善し周術期の回復過程を促進する「ERAS食」を開始した。 3. 褥瘡対策チーム: 褥瘡のリスクファクターおよび患者状態を各専門職の視点から多面的に評価し、患者個々の特性に応じた効果的な対策、治療を実践した。褥瘡発生・重症化予防、早期治癒およびこれらによる原疾患に対する治療効果の向上を図った。 4. 感染制御チーム(ICT): 各部署で手指衛生回数(1日1患者あたりの手指衛生回数)の目標値を設定し取り組んだ結果、9.76(前年度7.0)まで増加し、MRSA院内発生率は前年度0.6から0.35へ低減した。抗菌薬使用量については横ばいであり、ラウンドの回数を増やして対応している。
(2) 地域中核病院として十分に機能する。	<b>年間3診療部のBSC作成</b> H25: 20部門 H26: 30部門  <b>病院BSCの毎年のブラッシュアップ</b>  <b>市民公開講座開催件数年間2回以上</b> H25: 2回 H26: 2回	(柏病院) 1. 柏病院BSCのブラッシュアップと全部署BSCを作成する。  (柏病院) 2. 市民公開講座の開催等、地域住民や行政への医療啓発を更に充実させる。  (柏病院) 3. 救急搬送、救急患者増加に向けてER診療体制の更なる充実化を図り、積極的に救急患者を受け入れる。救急隊との顔の見える関係を強化し、積極的に患者を受け入れる。	全部署(42部署)のうち、20部署が作成した。  1. 地域がん診療連携拠点病院主催で9月14日(土)に開催した「がんと食事・お口のケアについて」の参加者は165名であった。 2. 平成26年3月1日(土)に開催した「がん診療における漢方と緩和ケアについて」の参加者は136名であった。  1C病棟改修に伴い救命救急センターの病床数を5床から8床へと変更し、急性期医療への対応体制を強化した。しかし受入実績は救急搬送数は対前年比-5.8%、3次救急患者数は-7.8%、2次救急患者数は-9.8%、1次救急患者数は-7.7%とすべて前年を下回った。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
②周産期センター化を検討する。	救急搬送数・救急患者数対前年度比増 (救急搬送数) H25: 3,034件 H26: 3,100件 (救急患者数) H25: 6,230名 H26: 6,300名	(柏病院) 周産期センター化に向けた将来構想を検討する。	第23回病院運営会議において、柏病院将来構想検討委員会(第1次)で解決できなかった課題やその後新たに発生した課題などについて、次年度に「第2次柏病院将来構想検討会」を設置し、変わりゆく医療情勢の中で、当院が医療の質と安全性の向上、効率化を推し進める上で取り組むべき課題を整理し、具体的な項目を中期実行計画として取りまとめる。
③患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。	平均在院日数の短縮 (目標11~12日) H25: 12.6日 H26: 12.5日	(柏病院) 1. PFMシステムの機能を強化し、病床管理を徹底する。 2. 同一疾病、同一治療の在院日数の共通化。午前退院、午後入院を推進する。	1. MSW・退院調整看護師の介入により、受入医療機関との連携を密にし、長期入院患者(30日以上)を転院させることができた。 2. PFMの介入件数も本年2月には400件以上着手しており効率的な運用を図った。
④東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。	外来患者数1日平均 1,600人以上 H25: 1,551名 H26: 1,552名  入院患者数1日平均 570人以上 H25: 541名 H26: 542名	(柏病院) 1. 新外来棟を建設する。外来診療棟の改修・病棟改修に向けた準備を進める。	1. 管理棟(仮称)の建物名称をD棟とした。 2. 外来増築・D棟新築工事は今冬の天候や資材調達の関係で若干遅れているが、平成26年8月から着工予定の病棟改修工事は計画通り進捗する予定である。
⑤連携病院を拡充し、地域連携を強化する。	先進医療の承認および実施件数年間1件以上 H25: 3件24症例、新規承認0件 H26: 30症例  紹介率50%以上 H25: 55.0% H26: 55.0%  逆紹介率30%以上 H25: 36.7% H26: 50.0%  地域連携診療計画管理料算定患者数(脳卒中地域連携:脳卒中のみ評価) H25: 7名 H26: 10名	(柏病院) 1. 前方連携の拡大(連携登録医の見直し、紹介元医療機関の拡大と紹介患者増) 2. 後方連携病院の開拓と関係強化 3. 在宅医療推進のための地域訪問看護ステーションとの連携強化	1. 積極的なMSW、退院調整看護師の介入により、連携病院と調整を図り、長期入院患者(30日以上)のスムーズな転院が実現した。 2. 連携登録医の制度を見直し、地域連携を強化するため、より実効性の高いシステムへと変更した。 3. 近隣医療機関の訪問、広報誌を通じた登録医療機関の紹介を行うなど、連携病院との関係を強化した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
<p>(3) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。</p> <p>①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。</p>	<p><b>年間外来がん患者延数7,700人以上</b> H25：7,500名 H26：7,700名</p> <p><b>年間入院がん患者数3,500人以上</b> H25：3,286名 H26：3,500名</p>	<p>(柏病院) 口腔ケアなどがん診療連携拠点病院として必要な医療提供に対応できるよう診療体制の整備を図る。</p>	<p>1. 地域がん診療連携拠点病院の指定要件に沿った設備、機能の整備を図った。</p> <p>2. 年2回の市民公開講座にて口腔ケアや食事、漢方・緩和治療などの医療知識の提供に努めた。</p> <p>3. がん講演会では免疫力を高める食事、リンパ浮腫予防、心のケアなどがん治療に関連する医療知識の提供に努め、病院スタッフが一丸となって、がん予防、がん医療の提供に取り組んだ。</p>
<p>②化学療法および緩和ケアの提供体制の充実を図る。</p>	<p><b>地域がん登録件数</b> H25：1,582名 H26：1,700名</p> <p><b>がん治療連携計画策定料算定患者数(がん地域連携)</b> H25：7名 H26：10名</p>	<p>(柏病院)</p> <p>1. 外来化学療法室ベッド回転率の向上。時間帯、曜日の偏在性を解消し、効率的な運用を図る。</p> <p>2. 緩和ケア体制の整備を図り、がん診療連携拠点病院としての質の向上、入・外緩和ケア診療加算算定に伴う増収へ繋げる。</p>	<p>1. 外来化学療法室のベッド回転率向上を図るための当番医、予約枠等について調査分析を行い、改善に向けて検討した。また、次年度より施設基準に基づいた該当薬剤の運用幅を広げ、更なるベッド回転率の向上に努めていく。</p> <p>2. 緩和ケア体制の整備を図り、緩和ケア診療加算算定に伴う増収へ努めた。また医療費改定に伴い細分化される緩和ケアを主体とするがん患者指導管理料に対応できる体制整備、また、外来緩和ケア管理料に伴う体制整備を検討中である。</p>
<p>③各医療機関からの紹介患者の受入れを行う。また、地域連携バスを活用し、病病連携・病診連携を推進する。</p>	<p><b>外来化学療法室月平均延患者数430人以上</b> H25：409名 H26：430名</p> <p><b>緩和ケアチーム年間介入数年間600件以上</b> H25：95件 H26：110件</p> <p><b>地域連携バスのバス種の拡大と稼働3バス以上</b> H25：5 H26：8</p> <p><b>バス使用件数年間5件以上</b> H25：14件 H26：20件</p>	<p>(柏病院) 地域連携バス体制整備、拡大を図り、地域連携バス件数増に努め、医療連携強化を図る。</p>	<p>1. 今年度の地域連携バス実績は29件、うち計画策定料算定件数は15件であった。</p> <p>2. 脳卒中バスの回復期連携病院は新たに1施設が新規加入し、3施設での連携となった。</p>
<p>(4) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。</p> <p>①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる。</p>	<p><b>3次救急搬送件数120件増/年間</b> H25：755件 H26：875件</p> <p><b>救命救急入院料の算定件数増</b> H25：1,594件 H26：2,000件</p> <p><b>救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院のみ)</b> H25：1,514名 H26：1,600名</p>	<p>(柏病院) 1C病棟改修工事の終了と共に病棟内に3床増床となる。各診療科に対して当直体制及びER体制の見直しを図ると共に1C手術室の有効利用を図る。</p>	<p>1. 救急患者数減少により、実績においては、救急搬送数は対前年比-5.8%、3次救急患者数は-7.8%、2次救急患者数は-9.8%、1次救急患者数は-7.7%であった。</p> <p>2. 1C手術室の利用拡大推進、午前午後手術枠の撤廃、麻酔科周術期外来の開始、手術申し込み期限の前倒しによる計画的な手術室運用を図った。</p>
<p>②救命救急センターの円滑な運営のための全診療科のバックアップ体制を構築する。</p>	<p><b>救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院のみ)</b> H25：1,514名 H26：1,600名</p>	<p>(柏病院) 全診療科による救急支援体制を構築する。</p>	<p>1. 入院総件数13,899件、救急搬送数3,034件の内、救急入院は2,455件(80.9%)であった。</p> <p>2. 超緊急帝王切開手術に対し、全科で麻酔や機械出し等の支援を依頼するために、カイザーコールの検討を行った。</p>
<p>③手術室を効率的に運用し、救急患者の受入れを強化する。</p>		<p>(柏病院) 1C手術室の有効利用を図り、緊急手術の受入体制を整備する。</p>	<p>定時手術を時間内に終了するよう改善し、緊急手術への対応を可能にした。</p>
<p>④医学生、臨床研修医、看護系学生および救急救命士等に対する救急医療の臨床教育を行う。</p>		<p>(柏病院) ICLSコースの受入体制を整備する。また、医療従事者に対する救急医療教育を行う。</p>	<p>1. 研修医へACLS講習を11月と12月に各1回実施した。</p> <p>2. 救急救命士に対し、気管挿管実習を10月から3月まで3名(90症例)、再教育実習を10月から3月まで38名、就業前病院実習を5月、6月に2名を受入れた。</p>

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
<p>(5) 収益の向上を図る。</p> <p>収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療経費（特殊材料費、消耗品費等）の削減</li> <li>・原価率</li> <li>・診療単価と手術単価</li> </ul>	<p>毎期設定される収益目標を達成する。</p>	<p>(柏病院)</p> <p>病院運営会議及び診療部会議において、患者数および収益状況の報告を行う。また、各診療部（科）に対して、手術件数、診療単価、DPC分析、クリパスの見直し等を提案し、収益向上策を実施する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療科別、疾患別の原価計算分析を実施し、診療部長面談で改善策を提示した。</li> <li>2. 収益分析に基づく既存クリカルパスの検証及び最適化への見直しを行い、収益力の改善を図った。</li> </ol>
<p>(6) ICT推進による医療の効率化・共有化を推進する。</p> <p>①平成26年度中に電子カルテを導入する。</p>	<p>電子カルテの導入</p>	<p>(柏病院)</p> <p>システムベンダーを検討する。</p>	<p>平成27年1月の電子カルテ導入に向けて、スケジュール通り、ベンダー選定、プロジェクトリーダー及び各部門のリーダー、サブリーダー、メンバーの選出、各ワーキンググループの新設、部門システムベンダーを選定した。</p>
<p>(7) 災害拠点病院としての体制を整備する。</p> <p>①自己完結型のDMAT（災害派遣医療チーム）を創設する。</p>	<p>DMAT（災害派遣医療チーム）の指定</p> <p>災害対策の再整備</p> <p>BCP（事業継続計画）策定</p>	<p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. DMAT派遣人員数を決め、講習会等に参加させるとともに、派遣できる体制を整備する。</li> <li>2. 被災地における自己完結型の医療救護に対応できる携行式の応急用医療資器材、応急用医薬品、テント、発電機等の設備を整える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 9月20日・21日関東ブロックの訓練、2月4日柏市消防局による多傷病者事故救急救助訓練、3月6日広域医療搬送実機訓練に参加し、実践的かつ機動力の向上を図った。</li> <li>2. DMAT車両を配備し、車両内に携行資器材を整備した。</li> </ol>
<p>②災害拠点病院としての受け入れ体制等を整備する。</p>		<p>(柏病院)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被災地からの重症患者の受け入れ、DMAT等の医療チームの受け入れ、傷病者等の受け入れ及び広域搬送への対応、地域医療機関へ応急用資器材の貸し出し等の体制を整備する。</li> <li>2. 必要備品・器材の確保。</li> <li>3. 自家発電機の燃料を3日分程度確保。</li> <li>4. 食料、飲料水、医薬品等の3日程度の備蓄。</li> <li>5. 簡易ベッド等備蓄倉庫の確保。</li> <li>6. 広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の情報を入力する複数担当者を定め、入力内容や操作方法などの研修・訓練を実施する。</li> <li>7. 地域の二次救急医療機関や行政機関等との定期的な訓練を計画する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成26年度の災害時受け入れ訓練会場として準備を進めることとした。</li> <li>2. 災害拠点病院としての要件を整理・確認し、必要な備品などを備蓄した。また、各病棟に入院患者と夜間・休日病棟勤務者の1食分と教職員の3食分の食品と飲料水を追加した。</li> <li>3. 柏市より貸与された衛星電話の訓練を実施し、操作と受信可能場所の確認を行った。</li> <li>4. 医薬品の備蓄については、外来分100人分から1,000人分確保に変更した。</li> <li>6. 千葉県との通信訓練並びに柏市との衛星電話の送受信訓練を実施した。</li> <li>7. 柏市立病院、松戸市立病院で実施された訓練に参加し、今後の計画に向けた情報収集を行った。</li> </ol>
<p>③BCP（事業継続計画）を策定する。</p>		<p>(柏病院)</p> <p>他3機関（東京都）の計画を参考とし、千葉県における計画に準拠した柏病院版を策定する。</p>	<p>本院より資料を入手したが、検討には至っていない。</p>

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
II. 法人運営の改善および効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ①内部監査の充実を図る。	<b>法令遵守と内部統制の強化</b>  <b>理事の担当役割の明確化</b>  <b>大学プランの策定と公開</b>  <b>不適切な個人情報管理をなくす。</b>	(監査室) 1. 公的補助金(研究費、経常費補助金等)監査および業務監査を充実させ、的確な評価・検証・改善提言を行う。 2. 監事、外部監査人との連携を強化し、内部統制の整備、運用状況を確認する。	1. 補助金監査の予定項目の他に、モニタリングの項目を増やすなどの対応を行った。  2. 業務監査は規程類の整備状況を確認した。内部監査協会・大学監査協会の研修会に積極的に参加し、内部統制に関する情報を収集した。 3. 監事・外部監査法人との連携を図り、指摘事項への対応を該当部署と協議した。
②理事会機能を検証する。理事の担当役割を明確にする。	<b>事業計画の課題100%実施</b>  <b>申請過誤の削減(申請過誤0件)</b> H25年度:0件  <b>研究費不適切使用の排除(研究費不適切使用0件)</b> H25年度:0件	(理事会) 自己点検評価委員会にて法人全体の機能を検証する。	大学自己点検評価委員会にて、慈恵大学事業計画を検討し必要な助言を行った。理事会機能について、常任理事の役割分担を確認した。
③慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。		(人事課) 周知浸透方法の工夫目的にて他事業体の行動憲章・行動規範情報を収集する。  (教員・医師人事部) 新規採用教員・医師全員(100%)に教員・医師ハンドブックの配布を通じて本学の行動憲章、行動規範の周知を図る。  (広報課) 広報誌及びホームページなど広報ツールを活用し、内外に向けて発信・周知する。ホームページの掲載、The JIKEI、慈恵ニュース(各年2回発行)に掲載し周知を図る。	(人事課) 1. 行動憲章、行動規範の浸透を図るため、他事業体の情報並びに周知方法について情報収集を行った。 2. 慈恵大学行動憲章・行動規範については、研修時に紙面を配付して周知した。  (教員・医師人事部) 新規採用教員および非常勤医師の全員に、各機関の協力を得ながら「教員・医師ハンドブック」を配布した。
④法令遵守の徹底を図る。		(総務部) 法令違反0件とする。	慈恵大学行動憲章・行動規範について、本年度実施の階層別研修時に紙面を配付の上、説明を行い、法令順守の徹底を図るよう指導した。
⑤補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。		(経理課・研究支援課) 補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)の管理体制と内部統制の強化を推進する。	経常費補助金配分額計算表をもとに、前年度経常費補助金一般補助の本学の傾向分析を行い、前々年度とほぼ同じ条件で経常費補助金一般補助の交付を受けたこと、条件の充足状況に問題がないことを確認した。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
⑥個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。		<p>(総務課) 外部講師による4病院合同の講演会を実施し、注意喚起を行う。また、オールユーザーにて注意喚起メールを配信する。</p> <p>(管理課) 教職員の関心を集める講演会を企画開催することにより講演会参加者数増を図り、教育啓蒙を推進する。</p> <p>(葛飾医療センター) 個人情報保護に関する研修会を開催し啓蒙を図る。</p> <p>(第三病院) 診療録やUSBメモリの取扱い方法等、イントラネットや院内のセミナーを通じて教職員へ啓蒙を図る。</p> <p>(柏病院) 定期的に研修会を開催するとともに、セルフチェックを行う。</p>	<p>(総務課) 1. 個人情報の適正管理を徹底するために、平成26年1月29日に外部講師による「個人情報保護研修会」を4病院合同で開催した。</p> <p>2. オールユーザーにて注意喚起メールを配信した。</p> <p>(管理課) 1. 個人情報保護委員会を年間4回開催し、個人情報保護管理体制、診療データの取り出し責任者を見直した。</p> <p>2. 他機関で発生した「患者個人情報の取り扱いに係る不適切管理事例」に関しては診療連絡速報にて、全教職員に注意喚起した。</p> <p>(葛飾医療センター) 個人情報の適正管理に関する注意喚起を通知するとともに、平成26年1月29日に「個人情報保護研修会」を開催した。</p> <p>(第三病院) 1. LINEの使用に関して教職員に問題提起するなど、個人情報の適正化管理に関する注意喚起ならびに啓蒙活動を行った。</p> <p>2. 平成26年1月に「個人情報保護研修会」を開催した。</p> <p>(柏病院) 1. 3月下旬にセルフチェック表を教職員に配布した。</p> <p>2. 4月中旬に回収し、分析後に診療連絡速報等でフィードバックする。平成26年1月に「個人情報保護研修会」を開催した。</p>
⑦本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。		<p>(広報課) 最新情報を掲載できるようホームページの更新を定期的に行う。メディア取材、広報誌・ホームページを行うとともに、主要メディア掲載件数（慈恵トピックス掲示板への掲載を含む）を500件程度にする。</p> <p>(学術情報センター) 1. 教員評価システムの使用法の説明会を開催し、本学各教員の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）のデータ入力の促進をはかる。</p> <p>2. 本学各教員の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）のうち、大学基準協会の評価で必要となるデータを教員評価システムから抽出することができるかを、大学自己点検・評価の関連部署と確認する。</p>	<p>(広報課) 1. 本院ホームページをリニューアルした。</p> <p>2. The JIKEI、慈恵ニュースをそれぞれ年2回発行した。</p> <p>3. PROSPECTUSは、次年度の組織改編なども組み込み、年度明けの発行に向け準備を進めた。</p> <p>4. 主要メディア掲載数は、年間650件を超えた。講座・研究室のプレスリリース方法の相談に的確に対応し、掲載の機会を広げた。</p> <p>(学術情報センター) 1. 「東京慈恵会医科大学教育・研究年報2012」「英文研究年報 Research Activities2012」の編集・発行作業を行い、インターネットに公開した。</p> <p>2. 「教員評価システム業績データ登録説明会」を年2回開催した。</p> <p>3. 教員評価システムへ教員ごとの業績データの登録が促進される方法を検討した。</p>
⑧事業計画の実施状況を確認する。		<p>(企画部) 数値による達成状況の把握により、未達成項目に対する具体的な方策を検討する。</p>	<p>1. 前期6年間（平成19年度～平成24年度）の中期目標・中期計画の達成状況の自己評価を再評価し、大学全体の実績としてまとめた。全154項目のうち116項目（75%以上）が達成、改善され、未達成は38項目であった。なお、今期（平成25年度～平成30年度）の中期目標・中期計画に対する数値目標を新たに設定し、評価検証の精度を高める取り組みを進めた。</p> <p>2. 平成24年度事業計画の実施結果評価を行うと共に平成25年度事業計画を策定し中間評価を行った。</p>
⑨事業計画を実施するためにBSCを活用し、継続的に評価する。		<p>(企画部) 各部門にBSCを浸透し事業計画と連動することで、大学の目標達成につなげていく。</p>	<p>1. 事業計画と各部署の業務目標を連動させることを目的に業務目標をBSCに変更する提案をし、次年度より実施することになった。</p> <p>2. 西新橋キャンパスでは、新規8部門と本院BSCが作成された。</p>

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
2. 人材確保・育成・活用に関する目標			
①職員の人材育成制度を強化する。	教職員アンケート調査における満足度10%UP (平成24年度実績ベース) H25: 53.9% H26: H25に対し5%Up	(人事課) 1. 新入職員研修～入職3年目研修を再評価する。 2. 管理職育成プログラムを再評価する。 3. 自己啓発制度、管理職研修の対象に新たなプログラムを追加する。	(人事課) 1. 若手職員育成対策の一環として、新入職員研修の内容を一部見直した。 2. 管理職育成プログラムを再評価し、次年度より内容を見直す。また、成果発表のあり方を再検討し、次年度より実施する。 3. 自己啓発制度などの新プログラムの追加については十分な検討ができなかったため、次年度も継続して検討する。
②人材の有効活用のための適性の把握・評価方法を検証する。	教職員全体退職率5%減少 (平成24年度実績ベース) H25: ±0% (115名) H26: -5% (100%)	(人事課) 人材活用データベースを構築する。	人材活用データベースは50%の構築であり達成には至っていない。
③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	看護要員確保率100% (平成24年度実績ベース) H25: 100% H26: 100%  看護師年間退職率11.6%以内 (平成24年度実績ベース) H25: 12.6% H26: 12%以下	(人事課) 1. 教職員アンケートの実施 2. 表彰制度の改定検討 3. 人事給与制度の改定検討  (教員・医師人事室) 教員・医師の自己都合による退職者を前年実績以下にとどめる。	(人事課・給与厚生課) 1. 企画部及び教員・医師人事室と検討の上、設問内容の改善を図った。 2. 制度改定の検討には至っていないが、労働生産性向上WG活動成果の表彰制度を策定した。 3. 労働保険料を法人一括納付へ変更した。 4. EAP業者を変更し、相談体制の充実とコストダウンを図った。 5. 所属長会議にて管理職向けに職場の健康管理の徹底を周知した。 (教員・医師人事室) 今年度の退職者数は例年並みであるが、教員(医師)の離職を最小限にとどめる施策の構築には至らなかった。
④看護師の雇用安定化を図る。		(人事課・ナース就職支援室・看護部) 1. 平成26年当初採用目標人員を確保すると共に、良質な人材を確保する。特に柏病院要員確保を最重要事項とする。 2. 人事課・ナース就職支援室・看護部の連携を強化し応募者増を図る。 3. 採用環境の的確な把握、競合する他大学の求人状況を把握し求人活動に反映する。 4. ナース就職支援室としての役割が最大限に発揮できる仕組みを確立する。 5. 4機関看護要員の人事交流を促進する。 6. 助産師採用予定者の貸付制度を制定する。 7. 国内留学制度の見直しを行う。	(人事課) 1. 次年度当初の目標人員(4機関合計)と機関別目標人員を確保した。 2. 人事課、看護部との連携強化により、病院見学、インターンシップ参加者は前年比3倍であったが、応募は微増に留まった。 3. 採用環境の的確な把握については、広告媒体企業・求人校からの情報収集、及び都内7医大との情報交換を実施した。学生の就職活動に合わせた求人活動を展開し、11月中旬に募集を停止した。 4. 各機関看護部、人事課、看護学校との連携が更に強化され、合同就職説明会、インターンシップ、病院見学の参加者増につながった。また学内生の病院バス見学の実施により就職率向上を図ると共に、内定辞退防止策として、学内外定者を対象に国家試験対策セミナーを実施し、全員合格した。 5. 助産師奨学貸付制度を制定し、4名の応募につながった。 6. 国内留学制度を積極的に活用し、スキルアップの機会拡大とモチベーション向上を図った。 (ナース就職支援室) 5. 平成26年度の看護師確保がやや不足する第三病院へ主任看護師の異動と看護師のトレーディング・ブレイスを実施した。 7. 認定看護師、助産師、看護教員の増員に向け、5年間の育成計画を立てた。 (看護部) 5. 第三病院へ他3機関からトレーディング・ブレイス5名と転勤5名(主任2名・看護師3名)で人員調整を行った。 7. 平成26年度の国内留学予定者は附属4病院合計で18名(認定看護師12名、助産師4名、看護教員2名)となった。進学者予定者数を除いた看護要員が確保された。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
⑤労働生産性を向上させる。		(人事課) 時間外労働縮減、有給休暇取得向上WG活動による変形労働、業務の Slim 化、風土改革の推進を行う。 (教員・医師人事室) 医療従事者勤務適正化委員会を通じて医師の業務軽減策を新たに実施し、医師の配置を効率化する。	(人事課) 労働生産性向上に向けたWG活動を策定し、平成26年2月より西新橋地区にて活動を開始した。  (教員・医師人事室) 文書カウンターによる取り扱い文書の拡大および病棟への業務課職員の配置拡大により、医師の事務作業を軽減した。
<b>3. 事務の効率化・合理化に関する目標</b>	<b>適正なICTの導入 事務組織の効率化</b>	(システム課) クラウドサービスを用いた機器統合による経費の圧縮やスマートデバイスの医療現場・教育分野における活用など情報・知識の共有を推進する。	クラウドサービスの導入実績について、私大情報処理研究会を通じて情報収集を行った。国立大学に比べ実績が少なく、メーカーの取り組みも含め引き続き情報収集する。
①適正なICTグランドデザインを構築し、ICT戦略を策定する。			
②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。		(企画部) 新原価計算システムによる迅速な情報提供を行う。	既存の原価計算システムの新原価システムへの移行準備は80%完了し、平成26年度より稼働する予定である。
③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。		(総務部・企画部) 標準業務手順書の完成と実践を図る。	(人事課) 標準作業手順書に作業時間が記載されていないものもある為、労働生産性向上WG活動の中において、各部署に対して作業時間を把握記載し、併せて作業プロセスの見直しを行う仕組みを策定した。
<b>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</b> <b>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</b>			
①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。	<b>経常収支の状況 経常費補助金の獲得額</b> H25： 3,533,202,000円	(経理課) 経理システムの更新（H26年度）に合わせ、予算管理機能を盛り込む。	予算申請、進捗を一元管理する仕組みを備える経理システムが新たに稼働し、次年度から新システムで予算管理を行う。
②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。		(理事会) 大学マスタープランを策定して改善に着手する。	大学マスタープランの重要項目である、西新橋キャンパス再整備計画を進捗させることを主に業務を進めた。
③本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。	<b>経費予算と経費実績 差異の減少 (各部署・科目毎の誤差5%以内/除く、医療経費)</b> H25：21億円 H26：21億円以下  <b>経常費補助交付額 (医学部)で私立医科大学29校中3位を維持</b>  <b>毎年度4件の大型プロジェクト研究事業を維持</b> H25：5 H26：6	(研究支援課) 政府各省庁・民間財団等が公募する大型プロジェクト研究事業に大学として積極的に応募する。	1. 今年度の文部科学省「私大戦略的研究基盤形成支援事業」申請研究プロジェクトが採択された。同事業による研究プロジェクトは今回分を含めて5件となった。 2. 文部科学省「平成25年度私立大学等改革総合支援事業」のタイプ1（建学の精神を生かした大学教育の質向上）ならびにタイプ2（特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり）に選定された。

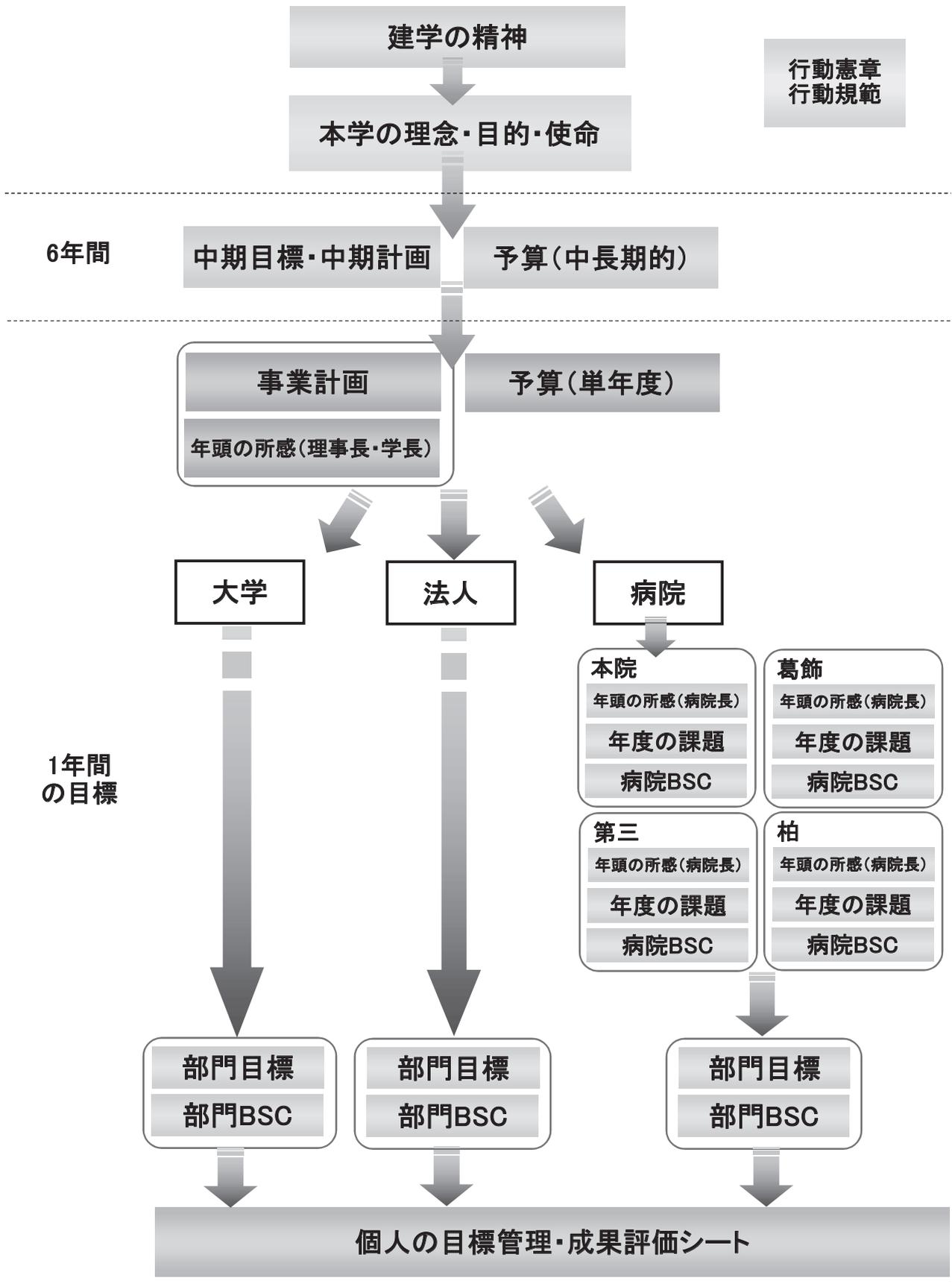
中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平成 25 年度 実施 結果
2. 経費の抑制に関する目標			
①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。	医療材料費削減プロジェクト削減目標の達成 医療経費率 H25：34.7% H26：34.7%以下	(施設課) 慈恵実業と連携し、医療材料費削減プロジェクトを発足し、4病院での共同購入、安価な製品への切替え、無駄の防止を図り、経費抑制を推進する。	4病院医材・物流WGを中心に、安価な医療材料への切り替えや、返品材料の再配送などの取り組みにより経費削減につなげた。
②医療経費の抑制を図る。	本院の東京都温室効果ガス排出総量削減目標の達成 東京都削減目標 2013年度～2014年度平均8%削減 2015年度～2019年度平均17%削減 (本院) H25：9.3%削減 H26：8%減 (葛飾) H25：22%削減 H26：8%削減 (第三) H25：22%削減 H26：9%削減 (柏) H25：8.9%削減 H26：8%削減  ICT経費の適正化	(病院事務部) 物流全般にわたる現行の制度を効率面且つ経済的視点から検証し、経費抑制を図る。 (葛飾医療センター) 1. 後発薬品の採用を拡大する。 2. 手術キットの内容を精査する。 3. 特殊材料の歩留まり状況を精査する。 (第三病院) 医療消耗品が医療収入の4.5%以内を目標に無駄な使用削減を徹底する。  (柏病院) 医療材料のSPD方式の手術キット、DRGセットの適正化を図り、効率化と医療経費の削減を図る。年々増加する現状を説明し、適正使用の協力を要請する。 (企画部) 4病院全体の経費支出状況を分析し、改善点を提案する。経費率を前年度比で下回る。  (薬剤部) 医療安全面に考慮しながら、後発薬品への切替を適切に進める。	(病院事務部) 1. 手術キットの価格見直しにより、経費削減を実現した。 2. 抗生剤(注射薬)8品目を後発品に切り替えた。  (葛飾医療センター) 1. 内服薬や注射薬を後発品に切替えた。 2. 手術キットの使用状況を確認し見直しを行った。 3. 特殊材料経費の歩留まり精査：使用数と保険請求、査定のチェックを実施した。 (第三病院) 1. 4病院医材・物流WGでの提案品目に対し、各現場にサンプリング等を実施した。 2. 看護部、SPDを通じ医療材料の定数を見直し、経費削減につなげた。 3. 医療収入比については、2月末数値で4.32%と堅調である。 (柏病院) 4. 薬事委員会、後発品導入WGと連携し、内服薬、注射薬を後発医薬品への切り替えた。 5. 手術キットを見直し、経費削減につなげた。 6. 医療材料の配置定数の見直しや不動態在庫の削減を行い、経費を削減した。 (企画部) 1. 医療経費の抑制については、支出状況について分析をしたが改善策の提案に至らなかった。 2. 経費削減を目的に新設されたコストマネージメント・プロジェクトを立ち上げた。本年度は永続的な活動ができる体制作りのための検討を行った。 (薬剤部) 薬事委員会、後発品導入WG連携し、後発品へ切り替えた。
③地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。		(施設課・管理課(葛飾・第三・柏)) 省エネ委員会を中心に、省エネ法、東京都環境確保条例遵守する。	(施設課) 東京都環境確保条例に対するCO2削減は、第一期計画期間(平成22年度から26年度)の削減義務率8%に対し、9.6%の削減率を達成した。平成22年度から25年度の平均削減率も8.8%と順調に推移している。 (葛飾医療センター) 省エネ委員会、ESCOの活動を通して計画通り進捗し、良好な結果が得られた。 (第三病院) 東京都温室効果ガス排出総量削減目標CO2排出基準7,330tに対し5,716tで、8%削減に対し19%削減を達成した。 (柏病院) 平成25年12月に柏市地球温暖化対策条例に基づく削減計画書を提出した。温室効果ガス排出量基準10,073t-CO2に対し9,956t-CO2で、1.16%削減した。
④ICTの適正導入と評価を行う。		(システム課) 1. 電子カルテ導入時にクラウドサービスの適用可否を見定め、機器の統合を行う。 2. 医療現場や教育分野へのスマートデバイス導入、またそれに伴うインフラ整備を行う。	1. クラウド(仮想化)対応の電子カルテシステム導入実績を調査したが、私立大学では1病院と導入費用やランニングコストを含めて情報が少なく、引き続き情報収集を行う。 2. スマートデバイスの導入については、会議資料作成時の労力軽減や用紙の削減を主眼として、iPadを利用した「ペーパーレス会議システム」を導入した。また、学生向け無線LAN(wi-fi)を設置し学生への利便性向上を行った。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成25年度事業計画	平成25年度 実施結果
<b>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</b> ①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。	<b>中期計画（施設・設備）に基づく施設・設備および機器・備品の適正管理実現</b>	(施設課) 管理項目を選定し（建物、ガス、水回り、電気、空調等）、現状を把握する。	1. 平面図の整備を行い、最新の状態に更新した。 2. エネルギー管理は、電気、ガス、水道の使用量を建物またはメーター毎に過去10年の推移を記録管理した。 3. 建物ごとに建物情報（竣工年、床面積）等の施設項目並びに修繕費や光熱水費、付帯設備の費用等、設備要素に参考となる資料を作成した。
②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	<b>中期計画（機器・備品）に基づく施設・設備および機器・備品の適正管理実現</b>	(施設課) 1. 管理項目を選定し、(放射線機器)、現状を把握する。(4機関における放射線機器の機種、設置日、経費を一覧表にて作成出来るようにする。) 2. 中央管理している医療機器は臨床工学部と共有の電子台帳による固定資産管理運用の改善を推進させる。(共有できる機器管理システム導入を目指す。)	高額機器の一覧表を作成し、今年度の高額機器更新(MRI・CT)および次年度の超高額機器(ガンマカメラ・MIR)の更新計画に活用した。
<b>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</b> ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。 ②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。	<b>自己点検評価結果報告書の公開</b> <b>大学基準協会認定評価の認定</b>	(総務部・大学事務部) 1. 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。 2. 大学基準協会から提言された勧告、助言項目の回答内容を公開する。	1. ホームページの情報公開の内容を充実させた。 2. 大学基準協会に行った勧告、助言項目に対する回答内容を、ホームページに公開した。
<b>V. その他事業運営に関する重要目標</b> <b>1. 本院新外来棟建築に関する目標</b> ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。	<b>新外来棟の建設</b>	(企画部) 本院新外来棟建築計画の基本構想をもとに基本計画を策定する。	1. 本院新外来棟の基本構想(案)をもとにした基本計画、基本設計の策定等を担当する設計事務所を選定した。 2. 旧都立港工業高校の跡地については、「都有地活用による医療インフラ整備における都有地利用事業者選定事業」に応募し、事業予定者として決定された。
②本院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。		(企画部) 1. 外来棟建築に向け、附属4病院の機能分化の方向性を検討し、骨子をまとめる。 2. 本院新外来棟建築計画の基本構想をもとに基本計画を策定する。	1. 国の医療政策を注視しながら、4病院院長・事務・看護部長会議において各附属病院の方向性について検討した。 2. 本院新外来棟の基本構想(案)をもとにした基本計画、基本設計の策定等を担当する設計事務所を選定した。 3. 旧都立港工業高校の跡地については、「都有地活用による医療インフラ整備における都有地利用事業者選定事業」に応募し、事業予定者として決定された。
<b>2. 大学マスタープランの策定に関する目標</b> ①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	<b>マスタープランの策定</b>	(企画部) マスタープランを策定する。	西新橋キャンパスの再整備計画を中心に検討を重ねたが、教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランの策定には至らなかった。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平 成 25 年 度 実 施 結 果
<b>3. 創立130年記念事業に関する目標</b> ①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。 ②記念事業に必要な寄付金を募集する。	<b>記念事業募金目標20億円の達成</b> H25：1,095百万円 H26：1,280百万円	(企画部) 本院新外来棟建築計画をもとに西新橋キャンパス再整備計画を推進する。 (財務部 (募金事務局)) 法人先への再申し入れを行う。	1. 本院新外来棟の基本構想(案)をもとにした基本計画、基本設計の策定等を担当する設計事務所を選定した。 2. 旧都立港工業高校の跡地については、「 <b>都有地活用による医療インフラ整備における都有地利用事業者選定事業</b> 」に応募し、事業予定者として決定された。 今年度記念事業募金金額は185百万円で、申込金額は募金開始以来の通算で1095百万円であった。(目標20億円比54.7%) 平成24年12月に行った「法人先への再申し入れ」は相応の効果を挙げたが、全体の進捗率は54.7%と今一つであった。
<b>4. 大規模災害時の対応に関する目標</b> ①大規模災害時の体制を強化する。 ②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。	<b>BCP (事業継続計画) 策定と災害対策の再整備</b> <b>大学全体のDMATの構築</b> <b>本学全建物の耐震基準充足 (充足率100%)</b> H25：85% H26：90% <b>西新橋地区再整備計画に大規模災害対応を織り込む。(備蓄倉庫・被災者収容対応・断水対応の井水整備等)</b>	(総務部) 1. 大規模災害発生時の新たな体制を構築し、それを基にした訓練を実施する。 2. ・備蓄食品、備品の管理方法の見直しを図る。 ・日常在庫量、収納場所を検証し災害時の薬品全般の在庫確保と供給体制の改善 ・大規模災害発生時の供給体制をメーカー毎にリストアップし供給体制を検討 3. 職員の参集体制を構築し周知を図り、スタッフの出勤困難時の対応策を構築する。 4. 災害対策マニュアルを基点として災害対策本部マニュアル、備蓄品、備蓄食の管理、抛出方法のマニュアルを策定し、訓練を実施する。 (施設課) 1. 建物の現状を把握し、対応計画を策定する。 2. 地震による建物及び什器・医療機器、実験機器の調査を行い、転倒・落下対策工事を平成25年度に行う。 3. 機器固定等の経費として、平成25年度予算として、3,500万円を計上したことにより、西新橋校キャンパスにおける現状の大規模災害の対応は終了する。	(総務課) 1. 附属病院では、管理課に事業継続計画策定委員会を設置し、第1版を基に改定作業を進めた。 2. 大学では、学事課に大学事業継続計画策定委員会を設置し、附属病院BCPをベースにして、初動対応・業務継続・再開マニュアルを薬理学、解剖学(旧第2)、悪性腫瘍治療研究部(GMP対応施設含む)、アイソトープ実験研究施設、実験動物研究施設の5部門で作成し、第1版の策定を行った。 1. 備蓄食品、備蓄品を拡充した。 2. 附属病院防火災害対策委員会を中心に、トリアージセンターマニュアルを改定した。 3. 携帯用防災カードを作成した。 4. 災害対策本部マニュアルの策定作業を進めた。 (大学事務局) 事業継続計画策定委員会を設置し、モデル部門として薬理学講座、悪性腫瘍治療研究部、GMP対応施設、アイソトープ実験研究施設、解剖学講座、実験動物研究施設の事業継続基本指針、行動計画、初動対応・事業継続・再開マニュアルの作成を行った。次年度には他部門の体制、学生の授業中・病院実習中での対応を検討する。 1. オフィス家具等の転倒防止対策は概ね完了した。柏病院は、院内の8割程度の地震対策を完了した。大学・病院については、地震による二次災害予防対策(転倒・落下対策)に関するアンケート調査をもとに、計画的に実施した。芝消防署立入検査の事前準備でも、未対応箇所の補完作業を行った。 2. 3. 基礎講座部門における大型研究機器転倒対策を完了した。作業は避難通路の障害、人的被害の恐れがある箇所を未然に防ぐためインキュベーターなどの重量機器、大型ボンベ、フリーザ類の地震対策を講じた。

中 期 計 画	指標 (平成26年度は目標値)	平成 25 年度事業計画	平成 25 年 度 実 施 結 果
③被災地への支援体制を構築する。		<p>(管理課) 大規模災害発生時の医療支援体制整備等、社会貢献を含めた被災地への支援体制を構築する。</p> <p>(葛飾医療センター) 1. DMATを整備する。 2. トリアージ訓練を実施する。</p> <p>(第三病院) 大規模災害発生時の医療支援体制を整備し狛江市・調布市・消防署と協力して、大規模災害訓練を実施する。</p> <p>(柏病院) 1. 災害拠点病院として必要となる人員及び器材の確保を行う。 2. 各部署の支援可能者を把握する。</p>	<p>(管理課) 1. 7月に5名の初期隊員が研修受講を完了し、日本DMATの指定を受けた。 2. 医師の派遣や甲状腺検査施行等による被災地(福島、茨城)支援も継続実施している。</p> <p>(葛飾医療センター) 1. 10月30日付で日本DMAT指定され、備品の調達は年度内に完了した。 2. 3月末に座学にてトリアージ訓練を実施した。</p> <p>(第三病院) 狛江市、調布市と「災害時における緊急医療救護所に関する協定」を締結し、狛江市、調布市を核に消防署、医師会、看護学生、近隣住民による大規模震災を想定した緊急医療救護所設置訓練を実施した。</p> <p>(柏病院) 2月4日柏市消防局による多傷病者事故救急救助訓練、3月6日広域医療搬送実機訓練に参加し、実践的且つ機動性のスキルアップを図ったが、支援体制の構築は継続的に検討する。</p>
5. 葛飾医療センター開設後の評価を行う。  新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。			<p>青戸病院リニューアルコンセプトの重点機能のうち、手術室、ICUの拡充、人工透析ベッド増床については、当初予定していた稼働率に達成していないため、継続した改善の取り組みが求められる。一方、オープン・システムの拡大による登録医の増加、NKネットワーク(南葛飾地区の医療機関、訪問看護ステーション間での転院支援・逆紹介ネットワーク)の強化、紹介率、逆紹介率の向上を図ると共に、第Ⅱ期建築計画によりがん治療の重点化計画を策定した。</p>

### 本学の目標



## 〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成26年度事業計画

### 〔本学の理念・目的・使命〕

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：“病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者の育成と、臨床を支える医学・看護学研究を推進し、国民に適切な医療を提供する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

### 〔本学が目指す将来像（ビジョン）〕

- 建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

#### 質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性と倫理観を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師の育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発点となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院(博士課程と修士課程)教育の充実と改善を推進する。
- (5) 高い倫理観に基づいて研究を推進する。

#### 本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

#### 質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師および医療職者の技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 各附属病院の特色を活かして、それぞれの活性化と機能分化を図る。

#### 教育・研究活動を支える安定した財政基盤の構築

#### 大学の地域社会への貢献

#### 創立130年記念事業

- (1) 130年記念事業を継続して行う。

### ■教育に関する重点施策

#### 1) 質の高い医療人の育成

- ・ 卒前教育の改善と充実を図る。国際標準の医学教育分野別認証外部評価を受審し、認証取得を目指す。
- ・ 卒後教育を改善して質の高い研修医とレジデントを育成する。総合診療医養成プログラムの充実を図る。
- ・ 看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標を明示する。
- ・ 看護学専攻修士課程は、看護学科、看護専門学校、および看護部と連携して教育者や専門看護師を育成する。

### ■研究に関する重点施策

#### 1) 医学・看護学研究の推進

- ・ 各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
- ・ 学内学外の研究連携を促進する。
- ・ 研究者としての高い倫理観を涵養する。
- ・ 医療現場と連携して看護学研究を振興する。
- ・ 総合医科学研究センターの充実を図る。
- ・ 臨床研究支援センターを設立し、臨床研究を振興する。
- ・ 研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。

### ■医療に関する重点施策

#### 1) 医療安全の推進

- ・ 医療安全体制を検証し、さらに有効・効率的な医療安全体制を構築し、実践する。

#### 2) 各附属病院の活性化と機能分化

##### ①救急体制の充実

- ・ 本院は救急体制を充実させ、新外来棟での救命救急センター設置を目指す。
- ・ 柏病院は救命救急センターとしての機能を強化し、増床計画を進め地域医療に貢献する。

##### ②がん診療の推進

- ・ がん診療に関する専門職者の育成に努め、本院と柏病院は「地域がん診療連携拠点病院」、葛飾医療センター、第三病院は「東京都がん診療連携協力病院」としての機能強化を図る。
- ・ 葛飾医療センターは、放射線治療・化学療法の再整備を図る。

##### ③地域医療への貢献

- ・ 葛飾医療センターと第三病院は、地域医療ニーズに応えられるように診療体制の改善充実を図る。
- ・ 医療連携の強化策を具体的に策定し実践する。

#### 3) 職種間の協力体制の構築

- ・ チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

#### 4) 適正な収支構造の確立

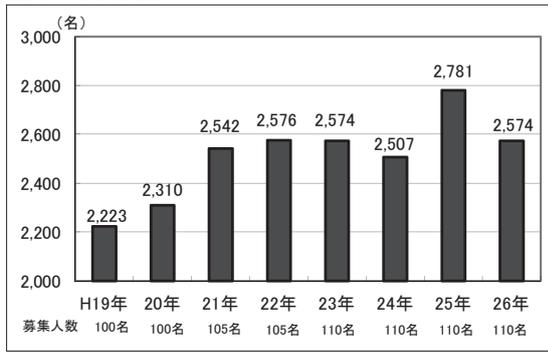
- ・ 診療報酬改定の内容を詳細に分析し、適正なDPCの算定を行う。
- ・ 医薬品、医療材料の適正使用、並びに後発薬品の採用を推進する。

## ■法人運営に関する重点施策

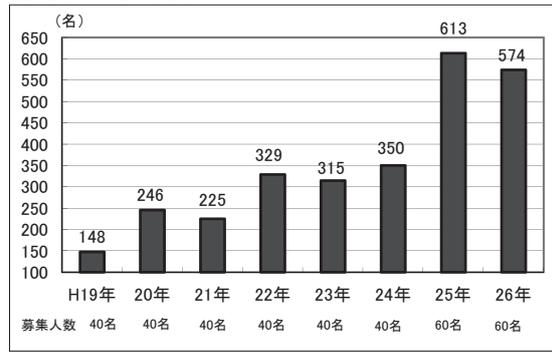
- 1) 内部統制の強化
- 2) 法令遵守の徹底
  - ・コンプライアンス強化のために具体的施策を推進する。
- 3) 安定した財政基盤の構築
  - ・法人における収支構造の点検を行う。
  - ・機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。
  - ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。
  - ・ICT関連経費の適正化を図る。
  - ・コストマネジメントプロジェクトを中心に経費削減と効率化を図る。
- 4) 教職員の満足度向上と人材育成制度の強化
  - ・職場環境の改善、充実を図る。
- 5) マスタープランの策定
  - ・西新橋キャンパス再整備については具体的に計画を推進する。
- 6) 業務改善の推進
  - ・労働生産性の向上に向けた対策を行う。
  - ・中期目標・中期計画実現のためにBSCの推進とPDCAサイクルを活用し、単年度事業計画を達成する。
- 7) その他
  - ・情報公開の推進、広報活動の充実のため本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールすると共に病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に努める。
  - ・大規模災害対策の再整備とBCP（事業継続計画）を策定する。
  - ・地球温暖化防止関連法規を遵守し、エネルギーの有効利用とエコ活動を推進する。

■教育に関する重点施策：参考指標

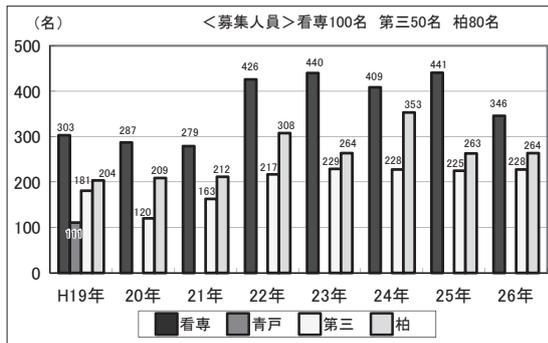
医学科志願者数



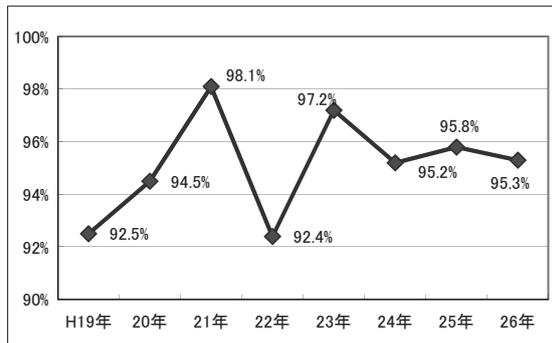
看護学科志願者数



看護専門学校 志願者数

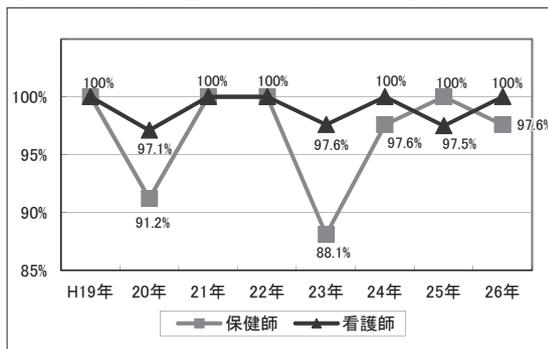


医師国家試験 合格率（医学科）

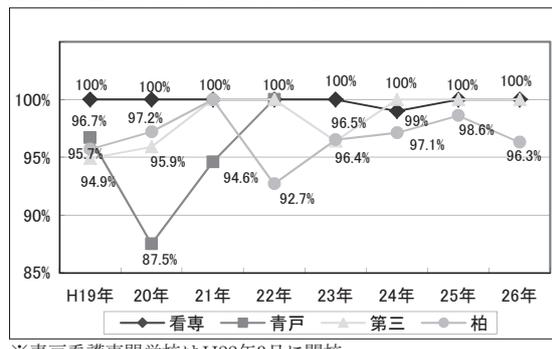


※青戸看護専門学校はH20年度より募集中止

看護師・保健師国家試験 合格率（看護学科）

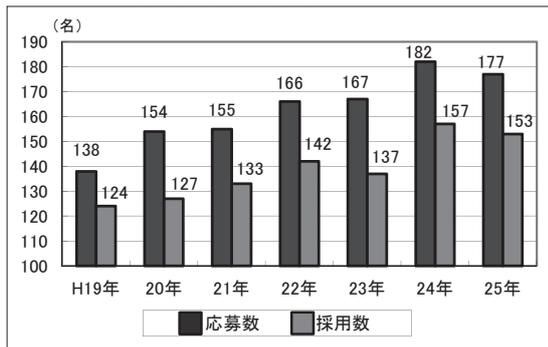


看護師国家試験 合格率（看護専門学校）

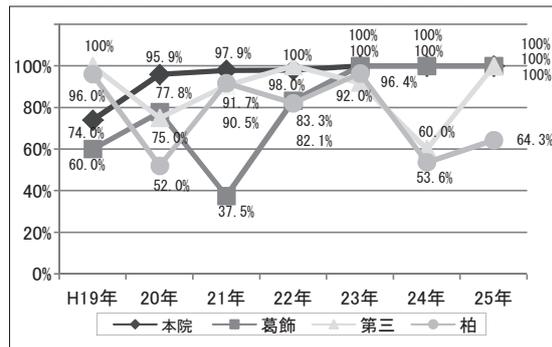


※青戸看護専門学校はH22年3月に閉校

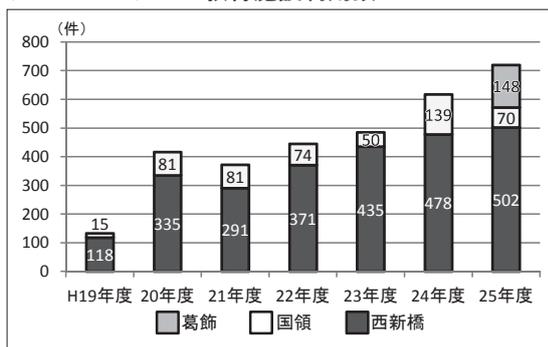
レジデント応募者数、採用数



医師臨床研修マッチングによる定員充足率



シミュレーション教育施設利用数

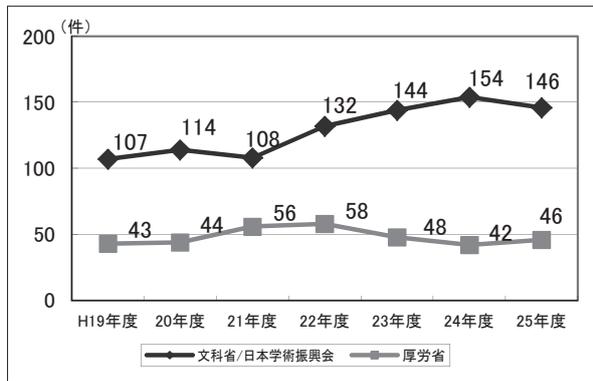


定員	H19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
本院	50	49	47	51	51	51	51
葛飾	10	9	8	6	6	6	6
第三	25	24	21	25	25	25	23
柏	25	25	24	28	28	28	28

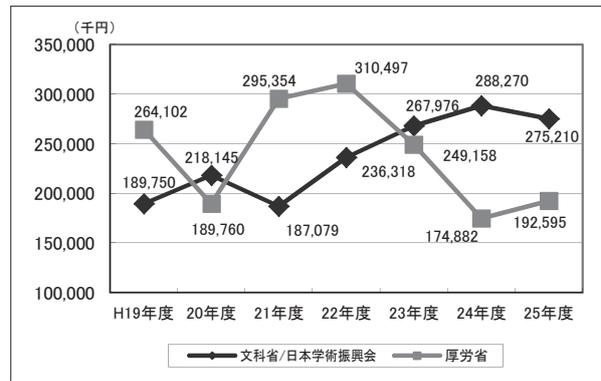
※葛飾医療センターはH25年度から稼働

■研究に関する重点施策：参考指標

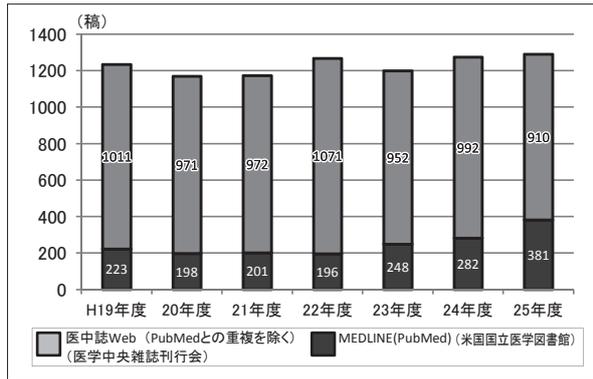
科学研究費補助金 採択件数



科学研究費補助金 採択金額

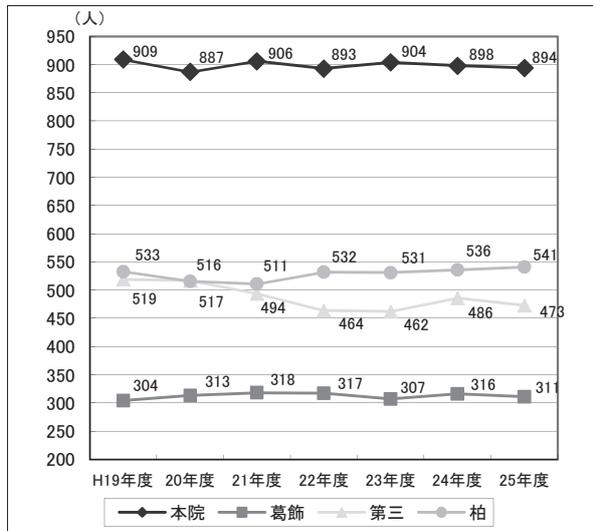


論文発表数

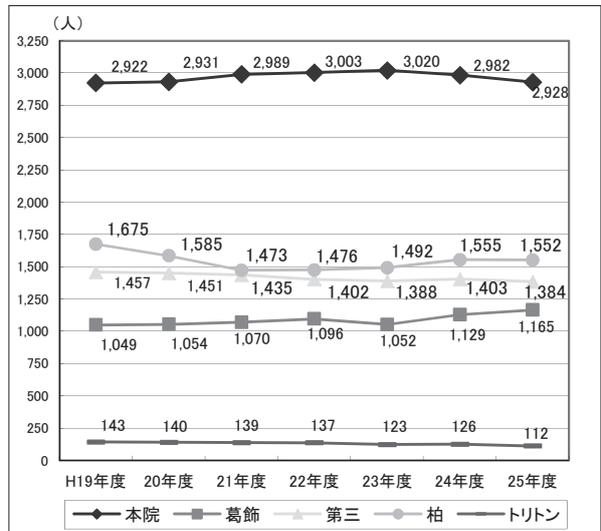


■医療に関する重点施策：参考指標

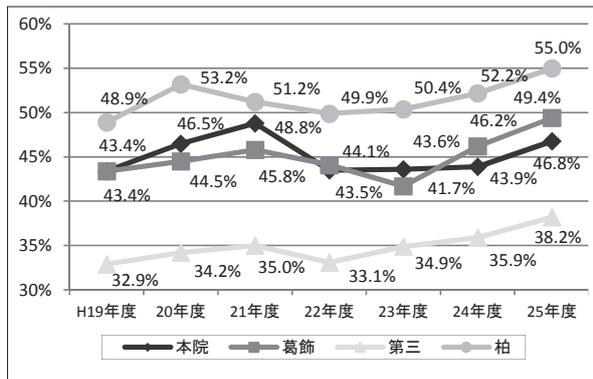
【入院】 1日平均患者数



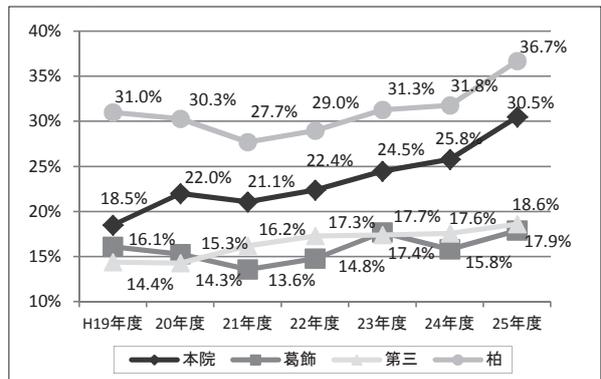
【外来】 1日平均患者数



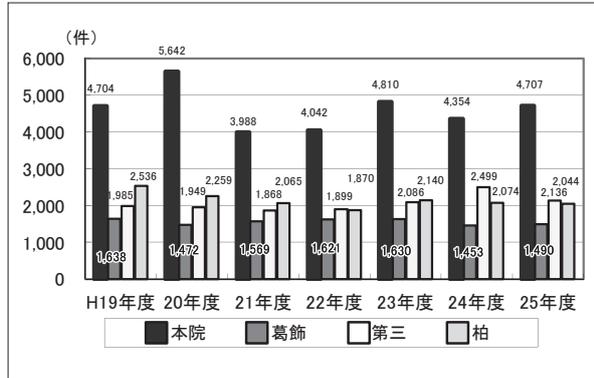
紹介率



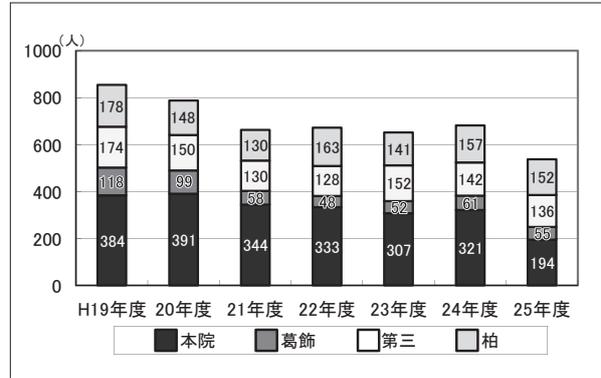
逆紹介率



インシデント・アクシデント報告件数

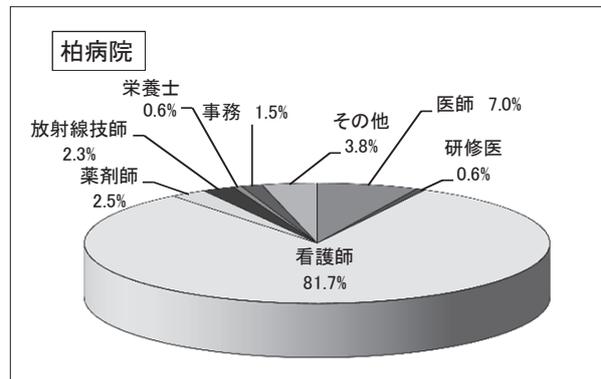
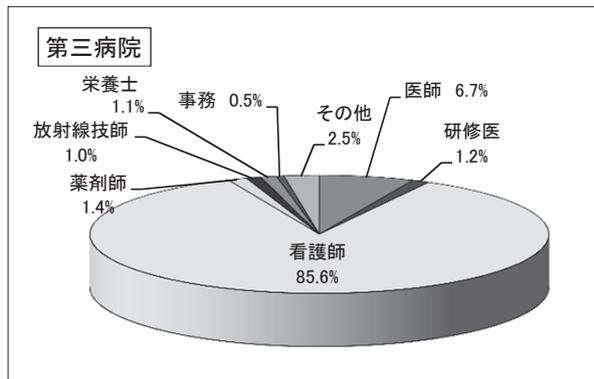
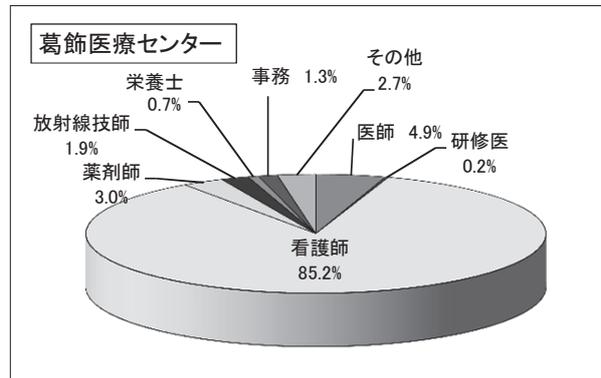
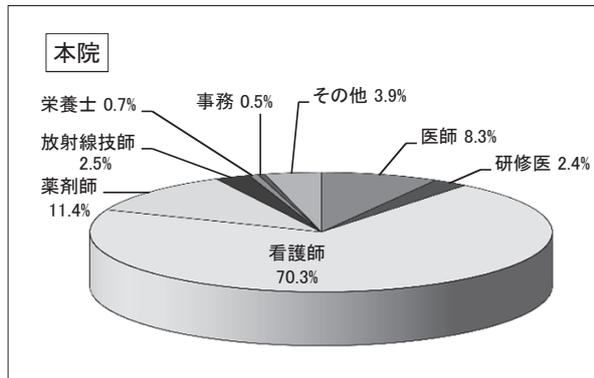


チーム医療構築WG参加者数

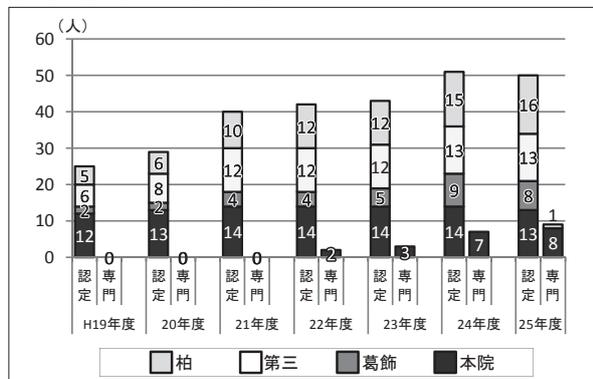


※多職種間のコミュニケーションをテーマにグループ討議を通じて更なる医療安全の質の向上と患者安全の方策について意見交換するワークショップ。H25年度の開催回数は本院3回、葛飾1回、第三2回、柏2回。

インシデント・アクシデント報告 職種別報告件数

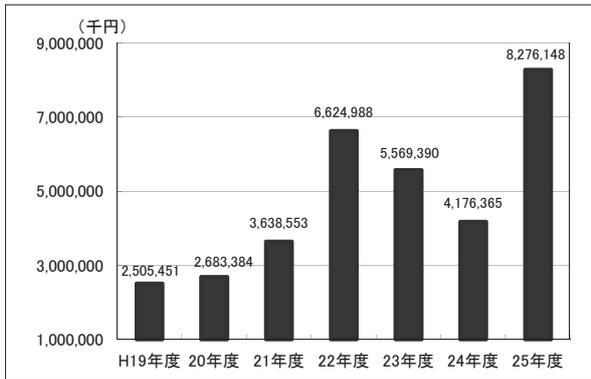


認定看護師数、専門看護師数

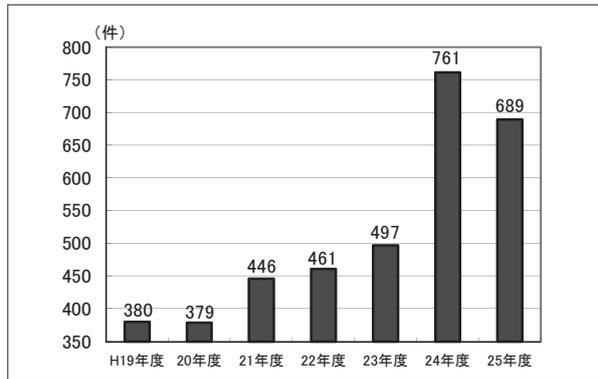


■法人運営に関する重点施策：参考指標

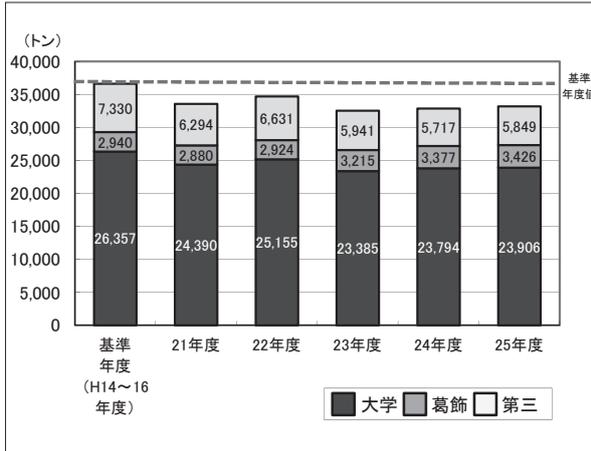
帰属収支差額



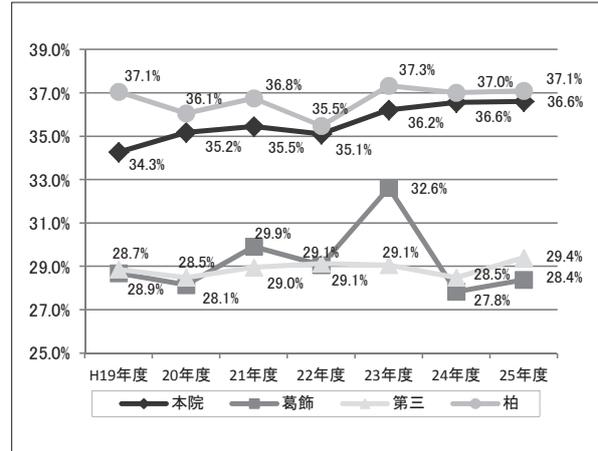
メディア掲出件数



CO<sub>2</sub>排出量 (東京都環境確保条例対応)



医療経費率

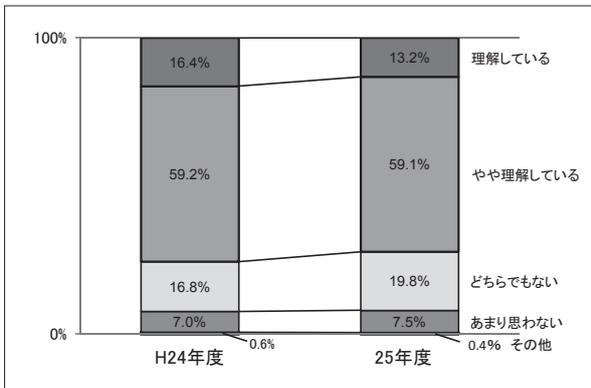


※文部科学省へ届出の決算書より算出

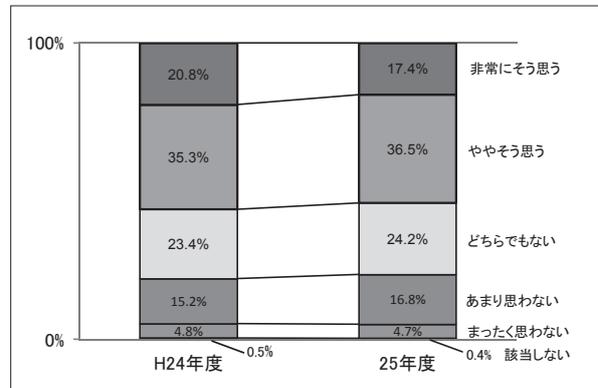
教職員アンケート結果

※教職員アンケート回答率 H24年度 62.2% H25年度 68.8%

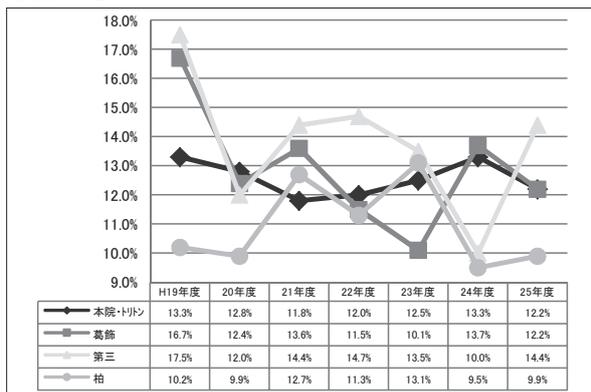
あなたは病院(大学)の理念・使命・目標などを理解していますか？



あなたは、今の職場でこれからも働きたいと思いませんか？



看護師離職率



## 中期計画・中期目標・平成26年度事業計画 目次

<b>I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</b> .....	129
1. 教育に関する目標.....	129
(1) 教育に関する目標（医学科・看護学科）.....	129
(2) 教育の実施体制等に関する目標.....	132
(3) 学生への支援に関する目標.....	133
(4) 看護専門学校に関する目標.....	134
2. 研究に関する目標.....	134
(1) 研究水準および研究成果に関する目標.....	134
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標.....	135
(3) 総合医科学研究センターに関する目標.....	135
(4) その他.....	136
3. 附属4病院に関する目標.....	136
(1) 附属4病院間の連携強化.....	136
(2) 医療安全・感染対策の推進.....	136
(3) 先進医療の推進.....	138
(4) 患者サービス・医療連携の推進.....	139
(5) 効率的な医療の推進.....	140
(6) 予防医学の推進.....	141
(7) 財務の改善・充実を図る。.....	141
●本院に関する目標.....	142
●葛飾医療センターに関する目標.....	145
●第三病院に関する目標.....	146
●柏病院に関する目標.....	147
<b>II 法人運営の改善および効率化に関する目標</b> .....	150
1. 運営体制の改善に関する目標.....	150
2. 人材確保・育成・活用に関する目標.....	151
3. 事務の効率化・合理化に関する目標.....	152
<b>III 財務の改善に関する目標</b> .....	153
1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標.....	153
2. 経費の抑制に関する目標.....	153
3. 資産の運用管理の改善に関する目標.....	154
<b>IV 自己点検・評価の充実にに関する目標</b> .....	154
<b>V その他事業運営に関する重要目標</b> .....	155
1. 本院新外来棟建築に関する目標.....	155
2. 大学マスタープランの策定に関する目標.....	155
3. 創立130年記念事業に関する目標.....	155
4. 大規模災害時の対応に関する目標.....	155
5. 葛飾医療センター開設後の評価を行う。.....	155

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</b> <b>1. 教育に関する目標</b> <b>(1) 教育に関する目標(医学科・看護学科)</b> <b>○卒前教育</b> ・将来を見据えて教育理念 ・教育目標を再構築し、教育の質の向上を図る。 ・問題解決能力を涵養する。 ・高い臨床能力を涵養する。 ・自ら学ぶ態度を涵養する。 ・大学間連携を推進する。 ・厳正で適切な評価システムを構築する。 ・国際基準に適合した医師・看護師教育を実施する。 ・医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。 ・優れた人材の獲得に向けて医学科・看護学科の入学試験方法を改善する。 ・医療人に相応しい人格と社会性を涵養する。 ・多様な進路に対応したカリキュラムを提供する。(研究医・国際貢献など) ・知性と社会性を身につけた医師・看護師を育成するための方策を策定する。	<b>教育理念・教育目標を再構築</b> ・教育内容公開数 H25:1 H26:1 ・連携大学数 H25:11 H26:13 ・留学生の受入数 H25:43 H26:50 ・臨床実習週(時間)数(医学科) H25:60週 H26:60週 (看護学科) H25:13,361時間 H26:13,360時間 ・看護学科受験生500名以上(医学科) H25:2,574名 H26:2,600名 (看護学科) H25:574名 H26:550名 ・医師・看護師・保健師国家試験合格率(医学科合計) H25:95.3% H26:100% (新卒) H25:97.1% H26:100% (看護師) H25:100% H26:100% (保健師) H25:97.6% H26:100%	<b>対策(アクションプラン)</b>  ①初年次教育を改善する。	学事課	教学委員会	(医学科) 1. 6年一貫教育の中での初年次教育の充実を図る。 2. 高校との学び方の相違にとまどい、学力低下の目立つ学生に対して、新入生オリエンテーションにおける指導や各ユニット担当者による個別の指導を強化する。 3. 初年次教育充実の為のFDを開催する。 (看護学科) スタートアップ宿泊研修および看護総合演習Ⅰの内容について点検評価を継続する。
		②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 1. 平成26年6月に国際認証外部評価を受審する。 2. 医学科達成指針に基づき、系統立てられた各学年のカリキュラムを作成する。
		③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切り替える。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 5年生臨床実習にログブックを試験的に導入し、到達度評価を実施する。 (看護学科) 平成24年度改正カリキュラムの実施と評価を行う。
		④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。 附属病院の教育機能を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 1. ログブックを試験的に導入しブラッシュアップを行う。 2. 集合教育にて実施する授業科目の具体的内容を検討する。 3. 学生担当教員へのFDを実施する。
		⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。 教育内容の公開を促進する。	学事課	教育センター 教学委員会	(医学科・教育センター) 自己主導型学習システム(SeDLES)を用いて、学生の能力特性を判断し学生個々にフィードバックを開始する。
		⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。	学事課	教育センター 教学委員会	(看護学科) e-ポートフォリオシステムが完成を迎えるため、引き続きシステムの運用を軌道にのせる。 (教育センター) 1. 市民参加型教育を推進し、3回の授業で実践し、学生一人ひとりの他者理解力の向上を図る。 2. 授業へのIT導入とTBLの普及を図る。クリッカーを活用し5回の授業で実践する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成26年度事業計画

中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成26年度事業計画
		⑦卒前教育における大学間連携を推進する。	学事課	教学委員会	(医学科) 1. 4大学での連携事業を継続実施する。 2. 首都大学東京からの履修生受入れを継続実施する。
		⑧学習記録と連携させた評価システムを構築する。コンピュータ試験を積極的に導入する。	学事課	教育センター 教学委員会科 目横断評価プロジェクト	(教育センター) コンピュータ試験を医学科6回、看護学科2回実施する。 (医学科) 学内CBTに対応したコンピュータ試験システムの構築を検討する。 (看護学科) 2～4年生を対象とした試験とともに、e-ポートフォリオでのリフレクションを含めて実施する。
		⑨医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の国外留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受け入れる。	学事課	教学委員会 国際交流委員会	(医学科) 1. 卒前英語教育を見直し、カリキュラムに反映する。 2. 外国の大学と連携・協定をすすめる。 (看護学科) 3年後期に開講する国際看護実践の学習内容の充実および海外医療機関の看護研修の拡大を検討する。
		⑩学生の国家試験準備への支援体制を整備する。	学事課	教育センター 教学委員会 学生委員会	(教育センター) 医師国家試験問題をDB化し、学生の自己学習環境を整備する。 (医学科) 自己主導型学習システム(SeDLES)が多くに学生に利用されるよう周知する。また、利用状況、成績を把握し必要に応じて学生へフィードバックを行う。 (看護学科) 模擬試験の成績が思わしくない科目と学生に対する学習環境の整備、およびグループ学習支援について検討する。
		⑪入学試験方法を継続的に改善する。	学事課	入試検討委員会	(医学科) 入試検討委員会にて地域枠の選抜方法を継続検討する。 (看護学科) 入試分析会等での情報収集、学生アンケートにより、効果的な入試対策を検討する。特に、ICTを活用した入試広報の活用可能性について検討をすすめる。
		⑫教養教育の高学年への拡充を図る。医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科・看護学科) 高学年次の医学科生との共修による倫理教育を充実させる。
		⑬選択制カリキュラムの充実を図る。臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。	学事課	カリキュラム委員会	(医学科) 卒前カリキュラムの改定と合わせて、MD-PhDコース導入に向け継続検討する。 (看護学科) 3年前期および4年後期の選択科目の内容を充実させる。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑭広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。	学事課	広報課 広報委員会	(看護学科) 1. オープンキャンパスを年3回開催する。 2. 予備校説明会、高校模擬授業に積極的に参加する。
		⑮総合診療医育成のため教育体制を構築する。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 1. 大学院に総合診療医育成コースを新設する。 2. 高齢者医療体験実習新設に向けた準備をすすめる。
○大学院教育 ・臨床を支える研究を推進する。 ・高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者を育成する。 ・研究者育成のための実効ある方策を立てる。 ・社会に開かれた大学院として、生涯学習の場を提供する。 ・大学院教育のカリキュラム評価システムを構築する。 ・看護実践を支える看護研究を推進する。 ・大学院間連携を図り、幅広い研究を可能とする。	臨床を支える研究の推進  高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者育成 ・改訂プログラム数 H25:2件 H26:2件 ・大学院生数 H25:133名 H26:135名 ・学位授与数 H25:62名 H26:64名 ・学位論文のインパクトファクター H25:3.55(平均) H26:3.75(平均)	①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	学事課	大学院委員会	(博士課程・修士課程) 4大学院連携事業(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)としてがん医療人WSを開催する。 (博士課程) 導入したCITI-Japanによるe-ラーニングの有効利用を検討する。
		②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. がん治療医療人コースを開始し、4大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を実施する。 2. 萌芽的共同研究推進費の拡充を検討する。
		③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 継続的に大学院生のニーズを調査し、共通プログラムに反映させる。
		④社会人入学の推進を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. 大学院生が必要とする情報を随時更新する。提出時に使用する書式をダウンロードできるよう整備する。 2. 導入したCITI-Japanによるe-learningの有効利用を検討する。
		⑤看護学専攻修士課程における「教育・研究」を改善し質を高める。	学事課	大学院委員会	(修士課程) 大学院生の学会参加、発表を継続して支援する。
		⑥大学院生からの大学院カリキュラム(共通カリキュラム・選択カリキュラム)評価を定期的に実施する。	学事課	大学院委員会	(修士課程) 大学院生とともに授業評価を継続し、大学院委員会にフィードバックする。
		⑦大学院生の論文作成状況を適切にモニターする。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 継続的に大学院生の研究活動状況調査を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
○卒業教育 ・卒業教育機関としての質の向上を目指す。 ・卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 ・同窓および地域医療者に生涯学習の場を提供する。	<b>毎年の改善と公開</b> <b>・レジデント応募者数、採用数</b> H25:172名 H26:180名 <b>採用数</b> H25:153名 H26:155名 <b>・医師臨床研修マッチングによる定員充足率</b> H25:91% H26:100%	①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。	臨床研修センター	教育センター	(臨床研修センター) 臨床研修プログラムは研修管理委員会を通じて適宜見直し、更なる充実を図る。一方、指導体制の充実に関しては今後も指導医講習会を中心に進める。 (教育センター) 患者安全シミュレーション教育等において10種の教育プログラムを行う。
		②専門修得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。	臨床研修センター	教育センター	(臨床研修センター) 専門修得コース(レジデント)プログラムはレジデント委員会を通じて各科に適宜見直しを依頼し、更なる充実を図る。プログラムはホームページに掲載すると共に、冊子として広く配布する。 (教育センター) 心停止予防および臨床指導者養成シミュレーション教育等を12ステーション行う。
		③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。	教育センター	慈恵看護教育あり方会議	1. ICLS 指導者講習会を11回開催する。 2. ナーシングスキルの活用効果を評価し、8部署への拡大を検討する。 3. 看護実践力、看護マネジメント力向上のための段階的研修を3回開催する。
(2) 教育の実施体制等に関する目標 ・教育環境を整備する。 ・教育力の向上に努める。 ・教員評価を推進する。 ・教育評価を実施する。	<b>整備する教育環境数</b> <b>・eラーニング実施数</b> H25:279件 H26:280件 <b>・シミュレーション教育施設利用数</b> H25:659回 H26:700回 <b>FDの内容</b> <b>・クリニカル・クラークシップ指導医養成FDの実施</b> <b>教員評価制度の運用</b>	①効果的な教育ができるように、講義室やICT環境を含む教育設備を整備する。	学事課 教育センター	教学委員会	(学事課) 1. 各分院においてシミュレーション教育が出来るよう環境の整備をすすめる。 2. 大学1号館講堂を中心にWiFi環境導入をすすめる。 (教育センター) 1. e-ラーニングシステムの利用を卒前・卒業後で250回の実施を支援する。 2. シミュレーション教育環境について、本院、葛飾、第三、柏の4機関各々に委員会を設けて管理運営する。 3. ポートフォリオシステムを医学科、看護学科、臨床研修の3領域に拡充する。
		②カリキュラムに見合った、教員の適正配置と教員数を検討する。	教員・医師人事室		(教員・医師人事室) 教員・医師人事室にて関連部署と協力しながら適切な人数を設定する。
		③教育能力向上のための教育研修を実施する。	学事課 総務課 (生涯学習センター) 教育センター	生涯学習委員会 FD委員会	(医学科) 1. 医学教育セミナーを企画し実施する。 2. 臨床実習指導医養成FDを継続実施し、受講者数を200名以上にする。 (看護学科) 1. 看護学科主催のFDを2回実施する。 2. 修士課程と合同のFDを1回実施する。 (総務課) 生涯教育のための月例セミナーを年8回・夏季セミナーを年1回継続的に開催する。 (教育センター) 医学教育セミナーを企画し実施を支援する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		④診療参加型臨床実習の拡充のため、臨床実習指導医のFDを充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会 臨床実習委員会	(医学科) 1. クリニカル・クラークシップ指導医養成FDを継続実施する。 2. 分院におけるFD開催を検討する。 (臨床研修センター) 平成26年度においてもレジデント1年目を対象とする教育に関するFDを年2回開催する。
		⑤教育アドバイザーを導入する。	学事課 教育センター	教学委員会	(学事課・教育センター) 教育アドバイザーを導入する。
		⑥臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。	学事課 教育センター	教学委員会 臨床実習委員会 公開講座委員会	(医学科・教育センター) 臨床実習協力病院向けに説明会を4回行う。 (看護学科) 外部実習施設スタッフとの研修会の実施について検討する。 (教育センター) 学外の3病院に臨床実習の協力を依頼する。また、FDの企画を検討する。
		⑦教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。	教員・医師人事室		(教員・医師人事室) 事務部門による業績入力を100%行い、かつ、教員本人による個別入力も更に促進して教員・医師の昇格審査に活用する。
(3) 学生への支援に関する目標	奨学金制度の充実 ・学生のニーズに応じた奨学金の支給メンタルヘルス教育の充実 ・医学教育セミナーの開催数 H25:1回 H26:2回	①学生支援のための教員組織を再構築する。	学事課	学生委員会	(医学科) 本制度を利用しやすいものとするため、父兄会等を通じて広報を行う。 (看護学科) 学生生活アドバイザー制度の評価を行い充実させる。
		②学力および経済的に問題のある学生に対応する体制を改善する。	学事課	教育センター 学生委員会	(医学科) 学生が利用しやすい制度となるよう、学生本人や父兄に広報する。 (看護学科) 問題のある学生を早期に指導・相談できる体制を構築する。
		③奨学金制度を充実させる。	学事課	奨学金委員会	(医学科) 慈恵医師会奨学金(海外選択実習奨学金)の公募を継続するとともに、海外にて実習を希望する学生を支援する奨学金制度の導入を検討する。
		④精神的支援を必要とする学生のための支援システムを構築する。	学事課	精神神経科 学生委員会	(医学科) 学生相談室・精神神経科と定例で行っている打ち合わせ会で得られた情報の活用、情報の提供範囲を検討する。 (看護学科) 現行の健康相談窓口を継続し、更に学生への周知を図り、システムとして軌道に乗せる。
		⑤メンタルヘルスの教育を拡充する。	学事課	精神神経科 学生委員会	(医学科・看護学科) 教職員向けの大学生のメンタルヘルスについての研修会を企画する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の教育の向上を図る。 ・優秀な学生を確保する。	<b>教育の向上</b> <b>・臨床実習の充実</b> <b>国家試験合格率</b> (新橋校) H25: 95名(100%) H26: 100% (第三校) H25: 56名(100%) H26: 100% (柏校) H25: 78名(既卒1名含) (96.3%) H26: 100% (3校平均) H25: 98.7% H26: 100% <b>附属病院への就職者率</b> (新橋校) H25: 97.8% H26: 90%以上 (第三校) H25: 90.9% H26: 90%以上 (柏校) H25: 84% H26: 90%以上 (3校平均) H25: 91.5% H26: 90%以上	①看護実践を重視した看護教育を行う。	看護専門学校		1. 卒業時看護実践能力の調査を実施する。 2. 自己点検自己評価を推進する。自己点検自己評価について3校で同じフォーマットを作成評価する。
		②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	看護専門学校		多様な臨地実習場所を確保し、臨地実習環境を整備する。
		③学生生活支援を積極的に行う。	看護専門学校		1. 国家試験・就職100%を支援する。 2. 学生生活の支援を強化する。 3. 休学者・単位未履修者数を減少させる。
		④学生確保のために積極的な広報活動を行う。	看護専門学校	広報課	オープンキャンパス、ホームページの充実、高校訪問と予備校との連携を強化する。
		⑤看護教員の確保に努める。	看護専門学校		1. 各校で教員を募集し養成する。 2. 学内より看護教員養成講習会へ定期的に派遣する。
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準および研究成果に関する目標 ・国際的な視野に立った先進的研究を推進する。 ・質の高い基礎医学および臨床医学研究を振興する。 ・外部競争的資金の獲得を支援する。	<b>研究水準の向上</b> <b>・文部科学省科学研究費補助金 採択件数</b> H25: 146件 H26: 156件 <b>研究成果の向上</b> <b>・論文発表数</b> H25: 1,291稿 H26: 1,300稿	対策(アクションプラン)			
①研究業績を把握し評価する。		学事課	大学院委員会	継続的に業績評価を実施する。	
②教員の職位に応じた論文発表数の基準を設定し、評価する。		学事課 教員・医師人事室	学術情報センター 大学院委員会	(学術情報センター) 1. 教員評価データベース管理委員会に参加し、業績(論文発表)の入力機能に関する問い合わせへの対応を担当する。 2. Read & Researchmap (R&R) の学内連絡部署を担当する。また、R&R 活用の必要性について確認する。 (看護学科) 1. 教員の研究推進、研究に関する学内研修を継続する。 2. 第三病院、第三看護専門学校との共同研究の推進を図り研究発表会の開催を計画する。 (教員・医師人事室) 適正な基準の策定に向けて学長諮問会議の中で今後も継続検討する。	
③国際誌への投稿を推進し、支援する。論文執筆のためのFDを継続して行う。	学術情報センター		1. 医学論文書きかた講習会(大学院共通カリキュラム)を年間4回以上継続して開催する。 2. 論文執筆時に必要となるデータベース・文献管理システムの利用説明会を開催する。 3. プレゼンテーション資料作成業務を支援する。		

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		④ Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の改善・充実を図る。成医会の改善・充実を図る。	学術情報センター 総務課		(学術情報センター) 1. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の合同編集委員会を年4回以上継続して開催し、両誌の改善・充実に向けた審議をする。 2. 両誌の内容をインターネットで参照できるように掲載記事を本学の機関リポジトリに登録する。 3. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌への投稿を呼びかける。 (総務課) 成医会幹事・運営委員会にて、参加者の興味を引くような講演テーマの検討を継続的に行う。
		⑤ 若手研究者による競争的研究資金の獲得を支援する。	研究支援課	教育研究助成委員会	1. 科研費申請のための書き方講習会を開催する。 2. 日本学術振興会特別研究員応募申請のための講習会を開催する。 3. 英文論文の書き方講習会を開催する。
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標  ・透明性・公正性・中立性の高い臨床研究を推進する。 ・研究環境を整備する。 ・先進的研究実施体制を構築する。 ・寄付講座制度を活用する。 ・医師の研究時間を確保するために効率的な人員配置をする。 ・率的に人員を配置する。 ・学内横断的研究プロジェクトを推進する。	研究実施体制の整備 ・毎年度4件の大型プロジェクト研究事業の採択数 H25:1件 H26:1件 ・寄付講座設置数 H25:2講座 H26:2講座 ・研究機器の運用効率を高める	① 臨床研究支援体制を構築する。研究機器の運用効率を高める。 ② 薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室は臨床試験支援センターと連携し、臨床研究を推進する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 総合医科学研究センター	1. 臨床研究支援センターを設立し、倫理委員会、利益相反管理委員会と連携し研究内容の精度向上を図る。 2. 総合医科学研究センターの体制移行とともに速やかに研究が開始できるよう実務的なルールと基盤作りを行う。 3. 文部科学省「私大戦略的研究基盤形成支援事業」に新規研究プロジェクトを申請し、臨床研究を推進する。
		③ 先端研究を推進する体制を作る。学内共同研究を推進し、支援する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 総合医科学研究センター	1. 先端研究を推進するための学内共同研究を支援する。 2. 先端医学推進拠点群を設置し、拠点センターにおける研究を推進する。
		④ トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 総合医科学研究センター	大型プロジェクト対策委員会等を通して複数の学内でトランスレーショナル研究を推進する。
		⑤ 寄付講座を振興する。	大学事務部 研究支援課		(大学事務部・研究支援課) 教育研究助成のため個人または団体からの寄付を受ける研究を推進する。 (研究支援課) 寄付講座の維持、研究の推進を行う。
(3) 総合医科学研究センターに関する目標  ・各研究所 ・研究室の活動を定期的に点検・評価し、特色ある研究を推進する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。 ・研究支援部門の充実を図る。	特色ある研究の推進 ・総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25:0回 H26:1回 ・学内共同研究数 H25:35件 H26:40件	① 自己点検・評価を推進し外部評価を行い、組織を再構築する。	研究支援課	総合医科学研究センター	総合医科学研究センターの新体制が円滑に機能するよう組織の維持・管理を集中的に行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		②学内共同研究を企画・推進する。	研究支援課	総合医科学研究センター	総合医科学研究センターを中心とした共同研究を推進する。
		③各部署の特色ある研究を推進し、研究成果を積極的に開示する。	研究支援課	総合医科学研究センター	定期的に研究成果の発表を行い各講座との共同研究を推進する。
(4) その他 ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。	情報公開による社会貢献 ・一般市民および地域医療者を対象とした公開講座を毎年20回開催 ・公開講座開催数 H25:37回 H26:37回	①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	教育センター	公開講座推進委員会	4機関で30回の公開講座を開催する。
3. 附属4病院に関する目標 (1) 附属4病院間の連携強化	数値目標等は各病院で設定 4病院の特色分化を図る	対策(アクションプラン) ①附属4病院間の機能の有機的活用を図る。 (葛飾) ①葛飾医療センターにない診療科の診療及び治療の連携を強化する。 ②看護師の人事フローを流動化する。	管理課(4病院) 企画部	4病院長・事務・看護部長会議 西新橋キャンパス再整備タスク・フォース 医療構造分析・適正化タスク・フォース	(本院)(柏) 平成25年度中に救急車1台(一般)を柏病院に移管するため、次年度からの高規格救急車1台体制に向けての運用面の見直し等を図る。 乗務員の増員検討とともに見直す。 (葛飾) 放射線治療部門の体制整備を行う。 (第三) 1. 森田療法、結核病棟等の特色を生かし附属4病院の有機的な活用を計画する。 2. 診療科ごとの機能分化を進め更なる情報発信に努める。 (企画部) マスタープランの検討委員会で4病院の機能分化を検討する。
(2) 医療安全・感染対策の推進	数値目標等は各病院で設定 医療安全・感染対策の推進 ・インシデント・アクシデント報告件数 (本院) H25:4,707件 H26:4,800件 (葛飾) H25:1,490件 H26:1,500件 (第三) H25:2,136件 H26:2,500件 (柏) H25:2,044件 H26:2,100件	①附属4病院間の連携強化と医療安全・感染対策管理体制の整備を図る。 ②教職員の教育・研修を充実させ医療安全・感染対策に対する意識の向上を図る。 ③全国の私立医科大学病院の医療安全・感染対策推進活動に貢献する。 ④システム工学の視点に立った医療安全システムの構築を図る。	医療安全管理部	医療安全管理部	附属4病院セーフティマネジメント委員会および4機関医療安全感染対策合同相互ラウンドによる連携強化を図る。 1. 附属4病院でTeam STEPPSの推進を図るため、講義を含めた積極的な活動を行う。感染対策ベーシックコースの積極的活動の推進。 2. e-ラーニングによる研修方法を検討する。 私大関係の事務局として相互ラウンド及びサイトビジット、各作業部会などの事業を推進する。 東京大学・早稲田大学との共同研究を推進する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<p>・インシデント・アクシデント報告職種別報告件数</p> <p>(本院)</p> <p>H25: 医師389件、 レジデント・研修医115件 看護師3,311件 薬剤師538件 放射線技師116件 栄養士31件 事務22件 その他185件</p> <p>(葛飾)</p> <p>H25: 医師73件・ 研修医3件 看護師1,270件 薬剤師44件 放射線技師29件 栄養士11件 事務20件 その他40件</p> <p>(第三)</p> <p>H25: 医師143件・ 研修医26件 看護師1,828件 薬剤師29件 放射線技師22件 栄養士24件 事務11件 その他53件</p> <p>(柏)</p> <p>H25: 医師144件・ 研修医13件 看護師1,669件 薬剤師52件 放射線技師46件 栄養士12件 事務30件 その他78件</p> <p>・チーム医療構築WG参加者数</p> <p>(本院)</p> <p>H25: 194名 H26: 200名</p> <p>(葛飾)</p> <p>H25: 55名 H26: 64名</p> <p>(第三)</p> <p>H25: 136名 H26: 140名</p> <p>(柏)</p> <p>H25: 152名 H26: 155名</p>				

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 先進医療の推進	数値目標等は各病院で設定  <b>先進医療の推進</b> <b>・先進医療の承認件数</b> (本院) H25:7件 H26:9件 (葛飾) H25:0件 H26:1件 (第三) H25:1件 H26:1件 (柏) H25:3件 H26:5件 <b>・先進医療の実施件数</b> (本院) H25:112件 H26:120件 (葛飾) H25:0件 H26:10件 (第三) H25:5件 H26:5件 (柏) H25:24件 H26:30件 <b>・新規先進医療承認件数</b> (本院) 承認数2件以上 H25:0件 H26:2件 ※H25の申請件数は2件 (葛飾) 新規導入 H25:0件 H26:1件 (第三) 年間1件以上 H25:0件 H26:1件 (柏) 年間1件以上 H25:新規0件 H26:1件	①患者ニーズに応える先進医療に取り組む。	管理課 (4病院)	各診療科先進医療委員会	(本院) 診療科からの要望に対応できるように常に最新の情報を収集し、医療の質・技術向上に取り組み、患者からのニーズに対応した先進医療を提供する。 (葛飾) 診療部に対する先進医療に係る啓蒙を行い新規の先進医療実施の可能性を確認する。 (第三) 新規申請1件以上を目標に、各診療科に情報提供を実施する。 (柏) 先進医療委員会への継続的な報告と要請により、年間1件以上の申請を目指す。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 患者サービス・医療連携の推進	数値目標等は各病院で設定  ボランティアサービスの充実地域医療連携強化・紹介率・逆紹介率	①患者中心の医療を円滑に推進する。	患者支援・医療連携センター		(患者支援・医療連携センター)(柏) 患者の入退院に対する不安を軽減して、安心して治療に臨め、切れ目のない医療を提供するためのPFMシステム(入退院のコーディネート・事前リスクの回避・社会資源の活用)の機能を強化する。 (柏) 手術説明・術前指導・入院前オリエンテーション、退院調整支援を行う。
		②ICTを用いて地域医療連携を強化する。	患者支援・医療連携センター		(柏病院) 1. 地域医療機関と円滑な患者情報を提供・共有化し、4疾病・5大がんの全県共用地域連携パスを普及する。 2. 連携機関・施設への訪問・調整、医療連携フォーラムの開催、広報活動の充実を図り、顔の見える関係を構築する。
		③住民参加によるボランティアサービスの充実を図る。	ボランティア事務局管理課(葛飾・第三・柏)		(ボランティア事務局) 土曜日の活動業務内容を拡大する。 (葛飾) ボランティアの受け入れ可能な業務を検討し積極的に採用する。 (第三) 1. 地域との連携をより密にする事を目的として、ボランティア活動者の増員を図る。 2. 電子カルテ、自動再来機・自動精算機の導入後の状況を確認し、ボランティアの配置場所を検証し、貢献度を高める。 3. ボランティア活動者とのミーティング等の開催を計画し、活動内容の拡充化を図る。 (柏) ボランティアの活動範囲を拡大する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成26年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
(5) 効率的な医療の推進	<p>数値目標等は各病院で設定</p> <p><b>DPC効率性指数の向上</b> ・平均在院日数の短縮</p> <p>(本院) H25: 11.2日 H26: 11.0日</p> <p>(葛飾) H25: 10.4日 H26: 11.5日</p> <p>(第三) H25: 13.5日 H26: 13.0日</p> <p>(柏) H25: 12.6日 H26: 11～12日</p> <p><b>クリニカルパスの効率的運用</b> ・クリニカルパス適応率</p> <p>(本院) H25: 37.7% H26: 40%</p> <p>(葛飾) H25: 47.9% H26: 48%</p> <p>(第三) H25: 28.1% H26: 28.5%</p> <p>(柏) H25: 37.9% H26: 40%</p> <p>・包括制度効果額 (原価率資料)</p> <p>(本院) H25: 805,107,570円</p> <p>(葛飾) H25: 226,636,000円</p> <p>(第三) H25: 336,291,560円</p> <p>(柏) H25: 520,939,560円</p>	<p>①附属4病院で効率的なDPC運用を図る。</p> <p>②職種間の効率的な協働体制を構築する。</p> <p>③科学的根拠に基づく医療の効率化を推進する。</p> <p>④患者にとって効率的な医療を実践する。</p>	病院事務部(4病院)	病院運営会議 DPC検討委員会 クリニカルパス実践推進委員会	<p>(本院)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各診療科の使用頻度が高いクリニカルパスを対象に、臨床面や経済的視点(後発品の使用促進やDPCとの整合性の検証)の両視点から改定を試み、医療の質向上と効率化を図る。</li> <li>DPC機能評価係数Ⅱの取得に向けての取り組みを進める。</li> <li>各職種の協力のもと診療報酬改定後の検証を行い、増収に繋がる施策を講じる。</li> <li>診断書や各種証明書の代行登録の実施率を拡大し、医師の事務的作業の軽減を推進する。</li> <li>PFMや患者相談窓口を患者支援・医療連携センターに統合することを検討し、より有機的な組織を構築する。</li> <li>SCUの導入を早急に実現する。</li> <li>他大学とのベンチマークを行い、効率的な医療を実践する。</li> <li>循環型・地域完結型医療を推進する。</li> </ol> <p>(葛飾)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>クリパスの拡大と適用率の向上を図る。</li> <li>チーム医療を推進する。</li> <li>疾患(DPC分類)別の原価分析を行い医療資源の投入を行う。</li> <li>地域医療連携を推進する。</li> </ol> <p>(第三)</p> <p>電子カルテ導入に伴い、下記項目を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>DWHデータを検証し、適正なクリニカルパス作成を図る。</li> <li>PFM、グリーンカウンターの運用を検証し、見直しを行う。</li> <li>DWHデータ・DPCデータを基に、クリニカルパスの見直し等により平均在院日数12日台とする。</li> <li>情報を共有し入院患者受入れ、救急患者受入れでのPFMの効率化を図る。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
					(柏) 1. 収支分析を基にクリニカルパスの見直しを行うとともに、収益型クリニカルパス作成・拡大を図り、疾病原価管理を強化する。またクリニカルパスの適用件数・適用率の向上を図る。 2. 医師事務支援室を設立し、専従職員を配置して医師の業務軽減対策としての文書作成補助を本格的に開始する。医師事務作業補助体制加算を申請する。 3. 病院情報システム(電子カルテシステム)導入に向け、事務組織の再構築を行う。また、医師・看護師が行っている業務で事務が行うことで効率化できる業務を整理する。 4. クリニカルパス検討委員会等によるDPCに対応したクリニカルパスの改善・導入により、標準化、安全と効率化を図り、平均在院日数を短縮する 5. 平成27年1月に電子カルテを導入する。 6. 柏市で開発、活用している在宅患者支援システム(カナミック)の利用を拡大する。 7. 医療安全面に考慮しながら、後発薬品への切替を適切に進める。
(6) 予防医学の推進	<p>予防医学の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定保健指導実施率 10%UP</li> <li>・ 論文発表数：10稿 H25：4稿 H26：5稿</li> <li>・ 学会発表数：15題 H25：7題 H26：7題</li> <li>・ 提携団体数：2 H25：1 H26：2</li> </ul>	<p>①大学として予防医学に貢献する。</p> <p>②スポーツウェルネスクリニックとスポーツ医学研究の推進。</p>	<p>総合健診・予防医学センター</p> <p>整形外科</p>	<p>分子生理学講座 座体力医学研究室</p>	<p>総合健診・予防医学として、健診後の特定保健指導及び卒煙教室を継承していく。</p> <p>1. 競技団体との共同での骨代謝動態について測定を推進し、結果を発表する。 2. 体力医学研究の学会発表や論文発表を行う。</p>
(7) 財務の改善・充実を図る。	<p>每期設定される収益目標を達成する。</p>	<p>每期設定される収益目標を達成する。</p>	<p>病院事務部(4病院)</p>		

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
●本院に関する目標		対策(アクションプラン)			
(1) 医療の質の向上を図る。	<p>特定機能病院としての施設基準を維持し、さらに機能を充実させる。(施設要件関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進医療2件以上、又は先進医療1件かつ特定疾患治療研究事業に係る年間500人以上の患者を診療する。</li> <li>H25: 7件</li> <li>H26: 9件</li> </ul> <p>紹介患者50%以上(概ね5年間に10%以上の紹介率を高める)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H25: 46.8%</li> <li>H26: 50.0%</li> </ul> <p>(機能充実関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>逆紹介率50%以上を目標とする。</li> <li>H25: 30.5%</li> <li>H26: 50.0%</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>DPC病院1群としての各機能評価を充実させる。(効率性、複雑性、カバー率、救急医療、地域医療)</li> <li>DPC地域医療指数</li> <li>体制評価指数のアップを図る。</li> <li>H25: 9.11P</li> <li>H26: 10P(上限値)</li> </ul> <p>がん診療連携拠点病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5大がん+前立腺がんのバス運用数年間40件、公開講座開催件数年間2回以上</li> <li>バス運用数</li> <li>H25: 51件</li> <li>H26: 60件</li> <li>公開講座数</li> <li>H25: 3回</li> <li>H26: 3回</li> </ul> <p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修医のCPC出席</li> <li>H25: 100%</li> <li>H26: 100%</li> <li>認定看護師等の育成計画に沿って主たる分野で各2名以上</li> <li>H25: 4名</li> <li>H26: 5名</li> </ul> <p>救命救急</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新外来棟での救命救急センター開設</li> </ul>	<p>①特定機能病院としての機能を充実させる。</p> <p>②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。</p> <p>③人材育成(スキルアップ)を行う。</p> <p>④院内研修制度の充実を図る。</p> <p>⑤専門職の充実</p> <p>⑥チーム医療の強化・推進</p> <p>⑦救命救急体制の強化を図る。</p>	<p>管理課</p> <p>管理課</p> <p>臨床研修センター</p> <p>教員・医師人事室</p> <p>看護部</p> <p>病院事務部</p> <p>業務課</p>	<p>関連部署・委員会等</p> <p>病院運営会議</p> <p>救急部委員会</p>	<p>特定機能病院の要件見直しに対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>院内がん登録の推進</li> <li>がん相談支援体制の確立</li> <li>ホームページ等を用いた院内外への広報活動</li> <li>緩和ケア体制拡充</li> <li>がん連携パスの運用件数の増加</li> </ol> <p>カンファレンス・CPCによる症例検討への出席を推進し、CPCに関しては研修医の出席率100%を目標とする。</p> <p>医師の採用時オリエンテーションの充実を医療安全推進室と共に推進し、受講率を100%とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>新たに5名の認定看護師資格を取得させる。(慢性心不全看護、不妊症看護、集中ケア、感染看護、小児救急看護)</li> <li>平成27年度の資格取得を目指し、8名の看護師を養成課程に進学させる。新規3分野4名(認知症看護2名、脳卒中リハビリテーション看護、手術看護)、現有4分野4名(皮膚・排泄ケア、感染管理、糖尿病看護、がん化学療法看護)</li> </ol> <p>Team STEPPSを中心に医療安全及び医療の質の向上を目指す。</p> <p>コンビニ受診の抑制により二次・三次救急の受入を強化することで効率的な救急体制を構築する。</p>
(2) 先進(高度)医療を開発し、施行する。	<p>新規認定数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H25: 0件</li> <li>H26: 2件</li> </ul> <p>※H25の申請件数は2件</p>		管理課	各診療科先進医療委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>各診療科へ病院としての支援策を強化する。</li> <li>実施申請方法の簡素化に向けた検討を行う。</li> <li>厚生労働省のホームページ等の随時チェックを励行し、最新の情報を入手する。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成26年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	<b>アクシデント事例の減少 院内感染の防止 ラウンド数</b> H25: 67/391 H26: 67/367 <b>カンファレンス数</b> H25: 63件	①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部 感染対策室		1. 術前合同カンファレンスの活性化と円滑な運用を図る。 2. Team STEPPSを主体とした医療安全文化の醸成を図る。 3. 集中治療部門以外の一般病棟における標準的感染対策のボトムアップを図る。 4. セーフティーマネージャー中心の病棟単位の積極的な感染対策の実践。
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。	<b>苦情・クレーム件数 10%削減(平成24年度実績ベース)</b> (管理課) H25: 283件 H26: 250件 (看護部) H25: 18件 H26: 167件  <b>説明と同意書の整備件数</b> H25: 3件	①インフォームド・コンセントを徹底する。	病院事務部 管理課 医療安全管理部	病院運営会議	(病院事務部) インフォームドコンセントは、患者と医療従事者との双方向のコミュニケーションにより成立するものである。同意書や説明書などがその視点で反映されているか等を関連部署と検証する。 (管理課) クレーム対応やご意見箱への投書内容から抽出したインフォームドコンセント関連項目を該当部署へフィードバックを徹底する。 (医療安全管理部) 医療安全に関する事例において、患者に対して説明・同意が適正に行われているか等、それぞれの案件ごとに検証する。
(5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	<b>保険法紹介率50%以上</b> H25: 46.8% H26: 50.0% <b>逆紹介率50%以上</b> H25: 30.5% H26: 50.0%	①患者支援・医療連携センターの機能を十分に発揮する。	患者支援・医療連携センター		(患者支援・医療連携センター) 1. 前方医療連携拡大のためFAX枠の拡充と産業医との緊密な連携を図り紹介患者を増加させる。 2. PFMを推進する学外の医療機関の地域医療連携を学ぶ。 3. センター機能の拡充を検討し業務見直しを行う。業務効率向上のために統合可能な部署については随時集約しセンター化する。
(6) 臨床研究を促進する。	<b>臨床研究数</b> H25: 370 (附属4病院)	①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	臨床試験支援センター		1. 治験、臨床研究に関する法令、指針の変更について適時情報収集し運用ガイダンス等を把握しながら、研究実施面のサポートを強化する。 2. 臨床試験を推進するため、臨床研究コーディネーターによる支援を拡大する。 3. 臨床試験支援センターと協力し、臨床試験がより適正に実施できるよう支援する。
(7) 効率的医療を推進する。	<b>中央棟手術室利用率(日勤帯) 60%以上維持</b> H25: 70% H26: 70% <b>外来棟手術室利用率 60%以上目標</b> H25: 42% H26: 50% <b>新外来棟での救命救急センター開設</b>	①効率的な診療体制の構築を図る。	病院事務部		(病院事務部) 1. 患者支援・医療連携センターを中心に各部門との協力のもと、Web予約の導入を前提とした診療予約枠の拡大により患者の受入を強化する。 2. ストロークセンターなど新外来棟建築に向けた「緩やかなセンター化構想」を実現する。 3. 資格職が本来業務に専念し、生産性が高められるような体制を構築する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		②手術室の安全で効率的な運用を図る。	管理課	手術・中材・ICU運営委員会	<p>【運用面】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>中央棟手術室の利用率70%を維持しつつ緊急手術を受け入れられる余裕を持った術室利用をする。</li> <li>外来棟手術室の利用率を45%とする。</li> <li>利用率を手術・処置・検査にわけ、適正利用に向けた検討を行うことで救急ストップを回避する。</li> <li>手術室枠の定期的な見直しを実施する。</li> </ol> <p>【安全対策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策を強化する。特にSSI(術野感染)発生数の減少を図る。</li> <li>再手術数の状況調査と検証を行う。</li> <li>手術室規約違反手術を削減させる。</li> </ol> <p>【管理面】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>新外来棟建設後を見据えた、人員の確保と教育の実施。クリティカル領域の壁を排除した柔軟な人員配置などを検討していく。</li> <li>オペラマスターデータ(ORSYS、AIS)と術式別器械セットデータを紐付けるシステムを構築する。医療機器稼働モニタリングを実施し、機器の計画的な更新や新規購入の必要性を評価することで、無駄を省き、効率的な運用を図る。</li> <li>看護補助員・器械セット系の業務を見直す。</li> <li>医療材料管理の精度を向上させる。</li> </ol>
		③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。	業務課	救急部委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>救急患者来院後に速やかに患者の状態を評価し、緊急度に応じた優先順位づけを行うトリアージ体制の充実を図る。</li> <li>救急搬送患者の受入促進を図る。</li> </ol>
(8) ICTを充実し、有効活用する。	電子カルテの導入	①電子カルテを導入する。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>電子カルテの導入時期を検討する。</li> <li>メーカーの選定について情報を収集する。</li> </ol>
(9) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	<p>年度予算の収益目標額以上の達成</p> <p>特殊材料費・消耗品費経費率削減(平成24年度実績ベース)</p> <p>H25:1.13%削減 H26:1%削減</p> <p>原価率</p> <p>H25:90.3%(第3四半期) H26:90%以下</p> <p>ベンチマークによる改善の提言</p> <p>BSCの推進</p> <p>後発医薬品の数量シェア</p> <p>H25:24.5% H26:30.0%</p>	<p>①月次医療収支額を把握し活用する。</p> <p>②他大学とのDPCデータのベンチマークを実施し、活用する。</p> <p>③医療材料のSPD業務の再編の評価を行う。</p>	<p>病院事務部</p> <p>企画部</p> <p>企画部</p> <p>病院事務部施設課 企画部</p>	<p>企画部</p> <p>コストマネージメント・プロジェクト</p>	<p>毎月の収益実績から収支差額分析を行い、予算収益目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>DPCデータによるベンチマークの本格活用と経営上有益なデータを提供する。</li> <li>病院機能分化に伴う特定機能病院の要件に関わる分析・情報提供を行う。</li> </ol> <p>(病院事務部・企画部・施設課)</p> <p>コストマネジメント・プロジェクトを中心とした物流管理システムの効率的運用を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>物流全般に関する組織(慈恵実業、慈恵メディカルサービス、SPD、卸売業者等)の見直しとコンプライアンスを含めた評価を行う。</li> <li>4病院医材・物流WGによる適正化の推進</li> <li>物流、医療材料の正確なモニタリング(4病院共通)</li> <li>SPD業務の再編後の評価を行うため、物流全般にわたる現行の制度を効率面且つ経済的視点から検証し、経費抑制を図る。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(10) 情報公開の条件を整備する。	情報公開項目数(手術、合併症率、再入院率、再手術率等)4項目以上達成 H25:0件 H26:4件	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課	企画部	情報公開項目の公開条件の確認を行う。
(11) 晴海トリートメントクリニックの現状評価と将来構想	現状評価と将来構想の策定 独自のビジョンとアクションプランの策定	①晴海トリートメントクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。	晴海トリートメントクリニック	教員・医師人事室 人事課	晴海トリートメントクリニックあり方検討会において、診療体制・健診体制の将来構想を策定する。
		②医療機器の計画的な更新を図る。	晴海トリートメントクリニック	施設課 外来委員会	開院当初から設置している医療機器等の老朽化やサポート終了した医療機器等々を更新する。
(12) 総合健診・予防医学センターの充実	がん早期発見率のデータ分析方法を確立し10%以上上昇させる。 (平成24年度実績ベース) H25:0.1% H26:0.1% メタボリックシンドローム該当者5%軽減 (平成24年度実績ベース) H25:14% H26:14% 女性検診での早期異常状態発見の10%アップ (平成24年度実績ベース) H25:3.4% H26:3.5%	①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。	総合健診・予防医学センター		1. 医療機関に受診が必要な健診者に紹介状を同封し、受診を強化し早期発見に努める。 2. 人間ドック健診施設機能評価更新を平成26年12月迄に受審する。 3. がん早期発見率のデータ分析方法を確立し5%以上上昇させる。 4. メタボリックシンドローム該当者を3%軽減する。 5. 女性検診での早期異常状態発見を5%アップする。
		②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。	総合健診・予防医学センター		
		③女性検診の充実化を図る。	総合健診・予防医学センター		
<b>●葛飾医療センターに関する目標</b>		対策(アクションプラン)			
(1) コンプライアンスとガバナンスを強化する。	5年以内に病院機能評価認定	①病院機能評価を受審し認定病院となる。	葛飾医療センター	病院運営会議	病院としてプロジェクトの立ち上げ時期を検討する。
(2) 健全財政を維持する。	毎期設定される収益目標を達成する。	①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。	葛飾医療センター	業務課	DPC分析とクリニカルパスの拡充・推進を図る。
		②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。	葛飾医療センター	管理課	1. 医療収入と医療材料費の相関チェックを行う。 2. 人件費と委託費の相関チェックを行う。
		③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。	葛飾医療センター	管理課	入院予約、手術申込み状況、救急応需率を把握し事前に対策する。
(3) オープン・システムを拡大する。	患者紹介率:50%(保険法) H25:49.4% H26:50% 逆紹介率:25% H25:17.9% H26:18% 公開講座平均参加者数100名 H25:112名 H26:100名	①附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。	葛飾医療センター	入退院医療連携センター	1. 登録医を拡大する。 2. NKネットの連携強化を図る。
		②教育研修制度を整備する。	葛飾医療センター	医療連携メディカルカンファレンス委員会 看護部	看護師復職支援事業の継続を検討する。
		③地域の健康管理・健康増進に貢献する。	葛飾医療センター	医療連携メディカルカンファレンス委員会	公開セミナーを充実させる。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 診療重点機能を強化する。	年間救急搬送数：4,200件 H25：3,532件 H26：3,650件 年間手術件数：5,000件 H25：4,494件 H26：4,600件 血液透析件数：1ベッドあたり2回転 H25：1.38回転 H26：1.40回転	①プライマリーケア・ユニット(救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。	葛飾医療センター	救急部 総合内科 小児科	1. PCU(プライマリー・ケアユニット)と専門外来の連携を強化する。 2. 救急受け入れ体制の強化による救急車応需率アップと救急患者数を増加させる。
		②手術室を効率的に運用する。	葛飾医療センター	手術・中央材料室委員会	手術室の稼働率アップ及び手術患者数を増加する。
		③集中治療室(ICU・CCU)を効率的に運用する。	葛飾医療センター	集中治療室委員会	麻酔部人員の充足と集中治療室病床の増床稼働を図る。
		④当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。	葛飾医療センター	病院運営会議	血液透析導入患者の漸増と増床を検討する。
		⑤がん治療を重点化する。	葛飾医療センター	病院運営会議	東京都がん診療連携協力病院(大腸がん)事業を推進する。
(5) 大規模災害に備える。	BCPの策定と継続的な検証、更新	①BCP(事業継続計画)を策定する。	葛飾医療センター	管理課	BCPの実効性の検証を行う。
		②DMAT(災害派遣医療チーム)を編成する。	葛飾医療センター	DMAT設置委員会	DMAT隊員の増員を検討する。
(6) 第二期建築計画を実現する。	—	①部門毎に活動性を検証し基本計画を立案する。	葛飾医療センター	病院運営会議	設計・建築工事を開始する。
<b>●第三病院に関する目標</b>		対策(アクションプラン)			
(1) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。	救急搬送数350/月 H25：383件 H26：400件 手術件数年間6,000件 H25：5,757件 H26：6,000件 一般病床稼働率90%以上 H25：84.0% H26：88.0% 紹介率40%以上 H25：38.2% H26：40.0% 逆紹介率30%以上 H25：18.6% H26：23.0%	①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。	第三病院	救急医療委員会	救急部専任医師の増員を図り、救急搬送患者の更なる受入れを強化する。
		②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。	第三病院	手術中材料委員会	1. 緊急手術に対応できる8室利用でのスリム化運用同一科での縦運用の徹底と外来スケジュールと手術日の見直しにより手術6,000件の達成。 2. SSI(手術部位感染)低下に向けた取り組み(安全で質の高い医療の提供) 3. 長時間手術での抗生剤投与、手袋交換等多角的に取り組むことで発症を抑える。
		③病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。	第三病院	外来病棟委員会PFMタスク・フォース	電子カルテ導入後のシステムを利用し更なる病床運用の効率化を図る。
		④医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。	第三病院	総合医療支援センター運営委員会	1. 電子カルテ導入後のシステムを利用し返書管理を強化する。 2. 連携機関との共有利用可能な医療連携システムの導入を図る。
(2) 新病院建築に向け病院機能と財政基盤を確立する。	毎期の資金収支を黒字とする  中期大型投資計画・資金計画予定表の作成	①収支を改善し、新病院建築前まで単独での投資資金を確保する。	第三病院	病院運営会議	平成26年度に第三病院単体での新病院建築の資金計画を検討する。
		②中期的な大型投資計画、資金計画を策定し、経営課題を分析改善する仕組みを作る。	第三病院	病院運営会議	長期の高額診療機器導入計画予定表に従い、長期的な視点で購入計画、資金計画を作成する。
(3) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。	新病院建築へ向けた敷地内建物の許認可状況の整理 建築委員会による地域自治体の意見を参考とした新病院要件仕様の検討開始	①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。	第三病院		第三病院、国領キャンパス内の建物を整理し、具体的な新病院計画を協議できる環境を整える。
		②大規模災害に備えた新病院構想を地域自治体と協力し策定する。	第三病院	防火防災委員会	調布市、狛江市と協議を続け新病院構想の具体案を検討する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 特色ある医療を強化する。	入院患者数(1日平均) 16名 H25:10名 H26:12名	①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。	第三病院	精神神経科	1. 紹介元医療機関の一覧を作成し、年2回以上診療案内を送付する。 2. 市民向け公開講座を実施する。 3. 精神科および心理臨床学会や雑誌において、森田療法の治療成果を年5回以上報告する。 4. 森田療法センターホームページの充実を図る。
	外来患者満足度70%以上 「次回も当院をご利用いただけますか」 H25:91% H26:91%	②患者満足度の高い病院への改善を図る。	第三病院	患者サービス・ワーキング・グループ外来病棟委員会	
(5) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。	労働生産性向上一人当たり労働生産性=(医療収入-医療経費)/教職員数	①電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。	第三病院	システム課 第三病院 HIS委員会	電子カルテ導入後の運用を検証し、改善を図る。
(6) 大規模災害に備える。	実効性のあるBCP(事業継続計画)の完備 DMAT(災害派遣チーム)設置	①BCP(事業継続計画)を策定する。	第三病院	防火防災委員会	災害程度を想定した人員、資金、供給体制等を含めた整備を行いBCPの完成度を高める。
		②DMAT(災害派遣医療チーム)を編成する。	第三病院	放火防災委員会	DMAT活動の実践および第2チームの編成を図る。
(7) 人材確保・育成・活用の推進を図る。		①職員の人材育成制度を強化する。	第三病院		1. 接遇改善に向けた研修会を開催する。 2. 職員の対外的な学会活動等を通じ、学外の状況を理解し職能のスキルアップを図る。 3. 電子カルテ導入後の運用に合致したチーム医療主体の研修会の開催を企画し、業務・運用の最適化を図る。
<b>●柏病院に関する目標</b>					
(1) 医療の標準化・効率化を推進する。	DPC効率性指数の向上 H25:0.00577 H26:0.00816	①医療の標準化、効率化により、医療の質の向上と安全を確保する。	柏病院	薬剤検討ワーキング・グループ	1. レジメンオーダーの安全な電子カルテへの移行と更なる適正管理を図る。 2. 誤薬防止のための処方箋様式変更を実施し、誤薬要因の分析及び導入後の評価を行う。
	外保連手術指数の向上 H25:15.53 H26:13.81			セーフティマネジメント委員会	
	レジメン登録件数の適正化 H25:430件 H26:450件		②手術室の安全性の向上と効率化を図る。	柏病院	病院運営会議 病院業務改善検討委員会 電子カルテワーキング・グループ
	1C手術室利用件数の増加 手術件数年間7,000件 H25:7,839件 H26:7,000件	③医療材料を中心としたSPD方式の手術キット、DRGセットを評価し、効率化と医療経費の削減を図る。	柏病院	手術中材・ICU運営委員会	1. 全11室(3階手術室10室と1C手術室1室)の稼働状況を検証し、適正手術件数を設定する。 2. 運用面や手術枠別配分を見直し、手術件数増加の検討を行う。
	手技の特性に応じて専用キット化を推進する(現在は複数キットを使用)		柏病院	医療材料検討委員会 手術室業務改善小委員会	1. SPD方式の手術キット、DRGセットの使用頻度が低い器材を洗い出し、内容の見直しを行う。 2. 更に4機関共同購入品目についても見直しを行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<b>クリニカルパスの導入件数</b> H25: 5,354件 H26: 5,600件  <b>緩和ケアチーム年間介入数 年間600件以上</b> H25: 95件 H26: 110件  <b>院内褥瘡発生率</b> H25: 1.11% H26: 0.99%  <b>NST介入件数</b> H25: 443件 H26: 450件	④DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。  ⑤患者のためのチーム医療を推進する。	柏病院  柏病院	クリニカルパス委員会  緩和ケア小委員会 NST委員会 感染対策委員会 褥瘡対策委員会	1. 収支分析を基にクリニカルパスを見直し、収益型クリニカルパス作成・拡大を図り、疾病原価管理を強化する。 2. クリニカルパスの適用件数・適用率の向上を図る。  1. 緩和ケアチーム 厚生労働省より提示予定の緩和ケアセンター構想案に則った運用体制の整備を図る。 ①外来緩和ケアの専門的医療の充実 ②外来緩和ケア管理料の算定 2. 栄養サポートチーム(NST) ①NSTの介入および算定数増を図る。 ②NST勉強会の更なる充実を図る。 ③平成27年1月の電子カルテ導入に向け、効率の良いNSTカルテの作成に取り組む。 3. 褥瘡対策チーム ①医療の標準化・組織化を通じた医療安全の向上を実現する。 ②疾病の早期発見・回復促進・重症化予防など医療・生活の質の向上を図る。 4. 感染制御チーム (ICT) 薬剤耐性菌対策を継続し、広域スペクトラム抗菌薬の適正使用を推進する。
(2) 地域中核病院として十分に機能する。	<b>年間3診療部のBSC作成</b> H25: 20部門 H26: 30部門  <b>病院BSCの毎年のブラッシュアップ</b> <b>市民公開講座開催件数年間2回以上</b> H25: 2回 H26: 2回  <b>救急搬送数・救急患者数対前年度比増(救急搬送数)</b> H25: 3,034件 H26: 3,100件  <b>(救急患者数)</b> H25: 6,230名 H26: 6,300名  <b>平均在院日数の短縮(目標11～12日)</b> H25: 12.6日 H26: 14.5日  <b>外来患者数1日平均1,600人以上</b> H25: 1,551名 H26: 1,552名  <b>入院患者数1日平均570人以上</b> H25: 541名 H26: 542名  <b>先進医療の承認および実施件数年間1件以上</b> H25: 3件24症例、 新規承認0件 H26: 30症例	①病院のビジョンを共有し、急性期医療・地域医療に貢献する。  ②周産期センター化を検討する。  ③患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。  ④東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。	柏病院  柏病院  柏病院  柏病院	BSC推進ワーキング・グループ  広報委員会 地域がん診療連携拠点病院運営委員会  救急救命センター運営委員会  病院運営会議  患者支援・医療連携センター PFMワーキング・グループ  病院運営会議 建築委員会	BSCをブラッシュアップする。  「市民公開講座」を年3回開催する。  1. ER診療体制の更なる充実化を図り、積極的に救急患者を受け入れる。 2. 救急隊との顔の見える関係を強化し、積極的に患者を受け入れる。  周産期センター化は中長期計画として、実現に向けて検討を継続する。  PFMシステムをさらに機能強化し、病床の効率的運用を推進し、平均在院日数を短縮する。  1. 外来部門の拡張と4B病棟(38床)の増床。 2. 先進医療の申請を年間1件以上を目指す。 3. 特徴的な医療を推進する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	紹介率50%以上 H25: 55.0% H26: 55.0% 逆紹介率30%以上 H25: 36.7% H26: 50.0% 地域連携診療計画管理 料算定患者数(脳卒中 地域連携: 脳卒中のみ 評価) H25: 7名 H26: 10名	⑤連携病院を拡充し、地 域連携を強化する。	柏病院	医療連携委員会	1. 前方連携を拡大する。(連携登録 医制度の更新、紹介元医療機関の 拡大と紹介患者増) 2. 後方連携病院の開拓と関係強化を 図る。 3. 在宅医療推進のための地域訪問看 護ステーションとの連携強化を図る。
(3) がん診療連携拠点病院と して必要な質の高い診療 を实践する。	年間外来がん患者延数 7,700人以上 H25: 7,500名 H26: 7,700名 年間入院がん患者数 3,500人以上 H25: 3,286名 H26: 3,500名 地域がん登録件数 H25: 1,582名 H26: 1,700名 がん治療連携計画策定料 算定患者数(がん地域連携) H25: 7名 H26: 10名	①がん診療連携拠点病院 として必要な施設を整 備し、高度がん医療を 提供する。	柏病院	地域がん診療 連携拠点病院 運営委員会	地域がん診療連携拠点病院の新た な要件に沿った拠点病院運営体制 を整備する。
	外来化学療法室月平均 延患者数430人以上 H25: 409名 H26: 430名 緩和ケアチーム年間介 入数年間600件以上 H25: 95件 H26: 110件	②化学療法および緩和ケ アの提供体制の充実を 図る。	柏病院	地域がん診療 連携拠点病院 運営委員会	1. 外来化学療法室9ベッド増床とベッ ド回転率を向上させる。 2. 地域がん診療連携拠点病院の指定 要件に沿った緩和ケア体制を構築 する。
	地域連携バスのバス種 の拡大と稼働3バス以上 H25: 5 H26: 8 パス使用件数 年間5件以上 H25: 14件 H26: 20件	③各医療機関からの紹介 患者の受入れを行う。 また、地域連携バスを 活用し、病病連携・病 診連携を推進する。	柏病院	医療連携委員会 地域がん診療 連携拠点病院 運営委員会	地域連携バス体制整備、拡大を図 り、地域連携バス件数増に努め、 医療連携強化を図る。
(4) 救命救急センターとして の診療体制および機能を 強化する。	3次救急搬送件数120件 増/年間 H25: 755件 H26: 875件 救命救急入院料の算定 件数増 H25: 1,594件 H26: 2,000件	①重症および複数の診療 科領域にわたる重篤な 救急患者を24時間体制 で受け入れる。	柏病院	救命救急セン ター運営委員会	ER診療体制の充実と積極的な救 急患者の受け入れを行う。
	救急車で来院し、入院 となった患者数(救急 医療入院のみ) H25: 1,514名 H26: 1,600名	②救命救急センターの円 滑な運営のための全診 療科のバックアップ体 制を構築する。	柏病院	救命救急セン ター運営委員会	全診療科による救急支援体制を強 化する。
		③手術室を効率的に運用 し、救急患者の受入れ を強化する。	柏病院	救命救急セン ター運営委員会	手術室の更なる効率的運用を図 るとともに、安全な手術体制を整備 する。
		④医学生、臨床研修医、 看護系学生および救急 救命士等に対する救急 医療の臨床教育を行う。	柏病院	救命救急セン ター運営委員会	1. 研修医のICLSコースを2回開催 する。 2. BLSコースを開催する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(5) 収益の向上を図る。	毎期設定される収益目標を達成する。	収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。 ・医療経費(特殊材料費、消耗品費等)の削減 ・原価率 ・診療単価と手術単価	柏病院	病院運営会議	平成25年度に実施した収益向上策を検証し、さらなる対策を講じる。
(6) ICT推進による医療の効率化・共有化を推進する。	電子カルテの導入	①平成26年度中に電子カルテを導入する。	柏病院	システム課	各WGで運用を確認しながらマスターと運用マニュアルの作成を進める。
(7) 災害拠点病院としての体制を整備する。	DMAT(災害派遣医療チーム)の指定	①自己完結型のDMAT(災害派遣医療チーム)を創設する。	柏病院	DMAT創設ワーキング・グループ	DMATの要員(業務調整員)を増員する。
	災害対策の再整備	②災害拠点病院としての受け入れ体制等を整備する。	柏病院	防火災害対策委員会病院運営会議	1. 備品、資器材食料等の備蓄量を増加する。 2. 保管場所や管理方法の再検討 3. 重症患者・傷病者・DMATの受け入れ体制や資器材の貸し出し体制の整備 4. 地域を含めたトリージ等の実施
	BCP(事業継続計画)策定	③BCP(事業継続計画)を策定する。	柏病院	DMAT創設ワーキング・グループ	BCPの検証と見直しを行う。
II 法人運営の改善および効率化に関する目標		対策(アクションプラン)			
1. 運営体制の改善に関する目標					
・内部統制の強化を図る。 ・理事会機能の更なる充実を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・個人情報管理を徹底する。 ・広報活動を充実する。	法令遵守と内部統制の強化 理事の担当役割の明確化 大学プランの策定と公開 不適切な個人情報管理をなくす。  事業計画の課題 100%実施  申請過誤の削減(申請過誤0件) H25:0件 研究費不適切使用の排除(研究費不適切使用0件) H25:0件	①内部監査の充実を図る。	監査室		1. 公的補助金(研究費、経常費補助金等)監査および業務監査を充実させ、的確な評価・検証・改善提言を行う。 2. 監事、外部監査人との連携を強化し、内部統制の整備、運用状況を確認する。
		②理事会機能を検証する。理事の担当役割を明確にする。	理事会	大学自己点検・評価委員会	自己点検評価委員会にて法人全体の機能を検証する。
		③慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。	人事課教員・医師人事室	広報課	(人事課) 慈恵大学行動憲章・行動規範の周知徹底のための具体的対策を講じる。 (教員・医師人事室) 新規採用教員・医師全員に教員・医師ハンドブックを配布し、本学の行動憲章、行動規範に関する周知徹底を図る。
		④法令遵守の徹底を図る。	総務課人事課	監査室	重大な法令違反案件抑止のために学内活動を検証する。
		⑤補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。	経理課 研究支援課	教育研究助成委員会	(経理課) 経常費補助金一般補助の充足条件の検証を継続して行う。特に交付額に影響する項目の点検を強化する。 (研究支援課) 補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)の管理体制と内部統制の強化を推進する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑥個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。	総務課 管理課(4 病院)	個人情報保護 合同委員会	1. 4病院合同の講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールにて注意喚起メールを年2回配信する。 3. 各機関で研修会を開催する。 4. 教職員へチェックシートを配布し自己診断させる。
		⑦本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。	広報課 学術情報 センター	広報課/大学 広報委員会 広報課/大学 ホームページ 委員会	(広報課) 主要メディア掲載一覧をイントラネットに掲載し、主要メディア掲載数を、今年度の5%増とする。 (学術情報センター) 1. 各教員の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)のデータ入力の促進を図る。(教員評価システムの使用法の説明会を開催) 2. 情報公開のため教育評価システムの今後の在り方について案をまとめる。
		⑧事業計画の実施状況を確認する。	企画部		1. 中期目標・中期計画と単年度事業計画との連動を周知する。 2. 数値による達成状況の把握により、未達成項目に対する具体的な方策を検討する。
		⑨事業計画を実施するためにBSCを活用し、継続的に評価する。	企画部		BSC標準使用に向けて数部署でパイロット運用を開始する。
2. 人材確保・育成・活用に関する目標  ・人材育成のための教育制度を構築する。 ・職場環境を整備し、教職員の満足度を向上する。 ・業務の効率化を図り人件費を最適化する。	教育制度構築教職員アンケートにおける満足度10%UP (平成24年度実績ベース) H25: 53.9% H26: H25に対し5%UP  教職員全体退職率5%減少 (平成24年度実績ベース) H25: ±0% (115名) H26: -5% (100%)  看護要員確保率100% (平成24年度実績ベース) H25: 100% H26: 100%  看護師年間退職率11.6%以内 (平成24年度実績ベース) H25: 12.6% H26: 12%以下	①職員の人材育成制度を強化する。  ②人材の有効活用のための評価方法を検証する。  ③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	人事課  人事課  人事課 給与厚生課 教員・医師 人事室	院内教育・図書委員会    企画部	1. 目指すべき人材育成像を確立し、現行研修を評価する。 2. 管理職育成プログラム終了後の管理職育成方法について検討する。  データベースに収録した情報を各部署にフィードバックし、人材育成に活用する。  (人事課・給与厚生課) 1. 教職員アンケートの実施と職場環境の改善。 2. ワークライフバランスに有益な情報の提供。 3. 給与・福利厚生施策を適宜実施する。 4. 就業規則関連規程を適宜改定する。 (教員・医師人事室) 教員・医師の自己都合による退職者を前年実績以下にとどめる。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		④看護師の雇用安定化を図る。	人事課 ナース就職支援室 看護部		(人事課・ナース就職支援室) 1. 平成27年当初採用目標人員を確保すると共に、良質な人材を確保し、4機関看護要員の均衡化を図る。特に柏病院要員確保を最重要事項とする。 2. インターンシップ・病院見学参加者からの応募者増につながる仕組みを作る。 3. 採用環境の的確な把握は、競合する他大学の求人状況を把握し求人活動に反映する。 4. 学内生の就職率向上に向け、更なる学校及び臨床との連携を強化する。 5. 学校推薦応募制度を制定し、要員確保の安定化を図る。 6. 助産師確保に向け、助産学校への求人活動の強化を図る。 7. 継続して、国内留学制度等を積極的に活用し、スキルアップの機会拡大とモチベーション向上を図る。 (看護部) 1. 就職希望者が最も多い附属病院から他機関異動とトレーディング・プレイスを引き続き行い、4病院の看護師の確保を行う。 2. 労務管理の向上と適正配置によって看護師の職務満足度を高める。
		⑤労働生産性を向上させる。	人事課 教員・医師人事室		(人事課) 労働生産性向上WG活動を各機関に展開し、労働生産性向上を図る。 (教員・医師人事室) 医療従事者勤務適正化委員会を通じて医師の業務軽減策を新たに実施し、医師の配置を効率化する。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ・ICT導入による効率化を実現する。 ・各部門間が有機的に連携する。	適正なICTの導入 事務組織の効率化	①適正なICTグランドデザインを構築し、ICT戦略を策定する。 ②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。 ③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。	システム課 企画部 総務部 企画部	情報システム 統括委員会 情報システム 運営会議	本学での活用方法のための情報収集(メーカーの説明会や展示会、他大学での導入事例等)について、検討する。 1. 新原価計算システムによる迅速な情報提供を行う。 2. コックピットの利用率向上に向けた改善策を講じる。 (人事課) 標準作業手順書の改善と活用促進を図る。 (企画部) 事業計画を確認し、部署間の連携を図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>Ⅲ 財務の改善に関する目標</b> <b>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</b> ・安定した経営基盤を確立する。 ・経営改善が必要な重要項目について具体的な改善対策を推進する。 ・経常費補助金・科学研究費補助金の獲得・増加に努める。	<b>経常収支の状況</b> <b>経常費補助金の獲得額</b> H25: 3,533,202,000円 <b>経費予算と経費実績差異の減少</b> <b>(各部署・科目毎の誤差5%以内/除く、医療経費)</b> H25: 21億円 H26: 21億円以下 <b>経常費補助交付額(医学部)で私立医科大学29校中3位を維持</b> <b>毎年度4件の大型プロジェクト研究事業を維持</b> H25: 5 H26: 6	<b>対策(アクションプラン)</b> ①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。	経理課		導入した経理システムを活用し予算の進捗管理・分析を行い、主に経費の予算申請額の適正化を推進する。 (財務部) 西新橋キャンパス再整備の資金計画を策定する。 (企画部) マスタープランを策定し、必要に応じて検討組織を立ち上げる。
		②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。	企画部	理事会 財務部	
		③本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 教育研究助成委員会	政府各省庁・民間財団等が公募する大型プロジェクト研究事業に大学として積極的に応募する。
<b>2. 経費の抑制に関する目標</b> ・コストマネジメント・プロジェクトを設置し経費削減と効率化を図り、堅調な財政基盤を構築する。 ・物流の効率化、一括購入等により経費を抑制する。 ・各種資源の消費を削減する。 ・ICT関連経費の適正化を図る。	<b>医療材料費削減プロジェクト削減目標の達成</b> <b>医療経費率</b> H25: 34.6% H26: 34.6%以下 <b>本院の東京都温室効果ガス排出総量削減目標の達成</b> <b>東京都削減目標</b> <b>2013年度～2014年度</b> <b>平均8%削減</b> <b>2015年度～2019年度</b> <b>平均17%削減</b> (本院) H25: 9.3%削減 H26: 8%削減 (葛飾) H25: 22%削減 H26: 8%削減 (第三) H25: 22%削減 H26: 9%削減 (柏) H25: 8.9%削減 H26: 8%削減 <b>ICT経費の適正化</b>	①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。	施設課	4病院医材・物流WG コストマネジメント・プロジェクト	4病院での共同購入、安価な製品への切替え、無駄の防止を図り、経費抑制を図る。
		②医療経費の抑制を図る。	病院事務部(4病院) 企画部薬剤部	コストマネジメント・プロジェクト	(薬剤部) 医療安全面に考慮しながら、後発薬品への切替を適切に進める。なお、平成26年度診療報酬の改定内容によっては、後発品切替スピードを更に高める。 (病院事務部) 26年度より発足するコストマネジメント・プロジェクトを中心に、経費全般にわたり効率的・経済的視点で取り組む。 (葛飾・柏) 手術キット、DRGセットの適正化を図る。また、現状及び改善状況を見える化にし、各部署への広報活動を行い、経費抑制を行う。 (第三) 1. 医療消耗品が医療収入の4.5%以内の目標を踏襲する、平成26年1月より運用を行う手術室物品管理システムを活用し、使用量、原価の把握を行い材料管理を行う。 2. 手術原価の正確な把握と4病院比較を実施し、手術の標準化、適正化を図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		③地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。	施設課 管理課 (葛飾・第三・柏)	慈恵大学省エネルギー対策委員会 西新橋キャンパス省エネルギー対策委員会	(施設課) 東京都温室効果ガス排出総量削減目標 1.2013年度～2014年度平均8%削減を達成する。 2.2015年度～2019年度平均17%削減目標への対応策を立案する。 (葛飾) ESCO事業省エネルギー効果検証報告書に基づき東京都温室効果ガス基準排出量4,378 t /CO2換算に対し目標8% (4,028 t /CO2換算)以下を達成する。 (第三) 省エネ委員会の発信情報により省エネ意識を徹底し、CO2排出基準15%削減を達成する。 (柏) 温室効果ガス排出量の1%削減とエネルギー管理指定工場として毎年1%以上の改善を図る
		④ICTの適正導入と評価を行う。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. 電子カルテシステムにおける仮想化対応について、附属病院へ導入時の検討材料とする。 2. 既に本学で使用している「遠隔画像診断システム(i-stroke)の拡充、及び電子カルテシステムの指示承認機能(カウンターサイン)において、スマートデバイスの使用優位性について確認する。
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 ・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 ・適正な資金運用を促進する。	中期計画(施設・設備)に基づく施設・設備および機器・備品の適正管理実現 中期計画(機器・備品)に基づく施設・設備および機器・備品の適正管理実現	①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。 ②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	施設課 施設課		1. 平面図を最新の状態に維持する。 2. 電気、ガス、水道の使用量を建物またはメーター毎に記録、管理し、増減の原因を把握する。 3. 建物及び設備毎の整備記録を台帳化し、整備・更新を進める。 診療機器の一覧表を基に、適切な稼働状況を把握する。
IV 自己点検・評価の充実に関する目標 ・自己点検・評価結果を公表し、改善につなげる。	自己点検評価結果報告書の公開 大学基準協会認定評価の認定	対策(アクションプラン) ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。 ②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。	総務部 大学事務部	大学自己点検・評価委員会	1. 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。 2. 平成28年度の大学基準協会の認証評価受審に向けて準備を進める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成26年度事業計画
中期目標	指標(平成26年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
V その他事業運営に関する重要目標 1. 本院新外来棟建築に関する目標 ・本院新外来棟の建築	新外来棟の建設	①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。	企画部	マスタープラン検討委員会 西新橋キャンパス再整備タスク・フォース	港工業高校跡地の活用を含めた西新橋キャンパス全体計画を具現化する。
		②本院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	企画部	マスタープラン検討委員会 西新橋キャンパス再整備タスク・フォース	1. 外来棟建築に向け、附属4病院の機能分化の方向性を検討し、骨子をまとめる。 2. 本院新外来棟建築計画の基本構想をもとに基本計画を策定する。
2. 大学マスタープランの策定に関する目標 ・明確な長期マスタープランを策定する。	マスタープランの策定	①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	企画部	マスタープラン検討委員会	マスタープランを策定する。
3. 創立130年記念事業に関する目標 ・130年記念事業を実施する。 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。	記念事業募金目標20億円の達成 H25:1,095百万円 H26:1,280百万円	①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。	企画部		本院新外来棟建築計画をもとに西新橋キャンパス再整備計画を推進し、基本計画を策定する。
		②記念事業に必要な寄付金を募集する。	財務部 (募金事務局)		同窓会HPに分かり易い「創立130周年記念事業募金の手順」を掲載し、同窓からの一層の寄付を募る。
4. 大規模災害時の対応に関する目標 ・大規模災害発生時の体制を構築する。 ・BCP(事業継続計画)を策定する。	BCP(事業継続計画)策定と災害対策の再整備 大学全体のDMATの構築 本学全建物の耐震基準充足(充足率100%) H25:85% H26:90% 西新橋地区再整備計画に大規模災害対応を織り込む (備蓄倉庫・被災者収容対応・断水対応の井水整備等)	①大規模災害時の体制を強化する。	総務部 病院事務部 大学事務部	総務課 人事課 システム課 施設課 管理課 他	1. BCPについて、大学、附属病院の策定、改定、訓練を進め、大規模災害発生時の適切な行動、事業運営に備える。 2. 災害用備蓄品について、継続的な拡充を進めると同時に、災害発生時のスムーズな対応に向けた保管場所の改善と拠出方法を策定する。 3. 地域と協力して緊急医療救護所設置訓練・トリアージ訓練を実施する。
		②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。	施設課		新外来棟の建築、西新橋整備計画を注視しながら、対応計画を柔軟に策定する。
		③被災地への支援体制を構築する。	管理課 (4病院)	防火防災委員会	
5. 葛飾医療センター開設後の評価を行う。		新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。	葛飾医療センター	企画部	今期の中期計画完了後に総合的な評価を行う。